長野県内遺跡出土古人骨リスト（詳細版）

2018.3
2019.8 一部修正

茂原信生・川崎　保・平林　彰

はじめに

○ 本リストは、「長野県遺跡出土古人骨リスト」『長野県考古学会誌』155 号、pp.130~162、2017 年 11 月発刊）をもとに、茂原、川崎、平林が作成したものである。また、『長野県考古学会誌』に掲載された遺跡別出土古人骨リストを以下「概要版」、人骨ごとに記述した本リストを「詳細版」とする。

○ 概要版では県内遺跡全体を通し番号で整理したが、詳細版では、市町村ごとの遺跡名あいうえお順の通し番号を付した。

○ 逐次明示していないが、概要版の誤りを詳細版で訂正した。

○ 人骨については、茂原作成の資料を、発掘にかかわる考古学的な所見は、報告書の記載に基づき、川崎が入力し、全体を平林が校閲した。なお、遺構、特に墓にかかる名称については（墓坑、墓壙、土坑、土壙等）、原報告の表記を優先し、統一していない。

○人骨の記載については、基本的に報告書の記載をまとめたものである。記載はわかる限り個別の人骨ごとに行っている。その際、時代的な特徴や特記することがあれば優先して記述している。また、今後の研究に役に立つように残存する部分がある程度わかるように記述し、生骨と焼骨を区別した。とくに記していない場合は生骨である。茂原が中心で報告した本文に誤りがあった場合は（　）に入れて訂正している。

○ 本詳細版の原電子データを Web 上で公開する予定である。

○ 遺跡出土古人骨から得られる所見、データなどについては、稿を改めて発表する予定である。

○ 多くの誤謬や遺漏もあると思われるが、お気づきの方は、茂原（shige868@keb.biglobe.ne.jp）あるいは川崎（kamo-sikamiti@nifty.com）までご連絡下さい。

なお、本研究の発表にあたっては、（一財）長野県科学振興会の助成（平成 29 年度）を受けています。

茂原信生・川崎　保・平林　彰

平成 30 年 3 月

※令和元年 6 月、8 月に一部字句を修正

北信

中野市

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	安源寺遺跡	あんげんじ	中世	香原志勢他	1967	中野市
土葬墓と火葬骨がある、土葬された骨の保存は非常に悪い。中世火葬墓は、12 基あり、ほとんどが 1 体分である(重複する部分はない)、詳細不明						
【1 号土葬墓】土坑墓、壮年男性 1 体、他は不明、左を上、保存状態は極度に悪い、骨粉に近い、歯列は残っている、下肢骨が残っている、左右の大腿骨近位部で扁平、屈葬だろう、頭蓋では前頭骨片、後頭骨片、左右側頭骨錐体部、下顎骨体が同定できた、歯は 17 本が残る、上右 P1、M1-M3、左上はI1 を除く全て、右下はI1 またはI2, P, P2、M2, 左下 C、P1、M2、齲歯がある、乳様突起が大きい、大腿骨が頑丈、前頭骨の形状から男性と判断、咬耗はさほど顕著ではない 30 歳代後半。他に火葬骨があり 12 基がありどれもほぼ 1 個体分(第 12 基は肋骨のみ)、他の土葬墓については記載がない。					
2	七瀬3号古墳	ななせ	古墳	西沢寿晃	1989a	中野市
保存は悪い、玄室内、伸展葬、頭蓋骨とわずかな長骨片のみ。歯の残りはよい、上左右 M2 に軽度の齲蝕、20 代後半女性						
【古墳】20 歳代後半・女性、1 体分、頭蓋骨の一部とわずかな長骨が残る、頭蓋は後頭骨、側頭骨などが残る、顔面はない、下顎もほとんど形骸化、歯は良く残っている、M3 萌出(下顎骨)で咬耗はない、上顎 M3 は未萌出、咬耗は進んでいない、歯は小さい、齲蝕あり						
3	山の神古墳	やまのかみ	古墳	神原庄一郎	1953	
1 体の屈葬人骨からえら得た 12 本の歯の報告						
20～30 歳代、性不明、歯の保存はよい、一部歯根の残るものがある、多くは歯冠のみ、上顎 M3 は欠けるが未萌出(M2 に隣接面磨耗がない)、20～30 歳代の青年性別は判定できない						

長野市

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡	あさかわせんじょうち ほんむらひがしおき	弥生後期	寺島孝典	1995	長野市
弥生時代の墓 10 基(周溝墓 3 基、土坑墓等 7 基)が報告されているが、形質の所見はなし。墓 SZ-1 の木棺底部より、臼歯が 4 本並んだ状態で出土した。SK2 からも歯が出ているが記載はない						
【木棺墓 SZ1(円形周溝墓)】木棺墓内底面のやや上から歯が出土、臼歯が 4 本残る、頭位は東、四肢骨についての記述はないので出土していないと思われる						
2	浅川扇状地遺跡群	あさかわせんじょうち	古代～近世	茂原信生	1998a	県歴史館
2 基分であろうが骨は少ない						
【SM01(W2B 区)】詳細不明、さほど高齢ではない。焼骨、頭蓋では左側頭骨、上顎骨歯槽部、頬骨などが確認できる、部位不明の頭蓋冠片が数十点残る、残っている縫合の部位は不明だが鋸歯状が明瞭、さほど高齢ではない、四肢骨はごく少ないので他で焼かれたのであろう、【発掘所見】集石墓か、報文は、W2B 区 SM01(古墳時代)とするが、該当遺構なし、W9 区の項に、W2 区検出の古代 SM01(1 号墓跡「生骨の骨片、やや中央に近いところで歯が出土」「10 世紀前葉の集石墓」の記述あり、後者と考えた 【SD01(E9 区)】1 号溝、詳細不明、生骨、右寛骨の大坐骨切痕部片が残っているだけである、【発掘所見】16～18 世紀、骨出土状況にかかる記述なし						
2	浅川扇状地遺跡群	あさかわせんじょうち	中世以降	西香子	2013	県埋文
桐原地区でみつかった土坑墓(SM4)は、隣接する前年度の調査区で検出された墓と同じように頭を北にして手や足を折り曲げた姿勢で埋葬されていた						
【SM4(桐原地区)】土坑墓、頭を北にした屈葬 【SM5001(吉田地区)】木棺墓、詳細不明、骨の残りは悪い、頭位北、屈葬						
3	石川条里遺跡 (水田域)	いしかわじょうり	弥生後期	茂原信生	1997a	県歴史館
保存は悪い、2か所からでている, 出土しているのは歯だけである,上顎切歯はない、少年2体(うち 1 体は女性か)、						

【SK1125】土坑、遺構の性格不明、12 歳前後・性不明、歯だけが残っている、上左M1 とM2 が出土している、わずかに咬耗がある、歯の大きさは普通
【SK1124】土坑、遺構の性格不明、12 歳前後・女性、上右M1,M2, 下顎の左I1 あるいはI2, M1,右 P1 の合計 5 本である、咬耗はわずかである、下顎I1 の切縁には切縁結節が残る、歯は小さい

3	石川条里遺跡 (微高地)	いしかわじょうり	中世	茂原信生	1997b	県歴史館

保存は悪い、細片。歯がおもな出土物で、全体で3体(青年、16～17 歳女性、不明)

【SK1020(中世)】井戸跡、青年～壮年、生骨、上右 M2 か M3:咬耗は軽度
【SK2015(中世か)】土坑墓か、生骨、保存悪い、1 個体分の頭蓋骨片、子供ではないが不明
【SK2616(中世か)】木棺墓、歯だけ(上左 M3 以外)が出土、M3 に咬耗はない、16～17 歳の女性

4	榎田遺跡	えのきだ	弥生～中世	茂原信生	1999a	県歴史館

保存は悪い、16 体(弥生 6、古墳 6、平安 1、中世 2、不明 1), 弥生人骨が渡来系かどうかは不明、古墳時代人はシャベル型切歯を持つ、伸展葬が多い

【弥生時代】
【SK5495】土坑墓か、年齢不明・女性、歯だけが観察可能、歯の大きさは小さい(女性？)、エナメル質減形成あり、【発掘所見】弥生時代中期後葉(栗林式期)の無形壺と蓋が共伴、副葬品か

【弥生時代後期末から古墳時代前期】榎田遺跡Ⅰ～Ⅲ期
【SB1441】竪穴住居跡、壮年以上・男性、1 体分、屈葬、中切歯は軽度のシャベル型、エナメル質減形成はない、下顎は頑丈で下顎体は高い、歯の上I1 は軽度なシャベル型、咬耗は比較的進んでいる、壮年以上、歯の大きさは普通、上腕骨の太さは普通、大腿骨は太くて頑丈,上部は扁平、脛骨も太とくて頑丈,男性的、【発掘所見】廃屋墓か、弥生時代後期末(榎田Ⅱ期3段階)、西側の床面より人骨 1 体が、榎田遺跡としては、良好な残存状態、頭位は東で、右横臥と思われ、膝は屈折、床面から完形に近い甕、壺、高坏、装飾器台、ミニチュアが出土、副葬品の可能性もある
【SB1447】【発掘所見】竪穴住居跡、廃屋墓か、弥生時代後期末(榎田遺跡Ⅱ期4段階)、床面からは全部で 3 体の人骨が出土
【SB1447-1】成人・男性、保存は非常に悪い、発掘時は全身が確認できた、屈葬、頭蓋では側頭骨錐体、下顎骨があり、歯が 1 本でている、下顎体は頑丈で厚い,抜歯はない、歯は上Cで咬耗が顕著、四肢骨は観察不能、
【SB1447-2】年齢不明(子供ではない)・女性、部分的に残る、頭蓋では頭蓋冠と下顎骨が残る,頭蓋冠の骨の厚さは普通、外後頭隆起はやや発達、下顎体は頑丈ではない、下左P2が捻転、切歯部の歯槽は狭くなっている、歯は小さい、四肢骨では大腿骨と脛骨の一部が残る、大腿骨は細い、改葬されていたらしい、女性の可能性が高い、【発掘所見】頭位は西で頚骨付近から勾玉 1、棗玉 1、管玉 3、ガラス玉 4 など、多くの玉類が出土している、副葬品の可能性が高い
【SB1447-3】成人・性別不明、ほぼ全身が残っているが保存は非常に悪い、屈葬、頭蓋では乳様突起は普通の大きさ、下顎体は頑丈ではない、咬耗が比較的進む、大腿骨は比較的太い,粗線の発達は悪い、【発掘所見】頭位は北で、右横臥している。胴上半から管玉 2 本が発見されている、副葬品か
【SK3781】成人・性別不明、屈葬、頭蓋の残りは悪く下顎骨のみが観察可能、下顎体の厚さは普通、抜歯については不明、大腿骨は太く頑丈、【発掘所見】土坑墓、底部より膝を屈曲した人骨と、土器片が少量出土

【古墳時代】古墳時代中期～後期をⅠ～Ⅴ期(Ⅰ期 5C 前半、Ⅱ期 5C 後半、Ⅲ期 5C 末～6C 前葉、Ⅳ期 6C 中～後葉、Ⅴ期 7C)に細分
【SB634】竪穴住居跡、詳細不明、臼歯の破片のみが出土、【発掘所見】古墳時代中期～後期(5～7C)
【SB1219】竪穴住居跡、青年(30 歳以下)・男性、保存は悪い、伸展葬、頭蓋骨はほとんどない、下顎骨の残りはよい、P2からM3が残る、歯冠の残るP2の咬耗は軽度、さほど高齢ではない、大腿骨は太く頑丈で粗線は発達する、脛骨は太く頑丈、大腿骨からの推定身長は約 161 ㎝、四肢骨の骨端は癒合している、【発掘所見】Ⅴ期(7C)、頭位を南東、下肢は伸展、骨 1 体が出土した人骨の北側には、平行して板材が出土だが、右腕が板材の外側に伸びる、棺の一部か不明、胸部では朱が検出、玉類はない、さらに覆土中、人骨直上や周辺からこぶし大の礫が多量に出土、家屋墓(廃屋墓)の可能性が指摘

【SB1262】竪穴住居跡、発掘時は 3 体と考えられていたが 5 体分あった【発掘所見】床面からは人骨が少なくとも 3 体以上出土、最も残存状況の良い人骨の頭位は南東、伸展、その他は残存状態が悪く、詳細は不明、人骨の上部では若干のレベル差を有して、こぶし大の礫が多量に検出、西コーナー付近の壁際より朱が集中して出土、家屋墓(廃屋墓)の可能性が指摘
【SB1262-A】成人・性別不明、この部分からは長骨は12本分がでている,保存は悪い、大腿骨はなさそうなので2体以上が混在、頭蓋骨や歯はない、
【SB1262-B】詳細不明、ごく少量しかでていない
【SB1262-C】成人・性別不明、頭蓋骨が出ている、歯は3本が残る,下顎歯である、咬耗は比較的進んでいる、成人
【SB1262-D】成人(20歳代)・男性、次のEからでたものとで1体分、伸展葬、頭蓋骨と上肢骨がある、上顎歯が9本、下顎歯が1本残る、大きな歯、咬耗はごく軽度、成人ではあろう、
【SB1262-E】下半身部分が出土、大腿骨はさほど太くない、
【SD511】溝跡、成人・女性、保存は非常に悪い、伸展葬、頭蓋冠と下顎骨が残る、頭蓋冠の前額部は垂直に近い、縫合はかなり癒合している、歯は上顎歯が4本、下顎歯が1本残る、咬耗は比較的進んでいる、歯は小さい、女性的、四肢骨は残っているが観察不能、【発掘所見】IQ-02 付近の底部から人骨と金環が 2 点出土、人骨の頭位は南東、上半身は残存状況が悪く詳細不明、金環は頭骨に近い部分から出土、壺底部とミニチュア土器が脚部西側で出土、それぞれ副葬品の可能性がある

【古代】8～9C
【SK4100】木棺墓、詳細不明、歯だけが残る、上顎歯が5本、下顎歯が5本、咬耗はさほど進んでいない、【発掘所見】主軸方向は N115° W、釘類がなく、組合せ木棺が想定、底板と蓋板との間の土中から、僅かな骨片と歯が 13 点出土、歯の存在から頭位は南西、木棺の出土状況から、遺体は伸展葬で身長 160cm 前後か、棺の足元方向から、完形の食膳具が 5 点出土(正位の黒色土器坏 4、灰釉陶器皿 1、黒色土器の上に伏せられた状態、逆位)、食膳具の下から棒状の材と、丸い形状の木製品(柄杓か)が出土、食膳具は出土レベルから木棺蓋の上に置かれていた可能性が指摘されている、時期:平安時代前期(9C 後半)

【中世】14～15C 中心
【SK107】土坑墓、幼児(4歳前後)・性別不明、乳歯列である、形成中の永久歯の歯冠に咬耗はない、4歳前後、エナメル質減形成がある、
【SK3797】土坑墓、少年(18歳前後)・性別不明、上I1, I2 は共にシャベル型、咬耗は軽度、M3に咬耗はない、18 歳前後、【発掘所見】鉄釘 7 本が共伴

【時期不明】
【SK3927】少年(15歳前後)・男性、発掘時には全身が確認されている、伸展葬、保存は悪い、頭蓋骨は観察不能、歯は上下顎で12本が残る,M2でも咬耗は軽微,15歳前後、歯は大きい、大腿骨は比較的太い,発掘時の実測では身長は 165 ㎝の高身長、【発掘所見】頭位は北東、仰臥状態で出土

5	大室古墳群 北谷支群	おおむろ	古墳後期か	中村徹也	1970	長野市

池田次郎鑑定、保存は悪い、1 体分。下顎歯5本がある、30 歳前後の男性、
【463 号墳】30 歳前後・男性、玄室入り口近くにまとめられている、頭蓋片多数と長骨片多数、奥壁近くに下顎骨がある、撹乱されているが 1 体分である、下顎骨は保存がよく、右大臼歯3本と左M3、Cの合計 5 ほんがある、大腿骨片がある、大腿骨と歯から 30 歳前後の男性と鑑定した(池田)、獣骨片が2点混在している、シカの骨で人為的な傷がある、【発掘所見】円墳、土石混合、横穴式

5	大室古墳群	おおむろ	古墳後期	茂原信生他	1992	県歴史館

5 基の古墳で 22 個体分、保存は悪い。顔面は平坦、長頭、扁平脛骨、25 号墳には 218 本の歯があり、咬耗が少ない若い個体が多い(13 体)、明治大学発掘分,歯だけが残ってもいろいろわかることがある。長頭・顔面が平坦など古墳時代の特徴を示す、【発掘所見】横穴式の開口していた古墳がほとんどで、追葬が行われていたので、人骨が古墳の(築造)年代のものかは、わからない、古墳時代後期でも終末期(7C)まで下るものが多い

【21 号墳】壮年・性不明、上左M2 が残る、咬耗は軽度である、大腿骨片と思われるものが 1 点ある、他に獣骨が 10 点ほど残っている、【発掘所見】石室床面直上と床下の土を採取しふるいにかけたところ鍔と

骨片が検出、古墳自体の遺存状態が悪く、玄室内からは刀子、 鋏具、 鍔が出土しているのみ、7C 中～後葉、
【23 号墳】2 体分、若い個体も含まれる、性不明、頭蓋骨と歯が残る、頭蓋骨は右側頭骨錐体部である、歯は 5 本残る、下左M1 の咬耗は進んでいる、下右M3 と上右M2(咬耗していない)の咬耗度が全くちがうので 2 個体の可能性がある、他に獣骨が数点混在する、【発掘所見】石室床面の遺存悪く、副葬品は鉄鏃 27 点、ガラス小玉 1 点のみ、盗掘の可能性あり、人骨も小片しか出土していない、7C 前葉か
【24 号墳】4 体が埋葬、頭蓋の残るものは男性、骨の保存状態はよくない、頭蓋の顔面は破損している、下顎骨と歯、及び大腿骨片がある、頭蓋冠が残る、外後頭隆起は発達している、眉弓は発達せず鼻根部は平坦(顔面が平坦)、乳様突起は中等度、やや男性的、冠状縫合も一部が消失しかかっている、長頭、30～40 歳代の壮年、土圧を受けているが長頭である、歯は 21 本が残る、1 本は円錐歯、下顎の右M1 は 4 本あり、最少個体数は4, 咬耗が少ないものもある、大腿骨の粗線は発達している、柱状性は低い、骨格では 3 体分が確認できる,個体の識別は出来ない、【発掘所見】人骨は床面直上から出土、3 グループに分かれる、1:玄室右側、玄門寄りに頭蓋骨がありやや離れて肢骨が複数検出、2:玄室左側であるが、右側の人骨と同様に頭蓋骨が玄門寄りから出土、そこから奥に向かって肢骨が複数あり、3:奥壁寄りに肢骨と歯が複数あった、玄室の左右にみられたグループはそれぞれ 1 体ずつか、玄室左側の2グループには下顎骨が 2 体あり、最低 2 体が頭を羨道に向けて埋葬されていた、追葬の可能性もある、盗掘を受けている可能性は少ないが、副葬品は全くない、6C 後半から 7C 中葉の時期に築造、以後奈良・平安時代の土器があり、年代幅がある可能性が高いが、埋葬した状況を比較的良くとどめているとされる
【25 号墳】最少個体 13、男女ともある、老年のものは少ない、乳児もある、何回かの追葬が確認できる、ほとんどの骨が細片化している、個体識別は出来ない、床面の張り替えがある、上面の骨と歯:76 点の出土、女性が含まれる、下右M1 が 2 本あり大きさに差がある、男性と女性の埋葬、咬耗は進んでいる。下面の骨と歯:ほとんどがこの面から出土している、頭蓋骨は細片化している、側頭骨錐体部が左右とも 8 個残っているので最少個体は 8 体、寛骨の大坐骨切痕部が残るものは 2 点でいずれも男性、加齢変化が顕著なものはない、25 号墳全体で 218 本の歯が残る、多くは歯冠だけである、上顎歯 107 本、下顎歯 101 本、不明が 10 本である、軽度の咬耗のものが多い、歯種別に見た最少個体数は下右M1 の 13 である、乳歯が 7 本含まれる、扁平脛骨、【発掘所見】玄室内の 1 枚目床面で、耳環 11 点のほか多数の玉類 597 点・馬具・刀子などが、骨片や歯と共に出土、原位置をとどめていない、追葬で壁際へ掻き集めて玄室内を片づけたか、2 枚目の床は盗掘の被害を受け副葬品はない、玄門框石寄りで人骨が見つかったが、盗掘あるいは追葬の段階で寄せられた可能性が高い、6C 後半築造、7C 前半まで追葬か
【ニ号墳】年齢不明・男性、出土骨はごく少量、同定可能は 12 点、頭蓋骨片(左側頭骨錐体部)と大腿骨片数点が残る、大腿骨は頑丈で骨は厚い、男性の可能性は高い、イヌの歯 6 本(2 個体分)が混入している、【発掘所見】骨片は両側壁沿い 2 ケ所あり、歯は左側の骨片の近くで検出、骨は各 2・3 本しか残っておらず、埋葬当時の状態ではない、両側に寄っており、 2 体を葬っている可能性あり、イヌの骨は、後世再び古墳が閉塞する際のものらしい、副葬されたものではなく、埋葬人骨との関係は不明

6	川田条里遺跡	かわだじょうり	中世末	鶴田典昭	2001	県歴史館

茂原信生鑑定、A2 地区の 16C 末~17C 初の屋敷地跡、人骨 2 点が出土(頭頂骨・後頭骨片)

【SH03】石列(ST01 屋敷地の石垣)、詳細不明、頭頂骨片である、【発掘所見】瀬戸美濃、かわらけ出土
【ST01】礎石建物址、詳細不明、頭頂骨と後頭骨、その他が 1 点である、【発掘所見】内耳鍋出土、SH03 の人骨と接合

7	小島・柳原遺跡群	こじま・やなぎはら	中世～近世	寺内貴美子	2017	県埋文

中世末から近世の土葬・火葬墓群(23 基)が検出、うち土葬の 1 体は壮年女性とされる(鑑定:茂原信生)

8	三才遺跡	さんさい	近世	茂原信生	1998a	県歴史館

火葬骨、保存は悪い。頭蓋片は細片が数十点。四肢骨片はごく少ない。さほど高齢ではない、全体として灰化するまで焼かれているわけではなく黒化した部分や灰色の部分など多様である、全身が出土しているものはない【発掘所見】ほとんどの人骨が SM(土坑墓)から出土し、近世陶磁器(17c)が共伴しているようであるが、具体的な記載が報文にはない(古墳時代は全く記述無)

【MSS 試掘】成人・性不明、右大腿骨近位半、骨頭が出土している、粗線はよく発達し柱状性は強い、超扁平大腿骨である、骨質から成人ではあろう、

【SM7】詳細不明、頭蓋では後頭骨外後頭隆起付近が 2 点あり、四肢骨は部位不明の 4 点が残る,総重量は 14g である
【SM9】詳細不明、焼骨、総重量は 960g、1 体分の火葬重量の約 1/3、頭蓋骨は焼きむらがある、左側頭骨、左右の側頭骨錐体部がある、後頭骨の一部などがあり、乳様突起は非常に小さい、重複する部分はない、1 体分
【SM10(北区)】6 歳前後、性不明、焼骨、左右の側頭骨錐体の一部や歯が 1 本認められる、上右M1 片である、咬耗は見られない、四肢骨は十数点があるが特定できない、骨端が未癒合の部分がある、6 歳前後と推測される、総重量は 47g
【SM11】7～8 歳の幼児・男性、焼骨、頭部では左右側頭骨錐体、左右上顎骨、下顎骨関節突起部などがある、歯列は乳歯の歯槽と永久歯の入る歯槽があるが、乳歯列か、M1 の萌出がある混合歯列であった、硬口蓋も非常に小さい、歯は下顎のM1、M2 の歯冠が残る、黒色で熱を受けにくくて残ったものであろう、他に下顎切歯枝痕が 4 本残る、M1 は萌出していた可能性がある、歯は大きい、四肢骨片は多数出土する、鎖骨中央部は非常に細い、総重量は 340g である
【SM11 か】18 歳以上、性不明、焼骨、総重量は 1002g である、そのうち頭蓋の出土重量は 120g、頭蓋は上顎骨片、側頭骨片などがある、歯は歯冠エナメル質はない、上顎左のM1、M2、M3 の歯槽が見られるので、少なくとも 18 歳にはなっていた、四肢骨では大腿骨片がでている, 粗線はやや発達している
【SM11(仮 No.3)】熟年・性不明、焼骨、総重量は 146g、頭蓋では左右の側頭骨錐体が残る、乳様突起は小さい、下顎骨の一部が残る, 左犬歯部から右下顎体後部までで、左犬歯の歯槽以外は閉鎖しており, 下顎体も萎縮している、高齢だろう、胫骨片がある、
【SM12】詳細不明、焼骨、総重量は 252g、一部に黒化下部分がある、頭蓋では後頭骨外後頭隆起部が 2 点(発達が異なる)、右側頭骨錐体が残る、歯は 2 点のみ、四肢骨は細片である、【発掘所見】Yll 区、直径 30cm、深さ 20cm の円筒形の掘り込みの中に焼骨がぎっしり詰まり、底から曲物の底板が出土したとの記述あり、17 世紀とするが、年代比定の根拠なし
【SM12(仮 No.2)】詳細不明、20 点補との頭蓋骨片と四肢骨片、頭蓋骨では頭頂骨片があり骨は厚い、四肢骨では上腕骨骨幹遠位部と大腿骨後面がある、粗線はよく発達している、総重量は 141g、【発掘所見】Y11 区、直径 28cm、深さ 20cm の円筒形の掘り込みの中に曲物があり、中に焼骨がぎっしり詰まり、上を 1～ 2 cm の炭で覆っていた、17 世紀とするが、年代比定の根拠なし
【SM14】詳細不明、焼骨、一部に黒化する部分がある、頭蓋骨が 10 点ほどと一握りの四肢骨片、全重量は 114g
【SM15】詳細不明、焼骨、総重量は 110g、頭蓋骨片がほとんどである、後頭骨(外後頭隆起部), 右側頭骨錐体部、下顎骨片などが残る, 歯は 2 点、四肢骨では橈骨近位端がある
【SM16】詳細不明、焼骨、総重量は 389g、頭蓋骨は 20 点ほど, 側頭骨錐体と下顎骨(右下顎体後部)が同定できる、一部に黒化する部分がある、筋突起の内側筋稜はよく発達する、歯はM3 まで萌出、四肢骨は橈骨片、大腿骨片、胫骨片がある、扁平な大腿骨である
【SM17】詳細不明、焼骨、頭蓋骨は 5 点が残る、頬骨片や前頭骨片である、頬骨はきゃしゃ、総重量は 60g、四肢骨は大腿骨後部が残る
【SM18】詳細不明、焼骨、頭蓋骨は非常に少ない、四肢骨では肩甲骨片、鎖骨片、上腕骨片、胫骨片などがある, 一部が黒化している、総重量は 800g である
【SM20】詳細不明、若い個体、焼骨、黒化した下右M1 の歯冠が残る、咬耗はない、他に左右の側頭骨錐体の一部が出土している
【SM22】詳細不明、頭蓋骨片 2 点を含む数点が残るだけである
【SM201】詳細不明、焼骨、頭蓋骨では後頭骨片、側頭骨片、上顎骨片が確認できる、外後頭隆起はよく発達している、歯が 1 点と 10 数点の細片がある、エナメル質はない、上小臼歯であろう、歯根が形成されるのが 15 歳前後であるから少なくとも 10 代後半にはなっていた、四肢骨では大腿骨や尺骨、指骨などが残り、粗線はよく発達し柱状性は強い、総重量は 710g である
【SM202(南区)】幼児、性不明、焼骨、下顎骨正中部、左側頭骨錐体などがある、下顎骨は子供のもので永久切歯が歯槽内で形成中、頭蓋骨は薄い、総重量は 60g

【SM（北区）資料発掘所見】以下の SM（北区）資料に、SM19（Y11）で検出された直径 25cm、深さ 20cm の円筒形の掘り込みの中に焼骨がぎっしり詰まり、上を 1～ 2 cm の炭で覆っていた。底からは曲物の底板が出土している墓に該当するとされるがどれが厳密に対応するかは不明
【SM（北区）】詳細不明、総重量 305g の焼骨、さほど高温で焼かれたものではない、黒化した部分もある
【SM 北区（仮 No.2）】詳細不明、焼骨、頭蓋骨が 4 点残る、右下顎骨関節頭、左前頭骨胸骨突起部などである、皮脂骨は肩甲棘がある，総重量は 206g である
【SM 北区（仮 No.3）】詳細不明、焼骨、総重量は 188g、10 点ほどの頭蓋骨片と四肢骨片である、乳様突起は小さい、四肢骨では大腿骨遠位部、肩甲骨関節部がある

9	塩崎遺跡群 伊勢宮遺跡	しおざき いせみや	弥生中期	矢口忠良他	1986	長野市
				茂原信生他	1997	
				松村博文	1998	

当初は西沢寿晃鑑定、木棺墓、保存は悪い、歯の保存は良い、シャベル型切歯をもつ。渡来系の影響がある、発掘所見は矢口ほか（1986）による、木棺墓とあるが、実際の木質は未検出、木口痕からの推定、時期は弥生時代中期前半

以下人骨の形質は、茂原他（1997）に基づく
【第 1 墓壙群】最も北にある墓壙群で 10 基あるが、うち 1・19・24・26・28 号木棺墓で人骨の形質記載あり
【1 号木棺墓】詳細不明、下肢骨だけが残る、後面の粗線は比較的発達している，柱状大腿骨、脛骨は扁平と推測される、【発掘所見】壺片が共伴、発掘調査段階では歯らしきものが見え、頭位は北東か
【2 号木棺墓】詳細不明、形質に関する所見なし、発掘段階では頭蓋骨が検出されたものの、取り上げられなかったと思われる、【発掘所見】頭部横から出土した筒形の土製品、頸部付近より太い管玉 13 個が副葬品と思われる、頭位は東
【19 号木棺墓】2 体の合葬，骨は取り上げられなかった、【発掘所見】完形の壺などが出土、副葬品か、頭位は南東
【19-A 人骨】18 歳前後・女性、頭蓋骨と下肢骨の一部が残る、保存状態は悪い、歯の保存状態もよくない、歯は 6 本残っている、上顎 1 本、下顎 5 本、M3 萌出、咬耗は進んでいない、M3 に咬耗はない、18 歳前後、エナメル質減形成がある、歯が小さいので女性の可能性が高い、
【19-B 人骨】成人・性不明、頭蓋骨と少数の歯，四肢骨片が残る、歯だけが観察可能、上顎小臼歯片 1 本、下顎右M2（あるいはM3），左右不明のM1 片、M1 は咬耗が進んでいる、エナメル質減形成がある
【24 号木棺墓】2 体の合葬、一部の骨の集積があるので別個体があって、その後に 2 体が埋葬された可能性がある，頭蓋骨は保存が悪くて取り上げられなかった、【発掘所見】東側に頭部をすえる。西側に骨の集積があった、共伴した土器は存在したが、副葬品とは考えにくい、頭位は南東
【24-A 人骨】20 歳代前半・性不明、上顎歯は 9 本、下顎歯が 5 本残る、上顎I1 はシャベル型、咬耗はさほど進んでいない、若い個体である、M2 の遠心隣接面に磨耗がないのでM3 が未萌出か萌出直後と考えられる、エナメル質減形成がある
【24-B 人骨】6～7 歳の幼児・性不明、歯は比較的保存がよい、乳臼歯が 3 本ある、これらはさほど磨耗していない、M2 に咬耗はないので未萌出、
【24-C 人骨】壮年・男性、上顎歯は 9 本、下顎歯は 8 本残る、M3 萌出、咬耗は軽度である、壮年程度、歯は大きいので男性か
【26 号木棺墓】20 歳代・性不明、　　頭蓋骨だけが残る，保存状態が悪く取り上げられなかった、歯は下顎の 6 本が残る、前歯部の保存はよくない、咬耗は進んでいない，さほど高齢ではないだろう、M3 の咬耗がほとんどないので 20 歳代と推測される，エナメル質減形成がある、【発掘所見】共伴した土器は存在したが、副葬品とは考えにくい、頭位は北西
【28 号木棺墓】壮年・性不明、屈葬、保存状態は悪い、歯は上顎歯が 4 本、下顎歯が 5 本残る、下顎骨に 2 本が植立している、上顎I1 はシャベル型ではない、咬耗はさほど進んでいない，四肢骨は大腿骨や脛骨が一部残る，大腿骨はさほど太くなく、後面の粗線も発達していない、【発掘所見】頭位は南東、屈葬か
【25 号土壙墓】土坑墓、人骨片 2 個出土したとあるが、形質的な特徴不明、

【第2墓壙群】4 号木棺墓のみで構成される
【4 号木棺墓】2 体の合葬である、屈葬、頭位は南東か
【4-A 人骨】壮年・男性、もっとも保存のよい頭蓋骨である、土圧を受けてややつぶれている、眉間部はさほど発達していない，鼻根部のくびれは中等度（縄文人的でも古墳人的でもない中間的）、乳様突起は大きい，頭蓋冠の骨は厚い、下顎骨は頑丈で厚い、下顎左側の前歯は生前に脱落していた，残っていたのは左M1 だけだろう、歯は生前から脱落し歯槽閉鎖していたものが多い、しかし，残っている歯（上右M1,左P1,P2，下顎右P2，M1,M3 と左M1）の咬耗はさほど進んでいない、脱落の原因は不明である、四肢骨は観察できない状態である
【4-B 人骨】10 歳前後・性不明、頭蓋骨の一部と歯、及び四肢骨の一部が残る,保存状態は非常に悪い、外後頭隆起はあまり発達していない、歯は上顎が 5 本、下顎が 10 本、及び下顎の乳臼歯が 1 本残る、下顎のCからPにかけては萌出寸前か萌出直後である、M1 はやや咬耗している、10 歳前後、エナメル質減形成がある、四肢骨は保存が悪く部位の同定も難しい

【第3墓壙群】14 基で構成されるが 1 基（11 号木棺墓）は平安時代のもの
【5 号木棺墓】3 体が埋葬されている、同時埋葬ではない、屈葬、頭位は南東
【5-A 人骨】20 歳程度・女性、中央に埋葬されていた個体、乳様突起は小さい、外後頭隆起は発達していない、顔面の形状はわからない、下顎骨はきゃしゃである、女性的、歯は上顎歯が 3 本、下顎歯が 4 本残る,全て大臼歯、咬耗は少ないので 20 歳代、四肢では大腿骨は太くない、推定身長は約 156 ㎝でやや高身長
【5-B 人骨】壮年・男性、顔面はない、乳様突起は大きい、下顎角部はやや外反している,角前切痕はほとんどない、下顎歯は左右ともM2 まで萌出している、上顎はM3 が萌出、咬耗はさほど進んでいない、特にM3 の咬耗は少ない,壮年程度,エナメル質減形成がある、大腿骨は太く頑丈、柱状大腿骨、脛骨も太くて頑丈
【5-C 人骨】20 歳前後・女性、伏臥、眉弓はさほど発達しておらず,頭蓋冠の骨は薄い、歯は上顎歯が 5 本残る、下顎は犬歯は小さめ、大臼歯は 3 本ある、咬耗は進んでいない,M3 に咬耗はほとんどないので 20 歳前後、大腿骨は太くない,柱状大腿骨、脛骨は扁平ではない
【6 号木棺墓】遺存状態が悪いためか、形質の所見なし、【発掘所見】頭位は東、胸部から無頸壺･浅鉢、足部から浅鉢が、頸部付近より破壊された緑色凝灰岩製の管玉が出土、副葬品か、
【7 号木棺墓】6～7 歳程度・女性、頭蓋は残っていないが歯の残りはよい、四肢骨片がある、歯は上顎が 9 本、下顎が 10 本の永久歯があり,他に上顎乳歯が 1 本（右dp2）ある、M1 の歯根は完成、他は未完成、M1 の咬耗はないものもありごくわずかなものもあるので萌出中か萌出直後であろう、上I1，I2 はシャベル型、犬歯がかなり小さい、【発掘所見】頭位は東か
【8 号木棺墓】成人・男性、保存状態は悪い、頭蓋と四肢骨が残っているが、頭蓋は観察不可能だった、四肢骨は左右の上腕骨片、寛骨、左右の大腿骨と脛骨が残る、寛骨は頑丈で大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は太く頑丈、柱状大腿骨、脛骨はかなり扁平、距骨には蹲踞面がある、【発掘所見】屈葬、頭位は北
【9 号木棺墓】成人・男性と 7 歳前後の幼児・性不明の 2 体、頭蓋では後頭部だけが残る、外後頭隆起は全体として膨隆している、下顎骨はない、歯は乳歯も残る、永久歯は上顎で 8 本、下顎で 11 本残る,乳歯は上顎でdc、dp1，下顎の左右dp2 が残る、M1 以外の永久歯は咬耗がない、7 歳前後、中切歯はないが上顎側切歯はシャベル型、四肢骨では大腿骨はさほど太くないが柱状大腿骨、脛骨は太く頑丈で扁平、歯で見られる 7 歳とは対応していないので他から混入したものと思われる、撹乱がないので成人と子供が埋葬された可能性が高い、【発掘所見】屈葬、頭位は東、胸部から壺が、足元に浅鉢が副葬される
【10 号木棺墓】成人・男性、撹乱を受けており，少量の頭蓋骨片と下肢骨片だけである、頭蓋は頭蓋冠の破片が 2 点、骨の厚さは普通、四肢骨では大腿骨は太く頑丈であり、後面の粗線は発達している、脛骨は扁平、男性的、【発掘所見】屈葬、頭位は北西、土器片は共伴していたが、副葬品なし
【18 号木棺墓】20 歳程度・性不明、四肢骨は撹乱を受けている，保存状態は悪い、頭蓋の形質は不明、歯の保存状態はよい、上顎歯が 7 本、下顎歯は 14 本が残る、咬耗は進んでいない、M3 は萌出するも咬耗はない、M2 との隣接面磨耗もまだ形成されていない、20 歳代前半、歯は大きい、四肢では大腿骨が確認できる、後面の粗線はよく発達し柱状大腿骨である、【発掘所見】屈葬、頭位は東、副葬品の管玉 4 点、蛇紋岩製小形片刃石斧 1 点や人骨が散在し、とくに人骨が底面より 8 cm 浮いた状況で検出され

ている（再葬の可能性があるのか）
【21 号木棺墓】10 歳代半ば・男性、屈葬、土器が胸部と下肢部に副葬されている、保存状態は悪く観察できるのは歯だけである、歯の残りはよい、上顎で 10 本、下顎で 8 本が残る、上顎側切歯はシャベル型である、咬耗は少ない、M2 の遠心面には隣接面磨耗が見られない，M3 は萌出していないか萌出中の 10 歳代半ばの可能性がある、エナメル質減形成が多くのはに見られる、歯は大きく男性的、四肢骨では大腿骨が残りさほど太くはない、柱状大腿骨である、【発掘所見】屈葬、頭位は東、胸部に異形土器 1 点、脚部に 9 壺形土器 9 点、頸部付近より管玉 2 点（碧玉と緑色凝灰岩製各 1 点）が副葬、
【31 号木棺墓】2 体分、頭蓋の保存状態は悪いが歯の一部や四肢骨は残る、【発掘所見】土器が共伴しているが、遺構図がなく、詳細不明
【31-A 人骨】青年～壮年・性不明、上顎歯 5 本だけが残る、左M1,M2,M3 と右P1,P2 である、M3 の咬耗は少ないのでさほど高齢ではない、青年～壮年程度
【31-B 人骨】青年～壮年・性不明、上顎歯が 5 本、下顎歯が 7 本残る、M2 に象牙質の露出はない，31-A と似た状態、四肢骨では大腿骨は非常に頑丈である、扁平大腿骨、粗線は比較的発達している、柱状性はさほど強くない、脛骨も頑丈、男性的

第4墓壙群　2 基、14 と 22 号木棺墓から構成される
【14 号木棺墓】土器片が共伴したが、副葬品はない、埋葬人骨は 1 体、頭位は東とされる、遺存状態が悪いようで、人骨の形質的所見はない
【22 号木棺墓】20 歳代・性不明、　　屈葬、保存状態は悪い、頭蓋骨では下顎骨だけが確認できる、歯は上顎が 8 本、下顎が 9 本残る、上 I1 は軽度のシャベル型である、咬耗は進んでいない，M3 はわずかに咬耗している、四肢骨では大腿骨が残る，あまり太くない，粗線の発達もよくない、【発掘所見】人骨は 1 体、屈葬、頭位は東とされる、頭を縦板ぎりぎりに入れたものと推定される、土器片のほか、土偶胴部、 裏面に加工痕のない黒曜石製の石鏃、安山岩製環状石器共伴、副葬品の可能性がある

以下、松村（1998）に基づく、歯冠計測値に基づく渡来系弥生人の判別、長野県内では伊勢宮遺跡、篠ノ井遺跡の弥生人を対象とする、【伊勢宮遺跡の 9 例と篠ノ井遺跡の 3 例】篠ノ井遺跡の対象とした 3 例の弥生人はいずれも土着系の特徴が強く，一方伊勢宮遺跡の 9 例の弥生人では 1 例のみが土着系で残りの 5 例は渡来系の特徴を持ち，3 例がやや渡来系的であった

9	塩崎遺跡群	しおざき	弥生～平安	飯島公子	2016	県埋文
				近藤尚義	2017	

弥生時代前期末から平安時代の墓 88 基が検出され、遺存状態はよくないが、土器棺再葬墓（弥生前期末）、木棺墓（弥生中期中葉）がある、

10	篠ノ井遺跡群	しののい	平安以降	矢口忠良	1980	長野市

頭部を南、顔は東向けの屈葬、保存状態は普通。形態の記載はない。

【土壙墓】詳細不明、平安以降、長軸 93 ㎝、短軸 50 ㎝の楕円形、長軸に沿って人骨が埋葬されており、頭部を南にとる横位屈葬である、という記述があるのみで形態的な記載はない、写真では残りは比較的良さそうである、

10	篠ノ井遺跡群	しののい	弥生～中世	茂原信生他	1997	県歴史館

保存はさほどよくない、弥生時代のものは改葬墓、10 体以上の頭蓋など多数が出土している。渡来系の影響がある。古墳時代遺構からは2体の子供（シャベル型切歯）。弥生時代のものは改葬集積墓、古墳時代以降のものは単独埋葬、弥生時代のものは保存状態が悪いが、中世のものは比較的よい

【弥生時代中期の人骨】
【SM7010 集合再葬墓】a・b・c 群に分けて発掘されている、個体識別は出来ない、歯も同一個体かどうか識別できないことが多い、【発掘所見】礫が入っていた土坑墓、弥生中期、土坑内には上下 2 枚の礫床を持ち、各礫床に人骨および副葬品と考えられる土器（壺・鉢）・黒曜石剥片・ヒスイ原石共伴、礫床は略方形を呈す、頭骨や四肢骨の位置関係から、骨化後の改葬と想定されている
【a 群の人骨】3 体、それ以外に四肢骨片が残る
【頭蓋骨 1 号】詳細不明、頭蓋冠の一部が残る
【頭蓋骨 2 号】詳細不明、頭蓋骨の形は確認できるが形態観察は不可能

【頭蓋骨 3 号】20 歳代・性不明、右下顎骨が残る、さほど頑丈ではない、軽度の角前切痕がある、右大臼歯が 3 本植立する、歯は、上顎左 M3, 下顎右 P1,M1,M2,M3 の 5 本が残る、咬耗は進んでいない、上 M3 は全く咬耗していない、20 歳代、四肢骨は右大腿骨が出土している, 太さは中等度、粗線は発達していない、骨も厚くない

【b 群の人骨】少なくとも 2 個体、男性 1 体と不明 1 体、埋葬時の自然位を保っていない、上肢骨下肢骨の断片が出土、上腕骨は太く頑丈、尺骨は頑丈なものと細めのもの 2 種類がある、右大腿骨（No.1)はあまり太くない、上部は扁平、右大腿骨骨幹(No.3)は太く頑丈で粗線はよく発達していて柱状性が強い、男性的、脛骨は中央付近が 2 本でているがどちらも扁平

【c 群の人骨】

【頭蓋骨 8 号】詳細不明、保存状態は悪く表面は脱落している、観察できるようなものはない、

【頭蓋骨 9 号】成人・性不明、下顎骨と四肢骨が出土している、四肢骨は右尺骨近位部である、歯は上顎が 7 本、下顎が 8 本残る、咬耗はさほど進んでいない、M3 にやや咬耗があるので成人ではあった、エナメル質減形成が見られる、歯は小さい

【頭蓋骨 12 号】詳細不明、土圧で細片化している、乳様突起は中等度、外後頭隆起はよく発達している, 頭蓋冠の骨は厚くない

【頭蓋骨 13 号】壮年・性不明、頭蓋骨の一部と歯が出ている、下顎歯で, 右 C から M1 までと左 P1 から M1 までの 7 本で、左小臼歯は歯根だけである、M1 の咬耗はやや進んでおり、右小臼歯もやや咬耗している、壮年程度と思われる, 歯は大きくない

【頭蓋骨 16 号】青年・性不明、下顎骨と歯、四肢骨の一部が残る、下顎体が残る、前歯部の歯槽が確認できるが抜歯はない、歯は上顎が 1 本、下顎が 8 本残る、咬耗は進んでおらず, M3 の咬耗はごく軽度であるので 20 歳代の青年であろう、エナメル質減形成が見られる、四肢骨では左大腿骨骨幹が残る, 太さはさほど出ないが骨質は厚い、粗線はよく発達し柱状性は強い

【頭蓋骨 17 号】詳細不明、頭蓋冠であること位が不明である

【頭蓋骨 18 号】成人（青年）・性不明、頭蓋骨、歯、及び四肢骨の一部が残る、頭蓋は右を向く、成人のものだろう、歯は、上顎に 2 本と下顎に 4 本が残り、他に円錐歯が 1 本ある、M3 は咬耗しているので成人ではある、青年程度であろう、エナメル質減形成が見られる、四肢骨では大腿骨片が数点ある、あまり太くなく粗線も発達していない

【頭蓋骨 19 号】詳細不明、保存状態は悪い、土圧で圧平されていて表面が荒れている

【頭蓋骨 20 号】壮年以上・男性、　保存状態は悪い、頭蓋の上に下顎がのって出土した、頭蓋ではこつが厚めで男性的、下顎はやや変形している、歯は下顎の右は切歯から M2 まで確認できるので抜歯はなかった、M2 の咬耗は進んでおり咬合面は平坦化している、若くはない、壮年以上であろう

【古墳時代前期の人骨】

【SM7016】木棺墓、15 歳前後・性不明、伸展葬らしいが四肢骨は残っていない、歯列は永久歯になっているが M3 に咬耗はない、上 M2 にはわずかに咬耗がある、上I1 はシャベル型、歯は小さい、M3 の歯冠は完成しているので 15 歳前後、【発掘所見】管玉 12・琥珀玉 50 以上・珠文鏡 1 副葬

【SB7250】竪穴住居跡、2 歳前後・性不明、保存状態は非常に悪く、頭蓋の一部と歯が残る、頭蓋冠の骨は薄い、顔面骨はない、下顎体前部が残り、歯槽骨内で永久歯が形成されている、歯は乳歯列であり永久歯は萌出していない、乳歯の咬耗は軽度、【発掘所見】竪穴住居跡であるが、重圏文鏡が近くから出土、土坑墓の可能性が指摘される

【古代の人骨】

【発掘所見】副葬品や共伴遺物の記述がなく、遺構の年代決定根拠は不明確

【SM6001】平安中期（10C 後半～11C）の土坑墓、詳細不明、7 歳前後・性不明、保存が悪く頭蓋骨は取り上げられなかった、上顎骨と下顎骨の歯が植立する部分だけが残る、歯はほとんどが乳歯の混合歯列、下右M1, 下切歯が萌出していた, M1 にわずかに咬耗がある、乳歯の咬耗はやや進んでいる、四肢骨では脛骨片が残る, 非常に細く子供のもの、【発掘所見】

【SD7055】平安前期～中期（9C 後半～10C 前半）の溝、熟年・男性、頭蓋骨と四肢骨片が残る、骨の保存状態はよい、頭蓋骨は前頭骨から後頭骨までの頭蓋冠、左右の上顎骨、下顎骨が残る、頭蓋冠の骨はさほど厚くない、眉弓はやや発達、外後頭隆起は発達している、下顎骨は頑丈である、主に右側が残る、筋突起から続く外側隆起はよく発達する、下顎体は厚く頑丈、軽度の角前切痕、下顎枝は低い、縫合はやや単純化しているが高齢ではない、左頭頂骨に鋭利な刃物によると思われる切断痕があり、頭蓋冠が前後に 2 分されている、歯はもろい、上顎は左 P1 からM1 までの 3 本、下顎は左のM3 以外は全て出土している、咬耗はかなり進んでいる、四肢骨では右上腕骨、左右大腿骨片などがある、上腕骨は近位半で三角筋粗面は発達していないが太く頑丈である、大腿骨の骨は厚い、粗線は発達していない、超扁平大腿骨である、脛骨は太く頑丈、大腿骨と脛骨に刃物によると覆われる傷が多数認められる、熟年
【SM7005】平安中期（10C 後半～11C）の土坑墓、詳細不明、熟年・女性、頭蓋骨の一部と歯、ならびに四肢骨の一部が残る、頭蓋骨は前頭骨片で骨は厚くない、下顎骨の前方部分が残るが保存は悪い、下顎体はきゃしゃである、歯は上左 P1 と P2 が残る、咬耗は軽度、齲蝕がある、四肢骨は部位不明の長骨片がある
【SM7009】平安中期（10C 後半～11C）の土坑墓、成人・男性、ほぼ全身の骨が出土しているが保存状態は悪い、屈葬、顔は右を向く、乳様突起は大きい、外後頭隆起はよく発達している、男性的、下顎体はそれほど厚くない、四肢骨は上腕骨前面が残る，骨幹はまっすぐでかなり長い、下肢骨の保存は悪い、大腿骨はあまり太くない、粗線は全体にはあまり発達していない、扁平な大腿骨である、推定身長は 148 ㎝
【SM7013】平安中期（10C 後半～11C）の土坑墓、詳細不明、成人・男性、四肢骨の保存状態はこの遺跡の中ではもっともよい、頭蓋骨では左側頭骨の乳様突起があるがさほど大きくない、右下顎骨中央付近が残る、四肢骨のうち上腕骨はないが橈骨や尺骨が残る，太くて頑丈である、下肢骨の保存はよい、大腿骨は左右が残っており頑丈で太い、粗線が発達している，上部は扁平大腿骨である、脛骨も頑丈で太い、腓骨は頑丈だが樋状ではない、下肢骨での推定身長は約 161 ㎝、男性であろう、四肢骨に加齢変化は見られないのでさほど高齢ではない、高身長である
【SM7018】平安中期（10C 前半）の土坑墓、詳細不明、歯と四肢骨の一部が残る、保存状態は悪い、歯は上右 M1 だけが残る、咬耗はあまり進んでいない、四肢骨では大腿骨と脛骨が残る，大腿骨の粗線は発達していない、
【SM7022】平安中期（10C 前半）の土坑墓、詳細不明、3 歳前後・性不明、頭蓋と歯だけが残る、保存状態は悪い、頭蓋の骨は薄い，外後頭隆起はやや張り出している、歯は乳歯列である、歯槽内には形成中の永久歯がある、M1 は歯頚部付近までしか完成していない、乳歯の咬耗は少ない、3 歳前後であろう
【SM7024】平安中期（10C 前半）の土坑墓、詳細不明、成人・性不明、四肢骨だけが残っている、保存状態はさほど悪くないが完形のものはない、上肢では上腕骨の遠位半、橈骨片と尺骨片がでている、上腕骨の太さは普通で、三角筋粗面も発達していない、下肢では寛骨、脛骨、足根骨などが残る、大坐骨切痕は直角に近い，腓骨は細い、距骨に蹲踞面がある
【SM7027】平安中期（10C 後半～11C）の土坑墓、詳細不明、壮年・女性、頭蓋骨，四肢骨の一部が残る、頭蓋骨は土圧を受けてつぶれている、顔面は残っていない、外後頭隆起はあまり発達していない、乳様突起は小さめで女性的、歯は上左 M1 が植立しているだけである、咬耗はさほど進んでいない、せいぜい壮年程度、四肢骨は下肢骨が残る、左右の大腿骨骨幹が残る、太くないが粗線はよく発達している、上部は超扁平大腿骨である
【SD7007】奈良～平安前期（8C～9C 後半）の集落内を区画する溝跡、成人・性不明、大腿骨は比較的太く粗線は幅があるが高くはない、上部は超扁平大腿骨である、柱状性は低い、

10	篠ノ井遺跡群	しののい	弥生～中世	茂原信生	1998b	県歴史館

保存は悪い、ほとんどが弥生時代後期、周溝墓は主に主体部からの出土、古代・中世もある

【SM101】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、左上腕骨片、細い、【発掘所見】木棺の痕跡が残る、頭位は東北東～東
【SM110】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、部位不明の四肢骨片、【発掘所見】出土状況不明、削平されており、主体部の掘り込みの底しかのこっておらず、そこからは人骨が出土していないとされる
【SM112】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、細い脛骨、大腿骨は粗線はやや発達するがあまり太くない、【発掘所見】木棺の痕跡あり、頭位は南東、人骨は膝を曲げている、棺内に小型の壺（副葬品か）

【SM114】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、頭蓋骨片と四肢骨片が残る、頭蓋骨片とわかるにすぎない、大腿骨は太く粗線はやや発達している、【発掘所見】木棺の痕跡のみ検出、頭位は北東

【SM116】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、部位不明の四肢骨片のみ

【SM103】弥生後期の円形周溝墓、20 歳前後・性不明、顔面は失われている、矢状縫合の後部は外板が癒合している、歯は上左 M3, 下右 P1,P2 が残る、咬耗しているが象牙質の露出はない、エナメル質減形成がある、M3 に咬耗はない、四肢骨では下肢骨の原形をとどめていないが細い、【発掘所見】2 体あり、頭位は東、屈葬ぎみであった、北側の人骨のみ木棺の痕跡があった、副葬品のガラス小玉がまとまって検出されている、南側の人骨は子どもと推定しているが、形質的な根拠は示されていない

【SM104】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、四肢骨が残る、上腕骨は太く頑丈である,大腿骨が残っており粗線は発達しており太く骨は厚い、棺外から寛骨臼部が出土している、【発掘所見】木棺の痕跡が明瞭、頭位は南東、棺外の人骨は後世のかく乱によるもの

【SM105】弥生後期の円形周溝墓、成人・男性、四肢骨では大腿骨の骨幹部分が残る、太くて頑丈である,後面の粗線はよく発達している、上部は扁平である、男性の可能性が高い、【発掘所見】木棺の痕跡が明瞭、頭位は東、人骨は膝を強く折り曲げている

【SM109】弥生後期の円形周溝墓、屈葬、頭蓋骨では矢状縫合の鋸歯状の縫合が明瞭である、下顎骨はおとがい隆起が著しい、歯は上顎では M3 まで萌出している、左右ともI2 が欠落している、【発掘所見】木棺の痕跡あり、頭位は北東

【SM211 周溝】弥生後期の円形周溝墓の周溝、四肢骨の保存は悪い、脛骨片がある、歯は上下顎で 10 本が残っている、上顎は左 P2、M1、M3 か、右 P1、M2、M3 で下顎は左右のP1、P2である、【発掘所見】周溝内で、墓としての掘り込みは認められなかった人骨（直葬か）、頭部及び下顎からガラス小玉が検出されている、とくに大型のガラス玉は被葬者の口中から出土（含玉の風習か）

【SM211 主体部】弥生後期の円形周溝墓の主体部、成人・女性、屈葬である、下肢は膝を曲げて左右に開いている、上肢の位置は不明である、顔面を右に向けている、頭蓋骨は顔面を右に向けている、乳様突起は普通である、眉弓は発達していない、頭蓋は大きい、歯は上顎の左P2～M3 までの 4 本が残っている、四肢骨の保存は悪い、大腿骨や脛骨は女性的である、【発掘所見】木棺痕跡あり、頭位は東南東、頭骨付近からガラス小玉が検出、副葬品（鉄釧）及び土器片（鉢か）も主体部から出土

【SM213】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、部位不明の四肢骨片があるだけである、【発掘所見】木棺痕跡あり、人骨頭部は不明だが、脚部から頭位は東と推定、主体部から銅釧が出土（副葬品か）

【SM222】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、【発掘所見】木棺の一部が確認、主体部から歯が出土

【SM224】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、主体部出土の大腿骨と脛骨片があるが観察は出来ない

【SM229】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、四肢骨では大腿骨の粗線はやや発達している、【発掘所見】四肢骨の位置から頭位は東南と推定

【SM236】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、部位不明の四肢骨片が残る、【発掘所見】人骨は頭骨が不明だが歯、四股骨が残存、頭位は歯の位置から東と推定、主体部の人骨は、仰向けであったとすれば、右腕が想定される位置に鉄釧を装着した状態で出土、腹部に相当する位置からはベンガラが出土

【SM238】弥生後期の円形周溝墓、詳細不明、大腿骨と脛骨骨幹が確認できる、【発掘所見】頭位は、人骨の脚の位置から東と推定

【SM241】弥生後期の方形周溝墓、詳細不明、歯が 2 本と部位不明の四肢骨片が残る、【発掘所見】人骨は 2 体、南西側の個体を人骨 1、北東側を人骨 2 とする、頭位は南東～南南東、人骨 1 は頭部に管玉、脚部に管玉・ガラス小玉等、人骨 2 は頭部にガラス小玉をそれぞれ伴う、人骨の軸と周溝のあり方から 2 体とも SM242 に帰属し、人骨 2 を埋葬後、人骨 1 を追葬と推定する

【SB211】弥生後期の大型の土坑、詳細不明、頭蓋骨は上下方向に土圧を受けている、乳様突起は大きい、矢状縫合では鋸歯状の縫合が明瞭である、四肢骨は形があるが詳細は不明、【発掘所見】円形周溝墓群などの墓域北端に位置、土坑墓（あるいは廃屋墓）か、掘り込みの下層から人骨出土、棺の痕跡は認められない、頭位は東の伸展葬、ガラス小玉を副葬、人骨の上層に、完形品や大破片が集積

【SB325】奈良～平安（8～9C）の竪穴住居跡、詳細不明、顔面を左に向ける、顔面はない、乳様突起は比較的大きく厚い、矢状縫合は単純化している、下顎体はさほど厚くない、歯は下顎歯のM3 までが萌出し咬耗もしているので成人である、【発掘所見】南東壁際に人骨が出土、掘り込み（土坑）は認められなかったため廃屋墓（住居跡を利用した墓)と想定

【SK214】弥生後期の土坑墓、詳細不明、下顎骨は確認できるが詳細不明、脛骨はさほど太くない、【発掘所見】大型土坑墓 SB211 を切る土坑墓、土器による時期差はほとんどない
【SK348】奈良～平安（8～9C）の土坑墓、詳細不明、頭蓋骨と四肢骨の一部が残る、保存状態は悪い、頭蓋骨以外は存在を認められるだけである、頭蓋冠だけが残る、頭の左上から右下にかけて土圧を受けている、頭蓋の縫合は鋸歯状の縫合が明瞭であるのでさほど高齢ではない、下肢は不明、【発掘所見】頭位は北
【SK437】平安の土坑墓（9C 頃か）、頭蓋骨が 2 個出土している、2 体分が埋葬されていたらしい、【発掘所見】頭位北、完形の黒色土器坏を頭部付近に正位で副葬、SB310（古代か）を切る
【No.1 頭蓋骨】顔を上に向けている、顔面はない、ラムダ縫合は癒合していない，さほど高齢ではない、四肢骨の形態は観察は出来ない
【No.2 頭蓋骨】（記載がない）
【SK444】中世の土坑墓、詳細不明、顔は上を向く、頭蓋冠は残る、主要縫合は鋸歯状が明瞭で比較的若い個体であろう、【発掘所見】埋土の砂から中世と判断、伴出遺物なく、詳細時期不明
【SK450】古代の土坑墓、詳細不明、部位不明の四肢骨片である、【発掘所見】古墳時代後期竪穴住居跡 SB371 を切る、小児人骨 5～7 歳との記述があるが、根拠不明
【SK588】古代の土坑墓か、詳細不明、頭蓋骨であるという他は不明である、【発掘所見】古墳時代後期 SK589 とあったが、SK588 から頭骨が出土しているとの記述があるので、正しくは SK588 と思われる、内面黒色土器が出土している、8～9C と想定されるが、さらに下る可能性もあるという
【SK589】古代の土坑墓か、詳細不明、部位不明の四肢骨片だけである、【発掘所見】古墳時代末から奈良時代にかけての竪穴住居跡（7C 末～8C 前半）SB531 に切られており、SK589 からは須恵器の蓋、坏が出土している、古墳時代末（7C 末）に近い年代か
【土器棺 201】弥生後期の土器棺墓、詳細不明、歯が出土
【土器棺 202】弥生後期の土器棺墓、詳細不明、歯とガラス小玉 20 個が出土
【土器棺 203】弥生後期の土器棺墓、詳細不明、保存は悪い、骨の表面は脱落、頭蓋とわかるだけ
【土器棺 504】弥生後期の土器棺墓、詳細不明、不明の焼骨の細片だけである

11	築地遺跡	ついじ	中世	茂原信生	1998e	県歴史館

保存は悪い、下肢骨が2体分と歯 6 本のみ、右大腿骨が 2 本あるので少なくとも 2 体分がある

【区画溝 SD08】中世（14C 頃）の溝跡、歯は成人・男性、四肢骨は不明、四肢骨と歯が出ている，両者は 3 メートルほど隔たった位置から出ている、歯は下顎骨に植立した 5 本（下左P1～M3）と遊離歯 1 本（下顎右M2）が出ている、M3 が萌出している、咬耗は少ない、歯は大きい、男性の可能性が高い、下肢骨は右の大腿骨 2 本と左脛骨・腓骨が出土している、右大腿骨の一方は粗線がやや発達している、扁平大腿骨である。もう一方も右大腿骨で遠位骨幹、他に左脛骨片や腓骨骨幹も残る【発掘所見】SD08 は中世居館に伴うような L 字形の溝、馬骨や陶磁器などとともに、人骨出土、埋没過程で投棄されたものか

12	鶴萩七尋岩陰遺跡	つるはぎななひろ	弥生～古墳	阿部修二他	1994	県歴史館

保存は悪い、3 つの墓壙（最少9体）、焼骨と生骨が混在（報告書では峻別されて記述されていない）、弥生時代：最少5体、古墳時代：4体、焼骨は多様で、骨幹より骨端が残るなど複雑な状態。

【弥生時代の遺構】焼骨
【SK01】弥生時代中期の土坑墓、成人・性不明が 4 体と子供が 1 体、焼骨、もっとも多くの人骨が出土している墓壙、成人の前頭骨右眼窩部が 3 個、成人の大腿骨右骨幹部と遠位部が 4 個あるので少なくとも 4 体分が確認でき、他に子供の橈骨遠位部があるので、最少個体は 5 となる、下顎骨中央切歯部で歯槽が閉鎖した破片が出土している，抜歯かどうかは不明、【発掘所見】弥生中期前半の完形の壺 2、甕 1 点が共伴、報告者は、人骨は土器に納められていたものではなく、岩陰再葬墓であると推定

【古墳時代の遺構】焼骨
【SK02】古墳時代中期の土坑墓、成人・性不明が 2 体、最も少ない出土量、重複する部位は成人の後頭骨が 2 個ある、【発掘所見】土師器球胴甕、有稜杯、鉢、管玉 3 点が共伴（副葬品か）
【SK03】古墳時代後期の土坑墓、この墓壙は SK01 と重なり合っている、左側頭骨が 2 個あるので最少個体は2である、【発掘所見】須恵器提瓶（いわゆる陶邑編年 TK10、6C）、骨鏃 7 点が共伴

【墓壙以外からの出土】岩陰部、縄文時代から古墳時代の遺物が出土しているが、弥生時代中期から古墳時代後期が中心、1 ケタ数字・アルファベット・2 ケタ数字は、1m グリッドの名称

【0R01】詳細不明、焼骨、頭蓋骨の上顎骨片が 1 点出土
【0R03】詳細不明、焼骨、頭蓋骨片が 4 点出土
【1R02】成人・性不明、焼骨、頭蓋骨片、椎骨片、手根骨片、寛骨片の 4 点が出土
【1R03】3 体・詳細不明、焼骨の前頭骨眼窩部が 2 個出土，焼けていない頭蓋骨片が数点出土している、したがって 3 体は含まれていたと思われる、上肢骨や下肢骨片が残っている、キツネの右橈骨遠位半が混在していた
【1R04】詳細不明、焼骨、ほぼ完形の手の中節骨が 1 点出土
【2R01】詳細不明、焼骨、頭蓋骨片と手の基節骨遠位部が出土
【2R02】詳細不明、焼骨、6 点が同定された、頭蓋骨が 4 点、下肢骨片が 2 点である，他に焼かれていないイヌの左橈骨骨幹中央部が出土
【2R03】成人 2 体（詳細不明）、生骨と焼骨が混在している、焼骨がほとんどである、左脛骨近位端が 2 個出土、一方が焼骨でもう一方は生骨である、2 体があった、焼かれていないイタチの左尺骨骨幹中央部と焼かれたイノシシの右上腕骨近位端が混在

13	鶴前遺跡	つるまえ	中世	茂原信生他	1994	県歴史館

保存は悪い、1体分、20 歳前後の男性。

【SK162】中世後期の土坑墓、20 歳前後・男性、保存は悪い、顔面部が失われている、頭蓋冠及び側頭骨の一部が残る、四肢骨の骨端は失われており骨幹が残るが同定できるのは大腿骨くらいである、頭蓋では左右側頭骨・頭頂骨・後頭骨鱗部がよく残っており他は細片化している、乳様突起は普通、外後頭隆起は比較的発達している、矢状縫合とラムダ縫合は内板外板共に癒合していないのでさほど高齢ではない、歯は全て永久歯、上顎が 15 本、下顎が 11 本残る、M3 は萌出、M3 に咬耗はほとんどない，20 歳前後、上I1,I2 ともにシャベル型、四肢骨では左右大腿骨の骨幹、左脛骨の中央部が確認できる、大腿骨の上部は扁平、粗線はさほど発達していない、【発掘所見】頭骨は自然礫平坦面を枕にし、頭位は北、顔面は西向き、膝は折り曲げられており屈葬、渡来銭（宋銭～永楽通宝）5 枚出土、16C か

14	長原古墳群	ながはら	古墳	大塚初重他	1968	長野市か

人骨：鈴木尚鑑定、積石塚古墳　築造は古墳時代終末期（7C）だが、古代にも追葬が行われる

【第 5 号墳】年齢不明・女性、玄室内の広範囲に分布、両壁にそって多い、歯と下肢骨がある、破片が多い、歯は前歯、東壁沿いに女性骨遺存状態がよくない、【発掘所見】玄室内で広範囲に認められる、奥壁近くに刀子と直交するように歯列（前歯）があり、奥壁から 80cm 南で東側壁に接して、下肢骨（長 40cm）があり、7C 末築造とされるが、古代に下るような遺物も見られ、8C 以降も追葬されたと思われる
【第 6 号墳】詳細不明、保存悪い、細片化、年齢・性別不詳、【発掘所見】棗玉 2 個とともに人骨が奥壁西隅から出土
【第 7 号墳】3 体分、成人女性、成人男性 2 体、石室から 3 体以上と少量の獣骨、奥壁中央部の人骨は女性、東南隅と西壁のものはどちらも成人男性、残っているのは上腕骨、下肢骨で頑丈、獣骨はウシの骨、【発掘所見】3 体以上の人骨が、ウシ骨と出土、奥壁中央は成年女性、東南隅・西側壁下は成年男性、7C 末の築造だが、獣骨と共伴していることから、発掘担当者は後世の攪乱を想定
【第 11 号墳】玄室、相当量の人骨片、保存は悪い、頭蓋骨などが認められ,3～4 体、人骨は中央と東側壁に散乱で出土、かき寄せられたものらしい、【発掘所見】玉類 166、須恵器、土師器が共伴、7C 末の埋葬か、人骨群には宋銭「皇宋通寶」も出土するものの、人骨の埋葬に伴うものではないとされる
【第 12 号墳】5 体分が出土、【発掘所見】玄室の石室の床面が 3 層にわかれる、最上層第 1 面、若年の女性人骨、第 2 面、2 体以上、20 歳台男女各 1 体、最下層第 3 面では、3 体以上、壮年男性、若年男女 1 体が認められるとされた、遺物は最下層に集中、西壁寄りに玉類 108、金環 4、中央部に鉄製大刀把頭 1、鉄鏃に加え、土師器坏（国分式）も出土、7C 末から埋葬開始、8~9C まで追葬が続いたとされる
【第 2 の床面】20 歳代の男性と女性、第 2 の床面から 2 体以上の出土があり、20 歳代の男女が 1 体ずつである、形態は不明
【第 3 の床面】壮年男性と若年の男性と女性、第3の床面からは奥壁付近に 3 体以上が出土している、壮年男性と若年の男性と女性である、形態は不明

15	春山 B 遺跡	はるやま B	弥生後期	臼居直之	1999	県歴史館

人歯：茂原信生鑑定、棺内北東側から歯が 2 本出土（上右 P2 と右 M1）、成人前

<table>
<tr><td colspan="7">【SK59】弥生時代の木棺墓（後期後葉）、詳細不明、棺内北東側から出土、上右 P2 と右 M1 である、【発掘所見】割竹形の木棺墓、棺内北東側から歯が 2 本と後期の甕破片が出土、円形周溝墓群に隣接</td></tr>
<tr><td>16</td><td>平林東沖遺跡</td><td>ひらばやしひがしおき</td><td>古墳～平安</td><td>ﾊﾟﾘﾉ・
サーベイ</td><td>2007a</td><td>長野市</td></tr>
<tr><td colspan="7">保存は悪い、約 6 歳の幼児と老年（伸展葬）</td></tr>
<tr><td colspan="7">【SD6】溝（時期詳細不明）、成人・性不明、右大腿骨遠位端、大きさから成人と判断される、
【SX2】平安時代（8～9C）の性格不明土坑、成人・性不明、右大腿骨骨体である、大きさから成人と判断される、【発掘所見】検出段階で出土しているので、この遺構に伴うものか疑問
【SK7】平安時代の土坑墓、6 歳程度の幼児・性不明、屈葬、頭蓋骨と遊離歯が残る、頭蓋骨では前頭骨・頬骨、側頭骨、上下顎骨が残る、歯は乳歯と永久歯が混在する、永久歯は M1 で萌出済、6 歳程度の小児！他に不明の四肢骨片が出土している、【発掘所見】頭位は北、鹿角製品の副葬品がある
【SK8】平安時代の土坑墓、老年・男性、伸展葬、頭蓋は土圧で変形する、頭頂部がない、左右側頭骨、頬骨、下顎骨がある、他に後頭骨がある、歯は遊離して出土している、上左 P1～M1,上右 I1～P1 が残る、乳様突起は大きい、男性的、下顎左大臼歯歯槽が吸収されている，咬耗はかなり進んでいる、老齢、齲蝕がある，四肢骨では左右上腕骨、左右橈骨尺骨、左右大腿骨骨幹、左右脛骨と腓骨片が残っている、これらの四肢骨については記載がない、【発掘所見】頭位は北</td></tr>
<tr><td>17</td><td>松代城跡</td><td>まつしろじょう</td><td>中世後期</td><td>西沢寿晃</td><td>1995b</td><td>長野市</td></tr>
<tr><td colspan="7">保存は悪い、2 体（男性 1）、伸展葬か。</td></tr>
<tr><td colspan="7">【SK13】中世土壙墓、2 体分、男性と性不明の 1 体（壮年）、保存状態は悪い、2 例の頭蓋骨が残っている、両者では頑丈さがかなり異なる、男性 1 体と，ややきゃしゃな 1 体（性不明）であり咬耗から考えると壮年期、2 体は共に体幹は消失している、上肢は観察できる程度、下肢では大腿骨が 3 本、2 本は同一個体と思われる、一方は屈葬、一方は伸展葬、【発掘所見】瀬戸・美濃系灰釉皿が共伴、16C 後半、曲輪内に存在していたことから屋敷墓（宅地内に作られた墓）か</td></tr>
<tr><td>18</td><td>松代城下町跡</td><td>まつしろじょうかまち</td><td>近世</td><td>小沢素子他</td><td>2005</td><td>長野市</td></tr>
<tr><td colspan="7">【第 1 号遺構】近世土坑墓か、幼児一体、2～3 歳・性不明、頭蓋、体幹、体肢骨共に大部分の骨が残る，保存状態もよい、頭蓋の縫合は未癒合、頭蓋は復元された、泉門は閉じている、外後頭隆起や乳様突起は発達していない、乳歯列で歯の咬耗はほとんどない、四肢骨は大部分が残るが風化が進んでいる、骨端は未癒合である、推定身長は男性なら 79 ㎝前後で女性なら 77 ㎝前後、顔面は小さくきゃしゃ、高眼窩、狭顔など貴族的な特徴を持つ、家老級の屋敷から出土している、屋敷墓か</td></tr>
<tr><td>19</td><td>松原遺跡</td><td>まつばら</td><td>弥生、平安</td><td>西沢寿晃</td><td>1993b</td><td>長野市</td></tr>
<tr><td colspan="7">保存は良い、9 例、伸展葬 2 例、屈葬 5 例、幼児骨もある。幼年～老年、1 例は弥生時代時代中期のものの保存は悪い（歯は 17 本残る）。</td></tr>
<tr><td colspan="7">【古代土坑墓】奈良～平安時代の土坑墓、明確な根拠は示されていないが、平安時代中期以降とされる
【SJ1】壮年、性不明、伸展葬、四肢骨の多くは骨粉状、歯の保存はよいが遊離している、上下顎で13本の歯が残る、咬耗は軽度【発掘所見】頭位は北東、下顎以外の頭骨片が全く見つかっていない、埋葬段階からなかった可能性がある
【SJ2】壮年男性、仰臥屈葬、保存良好、歯はすべて植立、27 本が残る、咬耗はかなり進んでいる、眉弓突出、乳様突起が大きい、四肢骨はおもなものは残っている、上腕骨は長く頑丈、三角筋粗面の発達はよい、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は直線的で上部は扁平、全体にきわめて頑丈、【発掘所見】頭位は北西、顔は右を向いている、大位は右腕を曲げ、左腕を伸ばし、脚を立膝状態にしたような仰臥屈葬、埋葬時の緊縛が想定されるとする
【SJ3】木棺墓か、壮年男性、伸展葬、保存は悪い、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は癒合していない部分がある、乳様突起は大きくない、下顎は右が残る、歯の保存はよく26本が残り、多くは植立している、M3 が萌出寸前、咬耗は軽度、四肢骨の骨端は破損するが骨幹は残る、上腕骨は細くきゃしゃ、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は直線的、柱状大腿骨、全体にややきゃしゃ、【発掘所見】床面の両側に棺側材の痕跡、副葬された土器が床面や人骨より高いレベルで出土、木棺に埋葬されたものでかつ棺蓋があったと推定、頭位は北西、仰臥伸展葬、棺蓋上に置かれていたと考えられる土師器坏 6、床面あるいは人骨下に埋められていた土師器坏 3、時期：平安時代中期（10C 代）か</td></tr>
</table>

【SJ4】10 代後半、屈葬、保存は良好、歯の保存もよい、頭蓋の骨は薄い、M3 が萌出直線、咬耗は軽度、上腕骨はきゃしゃ、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は近遠位に骨端線が残る、大腿骨と脛骨からの推定身長 h は約 150cm、男性の可能性が高い。【発掘所見】頭部付近に拳大の角石があったが、枕として用いたのであろうか。頭位は北、右向き側臥で両側を右側に折り曲げた屈葬
【SJ6】壮年男性、屈葬、保存は比較的よい、頭蓋は土圧で扁平化している、頭蓋冠の骨はやや薄い、乳様突起は小さい、下顎骨は小さいが頑丈、歯は23本が残る、咬耗は軽度、四肢骨ではじょう腕骨は完形で三角筋粗面は弱い、大坐骨切痕はやや深九段性的、大腿骨は長さに比べてきゃしゃ、柱状生は弱い、大腿骨と脛骨からの推定身長は約 159cm、【発掘所見】頭位は北、左腕を腹部の上に曲げ、右腕を伸ばした仰臥で、両足を右側に向けた屈葬
【SJ7】老年男性、屈葬、保存良好、下顎骨も残る、四肢骨の保存もよい、歯は、上顎は無歯顎、下顎も 2 本が植立（4 本欠失）するのみの老齢、柱状大腿骨、扁平脛骨、146cm、【発掘所見】仰臥屈葬、頭位は北、両腕両足を緊縛されていたものと推定されている、右側（西）を向く
【SJ8】熟年女性、屈葬、保存は比較的よい、頭蓋は細片化、頭蓋冠の骨は薄い、乳様突起は非常に小さい、下顎はほぼ完形、筋付着部は弱い、歯は 18 本が残る、咬耗は顕著で得意なすり減り方を示す。齲蝕あり、上肢骨はどれもきゃしゃ、大腿骨はきゃしゃで殿筋粗面は発達せず、上部は超扁平、脛骨も細い
【発掘所見】仰臥屈葬、頭位真北、両腕両足緊縛、顔西向きなどの点が隣接する SJ7 と全く同じ、共伴遺物がなく、同時性も不明だが、報告者は夫婦合葬を想定する
【SJ9】5・6 歳の幼児、屈葬、保存はよい、下顎枝はかけるが下顎体はほぼ残る、乳歯列、M1 橋槽骨内に埋伏、四肢骨の保存もよい、骨端は失われている。頭位は北か

【弥生時代土坑墓】
【SJ11】壮年性不明、屈葬、保存は悪い、頭蓋は骨粉状で、上下顎骨もほとんどない、歯は咬合状態で残っている、17本がある、大臼歯は咬合面が平坦化しているが明かな象牙質の露出はない、上顎中切歯はない、四肢骨は形が残るが詳細は不明残っている、【発掘所見】遺構検出面（他の遺構との関係から）弥生時代中期後半と想定、頭位は北東、左腕を腹部に曲げた仰臥屈葬、肋骨の左胸部分から打製石鏃の先端部が出土

19	松原遺跡	まつばら	弥生中期	茂原信生	2000e	県歴史館

弥生時代中期後葉（栗林式期）、保存は部分的に良い。27 基の遺構から出土、焼骨もある、平坦な顔面、下顎が頑丈だがロッカージョーはなく、角前切痕を持つ、ﾀﾞﾌﾞﾙｼｬﾍﾞﾙ型切歯をもち、渡来系の影響がある
【SB263】竪穴住居跡、詳細不明、焼骨、下顎骨正中部、
【SB309】竪穴住居跡、6 歳程度・性不明、歯だけが残っている、混合歯列、下顎は右dp2、左I2, 左右I1, 左右P1、P2の合計 8 本が残る、永久歯に咬耗は見られない、歯の形成状態から 6 歳程度の小児
【SB319】竪穴住居跡、詳細不明　　歯が 1 本残るだけである、上顎左C, エナメル質減形成がある、
【発掘所見】炭化物・焼土・灰の堆積と前後して土器が出土、火焚き行為の前後に土器が投棄され、建て替えも認められるとされる
【SB422】竪穴住居跡、小児(10 歳以下)・性不明、歯が 1 本残るだけである、上右dp1 である、咬耗は進んでいる、10 歳以下であろう
【SB426】竪穴住居跡、成人・男性、近位部の欠けた上腕骨である、骨は厚く、太く頑丈で三角筋粗面は発達している
【SD100】溝跡（旧河道）、若い個体・性不明、頭蓋冠を中心に残る、ビビアナイトが付着する、外後頭隆起はよく発達する、頭蓋冠の骨は厚い、主要三縫合は鋸歯状が明瞭であるのでかなり若い個体、四肢骨は大腿骨近位片のみ, 上部は扁平
【SD101】溝跡（旧河道）で、SD100 と同じもの、成人・男性、頭蓋骨片と四肢骨片である、頭蓋は 20 点ほどの細片で残る、骨は厚く頑丈、縫合は明瞭、ビビアナイトが付着、四肢骨は大腿骨骨幹中央部で太く頑丈、粗線はよく発達する、
【SD102】溝跡（旧河道）、古代まで機能していた、12 歳以上・性不明、頭蓋冠の骨が 2 点と歯が 1 本残る、頭蓋は後頭骨鱗部で外後頭隆起はさほど目立たない、縫合は明瞭、歯は上右M2 でやや咬耗するが象牙質は露出していない

【墓】茂原論文 2007d には、SH とあるが、報告書弥生中期・遺構本文には、そうした遺構がなく、すべて現場段階の SM の誤記（混乱）と考えられる、松原遺跡では弥生時代中期の礫床木棺墓と土坑墓からなる墓群が東西地区にそれぞれ 2 群、計4群（西地区 A・B、東地区 C・D）存在、
【SH7】詳細不明、数点の頭蓋骨片と同定不能な小骨片などである、【発掘所見】SM7 は記述が全くない
【SH14】成人・性不明、歯と側頭骨錐体の一部が残る、歯は下顎歯がおもで 6 本が残る，他に歯の破片がある、咬耗は進んでおり咬合面が平坦化しているが象牙質の露出は少ない、【発掘所見】SM14 とすれば、墓域 A 群の礫床木棺墓、南東小口部寄りの礫床面から歯が 2 本検出されており、遺体は南東に頭位を向けて埋葬された可能性がある
【SH19】詳細不明、焼骨、焼けていない小片も含まれる、【発掘所見】SM19 とすれば、墓域 A 群の礫床木棺墓（小形）
【SM21 発掘所見】人骨は棺内に 1 体が確認された。頭部、腕の一部、右大腿骨、脛骨、腓骨、左大腿骨と想定される部分が確認できたが遺存状態は良好でない。遺体は頭位を南東にとり、足は膝立て状態と思われる、頭部は右側に横向け状態で検出、状態がよくないため、形質的所見がない
【SH22】詳細不明、焼骨、一握りほどの小片である、頭蓋骨が含まれる、【発掘所見】SM22 とすれば、墓域 A 群の礫床木棺墓
【SH23】3 歳前後・男性、焼骨と歯が残る、歯は焼けていない、咬耗のない歯冠が残る、上顎歯は 5 本でうち1本が左dp2，下顎は左I2 とM1 で他に歯片がある、乳歯の咬耗は少なく象牙質の露出はない、萌出後間もないと思われる、形成状態から 3 歳前後であろう、上I1 はシャベル型、歯は大きい、【発掘所見】SM23 とすれば、墓域 A 群の礫床木棺墓、棺中央の礫床面に歯が数点確認、歯の位置から頭位は、やや東寄りの位置に推定される
【SM32 発掘所見】墓域 A 群の礫床木棺墓、礫床上に人骨、歯の一部が残存したが遺存状態は良好ではない、腕あるいは脚部の一部が両長側板に添って二箇所確認、遺体が 2 体埋葬されている可能性、歯は南西小口側に寄っていて、頭位は南西側と推定
【SH104】詳細不明、焼骨、一握りほどの頭蓋骨片と四肢骨片だけである、左右側頭骨錐体部がある、よく焼けた部分と黒化している部分がある、四肢骨は大腿骨片であろう、【発掘所見】SM104 とすれば、墓域 B 群の礫床木棺墓、棺床には人骨が残存していたが、保存状態は良好でない。頭部と大腿骨、脛骨の一部が認められた、残在する骨格の状態から頭位は東南東、膝を立てて埋葬されていると推定
【SH105】詳細不明、焼骨、一握りの頭蓋骨片とわずかな四肢骨片である、頭蓋骨では頬骨、後頭骨，側頭骨錐体部がある、【発掘所見】SM105 とすれば、人骨は西南側の小口付近に確認、大腿骨あるいは脛骨にあたる、小口板と並行するような状態であった。よって、頭位は北東、立て膝で埋葬されたと推定
【SM107 発掘所見】墓域 B 群の土坑墓か、人骨が検出されたのみで、土墳ないし棺の掘り方不明、頭骨および腕の骨が視認されたが、遺存状態は良好ではない。人骨の頸部付近から石鏃 2 本が検出、遺存状態が悪いためか形質的所見なし
【SM108 発掘所見】墓域 B 群の小形礫床木棺墓、頭骨のほか他の部位がまとまる、歯が散在していたとされる、遺存状態が良好でないためか形質的所見なし
【SM109 発掘所見】墓域 B 群の礫床木棺墓、北西側の小口板付近には大腿骨あるいは脛骨と想定される骨が小口板と並行した状態で確認、頭位は南東、立て膝の状態で埋葬と推定、遺存状態が悪いためか形質的所見なし
【SM111 発掘所見】墓域 C 群の礫床木棺墓、北西小口側に脚部人骨が、南東小口側に歯が確認、頭位は南東と推定、遺存状態が悪いためか形質的所見なし
【SK163】墓域 A 群に隣接する土坑墓か、詳細不明、焼骨、大腿骨骨幹片で粗線がある、【発掘所見】2 つの掘り方が連結した状態で検出され、最下層から炭化物が堆積し、その上から多量の土器が 2 群に分れて出土、
【SK164】墓域 A 群の中央に位置する不整形な土坑墓か、詳細不明、頭蓋骨片と四肢骨片である、頭蓋骨では下顎骨の筋突起部、四肢骨では上腕骨の一部と中足骨などが残っている、下顎骨の筋突起は短いが頑丈、【発掘所見】、第 1 次堆積土上部には礫床木棺墓に敷かれた同質の小型礫集中分布層が確認、その上部は、炭化物・焼土・人骨片の堆積あり、多量の壺・甕・鉢形土器も出土
【SK313】土坑（墓か、発掘所見なし）、小児(6 歳以下)・性不明、歯が残っている、乳歯列である、乳歯は下左dp2 だけで、他は永久歯 5 本が残るが咬耗はなく未萌出歯である、6 歳以下であろう

【SK314】土坑（墓か、遺構一覧・発掘所見なし）、成人・性不明、細片化した頭蓋骨と歯が残る、頭蓋では左右の側頭骨錐体が残る、歯は永久歯列である、上顎が 5 本、下顎が 3 本の合計 8 本である、他に円錐歯が 1 本ある、咬耗はやや進んでいる，咬耗に左右差があり、左がより進んでいる
【SK1318】土坑（墓か、発掘所見なし）、18 歳前後・性不明、歯だけが残る、上顎は 9 本、下顎は 9 本の合計 18 本が残る、咬耗はごく少ない、M3 に咬耗はない，歯は比較的小さい
【SK1335】土坑（墓か、発掘所見なし）、成人(さほど若くはない)・性不明、頭蓋骨は細片化で観察できない，歯と四肢骨が残る、頭蓋は左右の側頭骨錐体、下顎骨の正中部と筋突起などが残る、眉弓はやや発達する、骨は薄い、下顎のオトガイ孔より遠心の歯は生前に脱落して歯槽が閉鎖している、歯は上顎 9 本、下顎が 5 本の合計 14 本が残る、側切歯はﾀﾞﾌﾞﾙｼｬﾍﾞﾙ型、咬耗は顕著である、四肢骨の保存はよい、長骨はだいたい残っているが骨幹だけが多い上腕骨の太さは普通、大腿骨の粗線はあまり発達していない、超扁平大腿骨である、アレン頚窩がある、距骨に蹲踞面がある、
【SK1760】土坑（墓か、遺構一覧・発掘所見なし）、熟年・性不明、頭蓋骨片とわずかな四肢骨片である、保存状態は悪い、頭蓋骨は土圧で圧平されている、歯は上顎が 2 本、下顎が 3 本残る，M3 萌出、咬耗は顕著である、四肢骨は大腿骨の上部骨幹が残る，粗線は比較的発達している、扁平大腿骨、
【Z(No.3252)】遺構外検出面出土地点不明、詳細不明、10 ㎝ほどの頭蓋冠片である，ビビアナイトが付着、骨は薄い
【ⅡM-13(No.3232)】遺構外検出面グリッド取り上げ、詳細不明、焼けていない歯の破片だけである
【ⅡN-7z(No.3351)】遺構外検出面グリッド取り上げ、詳細不明、焼骨、部位不明の数点が残る
【ⅡV-17(No.2965)】遺構外検出面グリッド取り上げ、詳細不明、10 数点の頭蓋骨片だけである、左頬骨、頭蓋冠などがあり、下顎大臼歯の歯根が残る
【ⅢA-5（No.3263)】遺構外検出面グリッド取り上げ、15 歳前後・性不明、歯だけが残っている、下顎の 3 本が残る、M2 の咬耗は少ない、M2 の遠心面に隣接面磨耗はない

19	松原遺跡	まつばら	古代・中世	茂原信生	2000f	県歴史館

118 例（古墳から出土 7 体、古代 22 体、中世 89 体）、中世は焼骨が多い、保存は悪い、平坦な顔面、角前切痕あり、下顎形態の変化、エナメル質減形成は少ない、歯石・齲蝕がある。

【松原古墳群】中世墓址群の調査中に発見された。1～3 号墳を調査、出土遺物からは、7 世紀後半の終末期古墳だが、古墳時代以降、中世墓としての利用が認められる。
【1 号墳 SM5001 発掘所見】玄室内の礫床下の石組排水溝からは、7 体分の頭骨が発見されたとされる、遺存状態は悪い、玄室中央で発見された 1 例を除き、玄室左側面に列をなして位置していた、玄室の中世での利用も認められ古墳の被葬者かどうか判断が難しい、追葬などが予想されるが、副葬品（直刀、馬具、耳環、玉類）の多くは、当初のものと考えられる
【1 号墳】18 歳程度、性不明、歯だけが出土、下右M3 と不明の下顎大臼歯片 2 点、18 歳程度、
【SM5001-1】年齢不明・性不明、歯が 2 本出土、咬耗は中等度
【SM5001-2】年齢不明・性不明、保存状態は悪い、上腕骨や大腿骨の骨幹など、大腿骨は扁平
【SM5001-3】年齢不明・性不明、中世の火葬墓がある、火葬骨は中世、他に焼かれていない歯が 3 本
【SM5001-4】10 歳前後・女性が、中世の火葬墓がある、焼かれていない歯が乳歯も含めて 16 本出土、歯はかなり小さい

【古代】土葬墓（土坑墓）7 基、ほかにウマの土坑墓 2 基
【SB0012】平安時代の竪穴住居跡、年齢不明・性不明、四肢骨片が 1 点
【SB0042】平安時代前期の竪穴住居跡、年齢不明・性不明、部位不明の骨が 1 点のみ、【発掘所見】古代 6・7 段階、9 世紀
【SB0076】平安時代後期の竪穴住居跡、年齢不明・性不明、上M2 のみ、齲蝕あり、【発掘所見】古代 13 段階 11 世紀後葉から 12 世紀
【SB0076】平安時代後期の竪穴住居跡、熟年女性、頭蓋骨が出土、他はない、平坦な顔面、下顎骨はきゃしゃ、下左 P2 より遠心の歯は生前に脱落、【発掘所見】古代 13 段階 11 世紀後葉から 12 世紀
【SB0085】平安時代前期の竪穴住居跡、年齢不明・性不明、四肢骨だけが出土、腓骨の骨幹がある、【発掘所見】古代 6 段階、9 世紀中葉
【SB0371】平安時代中期の竪穴住居跡、年齢不明・性不明、上腕骨遠位部のみ、【発掘所見】古代 10 段階、10 世紀中葉

【SB1212】平安時代後期の竪穴住居跡、年齢不明・性不明、四肢骨片だが部位不明、【発掘所見】古代12段階、11世紀中葉
【SC0001】平安時代前期までに廃絶した道路址、年齢不明・性不明、ヒトの右第四中足骨近位半のみ、【発掘所見】古代6段階、9世紀中葉以降に廃絶か
【SD0015】溝状遺構、年齢不明・性不明、焼けた側頭骨片のみ
【SD0042】溝状遺構、年齢不明・性不明、大腿骨骨幹のみ、粗線は発達せず
【SD0102】溝状遺構、年齢不明・性不明、頭蓋骨片など、ごく少数の骨片、縫合は明瞭でまだ若い個体、脛骨は扁平
【SD1009】溝状遺構、詳細不明、四肢骨片だがヒトかどうかも不明
【SD1035】溝状遺構、成人、性不明、橈骨骨幹(成人のものだろう)、歯は1本;上右M2で歯冠の表面に歯石沈着、
【SK556発掘所見】平安時代後期の土坑墓、屈葬、年齢・性別不明、頭蓋骨脇から土器3点出土、副葬品、遺存状態が悪かったためか、形質的所見なし、【発掘所見】古代11段階、11世紀前葉
【SK1035発掘所見】平安時代の土坑墓、伸展葬、完形の土師器坏の副葬品、遺存状態が悪かったためか、形質的所見なし
【SK1094発掘所見】平安時代の土坑墓、伸展葬、完形の黒色土器坏の副葬品、遺存状態が悪かったためか、形質的所見なし
【SK1117】土坑墓、壮年女性、頭蓋骨が残る。保存はよいが顔面は失われている、下顎に角前切痕あり、歯は上顎9本、下顎8本が残る、大腿骨は扁平、【発掘所見】伸展葬、副葬品なく、詳細時期不明
【SK1226発掘所見】平安時代の土坑墓(11期以降か)、3体同時の合葬(母子合葬か)、いずれも屈葬、完形の土師器坏6点の副葬品
【SK1226-1】10代後半の女性、保存状態はよい、頭蓋底部はやや失われているがほぼ完全な頭蓋骨、顔面は平坦、乳様突起は小さく女性的、下顎体は厚い、頭蓋の縫合は明瞭、歯は上顎に14本、下顎に14本が残る、M3は未萌出、咬耗はさほど進んでいない、上腕骨は太くない、橈骨近位端未化骨、寛骨の大坐骨切痕はほぼ直角で女性的、妊娠痕あり、樋状腓骨、脛骨からの推定身長は約138㎝
【SK1226-2】7歳前後、性不明、子供にしては保存がよい、混合歯列、M1は萌出しているがM2は歯槽骨内にある、エナメル質減形成あり、大腿骨骨幹長は200㎜ほど、椎骨では椎体と椎弓が癒合していない(報告の訂正;咬合→部分)
【SK1226-3】保存は悪い、乳歯列、乳歯が10本が残る、3歳程度、性不明、この墓壙には2体の幼児が埋葬されていたことになる
【SK1598】土坑墓か、1歳以内の乳児、性不明、歯と右側頭骨錐体部が出土している、乳歯列、乳歯に咬耗はほとんどない
【SK1687】平安時代の土坑墓、屈葬、3～4歳程度、性不明、保存は悪くないが幼いので頭蓋はバラバラ、乳歯列、永久歯の上中切歯歯冠は半分ほどが石灰化している
【SK1769】平安時代の土坑墓、屈葬、老齢、性不明、保存は悪い、頭蓋冠の一部、四肢骨片が残る、歯は上顎2本、下顎3本が残る、上M2の歯根にセメントの沈着があるので咬合歯が生前脱落、扁平大腿骨である
【VU11】遺構外検出面グリッド取り上げ、6歳前後、女性か、歯と下顎骨片が残る、乳歯列、形成中の歯は小さいので女性と判断
【Z-1】遺構外検出面地点不明、年齢不明・性不明、頭蓋骨では左側頭骨錐体、四肢骨では大腿骨骨幹や脛骨の一部が残る、扁平大腿骨

【中世】全体で出土人骨は89例
【土葬墓】土坑墓、23基、SK1032(伸展葬)除きすべて屈葬、
【発掘所見】報告書によれば、平坦部に構築された中世以降の墓は「26基」※、土葬墓23基が主体で、火葬墓5基と火葬施設1基もあるとされる。※28基の誤りか。遺跡内で散在してはいるが、いくつかのグループに分かれ、とくに道路状遺構SD1168(SD1019)とSD1151が直交する「辻」部分に集中する(SD1019の北:SK1011～1016、1027、1160、1227、1228の10基、SD1168と1151の間:SK1543、1544、1551、1552、1561、1944の6基)、こうした状況を勘案すると辻や道路に沿った位置に埋葬される例があることがわかる、これらの墓には目立った副葬品がなく、木棺墓や火葬墓が含まれな

い、また、動物埋葬施設がある、SK1551 はウマの土坑墓、いわゆる溝（本遺跡でも SD1019 から人骨出土）から出土する人骨・動物骨を解釈する参考になる
【SD1019】溝状遺構、年齢不明・性不明、400g ほどの焼骨、頭蓋骨（左右側頭骨錐体）、四肢骨片などごく少量
【SK55 発掘所見】土坑墓、屈葬、上面に巨礫（墓標か）、遺存状況悪いためか、形質的所見なし
【SK67 発掘所見】土坑墓、屈葬、頭位は北か、遺存状況悪いためか、形質的所見なし
【SK0523】土坑、年齢不明・性不明、歯が 1 本、下右 C、新しい時代の印象、【発掘所見】墓一覧になし、
【SK0553】土坑墓、屈葬、頭位は北東、顔は西向き、成人・女性、主に頭蓋冠が残る、頭蓋冠の骨は薄い、顔面は破損、乳様突起は小さい、下顎骨はきゃしゃ、歯は 10 本が出土、咬耗は軽度、上腕骨はほぼ完形、細くきゃしゃ、大腿骨は細い、粗線はほとんど発達せず、大腿骨からの推定身長は約 144 ㎝
【SK0555】青年・女性、保存状態は悪い、顔面は平坦、縫合は明瞭、下顎骨はきゃしゃで角前切痕がある、歯は上顎4本、下顎は13本が残る、咬耗は軽度、エナメル質減形成あり、上腕骨はほ側直線的、大腿骨は細い、殿筋隆起は発達する、じょせいとしてもきゃしゃ。【発掘所見】上面に巨礫（墓標か）
【SK1008】土坑墓、屈葬、頭位は北、西向き、成人・女性、保存良好、頭蓋骨も原形を保つ、顔面は平坦、長頭、縫合は鋸歯状が明瞭、歯は上顎が 14 本、下顎は 18 本残るが下左右 M1 は歯根のみ、四肢骨の保存もよい、【発掘所見】集石被覆
【SK1011A】土坑墓、屈葬、頭位は北西、顔は南向き、成人・男性　四肢骨だけが残る、上腕骨は頑丈で三角筋粗面は発達する、大腿骨も太いが粗線は発達していない、【発掘所見】土坑墓 SK1011A と B が重複（切り合い）
【SK1011B】土坑墓、屈葬、頭位は北西、顔は南向き、年齢不明・性不明、保存は悪い、わずかな四肢骨片のみ
【SK1012】土坑墓、屈葬、頭位は北西、3 歳前後・女性、保存状態は悪い、頭蓋はほとんど残らず、歯は乳歯列、上顎中切歯はシャベル型、歯は非常に小さい、【発掘所見】石で囲まれていた、
【SK1013】土坑墓、屈葬、頭位は北西、顔は南向き、成人（さほど若くない）・男性、頭蓋骨と四肢骨が残る、頭蓋骨は取り上げ不能、眉弓はさほど発達していない、下顎骨は頑丈、下顎枝は広く低い、歯は上・下顎で11本が残る、咬耗顕著、エナメル質減形成がある，上腕骨は太い、大腿骨も太く骨は厚い、粗線は発達し柱状大腿骨、上部は扁平、男性、さほど若くはない【発掘所見】上面に巨礫（墓標か）
【SK1014-1】土坑墓（改葬墓）、比較的高齢・女性、頭蓋骨と椎骨、および四肢骨の一部が残る、頭蓋骨は頭蓋冠の破片で、厚さは普通、外後頭隆起は発達していない、下顎は前方部が残る、大臼歯の歯槽はすべて閉鎖し、他でも歯槽の吸収が顕著、腰椎体にリッピングがある、上腕骨は細い、大腿骨も太くない、距骨に蹲踞面がある、寛骨に妊娠痕と思われるものがある、比較的高齢な女性、【発掘所見】四肢骨で方形またはコ字状の区画を作り、頭蓋骨やその他の骨を区画内に配置する。二体出土、こちらの個体には、副葬品なし
【SK1014-2】土坑墓、幼児（3 歳前後）・性別不明、頭蓋骨片、四肢骨片が残る、頭蓋では側頭骨の錐体が残る、歯は乳歯列である、3歳前後で乳臼歯に齲蝕がある、性別は不明、【発掘所見】銭貨（開元通寶）と青磁龍泉窯系（Ⅲ4 類、13C 後半から 14C 前半）が伴う
【SK1015】土坑墓、幼児（2歳前後）・性別不明。保存は悪い、頭蓋骨と歯が残る、頭蓋冠の骨は薄い、乳歯列である、3歳前後、性別不明、【発掘所見】副葬品に銭貨（祥符通寶模鋳銭か、天禧通寶など）3 枚が重なっていた、明銭なく、室町時代以前の可能性が高い、土坑墓 SK1014 と似た年代か
【SK1016】土坑墓、詳細不明、保存は悪い、頭蓋骨片と歯が残り、四肢骨はない、頭蓋骨は観察不能、乳歯列である、M1 は形成途中、上 I1 と I2 は顕著なシャベル型、2歳前後、性別不明、【発掘所見】SK1015 と同じ土坑の南側の部分か
【SK1027】火葬施設、全量が 105g ほどの焼骨、頭蓋骨と四肢骨の細片，詳細不明、【発掘所見】集石に覆われていた、底面に溝状の掘り込み（焼骨を掻き出す溝）はない
【SK1031】土坑墓（火葬か）、2体分が混在、成人（高齢）、性別不明。全量が820g ほどの焼骨、頭蓋骨が比較的残る、下顎骨はほぼ全体が確認できる、上顎骨は前方部が残る，抜歯はない、下顎は右の下顎体後部が2個残る、2体が混在していると思われる、1 方はM3を除き大臼歯が生前に脱落、もう一方はM

2付近の歯槽が退縮、どちらも比較的高齢で下顎体は厚くない、大腿骨の粗線は発達する、【発掘所見】馬も埋葬されていたが、土葬
【SK1032】土坑墓、伸展葬、頭位は北東、少年（15 歳前後）・性別不明。歯の植立した上顎骨、側頭骨、後頭骨などが残る、乳様突起は大きくない、頭蓋の縫合は鋸歯状が明瞭、若い個体、M3は未萌出、M2の咬耗もごくわずか、15歳前後、上顎I1とI2は顕著なシャベル型、エナメル質減形成がある、寛骨の大坐骨切痕は直角に近く女性的、大腿骨や脛骨は骨端が未化骨、四肢骨の化骨状態では15歳より若い，全体で考えると15歳前後の女性、【発掘所見】鉄鏃 1（腰の部分）、銭貨（熙寧元寶）1、空風輪 2（1 点は遺骸の東隣、もう 1 点は土坑の西南端（墓標か）が伴う
【SK1037】土坑墓、屈葬、集石被覆、人骨は遺存状態が悪いのか、形質的所見はない
【SK1049】土坑墓、屈葬、頭位は南西、顔は南向き、成人（高齢）・性別不明。保存状態はよい，頭蓋骨、歯、四肢骨の一部が残る、頭蓋冠を中心に残る、下顎の右では歯は脱落している、歯は上下合わせて4本が残るだけ、咬耗はやや進む【発掘所見】遺体は敷石上
【SK1118】膝蓋骨や指骨が残るだけである、【発掘所見】土坑（穴）から人骨が出土しているが、墓穴とは認定されていない、詳細不明
【SK1160】土坑墓、土坑内に 2 体埋葬されていた
　【SK1160-1】保存は悪い、頭蓋は保存が悪く観察できない、鎖骨は細くきゃしゃ、上腕骨の太さは普通で三角筋粗面も普通、上腕骨からの推定身長は約144㎝、脛骨は扁平脛骨、距骨に蹲踞面がある、椎骨体に軽度なリッピングがある、成人でさほど若くない女性、
　【SK1160-2】屈葬、頭位は北西、顔は西向き、保存は非常によい、ほぼ全身が出土しているが、右大腿骨が2本ある、頭蓋骨では乳様突起は小さい、外後頭隆起も発達していない、大坐骨切痕は直角に近く女性的、大腿骨は細い，殿筋隆起は発達する、長い方の大腿骨（推定身長約 161 ㎝）が混入したものであろう、尺骨や脛骨からの推定身長は148㎝前後、成人のやや大柄な女性、
【SK1221】若い個体の頭蓋骨片が2点残るだけである、【発掘所見】土坑（穴）から人骨が出土しているが、墓穴とは認定されていない、詳細不明
【SK1227】土坑墓、屈葬か、四肢骨の細片が残るのみである、詳細不明
【SK1228】土坑墓、屈葬か、若い個体の頭蓋骨や四肢骨、体幹骨の一部が残る、大腿骨の骨幹があるが幼児程度で、椎骨は椎弓と椎体がまだ癒合していない、【発掘所見】遺体の上に巨礫がのる
【SK1515】土坑墓、歯だけが出土している、乳歯列である、dm1に咬耗がな区、歯根も形成されていないので生後 9 ヶ月程度の乳児、性別不明、【発掘所見】石囲い、遺体の上に巨礫がのる
【SK1525】土坑墓、屈葬、頭位は北西、顔は西向き、保存は悪い，頭蓋骨、四肢骨が残る，頭蓋骨は土圧で圧平されている、頭頂から顔面に欠けてが失われている、頭蓋の縫合はほとんど癒合しているので高齢であろう、乳様突起はやや大きめ、下顎骨は頑丈だが、筋突起は細い、歯は7本が残る、上顎切歯はシャベル型、齲蝕がある、下顎大臼歯は左M3以外、すべて生前に脱落している、残っている歯の咬耗は顕著、第2頚椎の歯突起に骨増殖がある、寛骨の大坐骨切痕は直角に近い、大腿骨は細く前後に扁平、超扁平大腿骨である、熟年女性、【発掘所見】集石で覆われていた、隣接してイヌ埋葬施設 SK1537 がある
【SK1543】土坑墓、屈葬、頭位は北西、顔は南向き、壮年～熟年・男性、保存はよい，頭蓋骨・四肢骨が残る、顔面は破損している、頭蓋冠は大きい、眉弓が発達する、乳様突起は大きい、外後頭隆起は発達する、下顎骨は頑丈，軽度の角前切痕がある、歯では右下顎大臼歯はM1，M2が生前脱落、M3橋痕のみが残る、切歯部の咬耗もかなり進んでいる、上腕骨は太く頑丈、大腿骨はさほど太くない、壮年から熟年程度の男性
【SK1544】土坑墓、2 体が一緒に埋葬されていた
　【SK1544-1】屈葬、頭位は北西、顔は南向き、壮年・性別不明、保存状態は比較的よい、頭蓋のかなりの部分が残る、眉弓は発達せず，乳様突起の大きさは普通、下顎骨は頑丈で厚い，軽度の角前切痕、下顎角部が張り出す、頭蓋の縫合は内板が癒合せず，さほど高齢ではない、歯の保存は悪い，上右切歯部が破損するが，上右 M3 以外は残る，下顎は、左 M3 以外は残る、咬耗は進んでいる，上 I1 は軽度のシャベル型、歯は大きい、上腕骨は細い，大腿骨の粗線はよく発達する，殿筋隆起は目立たない、壮年、性別不明

【SK1544-2】、熟年・男性、保存のよい頭蓋骨である、眉弓は発達、乳様突起は大きい，頭蓋冠の骨は厚い，下顎骨は大きく頑丈，軽度の角前切痕、縫合は閉鎖しており比較的高齢、歯は上は M2 までがある、下も M2 までで M3 の歯槽は閉鎖、咬耗は進んでいる
【SK1561】土坑墓、屈葬、頭位は北西、顔は西向き、熟年・女性か、乳様突起の大きさは普通、頭蓋冠の骨は薄い，顎関節が外側方拡大している，下顎骨は歯槽が吸収されている、下顎骨の筋突起は高くないが厚い，比較的高齢、歯は下右 P1 が残る，齲蝕あり、鎖骨は細め、上腕骨の三角筋粗面はやや発達、大腿骨の粗線は低い，殿筋隆起はやや発達、上部は超扁平，大腿骨からの推定身長は女性として約 148 ㎝～150 ㎝（報告では 163.7～164.8 となっているが間違い）
【SK1658】土坑墓、詳細不明、四肢骨が 10 点ほど残る、上腕骨は細い，子供ではない、【発掘所見】鉄釘が共伴、木棺葬と思われる
【SK1693】火葬施設、詳細不明、指骨（中節骨）の断片が残る、【発掘所見】底部に焼人骨を掻き出すためと思われる溝状の掘り込みを伴う、とくに溝が短軸方向に突出するタイプ

【河川址右岸平坦部】中世火葬墓 5 基（SK2111～2115）、火葬施設 1 基（SK2106）周辺から唐津碗（肥前Ⅰ期、1580～1600 年出土）、【発掘所見】SK2111、2113、2114 は墓壙内の狭い範囲に焼骨が集中するもの、有機質の火葬容器が想定される、SK2112、2115 は、墓壙内に広く焼骨が散在するタイプで、直接墓壙内に埋納されたものと想定される、
【SK2106】火葬施設、詳細不明、62g ほどの生骨、主に頭蓋骨片、【発掘所見】底部に短軸方向に張り出す溝状の掘り込みを有するもので、中世の定型的なタイプ、銭貨 6（永楽通寶 1、判読不明 5）、鉄釘が共伴、室町時代後半か、火葬施設を取り囲むピット（火葬施設の屋根懸け建物に伴う小柱穴か）から唐津碗（肥前Ⅰ期、1580～1600 年出土）しており、時期は整合的である
【SK2113】火葬墓、詳細不明、570g ほどの生骨、頭蓋骨片は少ない
【SK2114】火葬墓、詳細不明、わずかな焼骨片

【山麓斜面部】A～J テラス、火葬墓 73 基、A テラス山麓斜面部の最下段、D テラス中段、U テラス下段、C・H・J でも火葬墓、火葬施設が検出されている
【D テラス】火葬墓 23 基、SK 番号を付したものは、テラス造成時の掘り方とされるので、厳密に言えば埋葬施設（墓）ではないので火葬墓には含まれていない、火葬墓は、いずれも限定された狭い範囲内に火葬骨が充満するので、有機質の容器に埋納か（SM5013 だけ方形なので、箱、それ以外は円形なので曲物か）、東西二群に大別される
【SK5008】土坑、詳細不明、20g ほどの焼骨、頭蓋骨片が主だが細片
【SK5071】土坑、詳細不明、1055g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨があるが細片
【SK5098】土坑、詳細不明、150g ほどの焼骨、頭蓋骨数点と四肢骨、側頭骨錐体片、上顎骨片、頭蓋冠などがある，四肢骨は膝蓋骨や大腿骨片があるがそれ以外におもな四肢骨はない、火葬の取り残しの可能性がある
【SM5001】火葬墓、
【SM5001-2】成人・性別不明、中世の火葬墓、453g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨片、外後頭隆起が発達する，乳様突起の大きさは普通、頭蓋冠の骨は厚い，大腿骨の粗線は発達する
【SM5001-3】詳細不明、248g ほどの焼骨、主に四肢骨片
【SM5012】火葬墓、若い個体・不明、1069g ほどの焼骨、側頭骨錐体が含まれる，指骨では骨端が癒合していないものがあるので比較的若い個体、
【SM5013】火葬墓、詳細不明、1744g ほどの焼骨、頭蓋や四肢があるが頭蓋骨が少なめ、外後頭隆起は発達していない、ほぼ 1 体分だろう、【発掘所見】焼骨の平面形が方形を呈していたので、蔵骨容器は木製の箱か、西群の中心に位置する、五輪塔空風輪、水輪、地輪が出土している、墓群形成の基礎となり、五輪塔というステータスシンボルである墓標を伴っているので、西群集団の祖の墓か、
【SM5014】火葬墓、若い個体・性別不明、1095g ほどの焼骨、頭蓋骨片は非常に薄い，縫合は鋸歯状が明瞭、若い個体、下顎右前方部は歯槽がすべて残る、
【SM5017,5015】火葬墓、2 体の混在、成人・性別不明、1495g ほどの焼骨、頭蓋では後頭骨、側頭骨錐体、下顎窩がある、左錐体部が 2 つあるので 2 体以上の混在、大腿骨後面の粗線はよく発達、下顎の犬歯までの近心の歯に抜歯はない、成人

【SM5019】火葬墓、成人・性別不明、頭蓋骨と四肢骨、頭蓋骨は比較的多く，頬骨など顔面骨もある，上顎と下顎の M3 の歯根がある，成人、頭蓋冠の骨は薄い、四肢骨は細片化
【SM5024,5025,5026】火葬墓、20 歳前の少年・性別不明、1829g ほどの焼骨、頭蓋骨片が多い，外後頭隆起は発達する，おとがい結節も発達、縫合の鋸歯状が明瞭で若い個体、大腿骨近位は骨端と癒合していない、20 歳前、下左 M3 未萌出、前歯部に抜歯はない、上腕骨遠位骨幹片などがあるが詳細は不明
【SM5027】火葬墓、成人・男性、1110g ほどの焼骨、頭蓋骨片の他中手骨、指骨、等も残る、下顎骨は左右の犬歯から前が残る，抜歯はない、下顎骨体は薄い、M3 の歯根はある，成人、大腿骨の骨は非常に厚く，粗線も発達する，男性的、黒化する部分もある、【発掘所見】原位置を維持していると思われる五輪塔地輪が上部から出土、D テラスの東群の火葬墓で五輪塔を伴っているのは、SM5027 だけなので、SM5013 が西群集団の祖とすれば、東群集団の祖か、
【SM5029】火葬墓、詳細不明、40g ほどの焼骨、四肢骨の細片である

【U テラス】火葬墓 37 基、斜面部の中心的墓群、3 次にわたって利用（整地）、斜面部最大かつ最長利用、人骨の形質的観察記述にかけるが SM5044 は、焼骨が方形を呈しており、箱状容器に埋納されていたと想定され、D テラス SM5013 同様のこの集団の祖あるいは中心的人物の墓か、それ以外は、円形を呈していた、墓の数が多く、利用期間の長さに比例するのか、伴う五輪塔の数も空風輪3、火輪2、水輪2、地輪2と多い、とくに本遺跡最大の火輪、水輪・空風輪や宝篋印塔が出土していることも、このテラスに埋葬された松原遺跡を形成した集団の中で、中心的な位置を占めていたことを示唆
【SM5030】火葬墓、詳細不明、65g ほどの焼骨、ほとんどが四肢骨片
【SM5031】火葬墓、詳細不明、486g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨がある，頭蓋骨が全量の約1/3，頬骨や上顎骨が残る，上顎は M2 の歯槽までがある，頭蓋冠の骨は薄い、
【SM5032】火葬墓、若い個体、女性か、592g ほどの焼骨、頭蓋では側頭骨錐体、乳様突起部、下顎枝などが残る、乳様突起は大きくない，頭蓋冠の骨は薄い、乳様突起は大きくない、下顎骨の筋突起は長いが筋稜は発達していない，頭蓋の縫合は鋸歯状が明瞭、若い個体、大腿骨の粗線はやや発達、頭蓋冠の骨は薄い、全体では女性的
【SM5033】火葬墓、詳細不明、28g ほどの焼骨、四肢骨片である
【SM5034】火葬墓、年齢不明、女性か、490g ほどの焼骨、頭蓋骨と四肢骨だが頭蓋骨は少ない、頭蓋では側頭骨の錐体や後頭骨などがある，頭蓋冠の骨は薄い，下顎体はきゃしゃ、大腿骨の粗線は発達していない，女性的
【SM5035】火葬墓、年齢不明・男性か、1539g ほどの焼骨、頭蓋骨片が比較的多い，頭蓋では上顎切歯部、乳様突起部、側頭骨錐体、下顎骨の正中部などが残る、筋突起は大きくなく薄い，大腿骨頭は大きく，全体では男性の可能性が高い
【SM5036】火葬墓、詳細不明、571g ほどの焼骨、頭蓋骨では後頭骨の外後頭隆起部がありやや発達している，四肢骨では骨盤の一部などがある、
【SM5037】詳細不明、316g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨片は細片である
【SM5038】火葬墓、
【SM5039】火葬墓、成人・性別不明、400g ほどの焼骨、大腿骨の粗線はよく発達する，成人、頭蓋では狭骨突起や頭蓋冠の破片がある、
【SM5040】火葬墓、詳細不明、901g ほどの焼骨、頭蓋骨片が比較的多い，右側頭骨錐体部、内後頭隆起部、下顎骨正中部などがある，頭蓋の縫合は鋸歯状が明瞭である，比較的若い個体か、
【SM5041】火葬墓、比較的若い個体（少年）・性別不明、670g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨がある、大腿骨の粗線はよく発達する，上腕骨や大腿骨の骨端は未化骨、比較的若い個体
【SM5042】火葬墓、比較的若い個体・性別不明、682g ほどの焼骨、頭蓋骨片と四肢骨片である、頭蓋冠、左側頭骨錐体、前頭骨などがある，眉弓は発達していない，頭蓋冠の骨は薄い，若い個体か女性
【SM5043】火葬墓、詳細不明、128g ほどの焼骨、頭蓋骨片と四肢骨片、側頭骨下顎窩、錐体部、下顎骨前方部や頭蓋冠片がある、おとがい結節は比較的発達する
【SM5046】火葬墓、詳細不明、100g ほどの焼骨、主に四肢骨片、
【SM5051】火葬墓、詳細不明、155g ほどの焼骨、

【SM5053】火葬墓、詳細不明、789g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨だが細片化、側頭骨錐体部、肩甲骨の肩甲棘部などがある、
【SM5055】火葬墓、少年（10 歳代前半）・性別不明、2107g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨片である、側頭骨錐体、頭蓋冠などである、頭蓋冠の骨は薄い，縫合の鋸歯状は明瞭、若い個体、歯冠が 2 個（下右 P2,下左 M3)が残る、M3 は咬耗していない、P2 の咬耗も軽度、10 歳代前半，大腿骨の粗線は発達していない
【SM5056】火葬墓、若くはない、性別不明、833g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨片で頭蓋骨片が少ない、大腿骨上部は扁平，一部に骨増殖のような加齢変化がある、若い個体ではない
【SM5057】火葬墓、成人・性別不明、799g ほどの焼骨、頭蓋骨では後頭骨鱗部、側頭骨錐体、上顎骨、下顎骨などが残る，外後頭隆起は発達していない，上右 M3 の歯槽がある，成人、下顎のオトガイ部は比較的発達、距骨に蹲踞面がある、
【SM5059】火葬墓、成人・性別不明、440g ほどの焼骨、下顎骨の左 M3 の歯槽は浅い、M2 歯槽も退縮する，歯槽膿漏か、成人、下顎骨の筋突起は小さく薄い
【SM5060】火葬墓、詳細不明、910g ほどの焼骨、頭蓋骨の量はやや少なめ、小臼歯より近心の歯槽がある，抜歯はない，四肢では上腕骨骨頭がある
【SM5061】火葬墓、成人・性別不明、1005g ほどの焼骨、頭蓋骨の縫合は鋸歯状が明瞭、下顎骨に大臼歯の歯槽がある，成人、下顎骨の筋突起は厚い、大腿骨の粗線はあまり発達せず、骨は薄い、
【SM5062】火葬墓、詳細不明、793g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨があるがおもな部分ではない、火葬後の取り残しか、
【SM5063】火葬墓、成人・女性、1135g ほどの焼骨、成人 1 体分（女性の場合）の火葬骨の半分ほどの量、前頭骨、側頭骨錐体などがある，四肢では上腕骨片、橈骨片、距骨などがある，上腕骨は細い，妊娠痕と思われる耳状面傍溝がある、
【SM5064】火葬墓、成人・男性、1669g ほどの焼骨、頭蓋では左頬骨、頭蓋冠の破片、下顎骨などがある，下顎骨には左に 3 本の大臼歯の歯槽がある、成人、切歯部に抜歯はない、大腿骨は頑丈で，粗線は発達する，骨も厚い、
【SM5065】火葬墓、詳細不明、63g ほどの焼骨、
【SM5066】火葬墓、詳細不明、123g ほどの焼骨、細片

【その他のテラス】C・H・J テラスで火葬墓が検出、C は斜面部下段、H は最上段、J は上段に位置
【SM5067】J テラス火葬墓、成人・性別不明、430g ほどの焼骨、頭蓋冠の骨は厚い，縫合は単純化している，さほど若い個体ではない（成人）、上腕骨遠位部等が残る
【SM5068】J テラス火葬墓、詳細不明、1351g ほどの焼骨、側頭骨錐体や下顎窩がある、頭蓋冠の骨薄い
【SM5070】C テラス火葬墓、詳細不明、425g ほどの焼骨、頭蓋のごく一部と四肢骨片、左側頭骨錐体ある
【SK5071】J テラス火葬施設、詳細不明、100g ほどの焼骨、上顎骨や側頭骨錐体がある、右上顎骨の M1、M2 の歯槽はあるが M3 の歯槽はない、【発掘所見】当初 SM5071 であったが、報告書で SK に変更したものと思われる
【SK5072】H テラス火葬施設、詳細不明、19g ほどの焼骨、外後頭隆起はやや発達する、【発掘所見】当初 SM5072 であったが、報告書で SK に変更したものと思われる、底部に溝状の掘り込みが見られる、隣接して火葬施設 SK5074 がある
【SK5073】C テラス火葬施設、詳細不明、16g ほどの焼骨、下顎骨体の一部、右下顎枝がある,筋突起は大きくなく薄い、【発掘所見】当初 SM5073 であったが、報告書で SK に変更したものと思われる
【SM5077】C テラス火葬墓、成人・性別不明、171g ほどの焼骨、半分ほどが頭蓋骨、頭蓋の縫合は鋸歯状が明瞭、さほど高齢ではない
【SM5078】火葬墓、詳細不明、1580g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨片である、頭蓋では左右の側頭骨錐体、頭蓋冠、上顎骨などがある,上顎骨では M2 の歯槽までが確認できる、M3 は不明、焼かれていない歯が混入している、
【SM5079】火葬墓、詳細不明、10g ほどの焼骨、
【SM5080】火葬墓、詳細不明、104g ほどの焼骨、頭蓋骨や四肢骨があるが細片

【ⅧU2】詳細不明、95g ほどの焼骨、少量の頭蓋骨と四肢骨片である、
【ⅧU18】詳細不明、453g ほどの焼骨
【A テラス】造墓時期は、14～17C だが、整地が 19C に行われている
【A テラス石垣】詳細不明、150g ほどの焼骨、四肢骨が主、
【D テラスⅠ層中】詳細不明、307g ほどの焼骨、四肢骨が主、大腿骨の粗線は非常によく発達する、

【近世以降】
【SK1692】土坑墓か、発掘所見なし、若い個体・性別不明、小さな破片のみ、骨端が未化骨の小さな四肢骨がある,若い個体

20	宮遺跡	みや	縄文後期	西沢寿晃他	1993	長野市

保存は良い、抜歯あり（上下左右のC、上右I2:2C型）。

【第 1 号墳墓】石棺墓（組合式箱形）、2 体の人骨が出土、報告書では抜歯があることから晩期とするが、後期の土器片が共伴している
【第1号人骨】壮年・男性、頭蓋骨，椎骨、鎖骨などが出土した，それ以外の部位はない、顔面が残る、左右側頭骨は岩様部を残すのみである、乳様突起は中等度である、上顎骨はほぼ完形、弱い口蓋隆起がある、下顎骨では下顎体は厚く全体に頑丈、下顎角はやや外反、下顎底は直線状、下顎枝高が大きい、下顎切痕は浅い、抜歯がある（上下顎両側犬歯の抜歯）、歯は上下顎の C 及び上右 I2 を欠く、これに伴い上右I1、左I1、I2，下左右I1、I2 に特異な磨耗が見られる、
【第 2 号人骨】成人（1 号より若い）・男性、頭蓋と頚椎の一部を残すのみである、保存状態は悪く顔面部はない、頭蓋冠は残る、眉弓はやや発達する、下顎骨は頑丈、下顎歯が4本（下右M2、M3，左M1、M2）が残るが咬耗はない、若い個体であろう、

21	宮崎遺跡	みやざき	縄文後晩期	西沢寿晃	1988c	長野市

保存は悪い、低顔広顔で、立体的な顔貌、抜歯あり（上顎左右 C、下顎左右 C、P1）、柱状大腿骨。

【土壙墓と石棺墓】土坑墓（原報告では土壙墓）11 基と石棺墓 8 基あり、遺構に明確にともなう土器は少なく、各遺構の時期決定は難しいが、後期から晩期のものと考えられている。

【1 号土壙墓】土坑墓、壮年女性、保存は悪い、伸展葬、頭位は南東、頭蓋冠が残る、外後頭隆起は発達、四肢骨は比較的残っている、大坐骨切痕は広い、大腿骨粗面は発達せずきゃしゃ、【発掘所見】N143°E、筒形土器や鹿骨・骨角器（副葬品か）が共伴
【2 号土壙墓】土坑墓、壮年男性、頭位は北東、頭部のみ残存、下顎体は厚く頑丈、【発掘所見】N-40°-E
【3 号土壙墓】土坑墓、壮年女性、伸展葬、頭位は東、保存悪い、頭部と下半身が残る、大坐骨切痕は浅く広い、大腿骨はほぼ残る、柱状大腿骨、【発掘所見】N-92°-E、抱石、鹿骨共伴、3 号から 6 号は重複する（3 号が最も古く、以下 4、5、6 号の順）
【4 号土壙墓】土坑墓、壮年・熟年、性不明、頭位は東か、頭部のみが残る、外後頭隆起はごく小さい、下顎は大臼歯部のみで歯は 3 本のみ、咬耗顕著、【発掘所見】頭位は N100°E か、
【5 号土壙墓】土坑墓、壮年ないし熟年男性、頭位は南東、保存悪い、葬位不明、頭部と下半身が残る、顔面はない、下顎骨はほぼ完形、上 C、下 C、P1 の抜歯あり、大腿骨はやや柱状、【発掘所見】N127 °E、魚骨（サメ椎骨か）製赤彩耳飾
【6 号土壙墓】土坑墓、6・7 歳、性不明、頭位は南東、保存悪い、頭部のみ残存、混合歯列、【発掘所見】N127 °E
【7 号土壙墓】土坑墓、年齢不明・性不明、頭位は北東、保存悪い、頭部のみ残存するも細片化、【発掘所見】N32 °E
【8 号土壙墓】土坑墓、壮年男性、頭部と上半身が残る、伸展葬、頭位は南西、土圧で変形している、ほぼ全歯種の歯槽がある、上腕骨は骨幹のみ残り太く頑丈、【発掘所見】N210°E、シカ骨が共伴
【9 号土壙墓】土坑墓、年齢不明・性不明、下肢骨のみ、伸展葬、頭位は南東か、大腿骨の柱状性は弱い、【発掘所見】N164°E、鹿骨が共伴
【10 号土壙墓】土坑墓、年齢不明・性不明、小児の大腿骨らしいが詳細不明
【11 号土壙墓】土坑墓、年齢不明・男性、伸展葬、頭位は南西、保存は悪い、外後頭隆起は突出する、歯は 5 本が出土、磨耗が進んでいる、大腿骨の残りはよく長く頑丈、柱状大腿骨、扁平脛骨、頑丈な樋状腓骨、高身長、【発掘所見】N116°E

【3 号埋甕下】成人だが若い、性不明、下顎の歯列のみが残る、骨は残っていない、M3 萌出、全体の咬耗は軽度、【発掘所見】再葬墓か、埋甕は晩期末の深鉢形土器
【3 号石棺墓】年齢不明・性不明、石棺上方にわずかな頭蓋骨片、【発掘所見】頭蓋骨脇から耳栓（土製耳飾）が出土している、後期の土器が出土
【8 号石棺墓】男性ともう一個体、詳細不明、2 個体分、保存は悪い、頭蓋骨は細片化、四肢骨も部分的に残るのみ、頑丈な個体ときゃしゃな個体、撹乱されているらしい、【発掘所見】後期の土器が出土
【8 号トレンチ】女性（年齢不明）、小児骨（年齢不明・性不明）、動物骨に混在して出土、それぞれの骨の帰属不明、頭蓋は細片 1 点、指骨、大坐骨切痕は浅く広い、大腿骨は細い、小児人骨の大腿骨骨幹片

21	宮崎遺跡	みやざき	縄文後晩期	藤澤珠織他	2003	長野市

1994 年度から立命館大学による 6 次の調査で少なくとも 3 体分以上の人骨が出土している。
1999 年度調査で出土、保存は良い、生後 6～9 ヶ月の乳児、大泉門が残る、歯の残りは良い
【7 号石棺墓】生後 6～9 ヶ月、保存はよい、頭蓋は土圧でつぶれている、大泉門が残る，前頭縫合も残る、上顎骨の残りはよい、乳歯が下顎では左dp2 以外の全て，上顎では第 1 乳臼歯までが植立して出土している、上下顎の右のdp2 は失われている。体肢骨の骨幹部の残りはよいが両端が残るものはない、
【発掘所見】シカの距骨（副葬品か）が共伴、ともに構築された SX06 と関係から晩期と想定されている
【集石遺構 SX06】少なくとも 2 体分の部分骨が出土、晩期大洞 C2 式並行の土器が共伴、

22	村東山手遺跡	むらひがしやまて	縄文、 古墳～奈良	茂原信生	1999e	県歴史館

保存は悪い、縄文時代（後期）4 体、古墳時代後期～奈良時代 3 体、不明 2。
【縄文時代】
【SB06】竪穴住居跡、年齢不明・性不明、下顎大臼歯歯冠 2 本が残る、咬耗は軽度、【発掘所見】敷石住居跡、縄文時代後期前葉（堀之内式）、出土状況不明のため家屋墓かどうか疑問、ﾋｽｲ垂飾が共伴するも、副葬品かどうかも不明
【SB09】竪穴住居跡、熟年男性、屈葬、保存は悪い、頭蓋と下肢骨の一部が残る、顔面は消失、乳様突起は大きい、下顎骨には下顎隆起あり、下顎歯は 7 本、咬耗は進んでいる、大腿骨はさほど頑丈ではない、【発掘所見】廃屋墓か、敷石住居跡炉の北東精査中人骨出土、頭位は南東、仰臥屈葬で膝を曲げ、顔は東向き、人骨の下には概ね敷石はない、頭骨の東側に大形の土器片が数点まとまって出土、人骨に殆ど接して立てられているものや、頭を土器片で覆うなどは、埋葬に伴って残されたか足先から 40cm 北西の敷石上に大形破片（加曽利 B1 式）が出土、人骨出土レベルが敷石上面とほぼ同じで、敷石が抜き取られていること、土器の接合関係などから、住居廃絶直後に敷石を片付けてから埋葬されたと調査者は想定、人骨埋葬時期：縄文時代後期中葉（加曾利 B1 式）
【SK53】土坑墓か、20 歳代青年・性不明、屈葬、下顎骨は頑丈、M3 まで萌出する、全体に咬耗は軽度、エナメル質減形成あり、大腿骨の粗線は発達していない、【発掘所見】縄文前期の土器片も伴うが、遺構の時期を特定するものではない
【SK66】石棺墓、成人・性不明、保存悪い、頭蓋と四肢の一部のみ、歯は下顎大臼歯が 2 本（M2、M3）のみ、大腿骨の粗線は発達している、【発掘所見】頭位は南、南東側の頭蓋骨は上向き、顔面部分は残存していない、頭蓋骨の北西側に骨がまとまって出土、石棺規模から、屈葬もしくは再葬か、遺物が共伴するが混入したもので、副葬品ではない、時期：縄文時代後期中葉か、石棺墓が長野盆地に出現するのが加曾利 B 式以降とする
【古墳時代後期～奈良時代】
【SM04】古墳、少なくとも成人 3 体、性不明、3 体分、保存は悪い、頭蓋の一部と歯が出土している、顔面は鼻根部と上顎骨の一部、残る歯の咬耗は顕著、全体での歯の数は 23 本で、下顎大臼歯は 15 本（最少 3 体となる）、【発掘所見】円墳、築造年代は 6 世紀前半だが、玄室からは奈良時代前半（8C 前半）の須恵器が出土、奈良時代まで追葬が行われたか、人骨がどちらの時期に伴うものかは不明
【時期不明】
【ⅡN-10 グリッド】年齢不明・性不明、下肢骨の一部が出土している、大腿骨の粗線は発達している、頑丈である

23	屋地遺跡	やち	平安か※	西沢寿晃他	1990	長野市

【墓壙】土坑墓、1 体、屈葬、下肢骨の保存はいいが他は原形を保たない、壮年男性、※平安時代竪穴住居跡を切るので、古代以降の可能性もある						
24	湯谷古墳群	ゆや	古墳	矢口忠良	1981	長野市
7 基の古墳がある、人骨が残っていたのは 1 号墳のみ						
【1 号墳】古墳、床面中央から骨粉、頭蓋骨片が出土、別の場所に大腿骨や上腕骨の集中ヶ所がある、寄せられたものであろう、形態の記載はない、【発掘所見】玄室の第 2 次床面（上層）中央から頭蓋骨粉、南西方向の第 1 次床面（下層）から大腿骨、上腕骨等の集中箇所あり、追葬の際に、まとめられたものか、6C 後半の造営、7C 代の追葬とされる						
25	四ツ屋遺跡	よつや	平安～中世	西沢寿晃	1980	長野市
【清野小学校地点】2 時期の土坑墓群（計約 40 基）が存在したようであるが、人骨の出土状況がわかるのは、SK1 のみ、中世以降の可能性のある資料も含む						
【第 1 号人骨】土壙墓 1（土坑墓 SK1）、壮年・性別不明、仰臥伸展位、残るのは頭蓋骨の一部と長骨の中央部のみ、保存はよくない、頭蓋では上下顎がよく残り、右側頭骨も原形を保つ、土圧で変形する、他に、頚椎 2 個、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨などが残る、下顎枝角は 132 度と大きく下顎枝幅は小さい、歯は 17 本が残る、咬耗はさほど進んでいない、M3 にはわずかな咬耗がある、壮年、【発掘所見】人骨右手の胸部付近より、刃先を下方に向けた刀子 1 点出土、周辺から平安時代の土師器・須恵器が出土 【第 2 号人骨】成人・性別不明、骨質はよいが残るのは頭蓋骨の一部のみ、左上顎歯槽にC，M2 が植立する、M2 の咬耗はやや進んでいる、1 号人骨よりも咬耗は進んでいる。【発掘所見】出土位置不明						
【清野保育園地点】五輪塔に隣接する形で 3 基の土壙（土坑墓）が検出、成人 2 体、幼児 1 体、とくに土壙墓 2 の東側に五輪塔の空・風輪 1 個、火輪 3 個、水輪 1 個が出土、中世か、清野保育園地点記載 pp.141-146 に清野小学校地点の 1 号人骨のことが掲載されている模様						
【2 号人骨（幼児の東側人骨）】土壙墓（土坑墓）2、熟年・女性、保存はよい、頭蓋冠はあるが眼窩下縁より頭蓋底までを欠く、頭蓋冠の骨は薄い、頭蓋の縫合は離開する、鼻根部の陥凹は浅い、乳様突起は小さい，下顎骨はきゃしゃ、下顎切痕は深い、歯の残りはよい、咬耗は軽度、大臼歯には齲蝕がある、M3 萌出、【発掘所見】頭位は北西、顔面を南に向ける横臥屈葬 【3 号人骨（幼児骨）】土壙墓（土坑墓）3、4～5 歳・性別不明、保存はよい、頭蓋は細片化するが頭蓋冠や下顎骨は残る、M1 は萌出寸前であるので 4～5 歳、【発掘所見】顔面を北側に向け、座位屈葬 【4 号人骨（幼児の西側人骨）】土壙墓（土坑墓）4、熟年・男性、ほぼ完形、保存はよい、長頭、前頭部の膨隆は中等度、眉間の発達は顕著、乳様突起は大きい、長顔、下顎骨は厚く頑丈、下顎前突、歯の残りはよい、歯は M3 まですべて萌出している、咬耗は軽度、歯石がわずかに沈着する、齲蝕はない、歯は大きい、【発掘所見】頭位は北東、顔を東に向ける横臥屈葬（報告書本文の土壙墓 3 は 4 の誤り）、						

須坂市

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	井上・幸高遺跡群	いのうえ・こうたか	中世・江戸か	茂原信生	2004	須坂市
保存状態は悪い、頭蓋は細片化、復元不可、						
【1 号人骨】1 号土壙墓（土坑墓）、壮年女性、屈葬、頭蓋骨の保存は比較的よい、四肢骨の保存は悪い、長頭、角前切痕あり、29 本の歯が出土、上顎中切歯はﾀﾞﾌﾞﾙｼｬﾍﾞﾙ型、歯槽性突顎、ｴﾅﾒﾙ質減形成あり、咬耗やや進む、全体にきゃしゃ、【発掘所見】頭位は真北、体位は側臥屈葬、両腕両足を緊縛されていた可能性がある、遺物は共伴していないが、C14 年代は 470±50 年（AMS 較正年代）、15C 後半（室町時代） 【2 号人骨】2 号土壙墓（土坑墓）、壮年男性、座棺か、歯槽性突顎、下顎体はやや厚い、切歯がクラウディング状態、M3が水平智歯、1 号人骨よりやや頑丈、新しい時代のものか、【発掘所見】560±50（AMS 較正年代）、15C 前半（室町時代）であるが、体位は座位、ほぼ円形の掘り方から座棺が想定される、人骨の下部から錫杖が出土、錫杖頭は銅製、修験者の可能性が高い、棺材と思われる木片が出土するが、AMS 年代で、BP.5000 年と著しく古く、棺材に古木利用や混入の可能性がある						
2	行人塚古墳	ぎょうにんつか	古墳後期	金井正三	1978	須坂市
保存は悪い、人骨が「複数体出ている」という記載あり、出土状況の写真のみ						
【石室】盗掘されている、詳細不明、「人骨片」と記載されているのみ、写真によれば四肢骨片である、【発掘所見】積石塚古墳（円墳）、横穴式石室内の遺物（須恵器）から 7C に埋葬され、8C 以降追葬とされる						

3	本郷大塚古墳	ほんごうおおつか	古墳後期	西沢寿晃	1992b	須坂市
保存は悪い、焼骨と生骨が混在、最少 2 個体、ウマの歯と骨が出土						
【玄室内】詳細不明、焼骨と生骨が混在する、一部を除いて細片状で量も少ない、生骨：右大腿骨体部のみである、粗線は発達していない，骨質は厚く頑丈。焼骨：玄室内に散在していた、微細な破片、頭蓋骨片は 10 個程度、頭蓋冠である、側頭骨の錐体、上顎骨の歯槽部などがある、四肢骨では上腕骨骨頭部、足根骨などが識別できる，1 個体であろう、【発掘所見】円墳、横穴式石室内より、副葬品で圭頭太刀、象嵌太刀、三輪玉、刀子、馬具等が出土、7C とされるが、追葬も想定される						

千曲市

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	円光房遺跡	えんこうぼう	縄文後晩期	西沢寿晃	1990b	千曲市
保存は悪い、14 基の配石墓址（いわゆる石を方形棺状に組む石棺墓）、生骨と焼骨が混在、形態は記載できない。【発掘所見】配石墓ととして検出されたのは 17 基、うち 14 基から骨が出土、時期は後期後半から晩期、担当者による遺構の時期は以下の通り、後期：1、2、9、11、13、15、16 号、晩期前半：3、8 号、晩期後半：4、5、6~8、12、14、17 号、詳細時期不明：10 号、共伴遺物のすべてが副葬品かは不明、また、量的に少なく遺構の時期決定は難しい、蓋石や石棺の敷石の有無などの形態差は時期差の可能性あり						
【1 号配石墓址】石棺墓、生骨と焼骨：生骨はヒトの歯のみ、歯冠部分、【発掘所見】蓋石、棺床に敷石あり、土器（後期加曾利 BⅢ式）、石鏃、掻器、楔形石器、打製石斧、磨石各 1 出土 【2 号配石墓址】石棺墓、小量の細片のみ、ヒトかどうかも不明、【発掘所見】蓋石、棺床に敷石あり、土器（後期曽谷式）、石鏃、掻器、打製石斧各 1、磨石 2 出土 【3 号配石墓址】石棺墓、埋葬位を保つも保存状態が悪く、骨粉状、大腿骨骨幹 10 ㎝ほどなど、詳細不明、【発掘所見】棺床に敷石あり、15 号の上に一部の配石を利用して構築、棺内に埋設土器（無文土器）、土器（晩期前半佐野Ⅰb式）、土製耳飾、石鏃、掻器、楔形石器各 1、両面石器 2、磨石各 2 出土 【4 号配石墓址】石棺墓、M3 の歯冠のみ、【発掘所見】棺床に敷石、棺内に埋設土器（無文土器）、土偶頭部片、楔形石器、磨石各 1、礫器 3、担当者は晩期後半とするが前半の可能性もあるか 【5 号配石墓址】石棺墓、屈葬だが、保存状態は悪く下肢骨はほとんどない、上下顎歯はｴﾅﾒﾙ質のみだが複数残る、【発掘所見】棺床に敷石なし、生骨、頭位西、抱石が胸部、上体仰臥で下肢屈葬位、無文土器、土偶脚部片、打製石斧、磨石、石剣片各 1、石剣は激しい火熱を受ける、担当者は晩期後半とするが、前半の可能性もあるか 【6 号配石墓址】石棺墓、微細な小片のみ（骨が何のものかは書いていない）、【発掘所見】棺床に敷石なし、棺外に埋設土器（無文土器）、打製石斧 1 共伴、時期は晩期後半とされるが、前半の可能性もあるか 【7 号配石墓址】石棺墓、焼骨、頭蓋骨片、四肢骨片など、ヒトが含まれているが、すべてが人骨かどうかは不明、【発掘所見】棺床に敷石、土器（晩期氷Ⅰ式、無文土器）出土 【9 号配石墓址】石棺墓、もっとも多くの焼骨が出土、詳細は不明、【発掘所見】棺床に敷石あり、土偶脚部片、石鏃、打製石斧、砥石、石棒片各 1、磨石 2 出土、 【10 号配石墓址】石棺墓、人骨だろうが、細片化して詳細不明、【発掘所見】棺床に敷石あり、共伴遺物なし 【12 号配石墓址】石棺墓、少数の細片で、ヒトかどうかは不明、【発掘所見】棺床に敷石なし、土器（晩期氷Ⅰ式）、土偶脚部、磨製石斧、石鏃、楔形石器、掻器、石棒、石剣片出土 【13 号配石墓址】石棺墓、微細な骨片で詳細不明、【発掘所見】蓋石はないが、棺域上部に礫が散在（覆石）、土器（後期加曾利 BⅢ式）、石核、磨製石斧未製品各 1、掻器 5 出土 【14 号配石墓址】石棺墓、焼骨、獣骨だろう、【発掘所見】棺床に敷石あり、棺外に底部穿孔の埋設土器（無文土器）、棺内からは楔形石器、小形土製耳飾各 2 出土 【15 号配石墓址】石棺墓、焼骨、獣骨だろう、【発掘所見】蓋石あり、棺床に敷石なし、土器、剥片出土 【17 号配石墓址】石棺墓、細片は 5 点ほど、獣骨だろう、【発掘所見】棺床に敷石あり、浅鉢（晩期氷Ⅰ式）出土						
2	大穴遺跡	おおあな	古墳※	茂原信生	1997c	県歴史館
保存は悪い、焼骨もある、全体7体が出土、（5 号墳から4体）、横穴式石室、1 号片袖型、2～6 号両袖型、※構築時期は 7C 後半～8C 前半だが、遺物から後世に追葬が行われていたことが想定						

【1 号墳】生骨、不明の細片のみ、【発掘所見】石室内から鉄鏃 3、刀子 1 出土
【3 号墳】焼骨、頭蓋骨が数点確認できる、詳細不明、【発掘所見】石室内から奈良時代の須恵器（8C 前～中葉）出土
【4 号墳】15 歳程度の少年、男性か、生骨、下顎体が出土、下顎体は厚い、歯は 9 本が残る、歯は大きい、M3は咬耗がない、【発掘所見】石室内からは須恵器片と土師器内黒（黒色土器、9C）坏出土、人骨は、石室内奥壁側左寄り敷石面上 10cm 覆土層上面にまとまった状態で出土
【5 号墳】最少4個体；成人男性 1 体、成人女性 1 体、成人の性不明2体、玄室に2つのまとまり（A，B）がある、どちらも保存状態は悪い、A；大腿骨6本他に四肢骨がある、扁平大腿骨や柱状大腿骨が含まれる、少なくとも3個体、B；1体分、後から埋葬されたと思われる、【発掘所見】石室内から須恵器、鉄鏃、刀子、とくに人骨は床面の敷石上より出土、2 箇所にまとまる、 1 箇所の左側壁側部では骨片約 26 本が積まれていた、歯骨が含まれていた
【6 号墳】詳細不明、側頭骨錐体部のみ、他は獣骨、【発掘所見】石室内から須恵器、鉄釘が出土

3	倉科将軍塚古墳	くらしなしょうぐんつか	古墳中期	茂原信生他	2003	千曲市

保存は悪い、将軍塚は頭蓋骨の右頭頂上部のみ、2号墳は埋葬後に撹乱を受けている、筋のよく発達した熟年男性、【発掘所見】墳長 83mの二段築成の前方後円墳、主体部は後円部に竪穴式石室、前方部に箱式石棺があった、ともに盗掘されていたが前方部の竪穴式石槨からは三角板革綴短甲片等が出土、5世紀前半の築造

【後円部竪穴式石室】　　保存状態は悪い、頭蓋骨片が1点のみ、詳細不明

【2 号墳】熟年・男性、撹乱を受けている、保存状態は悪い、1 個体、完形はない、主に下肢骨だが全身にわたって出土する、大坐骨切痕は男性的、柱状大腿骨、四肢骨は頑丈、身長は 159 ㎝を越えることはないだろう、【発掘所見】短甲等が出土

4・5	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡※	こうしょくじょうり・やしろ・くぼがわら	弥生～古墳	茂原信生	1998c	県歴史館

歯1点のみ、上 I2 はシャベル型切歯、高速道地点弥生～古墳編、※屋代遺跡群は窪河原遺跡を含む

【SB5124】竪穴住居跡、1 点だけ床下から出土、ヒトの上顎第 2 切歯側切歯）で大きさは近遠心径が 7.3mm、頬舌径が 6.6mm である。強いシャベル型を呈する。咬耗は軽度で切縁にも象牙質の露出はないので若い個体であろう。エナメル質減形成なく、性別不明、【発掘所見】古墳時代前期、弥生的な箱清水式系の櫛描波状文の土器（甕）が残る、一辺 5m 弱と小型、第一埋没土の形成後に炭化物を主体とする土が部分的に廃棄され、その上が別の土で埋め戻されていたことから人為的に埋められたとされる

4・5	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡	こうしょくじょうり・やしろ・くぼがわら	古代	茂原信生他	2000	県歴史館

竪穴住居跡(SB5068)と土坑(SK5023)から、歯が 1 点ずつ出土、これらの歯の形態からは時代を思わせる特徴はうかがえない。年齢の違いから少なくとも 2 個体の存在する、高速道地点古代編 1

【SB5068】竪穴住居跡、下顎左の第 2 大臼歯、頬側の一部が欠ける、頬側の咬頭がやや咬耗、少なくともこの歯が萌出する一般的な年齢であ 12 歳よりは年齢は高い、詳細不明、遠心の隣接面に隣接面摩耗がみられる、性別不明
【SK5023】土坑、咬耗のない上顎左の第 1 乳臼歯、この歯の萌出する前あるいは萌出直後の個体であり、新生児程度の年齢と考えられる、性別不明、

4・5	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡	こうしょくじょうり・やしろ・くぼがわら	古代～中世	茂原信生	2000b	県歴史館

保存は悪い、41 体が出土、更埴条里遺跡（12 体）：木棺墓と墓坑（土坑墓）、焼骨を含む、歯が主、シャベル型切歯をもつ。屋代遺跡群（13 体）：火葬骨は少ない、歯は残る、外耳道骨腫2例。窪河原遺跡群（中世 16 体）保存は良い、焼骨が多い、平坦な顔、高速道地点古代 2・中世編

【更埴条里遺跡　古代～中世】墓坑（土坑墓）の多くは、頭位は北
グリッドの時代が不明のものは除外した、中世の木棺墓や土坑墓から出土している、中世木棺墓は長野では少なく貴重、上顎 I1 が残るものはシャベル型で渡来系の影響が浸透していることがわかる

【SK8406】古代の土坑墓、成人・性別不明、保存状態は悪い、歯だけが残っている、3本、M3はやや咬耗しているので成人だろう、【発掘所見】頭位東、頭部右側、腹部左脇に各 1 点（土師器坏と椀）出土、副葬品か、時期：平安時代中期、古代 9 期、10C 前半

【SK9153】中世の火葬墓、成人・性別不明、焼骨、頭蓋骨 1 点とわずかな四肢骨片、歯は 2 本でエナメル質は脱落している、大腿骨は粗線が発達し頑丈、【発掘所見】土坑底部に焼骨が集中、共伴遺物なし、詳細時期不明
【SK9164】中世の土坑墓、6 歳前後・性別不明、保存悪い、歯だけが出土、下顎歯6本が残る、M1 の咬耗はごく軽度、6 歳前後、エナメル質減形成あり、【発掘所見】観察表には「墓坑」とのみ記載がある、詳細時期不明、
【SK9235】中世の木棺墓、20 歳代・性別不明、ごく少数の骨片と歯が出土、歯は上顎歯が 15 本、下顎歯が 12 本残っている、上中切歯はシャベル型、20 歳代、【発掘所見】伸展葬、頭位は北、顔西を向く、底板と側板の 1 部が残存、掘り込みの底部を埋め戻して木棺を設置した後、側板と坑壁の空間部を埋めた、人骨上部に蓋板は残存せず、痕跡も確認できない、底板の下に木棺の支え材の痕跡が確認、副葬品等なし、詳細時期不明
【SK9262】中世の木棺墓、2 個体分、成人であろうが詳細不明、歯だけが残っている、上顎歯 11 本、下顎歯 14 本が残っている、他に別個体の上顎歯 3 本がある、大きな歯の個体と小さな歯の 2 個体、上中切歯はシャベル型、M3 萌出、エナメル質減形成がある、【発掘所見】伸展葬、頭位北、平面形は木棺状長方形、断面は木質を含む土層が確認、掘方（土坑）内に木棺を設置した後、周囲を埋め戻したか、蓋板および副葬品は確認されない、詳細時期不明
【SK9263】中世の木棺墓、年齢不明・性別不明、歯と四肢骨の一部、保存は悪い、上顎歯 2 本、下顎歯 9 本が残る、大腿骨骨幹片が残る、さほど太くない、咬耗から考えて子供ではない、【発掘所見】
（SK9262 と本文説明にあるが 9263 の誤り）人骨は膝をやや屈した横臥位、頭位は南、掘方（土坑）内に埋葬部を作り、埋め戻した痕跡あり、副葬品等はなく、詳細時期不明
【SK9267】中世の土坑墓、成人・女性、保存状態は悪い、頭蓋骨は部分的に残るだけである、頭蓋冠の骨は厚くない、歯は上顎歯が 13 本、下顎歯が 11 本、上中側切歯はシャベル型、咬耗は軽度、齲蝕あり、エナメル質減形成あり、脛骨は細く扁平、四肢骨は女性的、【発掘所見】屈葬、頭位は北、顔は西向き
【SK9269】中世の木棺墓、成人・性別不明、歯だけが出土、上顎歯は 10 本、下顎歯は 13 本が残る、M3 は萌出している、咬耗はやや進んでいる、【発掘所見】人骨は残存状況が悪い、頭位は北、伸展葬か
【SK9390】中世の土坑墓、成人・性別不明（男性か）、保存は悪い、頭蓋骨の一部、歯、四肢骨の一部が残る、右側頭骨下顎窩、下顎の一部などが残る、下顎体は厚い、歯は合計 6 本が残る、M3 萌出、歯は大きい、咬耗はやや進んでいる、四肢骨は部分的である、【発掘所見】土坑墓、屈葬、頭位は北、顔は西向き
【SK9487】中世の土坑墓、壮年・男性、保存悪い、頭蓋は後頭部から頭頂部が残る、土圧でやや変形している、頭蓋最大長は推定で 180 ㎜、歯は上顎歯が 6 本、下顎歯が 13 本残っている、M3萌出し咬耗が少ないのでさほど高齢ではない、咬耗はやや進んでいる、四肢骨は上腕骨や前腕骨骨幹、大腿骨や脛骨の骨幹が残る、大腿骨上部は扁平、粗線の発達は悪い、脛骨は太く頑丈、【発掘所見】土坑墓、屈葬、頭位は北、顔は西向き

【更埴条里遺跡　古代 1 補遺】

【SK9285】古代の土坑、詳細不明、歯だけが残る、下顎右 P1、P2 の2本だけである。咬耗はやや進んでいる、【発掘所見】一辺 1.9m 不整方形の土坑、担当者は「墓」としない、詳細時期不明

【屋代遺跡群　古代 2】墓坑（土坑墓）の多くの頭位は北

【SK46】平安時代の土坑墓、詳細不明、保存悪い、歯の破片と四肢骨片のみ、【発掘所見】頭位は北、仰向けの伸展葬か、時期：平安時代後期、古代 15 期前後、11C 後半か、
【SK358】平安時代の土坑墓、12 歳よりやや上の少年・性別不明、歯が残っている、上顎歯が 9 本、下顎歯が 13 本残る、M3 は未萌出か、上 I1 はシャベル型切歯、M2 の咬耗は軽度、12 歳からやや上の年齢か、【発掘所見】屈葬、頭位は北、横臥位の可能性あり、時期：副葬品なく詳細時期は不明だが、周辺の集落跡（平安時代、古代 12～15 期、10C 後半～11C 後半）に伴うと考えられる
【SK359】平安時代の土坑墓、7～8 歳・性別不明、歯が残っている、永久歯だけが残る、上顎歯は 8 本、下顎歯は 9 本が残る、M2 に咬耗はなく、他の永久歯の咬耗もないので 7～8 歳と推定される、歯は小さい、上I2 は軽度のシャベル型（I1は欠）【発掘所見】屈葬、頭位は北、横臥位の可能性あり、時期は 10C 後半から 11C 後半か
【SK360】平安時代の土坑墓、熟年・男性、保存悪い、顔面はなく頭蓋（冠）の右半のみ、乳様突起は大

きい、下顎骨は大きい、下顎右大臼歯は生前に脱落していた、歯はごく一部しかない、3 本が残る、M2 の歯冠に歯石の沈着、【発掘所見】頭位は北、横臥位で、膝を屈していた（屈葬か）、時期は 10C 後半から 11C 後半か
【SK5013】平安時代の土坑墓、詳細不明、保存悪い、頭蓋は土圧で左右につぶれている、左向き、乳様突起は大きくない、頭蓋冠の骨の厚さは普通、【発掘所見】頭位は北か、副葬品は土器 6 点（土師器坏 3、椀 1、黒色土器椀 1、灰釉陶器碗 1）、時期は古代 13 期、10C 末から 11C 初

【屋代遺跡群　中世】多くの墓坑（土坑墓）、火葬墓は共伴遺物がなく、詳細時期不明。

【SK1】火葬墓か、少年（10 歳代）・性別不明、一握りほどの焼骨、四肢骨骨端の大腿か上腕の骨頭が未化骨、10 歳代の少年
【SK8】土坑、20 歳代・性別不明、歯だけが残っている、上顎歯が 7 本、下顎歯が 5 本残る、咬耗はやや進んでいて下M1 頬側咬頭頂に磨耗、20 歳代、【発掘所見】炭化物含むが、担当者は「用途不明」（墓ではない）とする
【SK11】火葬墓、年齢不明・性別不明（女性か）、焼骨、わずかな頭蓋骨片と四肢骨片；頭蓋冠の骨の厚さは普通、大腿骨は細いが、粗線は発達し柱状大腿骨、成人であろう、四肢骨は細い、イノシシの側頭骨が混在、【発掘所見】灰含む
【SK44】土坑墓、詳細不明、歯1本だけが残る、下顎M1 かM2, 咬耗は軽度、さほど高齢ではない
【SK57】土坑墓、7 歳前後・性別不明、歯が残るだけ、下顎歯の4本、M2, M3 に咬耗はない、M1 の咬耗は少ない、M2 が萌出する 12 歳には達していない、
【SK4182】木棺墓、坑壁際長軸方向に木口状の痕跡、杭の跡も確認、遺存状態が悪いためか人骨出土とされるが、形質記述なし
【SK4195】土坑墓か、詳細不明、少数の骨片と歯 1 本が出土、下顎の正中部片があり小さくてきゃしゃ、歯は下左P1
【SK5001】土坑墓か、詳細不明、保存の悪い四肢骨の一部のみ、上腕骨はさほど太くない、大腿骨は太くない、殿筋隆起はやや発達する
【SK5002】土坑墓、人骨出土とするが、遺存状態が悪いためか形質記述なし
【SK5003】土坑墓か、人骨出土とするが、遺存状態が悪いためか形質記述なし
【SK5005】土坑墓、成人・性別不明、保存は悪い、頭蓋の一部、歯、四肢骨片が残る、右側頭骨錐体が残り、外耳道骨腫が見られる、下顎体は前方後方で高さの差が小さい、下顎枝は広い、歯は上顎歯が 7 本、下顎歯が 7 本残る、エナメル質減形成が顕著、成人だろう
【SK5024】土坑墓、人骨出土とするが、遺存状態が悪いためか形質記述なし、石製円板が共伴
【SK5071】土坑墓、生まれて間もない新生児・性別不明、頭蓋骨の一部と四肢骨片、うつぶせの埋葬か、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は明瞭な鋸歯状、四肢骨長骨の骨幹が出土している、大腿骨幹は推定で 130 ㎜～140 ㎜、
【SK6159】土坑墓、5 歳前後・性別不明、保存は悪い、頭蓋骨と歯の一部が残る、頭蓋は左右側頭骨錐体部のみ、歯は乳歯列である、7 本が残る、5 歳前後か
【SK6233】土坑墓、壮年・女性、保存は悪い、頭蓋冠の残りは比較的よい、外耳道骨腫がある、乳様突起は小さい、頭蓋は小さい、下顎枝は低い、上顎は左右とも 7 本、M3 は不明、下顎はM3 まで萌出するが右M1 は生前に脱落、M2 の咬耗は軽度、歯は非常に小さい、四肢骨では上腕骨や大腿骨が細い、殿筋隆起が発達する、成人

【屋代遺跡群　中世の井戸から出土した人骨】

【SK68】井戸跡か、成人か、性別不明、歯だけが出土、下顎歯 2 本と歯の破片、M2 では象牙質の露出はない、高齢ではないだろう、【発掘所見】詳細不明
【SK6143】方形の井戸跡、詳細不明、四肢骨片だけで、ヒトかどうかも不明

【屋代遺跡群　グリッド取り上げとその他Ⅲ層出土の人骨】

【SN1】1 歳程度の乳児・性別不明、乳歯列、下dp2 は形成途中、咬耗は乳切歯のみ、四肢骨は大腿骨片のみで詳細は不明
【N16】詳細不明、歯が 1 本残る、上左P2, 咬耗はあるが象牙質の露出はない、エナメル質減形成がある
【出土地点不明 1】詳細不明、焼骨、頭蓋骨片 3 点（頭蓋冠）
【出土地点不明 2】詳細不明、一握りほどの焼骨、椎体、距骨などがあるが不明、火葬墓のものか

【窪河原遺跡　中世】
火葬墓から出土するものがある、焼かれた骨が多いが高温ではない、前頭縫合遺残もある、平坦な顔の個体がある、原報告では「墓壙・墓坑」標記もあるが、土坑墓に統一
【GT14 グリッド】詳細不明、左大腿骨近位半骨幹が残る、太く男性的、扁平大腿骨 【SK14】土坑墓、成人・性別不明、保存は悪い、ほぼ全身が残る、屈葬、頭蓋では頭蓋冠が主で顔面はない、眉弓・外後頭隆起は発達、頭蓋冠の骨は厚い、乳様突起は大きい、歯は合計 8 本が残る、成人であろう、【発掘所見】土坑墓、屈葬、頭位は北、顔は西向き、小礫含む 【SK19】土坑墓、熟年女性、壮年女性、2 体分とされるが、下顎骨は 3 体分ある、四肢骨で残るものは同一個体と思われ女性的だが、これらがどちらの頭蓋骨ペアなのかは不明、大腿骨は粗線がやや発達する、殿筋隆起がやや張り出す、上部は扁平、 【頭蓋骨 1】熟年・女性、保存は比較的よい、頭蓋冠の骨は厚くない、乳様突起は発達していない、両耳幅 117 ㎜、下顎骨はきゃしゃ、歯槽縁は肥厚する、歯の咬耗は軽度、M3 や左M2 は生前に脱落、下顎歯に歯石の沈着顕著 【頭蓋骨 2】壮年・女性、歯の咬耗は進んでいる、頭蓋冠の骨は薄い、歯は合計 18 本が残る、M2、M3 の咬耗は軽度だが前歯部は咬耗が進んでいる、歯石の沈着がある、エナメル質減形成がある、齲蝕がある、 【SK20】土坑墓か、人骨出土とされるが、形質所見なし 【SK21】火葬墓か、誕生直後の新生児・性別不明、乳歯が 1 本残る、上左 di1、形成途中で咬耗はない 【SK22】火葬墓、高齢・性別不明、焼骨が出土している、650g、1 体分、左右側頭骨錐体部などの頭蓋骨片と四肢骨片だが、四肢骨は少ない、歯槽部退縮で生前にすでに歯は少なかったらしい 【SK25】火葬墓、詳細不明、焼骨、600g、黒化する部分もありさほど高温で焼かれたものではない、頭蓋骨片、上腕骨片、足根骨などがある 【SK30】土坑墓か、若い個体・女性、生骨、保存は悪くないが頭蓋が残るだけである、頭蓋冠の骨は薄い、前頭縫合遺残がある、前額部の形態は女性的、歯は 4 本が残る、上顎小臼歯に象牙質の露出はない、比較的若い個体、 【SK40】火葬墓、成人・性別不明、焼骨、500g、生骨の混入もあり 1 体かどうか不明、成人であろう、大腿骨の骨質は厚い、【発掘所見】礫が敷かれていた（礫床墓か） 【SK44】土坑墓か、新生児程度・性別不明、乳歯のみが出土している、上顎の 4 本である、上左右 dcは形成途中 【SK101】土坑墓か、骨も出土とされるが、遺存状態が悪いのか、形質の記述なし 【SK102】土坑墓、骨も出土とされるが、遺存状態が悪いのか、形質の記述なし 【SK103～105】火葬施設か、炭・焼土含む、骨も出土とされるが、遺存状態が悪いのか、形質の記述なし、火葬墓 SM102～104 に対応するものと想定される 【SK106】土坑墓か、骨も出土とされるが、遺存状態が悪いのか、形質の記述なし 【SK110】火葬墓、成人・性別不明、焼骨、一握り程度、四肢骨が多く頭蓋は少ない、脛骨や中足骨がある、成人であろう 【SM101】土坑墓、壮年・男性、比較的保存はよい、顔面が残る、眉弓は発達していない、乳様突起は大きく厚い、下顎骨は頑丈、平坦な顔、高顔、歯は下M3 が左右とも水平智歯、上中切歯はシャベル型、エナメル質減形成あり、咬耗はやや進んでいる、四肢骨の保存もよい、大坐骨切痕は狭くて男性的、大腿骨の粗線はやや張り出し柱状大腿骨、【発掘所見】体を右に向けて膝を屈している 【SM102】火葬墓、詳細不明、形質の記述なし 【SM103】火葬墓、詳細不明、焼骨、火葬状態は一定ではない、【発掘所見】土器 4 点共伴、内外面黒色土器 1（椀か）、土師皿 3、時期は鎌倉時代後期（13C～14C 前半） 【SM104】火葬墓、詳細不明、焼骨、約 350g、高温は受けていない、頭蓋骨片や脛骨片などを含む、後頭骨は厚い 【SM1001】火葬施設、比較的若い成人・女性、焼骨、約 1100g、灰白色に焼かれている、頭蓋冠などがよく残っている、縫合は明瞭な鋸歯状、下顎骨がほぼ完全な形で残る、きゃしゃ、歯は上右 P2 の歯槽が閉鎖、歯冠が残るものもある、脛骨は細い、成人であろう、椎体に加齢変化は見られないのでさほど高齢ではない

4・5	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡	こうしょくじょうり・やしろ・くぼがわら	古代～中世	茂原信生	2000b	県歴史館

保存は悪い、縄文中期 21 体、同じ住居址に 2 体の例、高速道地点総論編

【縄文時代人骨】21 例、中期前葉 8 例、中期後葉 13 例、墓坑と住居跡から出土、性別は 4 例のみ判別、年齢は 11 例が判明、一般的な縄文人の特徴である低顔・広顔やロッカージョー等の特徴を抽出することは出来なかったが縄文人的な特徴は随所に見られた、しかし時に下顎角の大きなものもあった、身長は 1 例のみで約 152 ㎝と小さい、エナメル質減形成の頻度は高い、ほとんどが生骨で焼骨が 2 例、

【古代人骨】6 例、更埴条里から 1 例、屋代遺跡から 5 例のみ、保存は悪く歯のみのものも多い、上中切歯はシャベル型が一般的で渡来系弥生人の影響が浸透していることがうかがえる

【中世人骨】41 例、屋代遺跡分 13 例、更埴条里遺跡分 12 例、窪河原遺跡分 16 例の出土。火葬骨が 12 例で割合が高い、不完全な火葬も多い、1 例木棺墓があった、シャベル型切歯、顔面は平坦になる、前頭縫合遺残など必ずしも進歩的な形質だけではない、エナメル質減形成も高率になる、咬耗はさほど顕著ではない、性別がわかったもの 17 例（♂7、♀10）、成人は 22 例、若い個体は 7 例、

5	屋代遺跡群	やしろ	縄文中期	茂原信生	2000c	県歴史館

縄文時代人骨の大半は、住居跡から出土、遺存状態の悪いものは除く、中期前半と後半に大別

【縄文時代中期前葉】

人骨のほとんどは住居跡出土、同住居跡に 2 体埋葬されていた例が 2 例、屈葬で、一部に全体の形は頭部と骨盤を両端にした楕円形の個体がみられた、このような埋葬形式は安曇野市北村遺跡（後期）でも見られる、縄文時代人骨の特徴である下顎底に丸みを帯びたロッカー・ジョウが見られるが、下顎枝角が大きい個体も存在、エナメル質減形成がかなりの頻度で観察、1 例で身長推定が可能であったが、男性で 151。8cm で(SB9011)であり、この時代の男性としては小さい、形質の記述はないが、SB7503、SB9010 からも人骨が出土、【発掘所見】廃屋墓（廃絶した竪穴住居跡を墓に再利用）や遺物包含層に廃棄された人骨が混入した可能性がある、時期は中期前葉（五領ヶ台式とその直後型式）とされる、地層はＸⅣ層（1期：五領ヶ台Ⅰ式）あるいはＸⅤ層（2期：五領ヶ台Ⅱ式～直後型式併行期）

【SB5401】竪穴住居跡、頭蓋骨片、部位不明　時期：中期前葉 2 期

【SB9009】竪穴住居跡、いわゆる廃屋墓か、埋葬時期に差がある、【発掘所見】3 個体が埋葬されていた、1 号人骨（№1）は住居廃絶直後、下層に位置し、埋葬姿勢もはっきりと残存、続いて住居中央付近（台帳 6 bJ10189：この人骨は形質の記述なし）、住居の埋没がかなり進んだ段階で 2 号人骨（№2）が埋葬、時期：中期前葉 2 期

【№1】屈葬、少年（若い個体）、性別不明、保存状態よくない、頭蓋骨はうつぶせ（顔面を下に向けた）状態で胸部に載る、上腕骨は左右を対称的にやや外側に肘を張り出し、肘をほぼ直角に曲げて手を腹部であわす、下肢は大腿骨を体幹側へ強く折り曲げやはりやや外側、膝は上腕の肘よりも頭側に位置、下肢は膝をやはり強く折り曲げ足を正中部であわせる、全体の形は頭部と骨盤を両端にした楕円形を呈す、同様な埋葬形式は北村遺跡にもある、頭蓋骨：下顎骨内に未萌出の大臼歯、歯種は不明だが大臼歯、四肢骨：上腕骨の近位部は骨端と未癒合、上腕骨の推定長 172mm 前後、大腿骨長は 260mm 程度、頭胴長は大まかな推定で 57cm を越えない、10 歳程度、性別不明

【№2】成人、性別不明、大腿骨および脛骨、右側が残るが保存状態は悪い、大腿骨は土圧でつぶれるが、上部はつぶれず、扁平大腿骨の特徴が観察、上部外側の殿筋隆起はよく発達、他四肢骨片は同定不能

【SB9011】竪穴住居跡、廃屋墓か、2 個体は埋葬、床面検出 1 号人骨(№1)と 2 号人骨（№2）がある、埋土上層人骨(N13)は下顎骨のみ、埋葬人骨のカクラン、他から投棄のほか、同一層中に散乱する骨の混入の可能性もある、時期：中期前葉 2 期

【№1】成人、女性か、顔を右に向けた屈葬、保存状態は悪い、左上肢は肘をほぼ直角に曲げ、手を右の肘に置く、右上肢は肘を深く曲げ手を胸に置き、左の下肢は股関節・膝関節ともに強く曲げ膝を外側に向け開く、左側保存が悪いが、右とほぼ同じように外側に開くか、頭蓋骨：頭蓋冠はほとんど失われ、残った部分で判断するとさほど厚くない、乳様突起はふつうの大きさ、下顎枝角は大きい、歯：左右の第 3 大臼歯萌出、咬耗は小さな象牙質が露出する程度、成人か、第 3 大臼歯の歯頸部付近にエナメル質減形成が認められ、12～ 13 歳頃形成、四肢骨：骨端が破損失われるものが多い。上腕骨は太い、三角筋粗面はよく発達、左寛骨の大坐骨切痕は鋭角、下肢骨は左大腿骨と脛骨・腓骨が残るが右はほぼ失われ

る、脛骨は扁平ではない、左の上腕骨は発掘時の計測で 270mm、右脛骨は 328mm、推定身長は各 148.6cm と 155.0cm で、両者の平均は 151.8cm、縄文時代女性の平均値と大差ないが、大坐骨切痕は男性的

【№2】成人、女性か、同一遺構出土した別個体、顔面を上(正面)に向ける、頭蓋骨は額から底部に向けて土圧でつぶれる、上・下顎とも第 3 大臼歯までが萌出、咬耗もみられるので成人か、全体に小振りである。発掘時の図によれば、右の上肢は肘をやや曲げており、左上肢は前腕部が消失、下肢は残るが詳細不明、頭蓋骨:小さめであり、乳様突起は普通、外後頭隆起はさほど発達していない、人字縫合は鋸歯状が明瞭であるのでさほど高齢ではないか、上・下顎とも前歯部はすべて歯が植立、抜歯はない、四肢骨:ほとんど残っていない、年齢:全体に小ぶり、女性の可能性が高い、さほど高齢ではないが成人か

【N13】青年か、性別不明、頭蓋骨:左右の下顎骨だけが残る、内側を上に左右に開いた形で出土、頭蓋骨片がその外側にわずかに残る、正中部は左右ともに失われるが、下顎体後半部から下顎枝は残る、角前切痕はみられない、下顎底が丸みを帯びるロッカー・ジョウ、歯:左の第 3 大臼歯のみが残る、左の上顎第 2 小臼歯は歯冠だけ残る、年齢:第 3 大臼歯に大きくはないが、咬耗がみられ青年程度(20 歳代)か

【N03】年齢・性別不明、歯:上顎右大歯歯冠、下顎右第 1 小臼歯歯冠が確認、象牙質の小さな露出あり、詳細不明

【SQ7003】遺物集中、幼児・男性、頭蓋骨と部位不明の四肢骨片、歯が少数出土、歯:乳歯列、上顎では左右の第 1 および第 2 乳臼歯、下顎は左右の第 1 乳臼歯、および左右不明の第 2 乳臼歯、永久歯は下顎の左第 1 大臼歯、右大歯および第 1 小臼歯と左右の中切歯、上顎では左中切歯、大歯および右第 1 小臼歯が形成途中である。乳臼歯の咬耗はさほど進んではいない。永久切歯の歯冠が形成途中であることから、3～5 歳程度、ただし、左の下顎第 1 大自歯は咬合面の形態は第 1 大臼歯のようには見えずむしろ第 3 大臼歯のような形態である。切歯は縄文時代人の男性の平均値よりもやや大きめである。可能性としては男性、【発掘所見】土器片を主体に石器、黒曜石や剥片、獣骨集中内に人骨も含まれる、埋葬施設ではないが、祭祀などの可能性もあるか、時期:中期前葉 2 期

【SK6916】土坑墓、頭位は東か、右上腕と尺骨・撓骨、左大腿骨らしき残片が見られるが、遺存状況悪く取り上げられず形質にかかる所見なし、時期:中期初頭

【縄文時代中期後葉】保存状態が悪い個体がほとんど、骨の特徴は抽出できない、屈葬で埋葬例あり、歯はかなり若い個体のものも残る

【発掘所見】敷石住居跡はすべて柄鏡形、地層はⅩⅡ-2 層、時期は以下のとおり

後葉 2a 期:大木 8b 式新相・加曽利 EⅡ式古～中相・唐草文系Ⅱ段階古、

後葉 2b 期:大木 9a 式古相・加曽利 EⅡ式新相・唐草文系Ⅱ段階

後葉 3a 期:大木 9a 式新相・加曽利 EⅢ式古相の古手・唐草文系Ⅱ段階

後葉 3b 期:大木 9a 式新相～大木 9b 式古相・加曽利 EⅢ式古相の新手・唐草文系Ⅱ・Ⅲ段階

後葉 3c 期:大木 9b 式新相・加曽利 EⅢ式新相・唐草文系Ⅲ段階

後葉 4 期:大木 10 式古相・加曽利 EⅣ式・唐草文系Ⅲ段階

【SB5319】敷石住居跡、廃屋墓か、成人か、性別不明、頭蓋の一部だけが残っているが、保存状態は非常に悪く、詳細は不明である。左を向いて埋葬、【発掘所見】住居跡周礫内掘り込みから出土、時期:中期後葉 4 期

【SB5337】敷石住居跡、廃屋墓か、年齢・性別不明、頭蓋骨である。頭蓋冠の部分であるが表面は脱落していて保存状態は非常に悪い。骨は比較的厚いので、幼い個体ではない、【発掘所見】敷石床上に頭蓋骨が置かれていた、担当者は「祭祀」を想定、時期:中期後葉 4 期

【SB5338】敷石住居跡、廃屋墓か、形質所見なし、【発掘所見】床面から出土、時期:中期後葉 3c 期

【SB5340】敷石住居跡、廃屋墓か、形質所見なし、【発掘所見】平面五角形、時期:中期後葉 4 期

【SB5342】敷石住居跡、廃屋墓か、形質所見なし、【発掘所見】埋土上層から出土、住居跡廃絶後、しばらくたってから埋葬か、時期:中期後葉 4 期

【SB5350】竪穴住居跡、廃屋墓か、詳細な形質所見なし、歯のみ、屈葬、時期:中期後葉 2b～3a 期

【SK5589】土坑墓、頭位は東、顔は左向き、下肢骨は膝を強く折った屈、膝は左右ともに左に倒す、遺存状態は非常に悪く、頭蓋骨不明、歯はよく残っている、歯:上顎右側は第 3 大臼歯までが確認、成人、四肢骨:大腿骨、脛骨、腓骨あり、大腿骨も腓骨も細い印象、性別の判定困難、【発掘所見】胸から背中の

土に赤色顔料付着、埋葬時に播かれたか
【SK5590】土坑墓、形質的所見なし、【発掘所見】深鉢内側に骨付着、割敷いた土器の上に埋葬されたか
【SK5790】土坑墓、性別不明、幼児ではない、頭位が南西、性別不明、幼児ではない、頭蓋骨と肋骨のごく一部、四肢骨の一部が残るが、保存状態非常に悪い、顔を足方に向けた屈葬、右上肢は失われ、左上肢は肘を軽く曲げて手を骨盤部におく、下肢は股関節をほぼ直角に、膝関節は強く曲げて膝を右に倒す、頭部は上方から土圧を受けてつぶれ、歯がわずかに残る、骨の厚さや歯の萌出状態から、幼児でない、【発掘所見】頭に深鉢形土器(加曾利 E 式)、中期後葉 3b 期
【SK5823】土坑墓、性別不明、成人、頭位が北西、右を向いて埋葬されている。下肢骨は膝を強く曲げた屈葬、膝は左右とも倒す、保存状態は非常に悪く、頭蓋骨の一部、歯、四肢骨の一部だけ残る、四肢骨は断片化していて詳細不明、頭蓋骨:歯が残っているだけで、頭蓋骨そのものは形骸、歯:残りはよい、第 3 大臼歯まで萌出、咬耗はそれほど顕著ではない、成人には達していたか、切歯や大歯は現代日本人の平均値よりもやや大きめ、臼歯は一定の傾向は見られない、四肢骨:大腿骨、脛骨、腓骨、大腿骨と腓骨も細い、性別判定困難、【発掘所見】頭に深鉢形土器(加曾利 E 式)、時期:中期後葉 3b 期
【SK5833】土坑墓、頭位が西、男性、乳児(2 歳前後)、
【SK5867】土坑墓、年齢・性別不明、下肢骨
【N25】東側外周トレンチ内から検出、№1～4、土坑墓の可能性がある、形質所見なし

5	屋代遺跡群	やしろ	古代以降	茂原信生	1998f	県歴史館

保存は悪い、焼骨を含む、散乱、5体＋α(幼児を含む)、人骨はまとまって出土しておらず，散乱人骨として出土している、北陸新幹線地点

【SB2018】竪穴住居跡、若い個体・性別不明、保存状態は悪い、頭蓋骨の一部、歯、下肢骨の一部が残っている、歯は 5 本が残る、咬耗は軽度、M2 遠心に隣接面磨耗がない、M3未萌出か、咬耗は軽度、上腕骨は細い、大腿骨も太くない、粗線の発達は悪い、【発掘所見】廃屋墓か、流紋岩製砥石、須恵器・土師器・黒色土器が出土、時期不明ということだが、砥石や土器の組成からは古代(平安時代)だろう
【SB6038】竪穴住居跡、廃屋墓か、【発掘所見】南東壁際に遺存状態のわるい人骨が頭を北東にして横たわる、土師器鉢と甕が副葬品の可能性あり、時期:7C 中頃～後半
【SK6009】土坑墓、18 歳前後・女性か、頭蓋骨と歯、少量の四肢骨片が残る、歯は 30 本が残る、M3の咬耗はごく軽度、20 歳前後、歯は小さい、脛骨片が残る、【発掘所見】頭位は北西、伸展葬、須恵器・黒色土器・土師器各 1 片が出土したが、混入、時期:平安時代、9C 後半(仁和の洪水、888 年)以降、
【SK6232】土坑、年齢・性別不明、焼骨、全身にわたって残っているが詳細不明、【発掘所見】火葬墓、完形灰釉陶器長頸壺(骨壺)が東コーナーから出土、土器片で蓋をされ、内部が空洞で、焼骨(細かな骨片)が含まれていた、時期:平安時代、9C 第 3 四半期以降～9C 後半(仁和の洪水、888 年以前)
【SK6267】土坑墓、2 歳前後・性別不明、乳歯列の個体、M1 は未萌出、【発掘所見】担当者は幼児の再葬墓とする、時期:重複関係と検出レベルから 7C 後半～ 8C 代か
【東壁】年齢・性別不明、頭頂骨片と歯が残る、頭頂骨は比較的厚い、下顎歯が3本、咬耗は軽度、時代不明
【SD2006】溝、年齢不明・性別不明、右大腿骨と脛骨片、大腿骨は太くなく粗線の発達もよくない、【発掘所見】弥生～平安時代の遺物を含む

5	屋代遺跡群	やしろ	平安～中世	西香子他	2000	千曲市

人骨:茂原信生教示、土口バイパス地点、県埋文調査、更埴市(当時)に資料は移管済

【SL1】畠跡(SL1 は東西方向の畝跡)、平安時代、幼児(4 歳前後)、肋骨・椎骨の一部及び乳次歯出土、時期:仁和の洪水砂に被覆されており 9C 末
【SK488】井戸跡、平安時代後期～中世、推定年齢 16～18 歳、下顎骨、歯及び椎弓の一部が出土

5	屋代遺跡群	やしろ	弥生～平安	西本豊弘他	2000	千曲市

動物の遺存体としての報告の中にまとめられている出土人骨についての記載である、117 号住居から左膝蓋骨、表面が黒化、火を受けたか。混入の可能性もある。奈良時代:25 号住居から上顎左側切歯 1 本、42 号住居から左脛骨骨幹部、いずれも成人。弥生～平安時代:頭蓋骨の一部、四肢骨、下顎骨など、他に新生児、土口バイパス地点、市教委調査

【117 号住居】竪穴住居跡、古墳時代中期、左膝蓋骨が 1 点、黒化しており焼かれている、他の部位がないのでどこからかの混入の可能性、【発掘所見】5 世紀中葉～6 世紀初頭（Ⅲa 期）、須恵器高坏（TK216 窯式）
【25 号住居】竪穴住居跡、平安時代、成人・性別不明、上顎左側切歯 1 点、【発掘所見】9c 後半以降（Ⅳc 期）
【42 号住居】竪穴住居跡、平安時代、成人・性別不明、左脛骨骨幹部のみ（成人）、【発掘所見】時期 8～9C（Ⅳ期）
【遺構外】弥生～平安時代の可能性がある
【FE-14 区】新生児、新生児の右側頭骨、左上腕骨片、左脛骨片、一括で埋葬されたもの
【A5-19 区】成人、下顎骨左側部、上腕骨、腓骨、肋骨などがある

5	屋代遺跡群	やしろ	縄文	茂原信生	2000b	県歴史館

保存は悪い、縄文中期 21 体、同じ住居址に 2 体の例、高速道地点総論編

【縄文時代人骨】21 例、中期前葉 8 例、中期後葉 13 例、墓坑と住居跡から出土、性別は 4 例のみ判別、年齢は 11 例が判明、一般的な縄文人の特徴である低顔・広顔やロッカージョー等の特徴を抽出することは出来なかったが縄文人的な特徴は随所に見られた、しかし時に下顎角の大きなものもあった、身長は 1 例のみで約 152 ㎝と小さい、エナメル質減形成の頻度は高い、ほとんどが生骨で焼骨が 2 例、
【古代人骨】6 例、更埴条里から 1 例、屋代遺跡から 5 例のみ、保存は悪く歯のみのものも多い、上中切歯はシャベル型が一般的で渡来系弥生人の影響が浸透していることがうかがえる
【中世人骨】41 例、屋代遺跡分 13 例、更埴条里遺跡分 12 例、窪河原遺跡分 16 例の出土。火葬骨が 12 例で割合が高い、不完全な火葬も多い、1 例木棺墓があった、シャベル型切歯、顔面は平坦になる、前頭縫合遺残など必ずしも進歩的な形質だけではない、エナメル質減形成も高率になる、咬耗はさほど顕著ではない、性別がわかったもの 17 例（♂7、メス 0）、成人は 22 例、若い個体は 7 例、

5	屋代遺跡群大境遺跡	おおざかい	平安時代	佐藤信之	1988	千曲市

【土壙墓】土坑墓、1 号溝内より検出、担当者は土層から溝が 8 割ほど埋まった状態の時に埋葬されたと推測、伸展葬、頭位を南東、大腿骨、脛骨、上腕骨、脊椎骨、それに歯が残存していたが風化が激しく、ほとんど原形を残していない、須恵器と黒色土器の坏も出土、平安時代前期か

5	屋代遺跡群大境遺跡	おおざかい	中世	佐藤信之他	1994	千曲市

【1 号土壙墓】土坑墓、頭位は北、屈葬か、大腿骨長 38cm、成人と担当者は推定する、共伴遺物なし

5	屋代遺跡群大境遺跡	おおざかい	中世以降	佐藤信之	1995	千曲市

屋代遺跡群の遺跡、土壙墓 13 基が確認されたが他にも骨があるのでそれ以上の土壙墓があったと思われる、人骨か馬骨の埋葬、保存は悪そうである、形態の記載はない 13 基の土壙墓（土坑墓）その内 3 基が報告される、3 号土坑墓：顔面を右に向けた屈葬、11 号土壙墓：屈葬、うち 2 基（4 号と 12 号）には馬も埋葬されていた、【発掘所見】古代の遺構を切る、検出面から北宋銭が出土、中世か

【3 号墓】土坑墓、頭位は北東、屈葬、椎骨・肋骨は消失、
【11 号土壙墓】土坑墓、頭位は北東、屈葬、保存は全体によいとされている、股関節を強く曲げている
【12 号土壙墓】土坑墓、ウマの全身骨格出土、人骨はない

6	小坂西遺跡	こさかにし	平安～中世	茂原信生他	1994	県歴史館

保存は悪い、100 点ほどの焼骨、最少2体

【SK01】中世の火葬施設、成人・性別不明、焼骨、100 点ほどの骨片、下顎骨関節頭や手の指など同定できたものは 8 点、四肢骨が少ないなどを考えると取り残されたものの可能性がある、手の基節骨は太い、下顎の筋突起は高い、男性の可能性がある、成人であろう、【発掘所見】炭、焼土とともに出土
【SK02】中世の火葬施設、詳細不明、焼骨、20 点ほどの細片、同定されたのは 3 点ほど、詳細は不明
【SK05】平安時代の土坑、詳細不明、骨粉のみの出土である、【発掘所見】須恵器、炭が共伴、時期は 9C 後半

7	生仁遺跡	なまに	平安～中世	森本岩太郎	1969	千曲市

頭蓋はほとんどなし、中世及び以降の遺物も出土、11 体中幼児 9 体、保存は悪く計測できるものはない

【CF-1 号墳墓】1 号及び 2 号土壙（土坑墓）や溝状遺構からなる埋葬施設群を一括して報告、1 号人骨は 1 号土壙北側、2 号・5 号・6 号人骨は 1 号土壙上部、7 号は 2 号土壙、3 号・8 号・9 号・10 号人骨

は第 1 溝状遺構から出土、副葬品かどうかは不明だが、洪武通寶が共伴、幼児だけを埋葬した墓か、副葬品の銭貨及び隣接する同時期と思われる溝跡からがいずれも渡来銭が出土、中世か

【No.1】5～6 歳の幼児・性別不明、発掘時の状況で観察、保存悪い、断片的、頭蓋骨や上腕骨片がある、歯列は脱落なく残存、【発掘所見】副葬品として開元通寶、景徳元寶、天福通寶各 1

【No.2】幼年・詳細不明、非常に薄い頭蓋骨片のみ（幼児か）、大臼歯歯冠 3 個が残る

【No.3】幼児骨・詳細不明、保存悪く細片化、頭骨片のみ、頭蓋骨片は薄い

【No.4】幼年骨・詳細不明、保存悪い、頭蓋の破片と肋骨 1 本のみ

【No.5】幼児、詳細不明、保存悪い、頭蓋骨片・四肢骨の橈骨片がある、【発掘所見】副葬品砂岩製砥石 1

【No.6】若年骨・詳細不明、保存悪い、頭蓋骨片、歯が 2 本（下左 I,下左 P)、他に四肢骨片が少数ある、脛骨骨端未化骨

【No.7】幼年骨・詳細不明、保存悪い、頭蓋骨片、眼窩上縁がやや隆起している

【No.8】幼児骨・詳細不明、保存悪い、頭骨のみで細片化している

【No.9】小児骨・詳細不明、左右錐体部、下顎体右半分、一部の四肢骨以外は破片、歯は上下で 6 本残る

【HF-3 号墳墓】土坑墓、男性、保存悪い、頭蓋は残らない、大腿骨の殿筋粗面は発達する、柱状大腿骨、【発掘所見】頭位は北、伸展葬、共伴遺物ないが、平安時代か

【HF-6 号墳墓】土坑墓か、成人・男性、脛骨と腓骨片のみ、【発掘所見】遺構床面に灰と炭が敷き詰められていたが、焼土はない、木炭層中から人骨出土、土師器坏片（国分式）が出土しており、時期は平安時代か

7	生仁遺跡	なまに	弥生・平安	岩崎卓也	1988b	千曲市

平安時代の焼失住居跡（H3 号住）の床上から伏臥の男性人骨出土、第 2 遺跡（生仁館跡地区）

【H3 号住】竪穴住居跡、廃屋墓か、第 2 遺跡床中、男性人骨（平安）、伏臥の男性が発見されたとの記載のみ、詳細不明

【弥生人骨】第 2 遺跡、詳細不明、弥生時代後期の仰臥屈葬が 2 体発見されたとの記載のみ、詳細不明

7	生仁遺跡	なまに	弥生後期	森嶋　稔	1994	千曲市

昭和 45 年度の生仁地籍北域の中世城館址「生仁城跡」（東京教育大調査）において弥生時代後期（箱清水式期）の土器群と共に抜歯の行われた頭骨が検出

8	峯謡坂遺跡	みねうたいざか	古代～	茂原信生他	2012	県歴史館

保存は良くない、6 体が出土、1 体は幼児で他は成人、身長は低めだが歯は大きめの集団、SM01 成人男性、SM02 成人性不明遊離歯のみ、SM03 成人女性、SM04 幼児（6 歳以下）性不明、SM05 成人男性、咬耗やや進む、SM06 成人性不明、頭蓋骨の一部のみ。

【土壙墓 SM01】土坑墓、10 歳代後半か・男性、保存状態はよくない、各部が残るが状態は悪い、頭蓋の乳様突起は比較的大きい、歯は M2 までは萌出、M2 にわずかな咬耗、上左M3 は歯槽骨内で未萌出、若い個体だろう、大坐骨切痕は鋭角、大腿骨は比較的残りがよく、推定身長は約 152 ㎝と低い、【発掘所見】頭位は北西、顔は南向、側臥屈葬、土坑内に遺骸を埋置後に人頭大礫が配される、須恵器坏 2、黒色土器坏 2、土師器坏・甕片各 1 が共伴、9C 後半（東條遺跡古代Ⅴ期）

【土壙墓 SM02】土坑墓あるいは溝跡内の土坑か、成人・性別不明、遊離歯のみ残存、上顎歯 10 本、下顎歯 7 本、M3 は萌出し咬耗もやや進んでいる、【発掘所見】SD02（溝跡、時期不明、平安時代遺物多）内を調査中に遺骸発見、掘り込み不明、頭位は北、顔は東向、仰臥伸展葬、周囲に馬骨が散在、担当者は土壙墓（土坑墓）とするが、溝に埋葬された人骨の可能性あり、

【土壙墓 SM03】土坑墓あるいは溝跡内の土坑か、成人・女性、頭蓋骨片が残る、眉間隆起の発達は悪い、乳様突起はやや大きい、歯は M2 まで萌出、M3 は欠損か、M2 の咬耗は進んでいるので成人、大坐骨切痕は女性的、大腿骨の粗線は発達していない、大腿骨からの推定身長は 144 ㎝ほどでかなり小さい、【発掘所見】SD02 内で発見、頭位は北東、顔は南向き、側臥屈葬、時期：人骨片の C14AMS 年代測定 A.D.786±40 年（8～9C）、共伴遺物はないが、奈良～平安時代前期

【土壙墓 SM04】土坑墓あるいは溝跡内の土坑か、6 歳以下の子供・性別不明、乳歯であり、dp2 は萌出済み、M1 は未萌出、頭蓋骨片がある、【発掘所見】SD02 内で発見、掘り込み、頭位や体位、詳細時期不明
【土壙墓 SM05】土坑墓、成人・男性、右側頭骨・上顎骨・下顎骨が残る、歯は M3 が萌出している、大臼歯の咬耗はやや進んでいる、四肢骨は比較的残っている、大腿骨は頑丈で粗線が発達している、大腿骨からの推定身長は 161 ㎝ほど、【発掘所見】仰臥伸展葬か、頭位は北、SD02 内の黒褐色土落ち込み調査中に、住居跡 SB21・22 とともに発見、時期:SB21(9C 後半)を切る、人骨片の C14AMS 年代測定で、1156±40 年(12C)から平安時代後期
【土壙墓 SM06】土坑墓、成人・性別不明、頭蓋骨のみ、保存は悪い、細片、矢状縫合は内外板が癒合している、【発掘所見】頭位は北か、SB17・21(9C 後半)を切る、灰釉陶器などが共伴しているが、人骨片 C14AMS 年代測定で 1536±30 年(16C)、中世か

9	森将軍塚古墳 (3 号石室他)	もりしょうぐんつか	古墳	西沢寿晃	1984	千曲市

※3 号石室:壮年、頭蓋の一部と歯。7号石棺:頭蓋の一部と大腿骨片、成人。50 号石棺:やや残りがよい、上腕骨、橈骨、大腿骨など、歯はかなりある、下 P2 は根尖閉鎖していない、10 歳程度。

【3 号石室】壮年・性不明、側頭骨岩様部と他のわずかな破片、歯は歯冠が残る、M1 の咬耗顕著、齲蝕あり、M3 はやや咬耗している、壮年か、【発掘所見】5C 代か
【7 号石棺】成人・性不明、側頭骨岩様部と破片数点、四肢骨の一部が残るが浸食が顕著、【発掘所見】遺物がなく、詳細時期不明だが、5～6C か
【50 号石棺】10 歳ぐらいの幼児・性不明、骨の保存は悪い、歯はやや残りがいい、歯根が石灰化しているは M1 のみ、10 歳ぐらいか、一部の四肢骨片、【発掘所見】副葬品刀子 1、ガラス小玉 2、5～6C か

10	森将軍塚古墳 (2 号墳)	もりしょうぐんつか	古墳	西沢寿晃	1987b	千曲市

保存は良い、男女一体ずつ、男性は頑丈、柱状大腿骨。

【1 号人骨】壮年男性、保存は比較的よい、全歯槽は残るが歯は脱落している、M3 萌出済、下顎骨は厚く頑丈、上腕骨の三角筋粗面は発達する、大坐骨切痕は鋭角、大腿骨は粗線がよく発達し顕著な柱状性を示す、脛骨はほぼ完形で断面は菱形、推定身長は 159 ㎝

【2 号人骨】壮年女性、下顎骨の体部の一部が残る、歯冠は破損している、大坐骨切痕は浅い、大腿骨の粗線の発達は弱い、きゃしゃである、推定身長は 147～148 ㎝

10	森将軍塚古墳※	もりしょうぐんつか	古墳	西沢寿晃	1992c	千曲市

※11 号埴輪棺はやや若年。3、8、14 号墳等を含む、保存は悪い、3、7、50 号石棺(西沢 1984)、2 号墳(西沢 1987b)既出のため省略

【11 号埴輪棺】若い個体・性不明、下顎歯が 6 本残る(左右の P2、M1、M2)、咬耗はごく軽度で若い個体、【発掘所見】時期:4～5C
【3 号墳】詳細不明、歯は 3 本(上左 M2、下右 C、右 M1)、軽度の咬耗、【発掘所見】横穴式石室、時期:6～7C
【8 号墳】成人・性不明、歯 1 本(上左 C)と脛骨片など、脛骨の骨質は厚い、【発掘所見】横穴式石室、時期:6C
【14 号墳】詳細不明、歯の破片が数点、四肢骨片がわずかに残る、【発掘所見】横穴式石室、時期:7C、ただし、追葬の可能性あり
【後円部石室内排土中】詳細不明、長骨片が 1 点のみ

【REE7 グリッド】詳細不明、全て焼骨骨片

11	湯ノ崎遺跡	ゆのさき	中世	小野紀男	1998	千曲市

中世墓 21 基。18 号土坑:保存は悪い。頭蓋骨の一部と、四肢骨の一部がかろうじて残存していたのみ。この他、3 号古墳より 2 体中世の人骨が出土したとされるが、中世と判断された根拠や形質の所見なし。

【3 号墳石室】まとめに石棺に人骨 2 体とあるが古墳の項に記載はない、時期:6C 末～7C 後半
【18 号土坑】詳細不明、保存状態は悪い、頭蓋骨の一部、四肢骨の一部が残存するのみ

坂城町

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	上五明条里水田址	かみごみょうじょうり	平安※	茂原信生	2011a	坂城町
4 体が出土、保存は悪く主に歯だけが残る、住居出土の 1 体は 8 歳前後、木棺墓の 1 体は 10 代後半女性、ほかは土坑墓か、詳細不明、※10C 後半～11C						
【SK4】木棺墓、10 歳代後半・女性か、1体分があったと思われるが保存が悪く残るの歯はだけ、歯冠のみ、咬耗は軽度、M2 までがありM3 は未萌出か、18 歳前後、歯が小さい、【発掘所見】頭位は北か、副葬品：土師器坏 4、碗 1、甕 1、黒色土器碗 3、鉄製紡錘車 1、鉄鐸 9、時期：10C 後半 【SK643】土壙墓（土坑墓）、6 歳前後の小児、性不明、残っているのは歯だけ、上顎歯の 4 本が残る、どの永久歯にも咬耗はない、エナメル質減形成あり、6 歳前後、【発掘所見】土器片が共伴、時期：平安時代後期以降か 【SB7】竪穴住居跡、8 歳前後の小児・男性か、数本の歯だけが残る、歯冠のみ、乳歯も出土しており混合歯列、8 歳前後、歯は大きい、【発掘所見】カマド周辺から歯が出土、時期：11C 初頭か、住居床面の炭化材（981-1034calAD（2σ）、10C 後半~11C 前半、共伴土器からは 11C 初頭 【SK250】土壙墓（土坑墓）、詳細不明、歯のみが残るが細片化、咬耗はやや進んでいる、詳細不明、【発掘所見】頭位は北か、時期：10C 後半以降					
2	観音平経塚	かんのんだいらきょうづか	古代~中世	茂原信生	1999b	県歴史館
全骨（焼骨）重量約 11 kg（5 体分以上と推測）、40 を越える場所から骨が出土しているが、少量のものが多いためおもな出土人骨について記す、五輪塔は A~I の 9 群あり、うち D~G・I の 5 群の納骨施設がある、焼骨があったピット数 D 群 6、E 群 26、F 群 6、G 群 1、I 群 1 基、経塚に伴う墓壙 2 基（1 号：墓壙、2 号：骨蔵器埋納土坑）						
【E-P20】E 群ピット（小土坑）の納骨施設、詳細不明、焼骨、細片化している、頭蓋骨片、眉弓はやや発達 【E-P23】E 群ピット（小土坑）の納骨施設、詳細不明、焼骨、頭蓋骨片、縫合は鋸歯状で明瞭でさほど高齢ではない、【発掘所見】銅銭 3（開元通寶、政和通寶、熙寧元寶）を副葬 【E-P25】E 群ピット（小土坑）の納骨施設、20 歳代・性不明、焼骨、右下顎骨体が残る、歯は歯根と一部の歯冠が残る、M3 萌出、咬耗はごく軽微 【2 号墓壙】骨蔵器を納めた土坑、詳細不明、骨蔵器内の焼骨、約 1.1 kg、1 体分全てではないがかなりの部分がある、納められ方に規則性はみられない、【発掘所見】経石集積の中央に位置、平面は隅丸方形に近く、扁平な河原石を組み合わせた石槨状の施設、骨蔵器は古瀬戸四耳壺、時期：12C 後葉						
3	保地遺跡	ぼち	縄文後晩期	関　孝一	1966	坂城町
				石川日出志	2002	
				茂原信生	2002	
多数の人骨（17 体分）がでている、5 基の墓址がある（3 号は欠番）、6 号墓址は合葬らしい 2 体とその上に多数の再葬の人骨がでている。それぞれの個体同定は出来ていない、四肢骨についてはほとんど記載していないが、頑丈なものが多い、顔面は一般的な縄文の後晩期人の特徴を示す、C,P1 抜歯が多いが 15 歳程度で抜歯されているものがある、【発掘所見】第 1 次調査では、縄文後期中葉（加曾利 B 式）～晩期前半（佐野式）期の住居跡あるいは配石遺構から、抜歯をした人骨（頭蓋骨）が出土（関 1966、西沢 1982b）、1999 年の調査（2002 年報告）では縄文後期前葉（堀ノ内式）から弥生中期初の土器が出土、墓址の埋土出土土器は、堀ノ内式が多い、時期：縄文後晩期か						
【1 号墓址】配石遺構、3体；老齢なものを含む、性別不明、頭蓋骨と若干の四肢骨、外後頭隆起部が3点でている、最少3体、頑丈な個体；C と P1 の抜歯（上顎骨 No.51）、下顎骨でも C と P1 の抜歯あり、きゃしゃな個体（No.75）、この個体でも抜歯がある、寛骨（No.80）には妊娠痕がある、C だけの抜歯のものもある、個体同定は出来ない、【発掘所見】敷石状の配石部分を 1 号墓址とし、その周辺から人骨も出土、掘り方は確認できない 【2 号墓址】長楕円形の土坑墓、最少3体、性別不明、頭蓋骨片が主、四肢骨片が少数、前頭骨右頬骨突起部が3つある、最少3体、C と P1 の抜歯のものがある、頑丈な上腕骨もでている、個体同定は出来ない、						

【4 号墓址】配石を伴う土坑墓か、頭蓋で最少2体、大腿骨では最少 4 体（7本）、全て成人だろう、性別不明、4点の頭蓋骨片、後頭骨鱗部が2点あり最少は2体、下顎骨も2体分である、下顎骨1；保存悪い、抜歯は不明、咬耗進展、高齢。下顎骨2；上顎と咬合して出土、下顎隆起あり、C と P1 の抜歯あり、咬耗進展、四肢骨；大腿骨が 7 本、いずれも柱状大腿骨、骨折痕あるものあり、脛骨は扁平、【発掘所見】10 隅丸方形の土坑の周りに、取り囲むように隅丸方形の配石遺構あり、土坑と一体の施設か

【5 号墓址】楕円形の土坑墓、成人、性別不明、屈葬、保存悪い、顔面はない、乳様突起は大きい、頭蓋冠の骨は非常に厚い、歯は残らず、下顎骨は頑丈、下顎隆起あり、抜歯は不明、柱状大腿骨（左 No.3）、【発掘所見】頭位は北西、顔は西向き

【6 号墓址】配石を伴う土坑墓か、13 体が出土とされる、A と B は 2 体が全身で並んで出土、その上に再葬の人骨が多数乗っている、再葬のもののと個体識別は出来ていない、【発掘所見】1 号墓址の敷石下から隅丸長方形の土坑を検出、西壁及び北壁の一部には、30cm 程度の円礫が横位に埋設、A の腕が B の下位にあったので、A が先行するものの、A・B 人骨ともに頭位は東と顔は南向きとそろっており、ほぼ同時埋葬

【A 人骨】熟年・男性、保存はよい、仰臥伸展葬、眉弓は発達、乳様突起はやや大きめ、下顎は頑丈で下顎隆起がある、軽度のロッカージョウ、上顎・下顎とも右 C と P1 は抜歯、咬耗顕著、上腕骨は太い、大坐骨切痕は男性的、柱状大腿骨、推定身長（下肢骨）約 163 ㎝、埋葬は A 人骨が B 人骨より下、【発掘所見】頭位は東、顔は南向き、下顎骨下からヒスイ垂飾が出土、

【B 人骨】熟年・女性、保存はよい、仰臥伸展葬、顔面は破損、眉弓は発達せず、乳様突起は小さい、下顎骨は頑丈で下顎隆起あり、短頭、歯の保存は悪い、犬歯は抜歯されるが P1の抜歯はない、咬耗顕著、小さい歯、大坐骨切痕は女性的、妊娠痕もある、粗線は発達していない、脛骨や距骨に蹲踞面あり、推定身長（下肢骨）151 ㎝、【発掘所見】頭位は東、顔は南向き

【G 頭蓋骨】青年～壮年・女性、保存はよい、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、眼窩の傾きは水平、中頭

【H 頭蓋骨】壮年～熟年・女性、保存はよいが顔面は破損、比較的若い個体、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は明瞭、乳様突起は普通、頭蓋はきゃしゃ、上顎では C と P1 の抜歯か、長頭、

【I 頭蓋骨】成人・性不明、保存はよいが顔面は破損、眉弓は発達する、乳様突起は大きい、クリブラ・オルビタリアがある、頭蓋冠の骨は厚い、短頭、さほど高齢ではない、歯は出土してない

【J 頭蓋骨】青年・性別不明、部分的な出土、侵食を受けている、下顎骨の保存はよい、頑丈である、下顎隆起がある、下顎歯の C と P1 が抜歯、M3 に咬耗がほとんどない、

【K 頭蓋骨】年齢不明・男性か、頭蓋冠の後半部が残る、乳様突起基部が残り大きめ、さほど高齢ではない、頭蓋横径は大きい、男性か

【L 頭蓋骨】青年・男性、顔面と頭蓋底は破損、乳様突起はやや大きい、眼窩上隆起は発達が悪い、縫合の鋸歯状は明瞭、さほど高齢ではない、前頭縫合遺残が見られる、長頭

【M 頭蓋骨】15 歳前後・性別不明、頭蓋冠と左右側頭骨や上顎骨が残る、頭蓋冠の骨は薄い、歯は M2 まで萌出、M3 は未萌出（8 割方完成している）、M2 にはわずかな咬耗あり、C と P1 は抜歯、抜歯は 15 歳程度より前に行われていたことを示す

【下顎骨（No.342）】成人・性不明、左側、正中から大臼歯部、M3 部は破損、C の歯槽は閉鎖するが、P1 は抜歯されていない、下顎隆起は軽度、

【下顎骨（N0.509）】壮年・性不明、完形、頑丈で下顎底は水平で角前切痕はない、M3 まで萌出、C と P1 の抜歯、咬耗はやや進んでいる

【下顎骨（No.558）】熟年・性不明、正中付近の下顎、きゃしゃ、全ての切歯は生前に脱落していた、高齢、抜歯については不明

【下顎骨(N0.577)】成人・男性、左の下顎枝を欠く、下顎隆起がある、おとがい隆起が発達、ロッカージョウ、エナメル質減形成あり、C と P1 は抜歯、咬耗はやや進んでいる、男性的

【下顎骨左(No.741)】成人・性不明、右の切歯部から左の下顎枝までが残る、C と P1 は抜歯、下顎底は水平、軽度の下顎隆起あり、

【下顎骨左右(No.966)】熟年・性不明、歯槽の退縮が顕著、高齢、下顎隆起がある、歯は大臼歯部しか植立していなかったらしい、切歯部は全て歯槽閉鎖

【下顎骨(No.996)】成人・女性、左右の下顎体が残る、さほど頑丈ではない、M3 は萌出、軽度の下顎隆起、左 M1 は咬耗顕著、歯根脳胞、女性的
【四肢骨】詳細不明、6 号墓址からは再葬で多数の四肢骨がでている、幼児の大腿骨骨幹(3～4 歳)もでている、

石川(2002)は、1999 年の調査についてのまとめ報告、(塩入ら 2002)のデータから再葬墓の再検討

42	山崎北遺跡	やまざききた	中世後期	茂原信生	1999f	県歴史館

保存状態は悪く、一部で歯が残る。9 基の土壙墓のうち6基から人骨がでた。乳児も残る。保存は悪い、【発掘所見】古墳周溝跡北西部に築かれた東群 2 基と、1 号竪穴住居跡付近に集中する西群 4 基の、東西 2 群を構成

【4 号墓】火葬墓、詳細不明、火葬骨、ごくわずかな骨片、【発掘所見】埋土には炭も含む
【7 号墓】土坑墓か、7～8 歳・男性か、歯だけが残る、混合歯列、乳歯 6 本、永久歯(形成中も含む)が 19 本、M1 は萌出するも咬耗はほとんどない、M2 未萌出、上顎 I2 は顕著なシャベル型、歯が大きい、【発掘所見】底面から 10cm 浮いた位置で歯が出土
【8 号墓】土坑墓、成人・女性か、横臥屈葬、保存は悪い、外後頭隆起はよく発達、側面の一部、側頭骨の錐体、後頭骨、下顎の一部などが残る、歯は上顎歯が 11 本、下顎歯が 11 本残る、M3 は萌出、咬耗顕著、歯は小さい、齲蝕あり、四肢骨は断片的、大腿骨は比較的残る、柱状大腿骨、頑丈、右脛骨は細い、【発掘所見】頭蓋骨の側頭に接し、幅 15cm 程の平石あり、枕石か、頭位はほぼ北、西向きの横臥屈葬、両腕を腹部前で右手上にして交差させ、脚は股と膝を強く折り曲げた姿勢
【12 号墓】土坑墓、成人・女性か、頭蓋骨とわずかな四肢骨、体幹骨が出土、保存悪い、歯は 8 本が残る、歯は非常に小さい、上 I1 はシャベル型、咬耗は軽度でさほど高齢ではない、【発掘所見】頭位は北、顔は南西向き、。銅銭 6 副葬(元祐通寶、開元通寶、聖宋元寶、天聖元寶、永楽通寶、洪武通寶各 1)、中世後期(15C か)
【13 号墓】18 歳前後・女性、屈葬、保存は悪い、左右側頭骨や後頭骨、上顎骨などが残る、乳様突起は小さい、上 M3 は萌出直前、M2 の咬耗は軽度、下 M3 萌出直後、抜歯はない、上腕骨は細い、大腿骨の殿筋隆起は発達するが粗線は発達せず【発掘所見】頭位は北、仰臥屈葬、顔は西向き
【20 号墓】土坑墓、1 歳ほど・性不明、保存悪い、若い個体、頭蓋骨は癒合せず、乳歯列、生後 1 年ほどの乳児、【発掘所見】頭位は北、西向きの横臥屈葬

高山村

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
43	湯倉洞窟遺跡	ゆぐら	縄文早期※	森本他	1986 2001	高山村

1 体分の人骨、早期の人骨は少なく貴重。きゃしゃ、側臥屈葬、追加で 5 体分の部分骨や歯が出土している。※一部に縄文後期～弥生時代人骨を含む

壮年期前半・女性、保存状態はよい、顔面も残る、短頭、縫合の閉鎖はみられない、外後頭隆起の発達は弱い、眉弓の発達は弱い、歯の残りはよい、咬耗は進んでいる、下顎の切歯は唇側に傾斜する顕著な咬耗、M3 萌出、齲蝕はない、下顎長は小さい、下顎隆起がある、下顎枝は広い、四肢骨は細い(きゃしゃ)、上腕骨は細い、寛骨に妊娠痕がある、大坐骨切痕は女性的、柱状大腿骨、上部は扁平ではない、距骨に蹲踞面がある、推定身長(大腿骨:ピアソン式)約 148 ㎝、【発掘所見】浅い墓壙(土坑墓)か、装身具のメジロザメ歯垂飾 1、獣骨製管玉 2 が副葬、その他周辺から海産貝や押型文土器も共伴、Ⅸ層出土時期:縄文早期
【追加縄文早期人骨 a】壮年・女性、左右の上顎骨と歯(13 本)と左下顎枝上半部と遊離した下顎左 3 本が残る、咬耗はやや進んでいる、齲蝕がある、歯は小さい、椎骨の一部、肋骨も残る、上腕骨は細い、大腿骨の骨は比較的薄い、左右不明の大腿骨片が7つある、【発掘所見】以下時期は縄文早期とされるが、出土層位などの記述なし
【追加縄文早期人骨 b】壮年・女性、遊離した上右 P2、咬耗顕著、前者と類似した咬耗(別個体)
【追加縄文早期人骨 c】4～5 歳・性別不明、頭蓋を欠く人骨、上肢では手の骨が中手骨指骨など 15 点、下肢では骨端の未化骨の大腿骨骨幹、腓骨骨体がある

【追加縄文後期～弥生時代人骨 a】壮年・女性、右上顎骨と上右 M1 の破片、M1 は齲蝕、歯周病、M3 未萌出、【発掘所見】出土層位などの記載はないが、縄文後期～弥生時代とされる
【追加縄文後期～弥生時代人骨 e】12 歳前後・性不明、下右 P2 がある、軽度の咬耗で萌出直後と思われる、【発掘所見】出土層位などの記載はないが、縄文後期～弥生時代とされる

信濃町

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
44	日向林B遺跡	ひなたばやし B	室町	春日和彦	1995	信濃町

出土したものはすべて焼骨、土壙から出土、各土壙は 1 体分であろう、同定したものは成人であろう、獣骨は出土していない、形態的な観察は出来ない、【発掘所見】21・23 号土壙は火葬施設、それ以外は火葬墓（火葬骨を納めた墓）か、19・24・25 号土壙には五輪塔が廃棄されていた、時期：五輪塔の年代から室町時代（15C か）

【1・2 号土壙】詳細不明、後頭骨、頭頂骨など、四肢長骨片が全身的にでている、【発掘所見】陶器甕（中津川窯系）、時期：13C 後半～14C
【3 号土壙】詳細不明、頭蓋骨細片が多数、部位は不明、四肢骨の一部
【4 号土壙】詳細不明、前頭骨、頭頂骨片など、下顎骨正中部、四肢骨で同定できたのは上腕骨遠位部のみ、
【5 号土壙】詳細不明、頭蓋と四肢骨片（上腕骨頭など）
【6 号土壙】詳細不明、頭蓋骨片と四肢骨片（脛骨、肋骨、大腿骨片など）
【7 号土壙】詳細不明、頭蓋冠から顔面の一部も残る、四肢骨は全身的な部位がある、
【8 号土壙】詳細不明、頭蓋骨片（左右側頭骨、上顎骨など）、四肢骨片（大腿骨片、脛骨片など）
【9 号土壙】詳細不明、四肢骨片はあるが頭蓋骨片はない
【10 号土壙】詳細不明、頭頂骨、側頭骨などと四肢骨片
【11 号土壙】詳細不明、もっとも保存のよい焼骨、下顎骨はかなり残る、M3 は萌出、下顎骨体は比較的薄い、女性的、
【13 号土壙】詳細不明、頭蓋骨片（後頭骨、前頭骨、側頭骨など）、四肢骨片（大腿骨片、脛骨片など）
【14 号土壙】詳細不明、四肢骨片のみ
【15 号土壙】詳細不明、頭蓋骨（側頭骨、頬骨など）、四肢骨は細片が多数、
【16 号土壙】詳細不明、頭蓋骨の小片
【17 号土壙】詳細不明、前頭骨の右眉上隆起はやや大きい隆起、下顎骨（筋突起、下顎歯、下顎枝など）、四肢骨片、歯根などが残る
【18 号土壙】詳細不明、頭蓋骨片、四肢骨片
【21 号土壙】火葬施設か、詳細不明、頭蓋骨片、四肢骨片、【発掘所見】炭多し、
【22 号土壙】詳細不明、頭蓋骨片、四肢骨片、上顎大臼歯が 1 本、
【23 号土壙】火葬施設か、詳細不明、頭蓋骨片、四肢骨片など多数、永久歯、歯からすると成人か、【発掘所見】炭多し、
【その他】詳細不明、頭蓋骨片、四肢骨片などが残っている

飯綱町

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
45	丸山遺跡	まるやま	縄文前期	高橋桂※	1978	飯綱町

指頭大の人骨 10 数片が検出されているとの記載のみである。※29 号土壙は太田文雄

中信

大町市

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	山の神遺跡	やまのかみ	江戸	茂原信生他	2003	大町市
保存は悪い、1 体分、おもに頭蓋骨と四肢骨の一部が残る。壮年女性か、顎関節症。						
【SK1003】土坑墓、壮年後半・女性、1 体分、保存状態は悪い、攪乱はない、頭蓋骨、四肢骨の一部が出土している、左顔面は消失している、眉弓は発達していない、乳様突起は小さい、外後頭隆起は発達していない、下顎の筋突起は薄い、右下顎頭に病変がある、中頭、歯の咬耗はやや進んでいる、上顎歯は 10 本、下顎枝は 11 本残る、齲蝕がある、M3 萌出、歯槽膿漏、四肢骨では上腕骨・橈骨・大腿骨などがあり、上腕骨では三角筋粗面は発達していない、大腿骨の骨は厚くない、【発掘所見】土葬、頭位北、錆着銭貨 28 枚(政和通寶 1、寛永通寶 4 を含む)、渡来銭が見られることから近世でも初頭か、キセル吸口、受口、羅宇(竹管)が副葬。						

松本市

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	出川遺跡	いでがわ	主に中世	西沢寿晃	1990a	松本市
土葬墓 3 基、火葬墓 4 基がある、土葬墓からの出土は歯のみでいずれも混合歯列の小児。歯の鑑定は轟朝五師、【発掘所見】火葬墓は、いずれも土坑中央部に東西辺に張り出す溝があり、火葬施設の可能性もある						
【土葬墓 1】中世末～近世初、10 歳程度の小児・性別不明、歯だけが残る、羽子板が頭部にそえられていた、上下顎歯が歯列を整えて出土、混合歯列である、乳歯が 8 本(上下左右のdp2 は残る)、永久歯が 7 本残る、【発掘所見】頭位は北か、木の皮が散在、棺などではなく、木の皮にまかれて埋葬されたと推定 【土葬墓 2】時期不明、10 歳程度の小児・性別不明、歯だけが残る、混合歯列である、残存するのは上顎歯のみ、乳歯が 2 本(上左右のdp2)、永久歯が上顎のみしかないが 8 本残る、【発掘所見】頭位は北か 【土葬墓 3】中世末、10 歳程度の小児・性別不明、歯だけが残る、混合歯列、乳歯が上下左右のdp2 が 4 本、永久歯が 10 本である、【発掘所見】銭貨 7(元豊通宝 2、、皇宋通宝 1、聖宗□□ 1、永楽通宝 1)が副葬 【火葬墓 1】中世、詳細不明、焼骨、1 個体分、頭蓋骨片はわずか、長管骨骨幹はやや大型片で残る、きゃしゃ、【発掘所見】銭貨 2(皇宋通宝 1、□元通宝 1)副葬、 【火葬墓 2】中世、詳細不明、微少な焼骨片のみである、橈骨はきゃしゃ、【発掘所見】銭貨 2(元祐通宝 1)副葬、 【火葬墓 3】中世、詳細不明、多量の焼骨片、外後頭隆起は顕著、頭蓋冠の骨は厚い、大腿骨の粗線は発達している、 【火葬墓 4】中世、詳細不明、頭蓋骨の一部、四肢骨が残る、骨質は厚い、黒化している部分がある、【発掘所見】湧水のため詳細な調査不能						
2	内田雨堀遺跡	うちだあめほり	不明	西沢寿晃	1981a	松本市
遺跡は縄文時代だが人骨は後代のもの、出土したものはすべて焼骨で 1 体分、【発掘所見】A2 号と B2 号の住居址があり、前者なら中期後葉、後者なら中期中葉、焼骨ということから、後世の埋葬人骨としているが、後世の遺物は見つかっておらず、縄文人骨の可能性もあろう						
【2 号住居址】詳細不明、焼骨、火葬された後世の埋葬人骨であろう、頭蓋骨片 35 片(左右の側頭骨錐体など)、脊椎骨や上腕骨などが残るが、1 体分と確認できる程度の残量である、						
3	大村古屋敷遺跡	おおむらふるやしき	古代～中世	直井雅尚	1993	松本市
いずれも形質についてはふれられていない、【発掘所見】墓址 4 基が検出されている。1 号墓址から生骨、2・3 号墓址からは焼骨が出土、時期:中世、4 号墓址、生骨出土、時期:古代(平安時代)						
【1 号墓址】表土を剥ぐ際に人骨もかなり削られている、頭位は北、左向き横臥屈葬、室町時代以降、1 体分、四肢骨のおもな骨は確認できるが保存が悪く、取り上げ出来なかったのであろう、【発掘所見】土壙墓(土坑墓)、頭位は北、顔は左向き、横臥屈葬で、肩部付近から永楽通宝 1 出土、時期:室町時代か						

【2 号墓址】火葬墓で壁面は焼土化している、焼骨の小片が出土しただけである、【発掘所見】西辺中央に突出部をもつ火葬墓、西側はとくに被熱赤化、下層から炭や焼骨出土
【3 号墓址】火葬墓、焼骨小片が出土したのみである、【発掘所見】2 号同様に、西辺中央に突出部をもつ火葬墓、西側はとくに被熱赤化、下層から炭や焼骨出土
【4 号墓址】土壙墓、頭位は北、仰臥伸展葬、頭蓋骨や上腕骨・大腿骨などが認められるが、保存が悪く取り上げ不可能、【発掘所見】土坑墓で、木棺墓の可能性がある、頭位は北、仰臥伸展葬か、頭蓋骨は左向き、腕や脚部の上腕骨や大腿骨など太い骨は解剖学的に正しい位置にあった。非常に脆弱、遺存状態悪い、墓坑内の北端部に、灰粕陶器、長頸瓶 1、椀 2、緑釉陶器椀 1、土師器皿 1 点副葬、人骨、土器ともに底面からいくぶん浮いており、棺などの存在が推測されるが、木質などの痕跡はない

4	カニホリ東遺跡	かにほりひがし	中近世	西沢寿晃	2008	松本市

焼骨だけである、全量が約 4.6kg、【発掘所見】68 号を除く古墳 11 基から被熱、表面が黒変・赤化した礫、炭化物や骨片が出土、石室内で火葬が行われた可能性がある、石室内の炭化材（コナラ属）で、放射性炭素年代測定による推定年代（いずれも 1σ、B.P.）は、61 号古墳（420±70）、64 号古墳（440±50）、15C 後半～17 世紀初（中～近世）、中近世の共伴遺物はないが、焼骨を中近世のものと報告者は推定（三村ほか 2008）、但し、古墳時代～古代の可能性もあるので、中山古墳群にも所見掲載

【220 土（カニホリ東）】最少個体2か、詳細不明、焼骨、1898g、ほぼ全身に及ぶ、橈骨頭が2例完存しており、長径が異なるので複数個体があった可能性がある、【発掘所見】共伴遺物ないが、中世か、比較的太くて長い棒状の骨が外周に、その内側には北倶 1 に大きな破片、南側に小破片が検出、長方形の範囲の外周には、南側を除いて平面「U」字形の焼土の堆積が認められた。出土状況から、一旦火葬を行い、焼骨をまとめたと担当者は推測
【61 号古墳】詳細不明、焼骨、11g、指骨がある
【62 号古墳】詳細不明、焼骨、2g、不明
【63 号古墳】詳細不明、焼骨、12g、不明
【64 号古墳】詳細不明、焼骨、1771g、頭蓋骨、上腕骨などほぼ全身におよび鼻散乱状態で出土、胫骨は接合により 10cm ほど、
【66 号古墳】詳細不明、焼骨、561g、頭蓋骨（頭蓋冠片や下顎骨など）、肋骨など、四肢骨はごくわずか、
【67 号古墳】詳細不明、焼骨、6g、不明
【68 号古墳】詳細不明、焼骨、196g、頭蓋骨、上腕骨、大腿骨など、
【69 号古墳】詳細不明、焼骨、2g、不明
【71 号古墳】詳細不明、焼骨、86g、頭蓋骨、他長骨片、
【72 号古墳】詳細不明、焼骨、2g、不明
【73 号古墳】詳細不明、焼骨、82g、頭蓋骨、長骨片など、
【A 区　2T（カニホリ東）】詳細不明、焼骨、4g、頭蓋骨片
【J 区　西部検出面】シカの角

5	北方遺跡	きたがた	中世※	上田典男	1989b	県歴史館

西沢寿晃氏鑑定、1 基の木棺墓と 5 基の火葬墓で細片のみが出土している、【発掘所見】火葬墓あるいは火葬施設には土坑底部中央に溝や張り出しを持つものがあり、火葬骨を土や炭灰などといっしょに掻き出したものと担当者は想定、墓群の副葬品の洪武通寶、時期：中世前半 12～14C か（※）、

【SK539】土葬墓、詳細不明、生骨、曲げ物内にある、上下顎骨と歯が残る、座位あるいは改葬で頭蓋が下に落ちたとされる、【発掘所見】改葬された木棺墓、土坑北東隅から曲物（ネズコ製、推定底径約 40cm）と、内部に上・下顎骨及び歯と銭貨 6（祥符通寶 1、元豊通寶 1、元祐通寶 2、不明 2）
【SK225】火葬施設、詳細不明、焼骨、上層を中心に下層からも出土、頭蓋骨や四肢骨片がある、大腿骨の粗線がやや発達するが性別は不明、火葬施設とされる、【発掘所見】土坑の壁に焼痕、大形の炭化材や焼土が集中、底部に礫が配置、本来は燃焼を促す通気のための間隙があり、土坑内で燃焼か、棒状銅製品 1、銭貨 6（紹聖元寶 1、洪武通寶 2、不明 3）
【SK543】火葬施設・墓、詳細不明、多数の焼骨大形破片が出土している、【発掘所見】壁面に焼痕、覆土には焼土が多量に含まれ、最下層は炭化物と灰で構成される土層が堆積、坑内で燃焼されたが、骨が多量に残ることから火葬施設であり、骨が残されており、副葬品とも思われる銭貨（不明）1 が出土しているので墓として機能したと担当者は推定

【SK548】火葬墓、詳細不明、焼骨片だけが出土している、骨粉に近い状態のものがほとんど、【発掘所見】。炭化物と焼骨片が出土、他の場所で火葬した後、炭化物ごと埋納したか、炭化物の密集する範囲が限られる(有機質の容器に収納か)、担当者は火葬骨を埋納した墓と推定
【SK563】火葬施設・墓、詳細不明、少量、頭蓋骨・上腕骨・橈骨などがある、【発掘所見】壁面に焼痕、多量の焼土、炭化物の集中部あり、銭貨(治平通寶)1も出土、火葬施設兼墓か
【SK564】火葬施設・墓、詳細不明、多数の焼骨片、【発掘所見】壁面に焼痕、多量の焼土、炭化物の集中部あり、銭貨(不明)3、火葬施設兼墓か

6	北中遺跡	きたなか	中世	上田典男	1989a	県歴史館

土葬墓 1 基と火葬墓(火葬施設)8 基、土葬墓に人骨残っていない、西沢寿晃氏鑑定、【発掘所見】墓から出土した銭貨は渡来銭(唐・開元通寶～明・永楽通寶)で、寛永通寶を含まないことから、中世後期か

【SK251】火葬施設、詳細不明、焼骨、頭蓋骨片数点が同定されたのみ、
【SK252】火葬施設、詳細不明、焼骨、2 層から多数の焼骨片が出土、下顎骨を含む頭蓋骨、一部の四肢骨片、手指骨などが残る、【発掘所見】銭貨 4(元豊通寶、洪武通寶、永楽通寶、不明各 1)共伴、
【SK253】墓、詳細不明、焼骨、土坑中央部から出土、細片化し同定できない、別の場所で焼かれたものの埋納場所、【発掘所見】銭貨 3(嘉祐元寶 1、永楽通寶 2)共伴
【SK254】火葬施設・墓、詳細不明、焼骨、3 層から多数の焼骨片が出土、頭蓋の上下顎骨、四肢骨の肩甲骨、指骨と歯が残る、座棺のまま焼かれたと思われる、【発掘所見】釘が多数共伴、木棺のまま火葬、拾骨、集石、土壌堆積(埋葬)という仮定が想定される
【SK256】火葬施設、詳細不明、焼骨、非常に少ない、【発掘所見】銭貨 2(至道元寶、宣和通寶各 1)共伴
【SK257】火葬施設、詳細不明、焼骨、底部から焼骨片が出土、別の場所で焼かれたものが埋納された可能性が高い、【発掘所見】銭貨 3 皇宋通寶、永楽通寶 2)共伴
【SK258】火葬施設、詳細不明、焼骨、多数の焼骨片が出土、上腕骨が同定された、他は細片で同定不可
【SK259】火葬施設、詳細不明、焼骨、頭蓋骨片が同定された、【発掘所見】銭貨 6(皇宋通寶 1、元豊通寶 1、不明 4)共伴

7	牛伏寺遺跡	ごふくじ	江戸	信濃毎日新聞	2012	松本市

新聞記事、本報告はまだ出ていない。多量のヒトの歯 4200 本などが出土、江戸時代のもの、木や石でつくられた入れ歯もあったという、

8	笹賀くまのかわ遺跡	ささがくまのかわ	江戸	西沢寿晃	1982a	松本市

すべて焼骨である

【第 1 号墓址】火葬墓、詳細不明、最も多く出土した、頭蓋骨の一部が 3 片、管状の骨片がやや多い、上顎第二小臼歯の歯根尖が 1 本残る、【発掘所見】寛永通宝 1、棺材と考えられる炭化材、角釘 3 が共伴、方形の土坑内埋土に焼土と炭化物が見られることから、木棺に納められた後に火葬されたか
【第 2 号墓址】火葬墓、詳細不明、きわめて少量、微細な骨片、上顎第 2 小臼歯とみられる歯根が 1 本残っている、【発掘所見】円形の土坑内に、炭化材と焼土が見られることから、座棺のまま火葬されたか
【第 3 号墓址】詳細不明、骨粉状、【発掘所見】土坑内埋土に骨と炭化物が含まれていた

9	笹賀神戸遺跡	ささがごうど	平安後期※	西沢寿晃	1981b	松本市

第 6・18 号墓址から出土、すべて焼骨である、【発掘所見】墓址は 21 基、集石を伴う火葬墓 4 基、集石を伴わない火葬墓 2 基、礫敷の土葬墓 7 基、集石を伴わない(土坑)墓 7 基、大甕に火葬骨を埋葬したもの 1 基、※住居跡内の土師器、灰釉陶器等から 10～11C か

【6 号墓址】火葬施設・墓、円形の礫敷の土坑、底径約 140 cm、厚さ約 30 cm の焼土灰堆積があり、その内部に焼骨と人頭大の石 10 余個、灰釉陶器片 2 を含む、担当者は土坑内で火葬し、そのまま埋葬したと推定する、銭貨 2 枚(熙寧元寶 1、□□元寶 1)、刀子 1 が堆積の上面から出土、鞘に螺鈿細工があり、柄にはベッコウも認められた
【9 号墓址】火葬墓か、焼土灰から焼骨、鉄滓出土
【18 号墓址】集石を伴う土坑墓、灰釉陶器皿 1 が共伴
【19 号墓址】火葬墓、径 50cm の円形土坑、焼土灰から焼骨、鉄滓出土

【6 号・18 号墓址人骨】詳細不明・1 体は若い個体、焼骨、2 個体分についての記載がある。1 個体目：全て細片である、多くは小さな長骨の破片。2 個体目（若い個体）：頭蓋骨は 10 数片が残る、骨は薄いものが多い、縫合は未癒合のものがある、四肢骨では大腿骨片、上腕骨片などが残る、人骨がどの遺構から出土したかの記述はない、

10	三の宮遺跡	さんのみや	中世	望月　映	1990	県歴史館

西沢寿晃教示、墓址 9 基（うち 3 基が火葬墓）から骨や歯が出土した。保存は悪く不明なものが多い。
【発掘所見】中世 1 期：12C 後半～14C 後半、中世 2 期：14C 末から 17C 初

【SK2023】墓、動物の歯が出土、人骨について記載なし、埋葬方法は不明、【発掘所見】埋土の特徴から中世 2 期
【SK2071】火葬施設・墓、壮年・女性、灰層内より大形で多量の焼骨が出土、ほぼ全身にわたっている、【発掘所見】礫床、掻き出し用の溝状突出部あり、主軸、埋土の特徴から中世 2 期
【SK2090】火葬施設・墓、詳細不明、炭層中に焼骨片、火葬施設、人骨かどうかの記載なし、2 回の火葬が行われている、【発掘所見】銭貨（不明）1 出土、埋土の特徴から中世 1 期、
【SK2305】火葬施設、詳細不明、坑底付近に焼骨片、火葬施設、人骨かどうかの記載なし、【発掘所見】青磁碗片と銭貨 3（咸平元寶、元豊通寶、大□□寶各 1）出土、中世 1 期
【SK2509】火葬墓、詳細不明、下層に焼骨片がある、埋納施設と思われる、人骨かどうかの記載なし、【発掘所見】板材起源の炭化材あり、ただし、土坑内には焼痕や焼土堆積がないことから、他所火葬後、炭・灰とともに埋葬か、銭貨 2（熙寧元寶、元豊通寶各 1）出土、中世 1 期
【SK2530】火葬墓、詳細不明、埋土に焼骨片が混じる、人骨かどうかの記載なし、【発掘所見】炭化材や焼骨はあるが、焼痕や焼土堆積がないことから、他所火葬後、本土坑に埋葬か、埋土特徴から中世 1 期
【SK2554】火葬施設、詳細不明、下層にわずかに焼骨片がある、人骨かどうかの記載なし、【発掘所見】焼痕、炭層あり、上層中で古瀬戸折縁深皿片出土、中世 2 期
【SK2640】土壙墓、埋土に骨片が混入する、人骨かどうかの記載なし、【発掘所見】銭貨 2（咸平元寶、皇宋通寶各 1）、砥石 1、中世 1 期
【SK2778】火葬施設、年齢不明・女性、埋土の下層に多量の焼骨片を含む、ほぼ全身にわたる人骨片で女性的、【発掘所見】掻き出し用の溝状突出部、焼痕や炭層あり、粗朶（細かい雑木）起源の炭化材（C14 年代 320±80B.P.）、銭貨 6（元祐通寶 1、政和通寶 1、不明 4）より中世 2 期末

11	中二子遺跡	なかふたご	中世	野村一寿	1989	県歴史館

焼骨が出土している。形態についての記述はない。西沢寿晃氏鑑定、

【SK11】火葬施設・墓、詳細不明、焼骨、中央部に骨片が集中する、頭蓋骨、仙骨、肋骨、上腕骨、大腿骨などがある、1 体分と思われる、【発掘所見】銭貨（不明）3 出土、西辺に溝状の突出部、焼痕あり、

12	中山古墳群	なかやま	古墳	直井雅尚	2004	松本市

第 9 次調査で出土。形態の記載はない。

【57 号古墳】詳細不明、焼骨、まとまって出土しているが分析はされていない、

12	中山古墳群	なかやま	古墳※	西沢寿晃	2008	松本市

11 基から出土している、小片のみのものもある、焼骨、ほぼ全身が出ている古墳もある（64 号墳）、全量約 2,700g、【発掘所見】担当者は、石室内出土炭化材の放射性炭素年代に基づき、石室内の焼骨の年代を中近世と推定、一方で、68 号古墳を除いた 11 基の石室の礫は表面が被熱、黒変・赤化するものがあり、被熱箇所は、石室の壁内面ばかりでなく、外・上下端面等にもみられ、石室構築以前に被熱した可能性も指摘、中山古墳群の範囲内に位置するカニホリ東遺跡の炭焼窯の放射性炭素年代は、5C~10C（古墳時代から平安時代）を示す（三村ほか 2008）、石室内出土品の年代は 7C 後半～8C 前半（※古墳時代終末期～奈良時代前半）であり、それより時期的な遺物はないので、ここに再掲した

【61 号古墳】詳細不明、焼骨、11g、指骨がある、【発掘所見】土師器杯 1・高杯 1、須恵器杯 2、7C 後半
【62 号古墳】詳細不明、焼骨、2g、不明、【発掘所見】須恵器杯 5・蓋 6・長頸壺 1、7C
【63 号古墳】詳細不明、焼骨、12g、不明、【発掘所見】土師器甕・長頸壺、7C 末～8C 前半か
【64 号古墳】詳細不明、焼骨、1771g、頭蓋骨、上腕骨などほぼ全身におよび鼻散乱状態で出土、胫骨は接合により 10cm ほど、【発掘所見】副葬品刀子 1、鏃 6、釘 1 等
【66 号古墳】詳細不明、焼骨、561g、頭蓋骨（頭蓋冠片や下顎骨など）、肋骨など、四肢骨はごくわずか、【発掘所見】須恵器杯 3 点・蓋 4、長頸壺 1、短頸壺 1、7C 末

【67 号古墳】詳細不明、焼骨、6g、不明
【68 号古墳】詳細不明、焼骨、196g、頭蓋骨、上腕骨、大腿骨など、【発掘所見】須恵器杯 3・蓋 2・長頸壺 3、8C 初～前半
【69 号古墳】詳細不明、焼骨、2g、不明
【71 号古墳】詳細不明、焼骨、86g、頭蓋骨、他長骨片、【発掘所見】須恵器蓋 1、～8C 前半か
【72 号古墳】詳細不明、焼骨、2g、不明
【73 号古墳】詳細不明、焼骨、82g、頭蓋骨、長骨片など、【発掘所見】須恵器杯 2・蓋 1 点・長頸壺 1、8C 初～前半

13	新村安塚古墳群	にいむらやすつか	奈良	西沢寿晃	1979b	松本市

10 基中 8 基に人骨が残る、保存は悪い、形質は不明、【発掘所見】8 号墳以外墳丘不明の横穴式石室だが、5～8 号墳から奈良時代の須恵器やとくに 8 号墳からは銙帯金具が出土していることから、奈良時代のもの（再葬）と担当者は想定する

【1 号古墳】詳細不明、骨となってからの再葬、骨は全て細片化している、
【2 号古墳】詳細不明、焼骨、この古墳の中ではもっとも量が多い、頭蓋冠の骨が数点、四肢骨（上肢が多い）などが残る、大腿骨は細い、
【3 号古墳】詳細不明、焼骨、頭蓋の一部（前頭骨眼窩部片）、大腿骨骨頭の一部などが残る
【4 号古墳】詳細不明、この古墳の中では特異な埋葬状態、玄室の西壁よりにかたまって出土した、頭蓋骨の小片、肩甲骨関節窩、頚椎片、橈骨片などがあるが大きな四肢骨片はない、
【5 号古墳】詳細不明、生骨、1 個体分、保存は悪く、クリーニングは出来ない、脛骨、上腕骨などがあり、脛骨は左右が平行して残る、脛骨は頑丈、横臥位、歯の破片もあるが同定できない、
【6 号古墳】40～50 歳代・性別不明、4 カ所に分かれて出土、歯が 1 本（上右 P)残る、咬耗は進んでいる、40～50 歳代か、上腕骨片もある、追葬か、
【7 号古墳】詳細不明、焼骨、数個の細片がだけである
【8 号古墳】20 歳前後・性別不明、保存は極端に悪い、歯が 2 本、1 本は上 M1、もう1本は M、咬耗はない、20 歳前後、人骨の上には後代の馬骨や馬歯が崩落土に混入していた、

14	新村秋葉原	にいむらあきはばら	古墳・古代・近世	西沢寿晃	1983a	※

生骨と焼骨がでている。保存悪く形質の観察は不可能である、【発掘所見】1 号古墳：古墳と古代、B 地点墓址：近世 ※人骨は遺跡近くに再埋葬

【1 号古墳】横穴式石室から出土、2 個体、【発掘所見】図化須恵器 48 点（坏蓋、坏、壺、高坏等）奈良時代
　【人骨 1】熟年・性別不明、焼骨、石室のほぼ中央部、630g、ほぼ全身にわたる出土、頭蓋骨片（側頭骨や下顎骨など）、胸椎・腰椎体に加齢変化の骨棘がある、上肢、下肢骨の一部が残る、大腿骨の粗線は強くはないが明瞭、熟年、【発掘所見】奈良時代の追葬か
　【人骨 2】詳細不明、生骨、床面直上から出土、保存は非常に悪い、10 数片にすぎない、こちらが石室の主体と思われる
【B地点墓址】焼骨はどれも少量、焼骨もあるが形態は不明、【発掘所見】全体で 82 基の墓址が見つかっており、多くの墓址から人骨が出土したとの記述があるが、長期的に墓域として利用されたらしく、激しく攪乱されているらしい、形質の所見があるものは、12 墓址、うち土葬の生骨のものは 5 墓址、おおむね江戸時代
【1 号墓址】詳細不明、生骨、屈葬、全身にわたって残るが保存はきわめて悪い、頭蓋骨は土圧で変形、歯は比較的保存がよい、切歯の切縁が遠心に傾斜する、他の咬耗は不明、大腿骨の粗線は弱い、【発掘所見】土坑（土葬）墓、寛永通寶 4、
【6 号墓址】詳細不明、形質の所見なし、生骨（遺構図には頭骨、歯骨などの表現あり）が出土、土坑（土葬）墓
【8 号墓址】詳細不明、生骨、屈葬、頭蓋は比較的保存がよいが細片化している、乳様突起は小さい、歯は比較的残り下顎左 I1 から M1 までと対応する上顎歯も残るが詳細は不明、下肢が比較的残るが保存は悪い、大腿骨の粗線は幅が広いが隆起は小さい、【発掘所見】土坑（土葬）墓、銭貨 5（寛永通寶 4、不明 1）

【9 号墓址】詳細不明、焼骨、坐位、頭蓋の骨は薄い、乳様突起は小さい、切歯の切縁に咬耗がある、四肢骨は部分的に小さく残る、【発掘所見】銭貨 9(寛永通寶 6、祥符元寶 1、元祐通寶 1、不明 1)、釘出土、土坑(土葬と火葬)墓、上層から焼骨、底部から生骨出土
【10 号墓址】詳細不明、生骨、埋葬位不明、頭蓋骨は数片のみ、歯の残りはよく 22 本が残る、臼歯部の咬合面は平坦化するが咬耗は弱い、歯石が沈着する、他にわずかな四肢骨がある、【発掘所見】銅製飾り金具(帯留)1、銭貨 3(寛永通寶 2、不明 1)、)数珠、釘 1 出土、土坑(土葬か)墓、上層に焼骨が散布し,底部付近から生骨出土
【15 号墓址】詳細不明、ごく少量の細片が残っている(焼骨かどうかの記載がない)、【発掘所見】底部付近から焼骨出土、土坑(火葬)墓か、
【19 号墓址】詳細不明、ごく少量の細片が残っている(焼骨かどうかの記載がない)、【発掘所見】陶器片、釘 2 出土、石がまとまっており、その間に焼骨、図を見ると底部から生骨出土、土坑(火葬・土葬)墓か
【26 号墓址】詳細不明、焼骨、ブロック状に固まって出土、【発掘所見】土坑(火葬)墓
【30 号墓址】詳細不明、生骨、歯だけが残る、6 本が残る、歯冠エナメル質のみが残る、臼歯の咬合面は平坦化する、【発掘所見】銭貨 3(寛永通寶 2、元豊通寶 1)、土坑(土葬)墓
【45・46・47 号墓址】詳細不明、焼骨、頭蓋骨片(外板のみ)、四肢骨片がある。45 号ではほぼ全身の骨がある、【発掘所見】45 号墓址:銭貨 2 出土、46 号墓址:陶器、須恵器片出土、いずれも土坑(火葬)墓
【80 号墓址】詳細不明、焼骨、中手骨や指骨が 10 本ほどと上腕骨片が数点あるだけである。多量の木炭が出土している。【発掘所見】寛永通寶 6、陶器(美濃片口)片出土、土坑(火葬)墓

15	南栗遺跡	みなみぐり	古代・中世	市村勝巳	1990	県歴史館

鑑定は西沢寿晃氏

【古代の遺構】7 基がある、SK200 では人骨はないが金環が出土、SK194 とともに出土遺物からは奈良時代から平安時代初期と推定、のこりの 5 基は平安時代後期、いずれも、土坑墓、土葬か、SK176、193、1069 は木棺墓の可能性がある
【SK176】詳細不明、保存はきわめて悪い、頭位は北、歯は列状に出土しているが溶解が進行している、【発掘所見】副葬品:銅鏡(瑞花双鳥八稜鏡)1 は中央、土師器杯、黒色土器小椀 1、長頸壺 1、灰釉陶器椀 2、皿 4 が南東隅から集中出土、土坑の平面は長方形なので、木棺墓だった可能性が高い、その場合、鏡は棺内、土器は棺外副葬品と思われる、時期:11C 中葉(13 期)
【SK193】詳細不明、保存状態は悪い、歯の一部が確認できただけで歯も溶解が進む、【発掘所見】副葬品:土師器杯 1、灰釉陶器皿 3、南端から集中出土、土坑の平面は楕円形だが、壁は直線的に立ち上がり、木棺墓か、時期:11C 中葉(13 期)
【SK194】詳細不明、南東隅に人骨の細片が出たが同定できず、【発掘所見】副葬品ではないが、須恵器杯、甕片が出土、時期:8C 末～9C 初(5 期)か
【SK349】成人・女性、土葬、頭位は北、歯は歯列を保って出土、上顎は 3 本の大臼歯、切歯、犬歯が残り、下顎は小臼歯が残る、咬耗は進んでいる、成人である、女性であるとの根拠は報告書には示されていない、【発掘所見】底に微量の焼土粒が検出されたが、土葬らしい、副葬品:灰釉陶器椀 1、土師器杯 1 が足元にあたる位置から出土、時期:11C 中葉(13 期)
【SK514】詳細不明、伸展葬、土葬、頭位は北、頭蓋骨、歯、大腿骨片が残るが溶解が進んでおり、詳細は不明、【発掘所見】副葬品:土師器杯 2、盤 1、灰釉陶器椀 1 が頭とその左側に集中出土、時期:11C 後葉(14 期)
【SK1069】詳細不明、埋葬は木棺、頭位は北、歯が 3 点歯列を保って出土、【発掘所見】壁際に木片 2 が残存、木棺墓か、副葬品:黒色土器椀 6、灰釉陶器椀 3、皿 3 が北西部を中心に遺骸を取り囲むように、また、灰釉陶器皿 1 が土坑ほぼ中央から出土、北端からは「紙状の漆」が確認されている、時期:11C 中葉(13 期)

【中世の遺構】6 基、うち 5 基が火葬墓
【SK173】詳細不明、火葬墓、焼骨、骨分が多量に出土したが詳細不明、【発掘所見】副葬品ないが、同様な形態の土坑の年代より、時期:14C 末～17C 初(中世 2 期)

【SK174】詳細不明、火葬墓、焼骨、骨は全体に散布するが南東隅に集中、頭蓋片が確認できるが他は不明、【発掘所見】土坑内が赤化、火葬施設か、副葬品：皇宋通寶 2 が出土、火葬墓としても機能した、時期：14C 末～17C 初（中世 2 期）
【SK175】詳細不明、火葬墓、焼骨、骨片のみで詳細不明、【発掘所見】壁が赤化し、西辺中央に突出部を持つ火葬施設か、副葬品：永楽通寶 1 出土、火葬墓としても機能した、時期：14C 末～17C 初（中世 2 期）
【SK192】詳細不明、火葬墓、骨の出土はない、【発掘所見】東壁上部が赤化、南辺中央に突出部を持つ、覆土上層に焼土が含まれる、下層が埋め戻された後に土坑内で火が焚かれた、火葬施設か、
【SK1015】詳細不明、火葬墓、骨分のみの出土、【発掘所見】壁の一部が赤化、覆土上層に焼土が含まれる、下層が埋め戻された後に土坑内で火が焚かれた、火葬施設か
【SK486】40 歳以上・男性、土葬墓、頭位は北東、屈葬、人骨はこの遺跡にしては比較的残る、歯、上腕骨、大腿骨、脛骨などが一部残る、歯列は整然と残っているが上下顎の位置が逆転している、歯の形態は男性的で 40 歳以上と思われる、【発掘所見】副葬品など共伴遺物ないが、覆土の特徴や古代土坑墓は頭位が真北で本墓坑の頭位は北東とずれることから、中世とされる

16	向畑遺跡	むかいはた	近世以降か	西沢寿晃	1989a	松本市

時代は不詳で近世以降の可能性が高い。保存がいいにもかかわらず頭蓋や椎骨、肋骨を欠く、※土壙 353 と 744 の説明に混乱が見られる、報告書本文と図版では土壙 353 は、木棺状の掘り込みが見られるが、出土人骨はなく、土壙 744 からは多量の人骨が出土したとあるが、西沢論文及び遺構一覧表では、土壙 353 から人骨が出土したとあるので、こちらが正しいと判断した、また、土壙 353 の時期は、人骨の所見から近世以降とするようであるが、古銭が出土した土壙（623、640、642、667、708）及び人骨（焼骨）が出土した土壙 134 は、いずれも 1～1.5m 程度の方形で、立ち上がりも垂直なものが多く、土壙 353 と酷似する、共伴した銭貨は政和通宝、元祐通宝、至元通宝、元豊通宝といった宋銭のみで、明銭や寛永通宝を含まないことから、近世以前とくに中世前期（鎌倉時代）に遡る可能性もある

【土壙 134】【発掘所見】覆土中から多量の焼土と焼骨、底面は被熱し、角礫が敷設されていた、火葬施設・火葬墓か
【土壙 353】壮年以降・男性、頭部、胸部が欠ける、下肢骨が主、屈葬、撹乱を受けている、坐位だろう、M3 萌出しわずかに咬耗している、上腕骨の一部もある、寛骨臼は広い、大坐骨切痕は男性的、大腿骨はほぼ原形を保つ、粗線は中等度の発達、柱状性は弱い、扁平大腿骨、頑丈な脛骨、大腿骨からの推定身長は約 160cm、近世以降の新しい時期の可能性が高い、【発掘所見】方形約 120×90cm の長方形、共伴遺物はない※、
【土壙 744】【発掘所見】頭位は北東、断面の立ち上がりはほぼ垂直、平面形は長方形でとくに中央に 200×60×20cm の長方形の掘り込みが検出された、木片や釘は検出されていないが木棺の設置場所と推定される※、

17	丸山古墳	まるやま	古墳	西沢寿晃	1993c	松本市

玄室内の骨蔵器に収容されたもの、【発掘所見】円墳（積石塚古墳）、1920 年に二木諫蔵が発掘調査（宮坂 1922）、二木氏が磁器の骨蔵器に収容し、古墳に安置したものを回収、再鑑定した、共伴遺物：6C（TK-10 窯式）～7C 代の須恵器、耳環、鉄刀、鉄鏃、時期：6C 中頃～後半築造、7C に追葬か

【玄室内】生骨：壮年・男性、焼骨：年齢不明・男性、生骨と焼骨が 1 体分ずつ混在、生骨：風化して保存は悪い、後頭骨は厚い、下顎骨片、歯は 9 本と歯種不明 2 本、咬耗はさほど進んでいない、四肢骨の残存量は少ない。大腿骨は粗線がやや発達している、残存量は少ない。焼骨：色調の異なる部分がある、焼かれた温度はさほど高くない、頭蓋冠の骨は比較的厚い、歯は弱い火を受けているようで歯冠エナメル質が残る、鎖骨は細い、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は厚い、脛骨は頑丈、ベンガラの付着した大腿骨片が 2 点ある、

18	横田古屋敷遺跡	よこたふるやしき	弥生中期※	ﾊﾟﾘﾉ・ｻｰﾍﾞｲ	2012	松本市

同位体分析がされている。※弥生中期後半～末、【発掘所見】礫床木棺墓 4 基（1～4 号）

【第 4 号墓址（墓 4）】小児、壮年、熟年の 3 体分、いずれも性別不明、木棺墓、焼骨、亀裂の状態から、再葬の骨を焼いたものである可能性がある、少なくとも 3 体（左側頭骨錐体部が 3 点）、壮年より若い個体と熟年の個体を含む、若い個体はM2 歯根が未形成で小児（6～10 歳）である、もう一方の若い個体は

壮年程度、3 世代に渡る、【発掘所見】1～3 号墓址にくらべ大型（2.8×2.1m）、共伴遺物：弥生土器（壺等）破片多数、磨製石鏃 1

塩尻市

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	五輪堂遺跡	ごりんどう	近世	西沢寿晃	1989c	塩尻市
保存状態はよくない。幼児骨が 1 体分、下顎骨の残りはよい、歯の残りはよい、上下顎の切歯は永久歯の混合歯列、椎骨や肋骨は残る、大腿骨全長は 260 ㎜、7～8 歳で性別不明、幼児骨は貴重、						
【第 77 号小竪穴】墓壙、7～8 歳、性別不明、1 体分、横臥屈葬、保存状態はよくない、下肢骨は比較的よく残っている、頭蓋は右が主に残る、土圧をうけている、前頭骨、頭頂骨、後頭骨、上顎骨、下顎骨が残る、歯は植立して残る、混合歯列、上下の切歯は永久歯で切縁にわずかな咬耗あり、乳犬歯から第2乳臼歯までは植立、M1 は上下左右とも萌出，M2は未萌出、大きさについての記述はない、椎骨や肋骨は残る、大坐骨切痕は緩やかな半円状、大腿骨全長は 260 ㎜、左大腿骨の残りは悪い、脛骨の骨端は未化骨、【発掘所見】70～80cm の略楕円形、配置された礫間から人骨が検出、頭位は北、横臥屈葬、副葬品：赤色梅鉢文様の漆器（箱あるいは椀か）が人骨の腹部から出土						
2	禰ノ神古墳	ねのかみ	古墳※	西沢寿晃	1986c	塩尻市
保存は非常に悪い、数個体分の長骨を 2･3 段に積み重ねた再葬、大腿骨片から最少 5 体。男女が含まれる、※時期：6C 後半～7C 前半						
【第 1 号墳】石室内、最少 5 体の男女個体、詳細は不明、保存は非常に悪い、数個体分の長骨を 2･3 段に積み重ねた再葬、長骨の骨端は失われている、上腕骨、大腿骨、脛骨、腓骨の骨幹部が認められ大腿骨は右 4 例、左 5 例があり、左右不明を含めると最少 5 体、頑丈なものやきゃしゃなものがあり男女が含まれていたことが推測される、【発掘所見】葺石を持つ円墳、無袖の横穴式石室、石室内を中心に須恵器や土師器、金環 2、管玉、丸玉、小玉計 59 点や鏡（被熱）1、鉄器（直刀 4、刀子 4、鉄鏃 5、馬具轡、鉸具 20、飾り金具 17、鞍 2 等）出土、盗掘による破壊のため原位置を保っていない、なお同古墳の盛土最下層では焼土址が 3 か所確認され、同層から被熱を受けた鏡片が出土しており、古墳築造前祭祀（地鎮あるいは殯）にかかわるものと推定されている						
3	平出2号墳	ひらいで	古墳か	西沢寿晃	1985d	塩尻市
出土状況は明らかにされていない、1 体分かどうかは不明						
【2 号墳】成人・男性、下右Cと下右M2 の 2 本の歯冠エナメル質が残る、M2 の咬合面は軽度の咬耗、年齢は推定できない、右大腿骨の遠位部と脛骨片が残っている。大腿骨粗線の下方部分（20cm ほど）はさほど発達していないが太く頑丈で男性的、成人であろう。【発掘所見】横穴式石室、直刀、馬具、須恵器、土師器等が出土、						
4	吉田川西遺跡	よしだかわにし	平安※	金原正	1989	県歴史館
焼骨、西沢寿晃氏鑑定、※時期：蔵骨器の年代から 10～11C						
【SM01】火葬墓、詳細不明、焼骨、蔵骨器に埋納されていたもの、下半部に骨が詰まっていた、後頭骨、大腿骨、脛骨、足根骨片などが残る、【発掘所見】須恵器長頸壺を容器とした蔵骨器が土坑内から出土						

安曇野市

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	北村遺跡	きたむら	縄文※	茂原信生	1993a 1994	県歴史館
内陸部の縄文遺跡として非常に重要な遺跡である。日本の縄文時代遺跡でも有数の人骨出土数で、骨の保存は全体的には悪いが形態の確認できるものが多く、長野県の縄文時代中後期人を代表するものである。なお、報告書中に書かれている計測値は土圧などの影響で確実なものとは言えないので注意を要する、※縄文中期末葉～後期中葉、【時期の細分】Ⅰ期：加曾利 EⅢ式、Ⅱ期：加曾利 EⅣ式、Ⅲ期：称名寺式、Ⅳ期：堀之内 1 式、Ⅴ期：堀之内 2 式、Ⅵ期：加曾利 B1 式（いずれも並行期）、中期後葉：Ⅰ～Ⅱ期、後期前葉：Ⅲ～Ⅴ期、後期中葉：Ⅵ期						
【SB555】柄鏡形敷石住居址、詳細不明、頭蓋骨数点、四肢骨数点が出土。どちらも骨は厚い、【発掘所見】土器、石器が共伴、Ⅵ期						

【SB557】柄鏡形敷石住居址、成人（20 歳前後）女性、保存は非常に悪い、仰臥屈葬、骨表面が剥がれている、頭蓋骨は圧平されている，下顎骨は比較的残る、下顎体は薄くきゃしゃ、軽度の角前切痕、M3 は萌出、上顎I1 は歯槽が閉鎖、下顎切歯はある、M3 の咬耗はほとんどない，歯は小さい、【発掘所見】南東部敷石上面から仰臥屈葬人骨出土、頭位は西、廃屋墓か、時期：Ⅳ期
【墓坑：SH】SH は本来は配石遺構の意味で、実際に多くは上面や土坑内に配石（礫）を伴うが、中には配石を伴わないものも SH とされているものがあるので、留意されたい、【上面配石の類型】1 群：周囲に礫を並べたもの（a 類：囲み石内部を数点以上の石で充填、b 類：1～数点、c 類：礫がない、d 類：囲み石が部分的にないもの）、2 群：土坑上面を礫で覆うもの（a 類：全面、b 類：数～10 数点程度まとまる、c 類：散在）、3 群：まとまっていないもの、【墓坑内配石の類型】1 群：底面礫敷（a 類：全面、b 類：長軸片側、c 類：短軸片側、d 類散在）、2 群：底面壁際礫敷（a 類：全周、b 類α：長軸両端部、b 類β：片側、c 類α：長軸に並行両側、c 類β：方側）
【SH501】壮年、性別不明、仰臥、頭蓋骨，歯、上腕骨片が残る。後頭部のみ残る、外後頭隆起は発達しない，歯は下右P2～M2 が残る、咬耗はやや進む、上腕骨の骨幹は太くない、【発掘所見】配石：上面 1d、墓坑 2bβ、底面の南西寄りで頭蓋骨と上腕骨が出土、頭位は南西、石鏃 2、打製石斧 1 共伴、時期：Ⅴ期以降か
【SH502】少年（13～14 歳）、性別不明、保存は悪い。屈葬、頭部では頭蓋の顔面はなく，下顎骨と後頭部のみ、下顎骨はきゃしゃ、歯の残りはよい，上dp2 が残る，M2 の咬耗はない、混合歯列、M3 は未萌出、エナメル質減形成あり、四肢骨は細くきゃしゃ、【発掘所見】配石：上面 1c、屈葬か、頭位は南西、顔はやや右向き下方を向く、時期：Ⅴ期以降か
【SH503】 壮年、男性保存状態はよくない。仰臥屈葬、左顔面部破損、頭蓋冠の骨は厚い，乳様突起は大きい，縫合は未癒合，下顎骨は頑丈、下顎隆起あり。歯は 10 本が残る、咬耗はやや進む，抜歯はない、M3 に咬耗あり、四肢は上肢骨がきゃしゃで下肢骨は頑丈、脛骨は扁平、【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑 2a、頭位は北西、顔は右向き、磨製石斧 1、石鏃 2、土偶 1 共伴、時期：Ⅴ期以降か
【SH504】 2 個体分（A，B）がある、保存は悪い、【発掘所見】配石：上面 1b、頭位は北東、打製石斧 1、石棒 1 共伴、時期：Ⅴ期以降か
　【A 人骨】熟年（40～50 歳）・男性、上半身のみ、うつぶせ埋葬、乳様突起は大きい，眉間隆起は発達、下顎骨は頑丈でロッカージョウ、下顎隆起あり、下顎歯はおもに歯根が残る、M1 は頬側の磨耗顕著、抜歯はない。上腕骨は頑丈、尺骨の回外筋稜が発達、【発掘所見】頭位は北東
　【B 人骨】年齢不明（成人）・男性の可能性が高い、下半身のみ、屈葬、大腿骨は頑丈（推定身長約 160cm）、脛骨は扁平、【発掘所見】頭位は南西か
【SH505】成人・男性、保存は悪い、屈葬、頭蓋と下肢骨のみ、頭蓋は細片化、表面が脱落している、骨は厚い，外後頭隆起は発達、下顎は厚い、M3 は生前脱落か、エナメル質減形成あり、成人、大腿骨と脛骨の骨幹中央部が残る、大腿骨の粗線の発達は普通、【発掘所見】配石：上面 1b、頭位は南西、仰臥か、石鏃、石錐各 1 共伴
【SH507】壮年（30～40 歳・男性、保存はよくない、仰臥屈葬、全身がある、乳様突起はやや大きめ、下顎は頑丈、ロッカージョウ、軽度の下顎隆起がある，左M1 に歯根膿包、下左M3 は水平智歯、咬耗は全体にやや進んでいる、抜歯はない、33 歳前後、椎骨に加齢変化はない、上腕骨は三角筋粗面が発達、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨の粗線はあまり発達せず（推定身長約 160cm）、脛骨は頑丈、【発掘所見】配石：上面 1a、墓坑 2bβ、頭位は北西、顔はやや右寄り下向き、頭蓋骨の下に枕石、埋土より打製石斧 1 出土、時期：Ⅳ期以降
【SH508】熟年・男性、甕かぶり、保存はよいがもろい、埋葬姿勢は不明、頭蓋はほぼ残る、土圧でやや圧平されている、眉弓はよく発達する、鼻根部は深い、外後頭隆起は発達、頭蓋の縫合は癒合が進んでいる、下顎に抜歯はない、歯の咬耗は顕著で臼歯のエナメル質（文中は象牙質となっている）も消失している、上腕骨は頑丈、大坐骨切痕は鋭角、大腿骨の残りは悪い、柱状性は低い、脛骨は頑丈、【発掘所見】配石：上面 2a、墓坑 2cβ、顔面に土器片がかぶせてあった（甕被り葬）、搬送時に破損のため姿勢などは不明、時期：Ⅳ期
【SH512】青年（25～30 歳）・女性、保存はよくないがほぼ全身が残る、屈葬、顔面の保存は悪い，前後に圧平されている、乳様突起は大きくない、下顎隆起がある、歯は上顎が 8 本、下顎が 11 本残る、エナ

メル質減形成がある、咬耗から 25～30 歳程度、大坐骨切痕は中間的、脛骨からの推定身長は約 154cm、【発掘所見】配石：上面 2c、墓坑 2bβ、頭位は北西、顔面やや右寄り下向き、時期：Ⅳ期以降
【SH515】青年（25～30 歳）・女性、保存は悪い、頭蓋と下肢の一部が残る、下肢部に撹乱あり、顔面は破損、乳様突起は大きくない，骨も薄い、歯は臼歯部が比較的残る、咬耗から 25～30 歳代、上腕骨はきゃしゃ、大腿骨の粗線はやや発達している，脛骨は扁平，下肢骨は別個体の可能性もある、【発掘所見】配石：上面 1c、頭位は南東、顔面やや右寄り下向き、屈葬か、埋土から石鏃 1 出土、時期：Ⅳ期以降か
【SH517】2 体分が埋葬されている（同時埋葬）、【発掘所見】配石：上面 1c、頭位は南、共伴遺物：石皿 1、磨石類 2、埋土に石鏃 1、時期：Ⅴ期以降（SB552 の上位）
【A 人骨】少年・女性、うつぶせ、顔面は比較的よく残る、土圧を受けている、乳様突起は大きくない、縫合は明瞭、歯の保存はよい、下右M3 は水平智歯、咬耗は少ない，歯は小さい、18～20 歳の少年、上腕骨は細い，大腿骨は粗線は発達していないがやや頑丈，殿筋隆起が見られる、脛骨は扁平，若い女性。
【B 人骨】保存は悪い、横向きの屈葬、体幹の骨はほとんどない、頭蓋は部分的にしか残っていない、歯は上右dp2 が残る混合歯列、歯は大きめ、咬耗はごく軽度、11～12 歳程度
【SH518】 保存は悪い、側臥屈葬、2 体が混在している、【発掘所見】配石：上面 1b、墓坑 2a、共伴遺物：磨石 2、打製石斧 3、石鏃 3、時期：Ⅴ期以降（SB552 の上位）
【A 人骨】熟年・女性、頭蓋はやや圧平される、乳様突起は大きいが厚くない、眉間隆起は小さい、角前切痕はない、歯の咬耗はやや進んでいる，抜歯はない，40～50 歳、女性。【発掘所見】頭位は南西、側臥屈葬、顔は左向き
【B 人骨】年齢不明・女性、下肢骨のみが出土、屈葬、大腿骨は細くきゃしゃ、殿筋隆起は小さい，女性、【発掘所見】土坑内に混在
【SH520】老年・性別不明、保存は悪い、頭蓋は土圧でつぶれている、仰臥屈葬、頭蓋の骨は薄い，下顎隆起がある、おとがい隆起も顕著、歯の咬耗は顕著、抜歯はない、60 歳以上、四肢骨は観察に耐えるものは少ない、大腿骨は頑丈、【発掘所見】配石：上面 1c、頭位は南西、共伴遺物：石鏃 1、時期：Ⅴ期以降か
【SH521】20 歳前の女性、全身の骨格が残る、仰臥屈葬、頭蓋は土圧を受けている、眼窩上隆起は発達していない、乳様突起は大きい、縫合は鋸歯状が確認できる、下顎骨は頑丈，下顎枝は立っている、歯にエナメル質減形成はない、下顎はM3 まで萌出、咬耗は少ない，20 歳前後、四肢骨は頑丈、上腕骨は太い、鎖骨が長い、大坐骨切痕は 90 度に近く女性的、大腿骨はやや頑丈，粗線は発達せず、女性の可能性が高い、【発掘所見】配石：上面 1b、墓坑 2a、頭位は南西、顔面は右向き、頭蓋骨の下に枕石、共伴遺物：丸石 1、磨石 4、時期：Ⅴ期以降か
【SH522】高齢・男性、土器内の焼骨、1 体分、頭蓋骨は数 cm の破片化、乳様突起は大きい、歯冠エナメル質は失われているが象牙質から判断して咬耗は進んでいた，若い個体ではない、鎖骨はさほど頑丈ではない、肩峰端に加齢変化の骨増殖がある、大腿骨の粗線はよく発達、骨の色は多様、【発掘所見】配石：上面 2a、土坑内に焼骨が納められた深鉢形土器胴部が埋設、時期：Ⅵ期
【SH523】成人・性別不明、頭蓋骨片のみの出土、頭頂骨と後頭骨、外後頭隆起は大きくない、頭蓋の縫合は癒合が完了せず、成人であろう、【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑 2bβ、土坑の底面南西よりから頭蓋骨出土、共伴遺物：石皿 1、磨石 2、時期：Ⅴ期以降か
【SH524】年齢不明・性別不明、下肢骨のみが出土、大腿骨骨幹中央部、粗線はやや発達、【発掘所見】配石：上面 1a、底面南西寄りから下肢骨出土、頭位は北東か（但し上半身を欠く）、共伴遺物：磨石 1、石鏃 1、時期：Ⅴ期以降か
【SH534】熟年・女性、頭蓋骨を含む上半身が欠ける、保存はよくない、仰臥屈葬、椎骨の残りは悪いが椎体の骨棘が見られる、上腕骨はきゃしゃ、大坐骨切痕は大きく，耳状面も高い、妊娠痕がある、大腿骨上部は扁平、殿筋隆起は明瞭、脛骨は扁平ではない、下肢骨での推定身長は約 154cm、【発掘所見】配石：上面 2c、頭蓋骨は欠く、推定頭位は北東、共伴遺物：磨石 2、石鏃 1、
【SH536】少年・性別不明、長骨が 2 本出土している、左右の大腿骨であろうが非常にきゃしゃ、左右不明の腓骨もある、【発掘所見】配石：墓坑 1d、、下肢骨のみだが、推定頭位は南西、仰臥屈葬か、詳細時期不明

【SH538】年齢不明・性別不明、頭蓋の一部と下肢の一部が出土している、屈葬、頭蓋は後頭部のみが残る、頭頂骨は薄い，右大腿骨と脛骨が残る、大腿骨は太くなく粗線は発達していない、【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑：2a、頭位は南西、仰臥屈葬か、時期：Ⅴ期以降か
【SH540】5 歳程度の幼児・男性の可能性が高い、頭蓋骨と長骨片だけが残る、保存は悪い、顔面は右向き、歯は乳歯列、下顎左M1 は萌出直後、5 歳前後、M1 は非常に大きい、【発掘所見】配石：上面 1a、墓坑 1d、底面南西よりから頭蓋骨出土、顔は右向き、共伴遺物：石鏃 2、時期：Ⅴ期以降か
【SH542】少年・女性、保存は悪い、1 体分、体幹の骨はない、仰臥屈葬、頭蓋冠はほとんどない、顔面は残る、眼窩上隆起は発達していない、下顎骨は頑丈、歯は上下顎ともM3 未萌出、M2 の咬耗は軽度で萌出直後か、エナメル質減形成がある、13～14 歳程度、歯が小さい，女性の可能性が高い、【発掘所見】配石：上面 1c、頭位は南東、顔は下向き、共伴遺物：土器片、時期：Ⅴ期以降か
【SH545】壮年・男性、保存は悪い、一部の骨しか出土していない、頭蓋では上顎歯槽部と下顎の右側が残る、歯は上下顎とも前歯部が破損、大臼歯は咬合面が平坦化している、エナメル質減形成が顕著、咬耗から 30～35 歳程度、四肢骨は上腕骨遠位部が残る、きゃしゃである、寛骨も一部が残る、大腿骨は頑丈、上部は扁平で粗線は幅が広い、上半身と下半身の頑丈さが異なる、【発掘所見】配石なし、頭位は北西
【SH549】 頭蓋骨が 2 つ出土、四肢骨は下肢骨のみ、【発掘所見】配石：墓坑 1d、B 人骨の下位から A 人骨が出土、共伴遺物：石鏃 4、打製石斧 1、刃器 1、小型土器 1、
【A 人骨】熟年・男性、眉間隆起は発達、乳様突起は大きい、頭蓋冠の骨は厚い、下顎骨は比較的頑丈、歯では下顎歯はほとんど失われている、歯槽に抜歯の痕跡はない、M2 までの咬耗は顕著で 40～50 歳代、大腿骨は左右それぞれ 2 本ずつ、脛骨が左右 1 本ずつ残る（頭蓋との対応は出来ない）、大腿骨では上部が扁平なものもある，特に頑丈ではない、熟年男性、【発掘所見】牙製装身具が伴うか
【B 人骨】青年（20 歳代）・性別不明、やや土圧を受けており、顔面はない、外後頭隆起は発達していない、縫合骨がある、高齢ではない
【SH550】壮年・女性、保存はよくない、ほぼ全身が残る、仰臥屈葬、頭蓋では右の下顎体が残る，薄い、歯は下右M1～M3 が残る、咬耗はやや進んでいる、30～40 歳代、上腕骨は細く三角筋粗面は発達しない、大坐骨切痕は大きく女性的、土圧でやや変形している、大腿骨は普通、上腕骨での推定身長は約 151cm、【発掘所見】配石：上面 1a、墓坑 2a、共伴遺物：石鏃 2、刃器 1、磨石 2、打製石斧 1、時期：SB533 を切るので、Ⅴ期以降か
【SH552】【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑 1a あるいは b、底面北東隅より長幹骨が出土、部位は特定できず、共伴遺物：磨石 6、打製石斧 1、Ⅴ期以降か
【SH555】保存は悪い、頭蓋骨、一部の四肢骨と 2 個体分の歯がでている、【発掘所見】配石：上面 1b、鉢形土器の下位から頭蓋骨片が出土、甕被り葬、共伴遺物：石鏃 15、打製石斧 1、時期：Ⅵ期
【A 人骨】甕かぶり、頭蓋の顔面は破損、外後頭隆起はやや発達、乳様突起は大きくない、下顎は頑丈ではない、歯は 10 本が残る、咬耗はやや進んでいる，30 歳代前半、四肢骨は大腿骨と脛骨が残る，大腿骨はきゃしゃ、粗線はやや発達、上部は扁平ではない、脛骨は扁平、
【B 人骨】歯だけが残る、保存はよい、上顎は 10 本、下顎は 12 本が残る、側切歯はシャベル型、臼傍結節がある、歯石が付着する、咬耗はさほど進んでいないが大臼歯部に特殊な磨耗がある、M3 の咬耗はわずか、歯はやや大きい、男性か
【SH558】成人（さほど高齢ではない）・性別不明、保存は悪い、頭蓋と下肢骨が出土している、頭蓋の左半分は失われている、眉弓はさほど発達していない、鼻根部は凹んでいる、下顎骨では軽度の下顎隆起がある、角前切痕はない、歯：上右M2 以外は破損、下左Cと P1 の歯槽は閉鎖している（抜歯かどうかは不明）、M2 の咬合面は平坦化している、咬耗は軽度、さほど高齢ではない、大腿骨の粗線は発達しないが，殿筋隆起は顕著、上部は扁平，成人、【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑 2a、頭位は南か、共伴遺物：小形磨製石斧 1、石鏃 1、打製石斧 2、磨石 2、刃器 2、時期：Ⅴ～Ⅵ期
【SH559】熟年・女性、保存は悪い、仰臥屈葬、頭蓋は土圧で左右に圧平されている、外後頭隆起は発達していない、顔は低い、矢状縫合やラムダ縫合の一部が癒合している，高齢、下顎骨はきゃしゃ、角前切痕はない、軽度の下顎隆起がある、歯：上顎歯は破損して失われている、下顎の歯槽は確認できる、上腕骨は細くきゃしゃ、右大坐骨切痕は 90 度に近く女性的、大腿骨は比較的頑丈，上部は扁平、女性の

可能性が高い、【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑 1b、頭位は南、顔は左向き、共伴遺物：磨石 3（内 1 点は骨盤密着）、石鏃 1、台石 1、時期：Ⅴ～Ⅵ期
【SH567】【発掘所見】配石：上面 1b、底部南東から下肢骨が出土、共伴遺物：石鏃 1、刃器 1、時期：Ⅳ～Ⅵ期
【SH573】青年（20 歳代前半）・女性、保存は比較的よい、仰臥屈葬、頭蓋は前後方向に土圧を受ける、顔面は低い、乳様突起は大きく厚い、下顎骨は頑丈で角前切痕はない、歯はすべての歯が萌出している、上 I1 はシャベル型、咬耗は軽度である、齲蝕がある，エナメル質減形成がある、四肢骨はよく残る，鎖骨はきゃしゃ、上腕骨は太くない、大坐骨切痕は女性的、大腿骨上部は扁平ではない、アレン頚窩がある、脛骨は扁平である、大腿骨での推定身長は約 145cm、20～25 歳程度、【発掘所見】配石：上面 2c、墓坑 2cα、頭位は北東、時期：Ⅳ期
【SH578】【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑 2a、底面北よりから頭蓋骨出土、保存が非常に悪く、姿勢不明、共伴遺物：石皿 1、磨石 2、石鏃 2、磨製石斧 1、石錐 1、蛇紋岩研磨礫 1、時期：Ⅵ期
【SH580】年齢不明・性別不明、保存は非常に悪い，頭蓋骨は取り上げ不能、下肢長骨片が 2 点ある、ともに大腿骨で、ややきゃしゃである、【発掘所見】配石：上面 2c、墓坑 2a、底面南西から頭蓋骨、北東から下肢骨出土、頭位は南西か、共伴遺物：磨石 1、時期：Ⅴ～Ⅵ期
【SH596】【発掘所見】配石：上面 2b、底面北寄りから下肢骨のみ出土、推定頭位は南、下肢骨（大腿骨・腓骨・脛骨）の位置から膝は屈曲、屈葬か、時期：Ⅴ～Ⅵ期
【SH599】【発掘所見】配石：上面 1c、底面南寄りから頭蓋骨が出土、保存が悪く、姿勢不明、時期：Ⅵ期
【SH606】成人・女性、保存は非常に悪い、寛骨から下肢の一部が残る、埋葬姿勢は不明、大腿骨はむしろ細く女性的、上部は扁平、脛骨は残るが詳細不明、【発掘所見】配石：墓坑 2cα、底面より仰臥人骨出土、共伴遺物：打製石斧 1、時期：SB552 より古く、Ⅰ～Ⅴ期
【SH607】保存は比較的よい、ほぼ全身が出土、甕かぶり、仰臥屈葬、SH517 より下層、頭蓋骨では顔面は細かく破損、頭蓋冠の骨は薄い，縫合は鋸歯状が明瞭、まだ若い個体、【発掘所見】配石：墓坑 2cα、頭位は北西、顔面は正面で、上に深鉢形土器胴下半部を逆に被せ、頭蓋骨下に枕石、時期：Ⅲ期
【SH616】青年（20～25 歳）・女性、保存は非常に悪い、仰臥屈葬、頭蓋では顔面部は欠ける、外後頭隆起は発達せず、下顎に角前切痕はない、下顎角がやや張り出している、歯は上顎 I1、I2 歯槽はある（上顎骨前歯部は発掘時には観察可能）ので抜歯はない、切端咬合、咬耗は全体に少ない、M3 の磨耗は軽度だが咬合面全体が磨耗している、20～25 歳、四肢骨の残りは悪い、上腕骨はやや頑丈、上腕骨に基づく推定身長は約 147cm、【発掘所見】配石なし、頭位は南、顔面は正面、共伴遺物：石鏃 1
【SH620】熟年・性別不明、歯だけが残る、上顎大臼歯がありどれも咬耗が進んでいる，50 歳代、【発掘所見】配石：上面 2b、墓坑 1d、共伴遺物：磨石、焼骨（人骨かどうか不明）があったとの記述あり
【SH627】3 体分がある、C は下肢骨のみ【発掘所見】配石：上面 3、共伴遺物：石鏃（あるいは石錐か）1、時期：Ⅳ～Ⅵ期
【A 人骨】成人・女性、保存は悪い、頭蓋は頭頂方向からの土圧を受けている、乳様突起は小さい，下顎に抜歯はない、上腕骨はきゃしゃ、大腿骨は太くないが粗線は発達する（付け柱状）、骨は厚い、脛骨は土圧で圧平されている、大腿骨から推定される身長は約 156cm、成人、女性の可能性が高い、【発掘所見】頭位は北、顔は下を向く
【B 人骨】成人・男性、うつぶせの埋葬、保存は悪い、A と並んでいる、頭蓋は細片化、眉間隆起は発達、乳様突起は大きい，四肢骨は左上肢だけで下肢はない、上腕骨は頑丈で三角筋粗面は発達する、上腕骨での推定身長は約 157cm、男性であろう、【発掘所見】頭位は北、
【C 人骨】年齢不明・男性、寛骨と大腿骨だけである、大腿骨は頑丈で太い，粗線は発達しているが付け柱状ではない、殿筋隆起が発達する、脛骨も太く頑丈，男性、B 個体の前に埋葬されていた、【発掘所見】B に先行する
【SH638】壮年・男性、保存は非常に悪い、全身の骨格が残る、仰臥屈葬、土圧で前後ならびに横につぶれている、顔面は破損している、頭蓋冠の骨は厚くない、下顎骨の角前切痕はない、歯では少なくとも下顎に抜歯はない、咬耗はやや進んでいる，30～35 歳程度、エナメル質減形成が顕著、上腕骨は太くて頑丈、大坐骨切痕は鋭角で男性的、上腕骨からの推定身長は約 146cm、【発掘所見】配石なし、頭位は南、顔は右向き、時期：Ⅰ～Ⅲ期

【SH644】年齢不明・性別不明、下肢骨のみが残る、右大腿骨骨幹だけが同定できた、頑丈で粗線は発達する、殿筋隆起は発達してない、【発掘所見】配石：墓坑 2bα、底面から深鉢形土器下半部が出土するが、この遺構の共伴遺物ではないという、時期：Ⅳ～Ⅵ期
【SH646】【発掘所見】配石なし、底面西壁寄りから下肢骨出土、上半身欠、共伴遺物：石鏃 1
【SH652】青年（25～30 歳）・男性、仰臥、保存は悪い、頭蓋は土圧で圧平されている、外後頭隆起はやや発達、おとがい隆起は顕著、歯は 7 本残る、咬耗はやや進んでいる、25～30 歳程度、上腕骨は比較的太い、大腿骨は太く頑丈、粗線は発達し付け柱状である、【発掘所見】配石：上面 1b、仰臥伸展か、頭位は北西、顔は右下向き、共伴遺物：磨石 1、時期：SB561 の上層、Ⅴ～Ⅵ期
【SH657】【発掘所見】配石なし、仰臥屈葬、頭位南西、顔は下向き
【SH659】熟年・男性、甕かぶり、仰臥屈葬、顔面は細片化，頭蓋の骨は全体に厚い、乳様突起は大きい、おとがい隆起は顕著、男性的、歯は下左 M1 以外の歯冠は残っていない、下顎左右I1 部の歯槽は退縮、抜歯の可能性もある、エナメル質減形成がある、咬耗は進んでいる，40 歳以上、大腿骨は頑丈で粗線は発達し付け柱状である、殿筋隆起がある，脛骨は扁平、【発掘所見】配石：上面 3、頭位は北西、顔は正面を向く、共伴遺物：土器 1、打製石斧 1、時期：Ⅳ期
【SH674】青年（20 歳代後半）・女性、保存は悪い、頭蓋の一部と下肢骨の一部が残る、頭蓋は細片で観察不能、歯は上顎の大臼歯部が出土している、咬耗は少ない，20 歳代後半～30 歳程度、歯は大きくない、エナメル質減形成がある、大腿骨はあまり太くない、女性の可能性がある、【発掘所見】配石なし、時期：Ⅰ期
【SH682】【発掘所見】配石なし、底面南西側から頭蓋骨出土、骨片が散乱、時期：Ⅱ期以降か
【SH692】少年（13～14 歳）・女性、頭蓋骨と椎骨の一部が残る、仰臥屈葬、保存は悪い、頭蓋は前後方向に圧平されている、外後頭隆起は発達せず、縫合は明瞭、下顎骨はきゃしゃ、歯は未萌出のM3 以外はすべて残る、抜歯はない、M2 は萌出、M3 は歯槽内、咬耗は軽度、13～14 歳程度、四肢骨では上腕骨はきゃしゃ、三角筋粗面もほとんど発達していない、近位骨端は癒合していない、15 歳前後、上腕骨からの推定身長は約 141cm、女性の可能性が高い、【発掘所見】配石：上面 2c、頭位は北西、共伴遺物：石鏃 1、磨石 1、時期：Ⅳ～Ⅵ期
【SH693】成人・女性、保存は悪い、屈葬、顔面は破損、頭蓋は横に圧平されている、乳様突起はやや発達している、外後頭隆起は発達せず、下顎骨はきゃしゃ、角前切痕はない、歯は出土していない、下顎骨に歯根の一部が残る、大腿骨はきゃしゃで粗線も顕著ではない、腓骨は細い、さほど若くはない、【発掘所見】配石：上面 1c、顔面は右向き、頭蓋骨の右側から鉢形土器が出土、本来顔面に被せられていたものか、体幹の上に平石、共伴遺物：鉢形土器、磨石 2、打製石斧 1、土偶 1、時期：Ⅵ期
【SH694】 2 体分が出土、A が下層、取り上げは出来なかった、【発掘所見】配石なし
【A 人骨】成人・性別不明、頭蓋骨は前後に土圧を受け破損している，頭蓋冠の骨は厚め、上腕骨は普通の太さ、大腿骨の粗線はやや発達、成人
【B 人骨】年齢不明・性別不明、頭蓋骨と下半身だけが出土、保存は悪く取り上げ不能、頭蓋冠はやや厚め、下顎体は薄い、
【SH698】【発掘所見】配石なし、底面東寄りから下肢骨片出土、頭位は西北西か、時期：SB561 の上位、Ⅴ～Ⅵ期
【SH700】【発掘所見】配石：墓坑 1d、底面直上から骨片が多少に出土、部位などは不明、時期：SB559 を切る、Ⅴ～Ⅵ期
【SH703】成人・男性、保存は非常に悪い、四肢骨はほとんど取り上げられない、仰臥屈葬、頭蓋は前後に圧平されている、鼻根部は凹んでいる、乳様突起は大きい、外後頭隆起は発達せず、下顎は左側が欠ける、下顎枝角は大きめ，歯は取り上げ不能、歯槽から判断して抜歯はない、咬耗はかなり進んでいる，上腕骨は太い、大腿骨は太くて頑丈、上部は扁平ではない、軽度の殿筋隆起、男性的だが、外後頭隆起が小さいなど女性的な面もある、【発掘所見】配石：墓坑 2a、頭蓋骨は底面西寄りで出土、頭位は西か、共伴遺物：磨石 1、時期：Ⅰ～Ⅴ期
【SH709】熟年・女性、保存は悪い，上半身だけが出土、左顔面は破損、仰臥、外後頭隆起も目立たない、頭蓋冠の骨は薄い、下顎隆起が見られる、歯は M3 が萌出している、下左 M1、M2 は生前に脱落している、咬耗は進んでいる、かなりの高齢（50 歳以上）、上腕骨はさほど太くない、橈骨も女性的、【発掘

所見】配石なし、底面の北西側から上半身の骨出土、頭位は北西、時期：SH606 に切られるので、Ⅴ期以前、Ⅰ～Ⅴ期
【SH711】熟年～老年・男性、保存は悪い、仰臥屈葬、歯は残っていない、顔面は破損、頭蓋の縫合は癒合が進んでいる（熟年～老年）、大腿骨は太く頑丈だが粗線は発達していない、上部はやや扁平、脛骨は扁平ではない、大腿骨から計算した推定身長は約 169cm である、かなり高身長、【発掘所見】配石なし、頭位は南西～南、顔面は右向きか、共伴遺物：石鏃 1、時期：SB553（Ⅵ期）以前、Ⅰ～Ⅴ期
【SH714】成人・女性、歯と下顎骨はない、仰臥屈葬、頭蓋は斜め方向に圧平されている、眉弓がやや発達、乳様突起は大きいが薄い、前額部は垂直で女性的、大腿骨は普通、【発掘所見】配石なし、底面の西寄りに頭蓋骨が出土、頭位は西か、時期：Ⅳ～Ⅴ期
【SH717】 2 体が重なって埋葬されている、上層が A、下層が B、【発掘所見】配石なし、時期：Ⅰ～Ⅴ期
【A 人骨】成人・女性、頭蓋骨はない、屈葬で左上肢は腰付近に伸はしている、大坐骨切痕は直角に近く女性的、妊娠痕がある、大腿骨はさほど太くない、上部はやや扁平、【発掘所見】仰臥屈葬、頭位は北、
【B 人骨】成人・男性、歯は残っていない、頭蓋は土圧でひしゃげている、乳様突起はやや大きめ、頭蓋冠の骨はやや厚い、ラムダ縫合は癒合していない、下顎隆起がやや発達している、下顎骨の歯槽では小臼歯より前に抜歯はない、大腿骨の粗線は発達し付け柱状である、男性の可能性が高い、【発掘所見】頭位は北西
【SH730】年齢不明・性別不明、左大腿骨骨幹上部のみ、太く頑丈だが詳細不明、【発掘所見】土坑の形態、法量の記述なし
【SH735】青年（25～30 歳）・女性、ほぼ全身が確認できるが保存は非常に悪い、仰臥屈葬、頭蓋は土圧を受けている、外後頭隆起や乳様突起はあまり発達していない、頭蓋冠の骨は薄い、縫合が明瞭、下顎骨は頑丈である、角前切痕が見られる、歯は M3 まで萌出する、抜歯はない、咬耗はあまり進んでいない、25～30 歳程度、【発掘所見】配石：墓坑 2cβ、頭位は東、顔はやや左下向き、共伴遺物：石鏃 2
【SH739】壮年・女性、仰臥屈葬、頭蓋は頭頂方向から土圧を受けてつぶれている、乳様突起はやや大きい、頭蓋冠の骨は薄い、頭蓋の縫合が明瞭でさほど高齢ではない、下顎骨は頑丈、角前切痕はない、歯は下顎の切歯部がない、上顎は歯槽があり抜歯はない、咬耗はやや進んでいる、30 歳代前半、エナメル質減形成がある、上腕骨はきゃしゃで三角筋粗面も発達していない、大坐骨切痕はほぼ 90 度近く女性的、妊娠痕がある、大腿骨は比較的頑丈で上部は扁平、腓骨はきゃしゃ、脛骨からの推定身長は約 155cm である、上肢骨はきゃしゃだが下肢骨は頑丈、【発掘所見】配石なし、頭位は南東、顔は正面、時期：Ⅰ～Ⅳ期
【SH741】詳細不明、ヒトの頭蓋骨（後頭骨）が数点出土しているだけである、骨は薄い、【発掘所見】配石なし、共伴遺物：打製石斧 1、時期：Ⅰ～Ⅳ期
【SH742】【発掘所見】配石：3、底面西寄りに頭蓋骨、断面的な骨片もあった、共伴遺物：石鏃 1、時期：SH785 以降、Ⅲ～Ⅳ期
【SH743】熟年・男性、保存は普通、仰臥屈葬、顔面は破損するが形をとどめている、上顎切歯部は破損、鼻根部の彫りは深い、頭蓋冠の骨は厚い、外後頭隆起は発達、下顎の角前切痕はない、下顎枝はきゃしゃ、下顎隆起がある、臼歯部の歯槽は退縮、左右 M1 部に歯根膿包がある、上顎の臼歯部歯槽も退縮、咬耗は進んでいる、右側の咬耗が顕著、50～60 歳程度、鎖骨は細い、上腕骨は普通、大腿骨は太く頑丈で粗線の発達はよい、柱状大腿骨である、脛骨と距骨に蹲踞面がある、【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑 2cβ、頭位は北西、顔は正面、頭蓋骨の右に石（枕石か）、共伴遺物：シカ角、時期：Ⅳ期以降か
【SH751】高齢・男性、保存は非常に悪い、全身が出土するが形の観察はむつかしいものが多い、仰臥屈葬、頭蓋骨は形としては残るが詳細は不明、乳様突起はやや発達している、下顎骨は頑丈で筋突起も発達する、角前切痕はない、歯は破損している、抜歯はない、咬耗は顕著、高齢であろう、上腕骨は太くない、大腿骨は比較的太く粗線も発達する、脛骨は扁平、【発掘所見】配石：墓坑 2a、頭位は南、顔面は右下向き、共伴遺物：石鏃 1
【SH752】【発掘所見】配石：墓坑 2bβ、底面南西側から頭蓋骨片が出土、頭位は南西か
【SH753】熟年・女性、保存は悪い、一部を除きほぼ全身が出土、体幹の骨は残っていない、仰臥屈葬、頭蓋は横に圧平される、前額部は垂直に近い、外後頭隆起は発達していない、頭蓋冠の骨は薄い、縫合

は癒合が進んでいる、下顎骨は頑丈ではない、角前切痕はない、歯はほとんど残っていない、下左 M3 の咬合面は平坦化、咬耗はかなり進んでいる、50～60 歳程度、上腕骨は細い、大坐骨切痕は直角に近く女性的、大腿骨の殿筋隆起は発達、上部は扁平、粗線はやや発達し付け柱状、扁平脛骨、【発掘所見】配石なし、頭位は東、共伴遺物：磨石 1、打製石斧 1、時期：Ⅴ期以前か
【SH761】青年（20～25 歳）・女性、保存は悪い、仰臥、頭蓋骨と四肢骨の一部が残る、下顎骨は比較的きゃしゃ、歯の保存はよい、抜歯はない、咬耗は軽度で 20～25 歳程度、エナメル質減形成がある、上腕骨の遠位は細くきゃしゃ、大腿骨は土圧を受けている、殿筋隆起の発達はよい、女性の可能性が高い、【発掘所見】配石：墓坑 2cβ、底面の南寄りから頭蓋骨や右上腕骨が出土
【SH762】熟年・女性、保存は非常に悪い、仰臥屈葬、頭蓋は非常にもろい、眼窩上隆起は発達していない、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨はきゃしゃ、下顎枝は広い、軽度の角前切痕がある、歯はほぼ全歯が残る、抜歯はない、エナメル質減形成がある、咬耗は比較的進んでいて咬合面は平坦化、40～45 歳程度、上腕骨は細い、寛骨に妊娠痕がある、大腿骨はさほど太くない、上部は扁平、【発掘所見】配石：墓坑 2cβ、頭位は北西、時期：Ⅰ～Ⅳ期
【SH763】熟年・男性、保存は普通、膝の部分を欠くがほぼ全身が出土、仰臥屈葬、顔面は破損、外後頭隆起は発達し、乳様突起も発達する、口蓋隆起がある、下顎骨は頑丈で下顎隆起がある、歯では上右 P2 が生前に脱落、左P1 の歯髄が露出、咬耗はかなり進んでいる、50～60 歳程度、上腕骨は頑丈、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は上部が扁平で殿筋隆起が発達、粗線はさほど発達せず、【発掘所見】配石なし、頭位は北西、顔は左下向きか、時期：Ⅰ～Ⅳ期
【SH764】壮年・男性、ほぼ全身が出土、仰臥屈葬、頭蓋は土圧でつぶれている、乳様突起はさほど大きくない、頭蓋冠の骨は厚い、歯槽隆起が小臼歯部外側にある、歯は上顎歯のみが残る、抜歯はない、咬耗はかなり進んでいる、30～40 歳程度、エナメル質減形成が顕著、鎖骨は頑丈ではない、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は頑丈、粗線が発達し付け柱状、上部は扁平ではない、【発掘所見】配石：墓坑 2cα、北西側から頭蓋骨出土、頭位は北西、顔面は右下向き、時期：Ⅰ～Ⅳ期
【SH767】【発掘所見】配石：墓坑 2bβ、底面北壁寄りから骨片が出土、時期：Ⅵ期以前か
【SH768】詳細不明、下肢骨の一部が残る、脛骨の中央付近がある、【発掘所見】配石なし、底部西から大腿骨出土、頭位は東か、東側に骨のまとまりがあった、時期：Ⅵ期以前か
【SH771】2 体が合葬されている、【発掘所見】配石なし、頭位西、顔は左下向きとの記述があるが、A・B 人骨のどちらを指すのか不明、時期：Ⅰ～Ⅲ期
【A 人骨】青年・男性、頭蓋骨と頚椎が残る、頭蓋はもろい、顔面は低い、鼻根部は凹んでいる、下顎骨は頑丈、角前切痕はない、下顎角が張り出している、歯：下顎歯が全部、上顎歯は右I1 以外、すべて残る、上右I1 は先天欠如か、歯石の沈着がある、咬耗は軽度、25 歳前後、
【B 人骨】幼児（8～9 歳）・性別不明、保存は悪い、仰臥、下半身は別の土壙で切られて失われている、頭蓋は前後方向につぶれている、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は鋸歯状が明瞭でかなり若い、頭蓋冠に泉門はない、歯の残りはよい、M1 が萌出している混合歯列である、下顎の永久犬歯やM2 は歯槽内にある、8～9 歳、エナメル質減形成あり、上腕骨と思われるものがあるが詳細は不明
【SH773】【発掘所見】配石：墓坑 1a、埋土中から骨片が出土との記述のみ、共伴遺物：炭化クルミ、磨石 1、時期：SB560 を切るので、Ⅱ～Ⅳ期
【SH775】壮年・男性、保存はよい、頭蓋は土圧で変形している、顔面は比較的よく保存されている、眉弓は発達し、鼻根部のくびれは顕著、眼窩は低い、前額部の傾きは大きく男性的、乳様突起は大きくないが厚い、矢状縫合の一部は癒合している、下顎骨は頑丈、軽度の角前切痕がある、下顎枝角は小さい、歯は生前に脱落した上右M2 以外は残る、抜歯はない、咬耗はやや進んでいる（30～40 歳）、エナメル質減形成が見られる、上腕骨は太く頑丈、大腿骨の粗線は内・外側唇が明瞭、【発掘所見】配石：墓坑 1d、底面東寄りに頭蓋骨が出土、頭位は東か、断片的に長幹骨が出土するとされる、時期：SB551 を切り、SB558 の下位にあることからⅡ～Ⅴ期
【SH777】【発掘所見】配石なし、保存は非常に悪い、底部南西よりに頭蓋骨出土、共伴遺物：磨石 1
【SH782】少年（18 歳前後）・女性、保存はよくない、頭蓋はつぶれている、乳様突起は大きい、頭蓋冠の骨はやや薄い、下顎骨はさほど頑丈ではない、角前切痕はない、歯は下顎切歯以外はよく残る、抜歯はない、上I1, I2 はシャベル型、咬耗はさほど進んでいない、下M3 の咬耗はごく軽度で萌出直後と思われる、18 歳前後、鎖骨は細くきゃしゃ、大腿骨は太くない、殿筋隆起は発達する、上部はやや扁平外側、蹲

踞面がある、【発掘所見】配石：墓坑 1d、頭位は西、顔面に無文の鉢形土器が被せられていた（甕かぶり）、共伴遺物：無文鉢形土器、石鏃 1、時期：Ⅰ～Ⅳ期
【SH784】青年・女性、甕かぶりである、全身がよく残っている、仰臥屈葬、頭蓋は顔面が破損する、鼻根部はくびれている、外後頭隆起はやや発達、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨の厚さは普通、縫合はかなり癒合している、比較的高齢、下顎骨はやや頑丈、歯は上下とも切歯部が破損するも歯根などから判断して抜歯はない、咬耗は比較的少なく 20～30 歳程度、エナメル質減形成がある、四肢骨の保存はよい、上腕骨は太くない、大坐骨切痕は男女の中間的、妊娠痕と思われルものがある、大腿骨は太くはないが頑丈で粗線がよく発達、脛骨は扁平ではない、上腕骨からの推定身長は約 154cm、【発掘所見】配石：墓坑 2bβ、頭位は北、顔面は左横向き、顔面に深鉢形土器を縦に半割したものをかぶせてあった（甕かぶり）、時期：Ⅳ期
【SH785】 2 体分、B が A の上に埋葬されていた、【発掘所見】配石：上面 3、時期：Ⅲ期
【A 人骨】熟年・男性、甕かぶり、頭蓋の破損は顕著だが全身が残っており保存もよい、仰臥屈葬、頭蓋そのものの保存はよい、外後頭隆起は発達、乳様突起も大きい、縫合が進んでいる、比較的高齢、下顎骨は頑丈、角前切痕はない、下顎隆起がある、歯は一部破損するが全歯が植立しているので抜歯はない、咬耗は顕著で 50～60 歳程度、エナメル質減形成がある、上腕骨は太く頑丈、三角筋粗面は発達する、鎖骨は太い、寛骨の耳状面は高くない、男性的、大腿骨は太く頑丈で、粗線が発達し付け柱状である、上部は扁平ではない、脛骨は扁平、距骨に蹲踞面がある、上腕骨からの推定身長は約 158cm、【発掘所見】頭位は北西、顔面を覆うように無文深鉢形土器の大型破片
【B 人骨】年齢不明（若い）・性別不明、散乱している頭蓋骨である、Aの埋葬時に付近から混入したものだろう、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は鋸歯状が明瞭なので若い個体であろう
【SH786】【発掘所見】配石なし、仰臥屈葬、頭位は西、頭蓋骨の破損は激しい、時期：Ⅰ～Ⅳ期
【SH794】成人・女性、保存は悪い、ほぼ全身が出土している、歯は出土していない、仰臥屈葬、頭蓋は土圧でつぶれている、乳様突起は大きくない、外後頭隆起も弱い、上腕骨はつぶれているがきゃしゃ、大坐骨切痕は直角に近く女性的、大腿骨は細いが粗線は発達し付け柱状、成人、【発掘所見】配石なし、頭位は南西、顔面は左下向き、共伴遺物：打製石斧 1
【SH796】壮年・男性、保存は普通、側臥屈葬、頭蓋は横方向につぶれている、顔面骨はない、乳様突起は大きく厚い、頭蓋冠の骨は厚い、男性的、歯は上右M1 の歯冠だけが残る、咬耗はやや進んでいる、エナメル質減形成がある、上腕骨は近位部が残る、頑丈で三角筋粗面は著しく発達している、大腿骨はさほど頑丈ではない、粗線も発達していない、脛骨は頑丈、腓骨は太い、大腿骨からの推定身長は約 155cm、【発掘所見】配石なし、頭位は南西、顔は下向き、共伴遺物：円板、時期：Ⅰ～Ⅳ期
【SH799】熟年・女性、保存は悪い、仰臥屈葬、頭蓋は前後方向の土圧を受けている、顔面部は失われている、乳様突起は大きくない、眼窩上隆起は発達していない、頭蓋冠の骨は比較的厚い、外後頭隆起は小さい、下顎はさほど頑丈ではない、角前切痕はない、下顎隆起がある、歯は完全に残るのは下左右 M3 のみ、歯根はある、抜歯はない、エナメル質減形成がある、咬耗は進んでいる、50 歳代、上腕骨は細いが三角筋粗面は顕著、大坐骨切痕は直角に近く女性的、大腿骨はやや頑丈、殿筋隆起はよく発達する、脛骨は扁平ではない、距骨に蹲踞面がある、大腿骨からの推定身長は約 154cm、【発掘所見】配石なし、頭位は北東、共伴遺物：刃器が左寛骨に密着して出土、時期：Ⅲ期
【SH800】幼児（7 歳くらい）・男性か、歯だけが出土している、12 本残る、混合歯列である、M1 の咬耗はごくわずか、7 歳前後、歯は大きい、男性の可能性が高い、エナメル質減形成がある、【発掘所見】配石なし、時期：Ⅰ～Ⅲ期
【SH801】【発掘所見】配石なし、北東壁寄りから下肢骨出土、屈葬、頭位は南西か
【SH803】青年（25～30 歳）・男性、保存はよい、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋は横方向の土圧を受けている、鼻根部は凹んでいる、外後頭隆起はやや発達する、頭蓋冠の骨は厚い、乳様突起は大きめ、縫合は癒合が進んでいないので若い個体、下顎骨は頑丈ではないが体高が高い、角前切痕はない、歯は上下の切歯が破損するが歯根は残る、抜歯はない、犬歯は小さい、咬耗はあまり進んでいない、25～30 歳程度、エナメル質減形成がある、上腕骨は太くない、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は比較的太く頑丈、大腿骨からの推定身長は約 166cm、【発掘所見】配石なし、頭位は北西、顔は左向き、共伴遺物：磨石 1、時期：Ⅱ～Ⅳ期

【SH805】壮年・男性、全身が出土、仰臥屈葬、頭蓋は前後方向の土圧を受けている、眼窩上隆起は発達、乳様突起は大きい、下顎骨は頑丈で角前切痕はない、歯は左側の全歯と右の犬歯より前が植立している、咬耗は進んでいない、壮年より若い、エナメル質減形成がある、鎖骨は太い、上腕骨も太く頑丈、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は太く長い、【発掘所見】配石：墓坑 2cβ、頭位は南、顔は右やや下向き、共伴遺物：イノシシ牙製かんざし・腕輪
【SH808】【発掘所見】配石：墓坑 2a、仰臥屈葬、頭位北、運搬時に破損したため詳細不明、共伴遺物：打製石斧 2、土偶 1、時期：SB563 を切ることから、Ⅲ～Ⅳ期
【SH814】詳細不明、ヒトの歯の歯片だけが残る、上顎の小臼歯片で咬耗はない、【発掘所見】配石：墓坑 2cα、底面北寄りから歯、南東壁寄りから下肢骨出土、頭位は北か、共伴遺物：打製石斧 1
【SH815】壮年・女性、保存は悪いが全身が残る、伏臥屈葬、頭蓋は前後方向の土圧を受けている、眼窩上隆起はあまり発達していない、鼻根部はやや凹む、乳様突起は大きく厚い、頭蓋冠の骨は厚くない、下顎骨はさほど頑丈ではない、歯は臼歯部が残る、咬耗はやや進んでいる、35～40 歳程度、エナメル質減形成がある、四肢骨の残りは悪く観察に耐えるものは少ない、腓骨は細い、肩甲骨の関節面（関節窩）は小さい、【発掘所見】配石なし、頭位は北東、顔は下顎を前に突き出す、伏臥位埋葬人骨は本資料だけ
【SH818】詳細不明、わずかな四肢骨が残るだけである、上腕骨はさほど太くない、【発掘所見】配石：墓坑 2cβ、底面東寄りに骨片集中、その上から無文の鉢形土器が逆位で出土、甕被り葬か、共伴遺物：石鏃 2、時期：Ⅴ期
【SH824】 2 体分が埋葬されている、右向きのものをA、やや左向きのものをBとする、両者は隣接している、【発掘所見】配石なし、共伴遺物：A 人骨のヒスイ垂飾以外に石鏃 2、打製石斧 1、磨石 1、刃器 1、SB559 より新しい、Ⅴ～Ⅵ期
【A 人骨】熟年・男性、保存は悪い、乳様突起は大きく厚い、外後頭隆起は発達する、軽度の口蓋隆起がある、下顎骨は普通で軽度の角前切痕がある、下顎隆起がある、歯は全歯がそろう、抜歯はない、もろくて破損するものもある、咬耗は進んでいる、50 歳程度、上腕骨は太い、下肢骨に撹乱がある、大腿骨は比較的頑丈で粗線も顕著、【発掘所見】頭位は南東か、肋骨からヒスイ垂飾出土、
【B 人骨】青年・女性、頭蓋骨はもろく骨が薄いので観察は不能、小さめの頭蓋骨、下顎骨はきゃしゃ、抜歯はない、歯は小さい、咬耗はあまり進んでいない、25～30 歳程度、上腕骨は細くきゃしゃ、橈骨や尺骨も細い、
【SH828】成人・性別不明、ごく少数の骨片と歯の一部が残る、上右M3 の咬耗は軽度、下右P2 は咬耗していない、M1 の咬耗も少ない、成人だが年齢は高くない、【発掘所見】配石なし、時期：Ⅰ～Ⅲ期
【SH842】詳細不明、下肢骨の一部が残るだけである、左右大腿骨で保存は悪い、大腿骨はさほど太くない、粗線は発達している、成人なら女性の可能性が高い、【発掘所見】配石：墓坑 1d、底面東側から頭蓋骨出土、顔は正面を向く、共伴遺物：石器砕片 48、時期：Ⅲ期
【SH851】熟年・男性、保存は非常に悪い、顔面はない、外後頭隆起はやや張り出している、下顎骨体は厚く比較的頑丈で男性的、歯は数本の下顎歯のみが残る、咬耗はすすんでおり 40～50 歳程度、エナメル質減形成がある、大腿骨は太く頑丈で骨も厚い、【発掘所見】配石：上面 1b、墓坑 2bβ、頭位は南西、人骨胸部相当部分よりイノシシ牙製装身具が出土、時期：SB567 を切る、Ⅴ～Ⅵ期
【SH852】熟年・男性、頭蓋骨は細片化するが保存はよい、仰臥屈葬、頭蓋は横方向の土圧でつぶれて細片化、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨は比較的頑丈、歯は上下顎切歯は破損、抜歯はない、下M1 は偏磨耗、咬耗は顕著、50 歳代、エナメル質減形成がある、鎖骨は太くて頑丈、上腕骨も太い、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は太いが付け柱状ではない、殿筋隆起は明瞭、上腕骨での推定身長は約 145cm、【発掘所見】配石：2b、頭位は南西、共伴遺物：磨石 2、時期：Ⅲ期か
【SH853】熟年・男性、保存は非常に悪いが全身が出土、仰臥屈葬、頭蓋は横方向の土圧を受ける、乳様突起は普通、下顎骨は比較的頑丈、軽度の角前切痕がある、下左PとMはすべて生前脱落、歯は上左CからP2 まで、下左 I1、I2、C が残る、かなり高齢、四肢では大坐骨切痕が鋭角で男性的、大腿骨はさほど太くない、大腿骨からの推定身長は約 154cm、【発掘所見】配石なし、頭位は南西、時期：SB567 を切る、Ⅲ～Ⅳ期
【SH854】少年（12～15 歳）・性別不明、保存は悪い、仰臥屈葬、顔面は残るが観察不能、左右大腿骨だけが残る、細くきゃしゃ、殿筋隆起はあるが粗線は発達していない、骨頭が未化骨なのでまだ若い個

体、12～15 歳程度、【発掘所見】配石：上面 2a、墓坑 2cα、頭位は南西か、時期：SB567 を切る、Ⅲ～Ⅳ期
【SH855】熟年・女性、保存は悪い、仰臥屈葬、頭蓋は額から底部に向かっての土圧を受けている、顔面は破損、外後頭隆起は発達せず、乳様突起は普通、下顎骨はきゃしゃ、歯は上の右 M3 以外は欠ける、下顎は比較的残る、下顎切歯部の歯槽は閉鎖、高齢、咬耗は進んでいる、50～60 歳程度、右尺骨は細い、大腿骨は粗線がやや発達している、殿筋隆起がやや張り出す、脛骨はきゃしゃ、脛骨からの推定身長は約 150cm、【発掘所見】配石：上面 1a、墓坑 2cα、頭位は南西、共伴遺物：磨石 1、時期：Ⅲ～Ⅳ期
【SH856】熟年・女性、保存は非常に悪い、頭蓋と一部の下肢骨のみが出土、頭蓋冠の骨は薄い、乳様突起は小さい、下顎体は低い、角前切痕はない、抜歯があるかどうか不明、咬耗は顕著で高齢、エナメル質減形成がある、大腿骨は細くきゃしゃである、【発掘所見】配石：上面 1d、屈葬か、頭位は北東、時期：Ⅲ～Ⅵ期
【SH857】熟年・女性、保存は悪い、ほぼ全身の骨格が残る、仰臥屈葬、頭蓋では乳様突起はやや厚め、外後頭隆起は発達せず、下顎骨はやや頑丈、下顎隆起がある、ロッカージョーである、歯は切歯部が破損、下顎に抜歯はない、咬耗はかなり進み咬合面は平坦化、40 歳程度、歯は小さい、エナメル質減形成がある、寛骨の大坐骨切痕は直角に近く女性的、大腿骨は普通、殿筋隆起はやや発達する、大腿骨からの推定身長は約 154cm、【発掘所見】配石：上面 1d、頭位は南西、顔は正面向き、共伴遺物：頭骨右側より半完形の小形鉢形土器 1 出土、時期：Ⅴ～Ⅵ期
【SH858】高齢（詳細不明）・男性、保存は比較的よい、仰臥屈葬、頭蓋は左上からの土圧を受ける、鼻根部は凹む、乳様突起は大きい、外後頭隆起は小さい、口蓋隆起がある、縫合はかなり癒合している、歯は破損、前歯部の歯槽はあるので抜歯はない、上腕骨は普通である、寛骨の大坐骨切痕は女性的、大腿骨はやや太い、大腿骨からの推定身長は約 156cm、【発掘所見】配石：墓坑 2cα、頭位は北東、顔は左やや下向き、時期：SB567 を切る、Ⅲ～Ⅵ期
【SH859】青年（20 歳程度）・男性、保存は比較的よい、ほぼ全身が出土する、仰臥屈葬、額から底部に向かって土圧を受けている、乳様突起は大きく厚い、頭蓋冠の骨は厚くない、下顎骨はほぼ完全に残る、さほど頑丈ではない、角前切痕はない、軽度の下顎隆起がある、下顎枝はきゃしゃ、下顎では歯は一部が失われるが抜歯はない、上下顎とも M3 萌出、上顎はつぶれており状態は不明、エナメル質減形成がある、咬耗はごく軽度、20 歳程度、上腕骨は太くないがやや頑丈、寛骨の大坐骨切痕は角度が大きくどちらかと言えば女性的、大腿骨は比較的頑丈、殿筋隆起が発達、粗線は普通、脛骨は頑丈、大腿骨からの推定身長は約 161cm、全体の印象では男性か、【発掘所見】配石：上面 2a、頭位は東、時期：Ⅲ～Ⅵ期
【SH864】成人・男性、保存はよい、下半身のみの出土である、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨の粗線はよく発達し、殿筋粗面も発達、脛骨は太く頑丈、距骨に蹲踞面がある、脛骨からの推定身長は約 159cm、【発掘所見】配石なし、頭位は北西か、共伴遺物：土製蓋、時期：SB567 より新しく、SH855 より古い、Ⅲ～Ⅵ期
【SH872】年齢・性別不明、保存は悪い、土圧を受けている、屈葬、大腿骨は細くきゃしゃ、【発掘所見】配石：上面 1b、墓坑 2a、頭位は南西、時期：Ⅲ～Ⅵ期
【SH879】熟年・男性、保存は悪い、ほぼ全身が残る、仰臥屈葬、頭蓋の左は失われているが右は保存がよい、鼻根部はくびれている、眼窩上隆起が発達、乳様突起は大きくて厚い、矢状縫合の外板は癒合していない、下顎骨はさほど頑丈ではない、歯は一部破損するが歯槽などは残る、抜歯はない、咬耗は進んでいる、40～50 歳程度、臼歯部では右の咬耗が左より進んでいる、エナメル質減形成がある、上腕骨は太く頑丈、寛骨の大坐骨切痕は男性的、大腿骨は太く頑丈、粗線が発達する、脛骨も太い、上腕骨からの推定身長は約 156cm、【発掘所見】配石なし、頭位は西、顔面は右向き、共伴遺物：石鏃 1、時期：SB567 より新しく、SH856・857 より古いことから、Ⅲ～Ⅵ期
【SH908】壮年・女性、保存は悪い、ほぼ全身が出土しているが形をとどめるのは頭蓋骨と下肢骨の一部である、仰臥屈葬、頭蓋は前後方向の土圧を受けている、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨は厚くない、歯は下顎歯が 5 本残るのみ、咬耗は進んでいない、30～40 歳、エナメル質減形成がある、大腿骨や脛骨は太くない、【発掘所見】配石：墓坑 2a、頭位は北、顔はほぼ正面、時期：Ⅳ～Ⅴ期

【SH924】熟年（60 歳以上）・男性保存は悪い、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋は土圧を受けている、外後頭隆起は発達している、乳様突起は大きい、頭蓋冠の骨は厚くない、下顎骨は頑丈で厚い、歯は下左 M3 が萌出しており成人であろう、咬耗は進んでいる、隣接面磨耗も顕著、60 歳以上、エナメル質減形成がある、抜歯は不明、大腿骨は太く頑丈で粗線は発達する、殿筋隆起がやや張り出す、上部は扁平ではない、【発掘所見】配石なし、頭位は北、共伴遺物：磨石 1
【SH938】詳細不明、少量の四肢骨片と 10 数点の歯が出土、【発掘所見】配石なし、底面の北壁よりから頭蓋骨、南寄りから下肢骨が出土、仰臥屈葬で、頭位は北か、時期：Ⅰ～Ⅲ期
【SH952】成人・女性、歯の破片と下肢骨の一部のみが出土、歯は臼歯の破片だけである、歯冠は低い、咬耗は進んでいるので成人ではあろう、大腿骨は細い、女性の可能性が高い、【発掘所見】配石なし、底面南東の土器（逆位の鉢形土器）内から骨片、甕被り葬か、共伴遺物：石鏃 1 と砕片 48、時期：Ⅳ期
【SH958】青年（25～30 歳）・女性、保存は悪い、ほぼ全身が出土している、仰臥伸展葬、頭蓋骨は横の土圧を受けている、乳様突起は小さめ、頭蓋冠の骨は厚くない、外耳道骨腫がある、下顎骨は厚くない、角前切痕はない、下顎枝は広い、歯はすべて萌出している、切歯の一部が破損する、抜歯はない、上 I1 は軽度のシャベル型、咬耗は進んでいない、歯石が沈着している、25～30 歳程度、エナメル質減形成がある、上腕骨はやや太く三角筋粗面も発達する、大腿骨はさほど太くない、脛骨も太くない、大腿骨での推定身長は約 153cm、【発掘所見】配石なし、仰臥伸展葬は SH652 など 4 例のみ、頭位は南西、顔は左向き、共伴遺物：打製石斧 1、石鏃 1、時期：SB559 下位、Ⅰ～Ⅴ期
【SH973】【発掘所見】配石：墓坑 1a（平石の石棺状）、底面より骨片が出土、共伴遺物：磨石 1
【SH979】青年（25～30 歳）・男性、保存は悪い、ほぼ全身が出土している、取り上げ不可の部位が多い、甕かぶりの仰臥屈葬、頭蓋は土圧を受けている、乳様突起は大きめ、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨は頑丈、下顎隆起がある、歯は切歯部が破損、下顎に抜歯はない（上顎は不明）、咬耗はあまり進んでいない、25～30 歳程度、齲蝕がある、エナメル質減形成がある、寛骨の大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は普通である、粗線は発達している、脛骨は太く頑丈、大腿骨からの推定身長は約 159cm、【発掘所見】配石なし、頭位は北、顔面は左下向き、深鉢の大型破片が顔から腹部に被さられていた、時期：Ⅳ期
【SH1006】【発掘所見】配石：墓坑（平石が重畳）、底面から骨片出土、共伴遺物：小型土器
【SH1012】【発掘所見】配石なし、底面から骨片出土、共伴遺物；ヒスイ製品
【SH1023】【発掘所見】配石なし、底面から骨片出土、共伴遺物：粘板岩製玉、磨石 1
【SH1047】【発掘所見】配石なし、底面の南寄りから頭蓋骨とみられる骨片出土
【SH1048】成人・性別不明、上右 M2 片、下右 M2 あるいは M3 が出土するのみである、咬耗はやや進んでいるので成人、性別は不明、【発掘所見】配石なし、底面の東寄りから頭蓋骨が出土、共伴遺物：完形の深鉢形土器、時期：Ⅳ期
【SH1049】詳細不明　保存は悪い、下肢の長骨のみが出土、脛骨と思われる、細い、【発掘所見】配石：上面 1d、墓坑 2bβ、底面南寄りから頭蓋骨、北寄りから下肢骨が出土、仰臥屈葬、頭位は南か
【SH1066】少年（15 歳程度）・性別は女性、保存は悪い、頭蓋骨と上肢骨のみが出土、頭蓋は土圧でつぶれている、乳様突起は大きくない、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は鋸歯状が明瞭、歯は上左 M3 が残る、咬耗していない（未萌出の可能性が高い）、15 歳前後、エナメル質減形成がある、【発掘所見】配石なし、底面南壁際から頭蓋骨が出土、長骨が散在、
【SH1068】成人・女性、保存は非常に悪い、頭蓋の一部と上肢、および体幹の一部が残る、仰臥屈葬、頭蓋では後頭骨と側頭骨が出土する、外後頭隆起はほとんど目立たない、骨は薄い、上腕骨はきゃしゃ、寛骨臼部は化骨しているので 18 歳以上ではある、【発掘所見】配石なし、頭蓋骨は破損し、原位置を保っていない、全身から推定頭位は西
【SH1081】【発掘所見】配石なし、底面西寄りから逆位の深鉢形土器と内部から骨片が出土、時期：Ⅰ期
【SH1129】高齢・女性、保存は悪い、ほぼ全身が出土する、仰臥屈葬、頭蓋は横方向の土圧を受けている、乳様突起は小さめ、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨の体はさほど厚くない、角前切痕はない、歯：上顎は左右の I1 が残る、歯頚部まで磨耗している、高齢、下顎の歯冠は残っていない、左右M3 は欠、四肢骨は、土圧を受けており断片的にしか残っていない、大腿骨は粗線が発達している、殿筋隆起がある、【発掘所見】配石なし、頭位は北東、顔面は左下向き、共伴遺物：石鏃、時期：SB578 より新しく、SB577 より古い、Ⅳ～Ⅵ期

【SH1136】青年（20～25 歳）・女性、保存は悪い、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋は土圧でつぶれている、外後頭隆起は大きくない、下顎骨は比較的きゃしゃ、骨体は厚くない、角前切痕はない、下顎隆起がある、歯は上下とも全歯が萌出、抜歯はない、咬耗は軽度、20～25 歳程度、エナメル質減形成がある、犬歯には 5 本以上の溝がある、上腕骨は細い、寛骨は小さめで大坐骨切痕はさほど小さくない、耳状面は高い、大腿骨は細くきゃしゃ、殿筋隆起が発達する、大腿骨からの推定身長は約 149cm、【発掘所見】配石：墓坑 1d、頭位は北、共伴遺物：胸脊上部から牙製品出土、時期：SB578 より新しく、SB577 より古い、Ⅳ～Ⅵ期

【SH1143】少年（10～11 歳）・性別不明、保存は非常に悪い、ほぼ全身が残っている、仰臥屈葬、頭蓋は観察に堪えない、歯は下顎のM2 が萌出直後、抜歯はない、咬耗は軽度、10～11 歳程度、大腿骨は細くきゃしゃ、年齢が若いためだろう、【発掘所見】配石なし、頭位は北東、顔面と体幹は左向き、共伴遺物：石鏃、磨石 1、時期：SB578 より新しく、SB577 より古い、Ⅳ～Ⅵ期

【SH1144】熟年（45～50 歳）・女性、保存は非確定よい、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋は小片化するが残りはよい、眉弓は発達、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨の厚さは普通、矢状縫合は内板外板共に癒合、かなり高齢、下顎隆起がある、下顎骨は厚めで頑丈、角前切痕はない、歯は上顎では、切歯は残るが遠心の一部は生前脱落、大臼歯の咬耗が顕著、下顎は小臼歯の咬耗が軽度、前歯部と大臼歯部の咬耗が異なり後部が顕著、45～50 歳程度、下顎右Cの歯槽は退縮、エナメル質減形成がある、鎖骨は細くきゃしゃ、上腕骨も細い、大腿骨は細く粗線も発達していない、上部は扁平、脛骨は比較的頑丈、扁平脛骨、上半身はきゃしゃだが下半身は比較的頑丈、【発掘所見】配石：墓坑 2cβ、頭位は東、顔面は左ないし下向き、共伴遺物：小形土器 1、石鏃 3、石錐 1、頭頂部からかんざし状骨製品 1

【SH1149】壮年（30～40 歳）・女性、保存は悪い、ほぼ全身が出土、仰臥屈葬、頭蓋は上下方向に土圧を受けている、乳様突起は普通、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨は厚くない、下顎枝角は大きい、角前切痕はない、歯：下顎は全歯が植立する、抜歯はない、上顎は切歯犬歯部が破損、咬耗はややすすんでいる、30～40 歳程度、上腕骨は細くきゃしゃ、大坐骨切痕は直角に近く耳状面は高い、女性的、妊娠痕がある、大腿骨からの推定身長は約 144cm、【発掘所見】配石なし、頭位は西、報文では側臥とあるが、仰臥が正しいか、顔面は左下向き、共伴遺物：磨石 1、刃器 1

【SH1155】熟年（50 歳代）・女性、保存は悪い、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋は土圧を受けている、頭蓋冠の骨は薄い、下顎に角前切痕はない、下顎体は厚くない、歯は下左Mはすべて生前に脱落、咬耗は顕著、臼歯の近心移動が見られる、50 歳代、エナメル質減形成がある、上腕骨は細くきゃしゃ、大腿骨は普通で粗線は狭い、【発掘所見】配石なし、頭位は南東、顔は右下向き、共伴遺物：石鏃 1、石棒 1

【SH1156】3 体分の頭蓋骨が埋葬されている、四肢骨・体幹骨は少なく 2 体分、【発掘所見】配石：上面 1d、共伴遺物：埋土から磨石 1、立石横から中空土偶出土、時期：Ⅴ～Ⅵ期

【A 人骨】熟年（50 歳代）・女性、頭蓋の顔面は失われている、乳様突起も大きくない、下顎体は厚くない、下顎隆起がある、歯は下顎大臼歯が主に残る、咬耗はかなり進んでいる、50 歳代、上腕骨は細くきゃしゃ、大腿骨も細い、上腕骨からの推定身長は約 149cm、【発掘所見】すでに埋葬されていた B・C 人骨をどかして A 人骨を埋葬したらしい、北東隅から出土した頭蓋骨は上下が逆であった、捻転した理由は不明、

【B 人骨】壮年（30～40 歳）・男性、頭蓋は頑丈、鼻根部のくびれは大きい、乳様突起は大きく厚い、矢状縫合は癒合している、頭蓋冠の骨は厚い、下顎体はさほど厚くない、歯では上顎歯はない、歯槽から判断して抜歯はない、下顎歯は大臼歯が主に残る、歯槽から判断して抜歯はない、上左M1 は生前脱落、齲蝕がある、30～40 歳程度、四肢骨は撹乱を受けている、大腿骨は太く頑丈、上部は扁平、

【C 人骨】熟年（50 歳代）・女性、B 頭蓋と並んで出土、乳様突起は小さい、縫合は比較的明瞭、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨はきゃしゃ、角前切痕はない、下顎体は低い、歯は下顎大臼歯が残る、切歯部は破損するも歯根は残る、下顎には抜歯はない、咬耗は進んでいる、50 歳代、

【SH1157】幼児（3 歳程度）・女性か、上半身だけが出土、幼児、頭蓋では歯だけが観察可能、乳歯列、dm2 の咬耗はごくわずかで萌出後まもない、3 歳程度、永久歯のM1 は小さいので女性的、【発掘所見】配石：上面 2c、墓坑 2bβ、頭位は北東、下半身を欠くが仰臥と思われる

【SH1158】熟年（45～55 歳）・女性、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、後頭部は失われている、鼻根部はさほどくびれていないが顔面は縄文人の特徴を示す、乳様突起は小さい、前頭縫合遺残、縫合は癒

合が進んでいない、下顎体は低い、歯は下顎の大臼歯の一部以外は残っていない、下顎切歯部歯槽は狭く生前脱落を思わせる、大臼歯の咬耗はやや進んでいる、45～55 歳程度、寛骨の大坐骨切痕は直角に近く女性的、大腿骨は太くない、粗線はあまり発達していない、【発掘所見】配石：上面 3、墓坑 2cβ、頭位は西、顔面左下向き、共伴遺物：人骨直上から土偶 1、埋土から石錐 1 出土

【SH1160】老年（60 歳以上）・女性、保存は非常に悪い、ほぼ全身が出土したがほとんど取り上げできず、仰臥屈葬、頭蓋は乳様突起が小さい、外後頭隆起はほとんど目立たない、頭蓋冠の骨は薄い、縫合はかなり癒合している、下顎は大臼歯部が残る、歯では下左M1、M2，右M1 が残る、咬耗が顕著で高齢、60 歳以上、M3 の歯槽は生前閉鎖、大腿骨の一部が残る、細くきゃしゃ、粗線はあまり発達していない、大腿骨からの推定身長は約 149cm、【発掘所見】配石：上面 1b、墓坑 1d、頭位は東、顔左下向き、上肢は伸展、下肢の屈曲は緩やか、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 4、磨石 1、時期：Ⅳ期以降

【SH1161】老年・男性、ほぼ全身が出土する、仰臥屈葬、頭蓋は前後方向の土圧を受けている、眼窩上隆起は発達、鼻根部はくびれている、乳様突起は小さい、外耳道骨腫かと思われるものがある、下顎骨は大きいが頑丈ではない、角前切痕はない、歯は全歯が植立（ただし下顎切歯部が破損）、抜歯はない、咬耗が顕著、下顎Mの磨耗は頬側に著しく傾斜する特殊な磨耗、上顎は普通の磨耗、かなり高齢、エナメル質減形成がある、大坐骨切痕は鋭角で男性的、殿筋隆起がある、上部は扁平ではない、脛骨は太く頑丈、大腿骨からの推定身長は約 161cm、【発掘所見】配石：墓坑 2bβ、頭位は北、顔は左下向き、共伴遺物：磨石 3、石鏃 1

【SH1162】熟年（50 歳代）・男性、保存は比較的よい、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋の左半分はない、やや土圧を受けている、眼窩上隆起は発達、鼻根部のくびれはさほど大きくない、乳様突起は小さいが厚い、縫合はさほど進んでいない、下顎は大きいが頑丈ではない、下顎隆起がある，角前切痕はない、歯は全歯が植立する、上中切歯が捻転、咬耗は進んでいる，50 歳代、エナメル質減形成がある、切端咬合、腰椎体に加齢変化のリッピングがある、上腕骨はやや太く頑丈で三角筋粗面もやや発達、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は太く頑丈、付け柱状大腿骨、上部は扁平、脛骨は太く頑丈，扁平脛骨ではない、【発掘所見】配石なし、頭位は西、顔は右向き、時期：SB1204 を切る、Ⅳ期以降

【SH1163】2 体分がある、頑丈な個体 A ときゃしゃな個体 B、A が下層、【発掘所見】配石なし、A 人骨の脊椎や肋骨など体幹骨の上に、四肢骨がのり、さらに B 人骨の四肢骨と頭蓋骨がのる、四角くまとめているようにも見える（盤状集積的なものか）

【A 人骨】青年（25 歳前後）・男性、上から下に向かう土圧を受けている、眼窩上隆起は発達、鼻根部はくびれている、乳様突起は大きく厚い、ラムダ部に縫合骨がある、下顎骨は頑丈，下顎隆起がある、歯はほぼ全歯がある、犬歯部の歯槽が小さい、エナメル質減形成がある、咬耗はあまり進んでいない、25 歳前後、鎖骨は太い、上腕骨は太いが長くない、三角筋粗面はよく発達する、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は大きく頑丈、殿筋隆起もある、上部は扁平、脛骨は太く頑丈，扁平脛骨ではない、大腿骨からの推定身長は約 168cm と北村人骨でももっとも身長が高い部類

【B 人骨】少年（18 歳前）・女性、頭蓋骨では乳様突起は大きく厚い、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は鋸歯状が顕著でまだ若い、歯は M3 が未萌出、歯槽から判断して抜歯はない、咬耗はごく軽度、18 歳前後、エナメル質減形成がある、四肢骨の残りは悪い、上腕骨は太くない，大腿骨は粗線が発達していない，殿筋隆起が張り出す、大腿骨からの推定身長は約 161cm

【SH1165】成人（若くはない）・男性、保損は悪い、甕かぶりで仰臥屈葬、頭蓋は土圧で額から頭蓋底に向かってつぶれている、眼窩上隆起はやや発達、鼻根部もやや凹む、顔高は低い、乳様突起はやや大きい、頭蓋冠の骨は厚い、下顎骨は厚く頑丈，角前切痕はない、犬歯より遠心の歯槽が退縮、下顎体は高い、抜歯はない、歯は上左の小臼歯 2 本が顕著な咬耗をするが大臼歯はさほど咬耗していない、下顎の左大臼歯は早期に脱落したか、上腕骨は太く頑丈、外側稜も発達、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は太く頑丈，付け柱状、脛骨は扁平ではない、上腕骨からの推定身長は約 155cm、【発掘所見】配石なし、頭位は西、顔には無文の鉢形土器大破片が被せられており、顔は右下向き

【SH1166】乳児・性別不明、上肢及び下肢骨の一部が欠ける、顔面はない、発掘時に計測した坐骨は約 35cm でこれから推定すると身長は 50～60cm、出産後 3ヶ月程度で死亡したと推測、【発掘所見】配石：墓坑 2bα、頭位は南、顔はないが右下向きか

【SH1168】若い（詳細不明）・性別不明、左右の大腿骨片と脛骨片が出土、大腿骨は非常に細くきゃしゃ、殿筋隆起は大きく張り出す、上部は扁平、脛骨も細くきゃしゃ、まだ若い個体の可能性がある、【発掘所見】配石なし、Ⅳ期以降か
【SH1172-1】成人・男性、（展示用個体）： ほぼ全身が出土する，手首にイノシシの歯の飾りがある、土圧を受けていない珍しい例、眼窩上隆起は発達する、鼻根部のくびれも顕著、乳様突起は大きく厚い、下顎に軽度の角前切痕がある、歯は前歯はすべて残る、上右 I2 の歯槽は退縮、抜歯かどうかは不明、鎖骨は太く頑丈、上腕骨も太い、寛骨の大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は非常に太く頑丈，上部は扁平ではない、【発掘所見】配石なし、仰臥、頭位は南西、顔は右下向き、共伴遺物：肋骨上と右腕からイノシシ牙（下顎犬歯）製装身具 3、埋土から打製石斧 1 出土、時期：SH1204 より新しい、Ⅳ期以降
【SH1172-2】成人・女性、SH1172-1 人骨の下半身の下層にある、下肢は欠ける、ほぼ骨盤部だけの出土、大坐骨切痕は直角に近く女性的、【発掘所見】配石：上面 1d とされるので、SH1172-1 との間に配石が存在するか
【SH1174】壮年（30～40 歳）・女性、保存は非常に悪い、ほぼ全身が出土するが取り上げ出来ないものが多い、仰臥屈葬、頭蓋では乳様突起は細い，頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨は頑丈、下顎隆起がある、下顎体は高くない、歯では下顎に抜歯はない、咬耗はあまり進んでいない，30～40 歳程度、エナメル質減形成が顕著、上腕骨は普通だが三角筋粗面はやや発達、大腿骨は太くない、殿筋隆起はやや張り出す，上部は扁平ではない、脛骨はあまり太くない，腓骨は樋状腓骨、【発掘所見】配石：上面 1a、頭位は西、顔は下向き、共伴遺物：磨石 1、土器片円板 1、時期：SB582 上位なのでⅣ期以降
【SH1176】熟年・女性、展示用資料、全身が残っている、仰臥屈葬、額から頭蓋底に向かっての土圧を受けている、上顎骨はやや歯槽性突顎、乳様突起は大きいが厚くない、下顎骨に角前切痕はない、歯は上下顎とも全歯が植立する、抜歯はない、咬耗はかなり進んでいる，50 歳代、軽度のエナメル質減形成がある、鎖骨は細くてきゃしゃ、上腕骨は三角筋粗面は発達するが全体にきゃしゃ、寛骨の大坐骨切痕は直角に近く，妊娠痕もある、大腿骨は太くない、殿筋隆起はよく発達する、上部は扁平である、【発掘所見】配石：上面 1c、墓坑：2cβ、頭位は南東、顔は正面向き、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1
【SH1177】青年（25 歳前後）・女性、保存は悪い、頭蓋と一部の長骨のみが残る、仰臥屈葬、頭蓋は土圧を受けている、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、下顎体は高くない、下顎隆起が見られる、頭蓋は女性的、歯：下顎歯はすべてそろう、抜歯はない、上顎は切歯だけが確認できる、咬耗はあまり進んでいない、20～30 歳程度、上腕骨は細くきゃしゃ、大腿骨はさほど太くない，殿筋隆起はやや張り出す、上部は扁平、脛骨は細くきゃしゃ、扁平ではない、大腿骨からの推定身長は約 156cm、【発掘所見】配石なし、頭位は南西、顔はやや右向き、共伴遺物：打製石斧 1、磨石 1、時期：SB582 上位なので、Ⅳ期以降
【SH1178】熟年（50 歳代）・女性、頭蓋骨と下肢骨が出土している、仰臥屈葬、頭蓋では眼窩上隆起は普通、乳様突起は大きくない、頭蓋冠の骨は普通の厚さ、下顎骨は頑丈ではない、下顎骨体は薄く，角前切痕はない、下顎歯のみが残る、歯槽や歯から判断して右はすべて植立していた、咬耗は進んでいる、50 歳代、【発掘所見】配石：上面 3、頭位は南西、顔は右横向き、時期：SB582 上位なので、Ⅳ期以降
【SH1179】高齢・女性、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭部の保存は悪い、乳様突起は小さい，頭蓋冠の骨は薄い、下顎体高は低くきゃしゃ、下顎右前歯部に抜歯はない、咬耗は進んでいる、高齢、鎖骨はきゃしゃ、大腿骨は細くきゃしゃ、殿筋隆起はわずかに張り出す、上腕骨からの推定身長は約 149cm、【発掘所見】配石：上面 2a、墓坑 2bα、頭位は南西、頭蓋骨は頸椎からはずれる、時期：SB582 上位なので、Ⅳ期以降
【SH1180】展示用資料、数体分が埋葬されている、頭蓋骨は4つ、四肢骨では 5 体分（男性 3 体、女性 2 体）、【発掘所見】配石：上面 1a、長骨を矩形に配置、盤状集積葬、時期：SB582 上位、Ⅳ期以降
【頭蓋 A】高齢・男性、上下方向の土圧を受ける、眼窩上隆起は発達する、頭蓋冠の骨は厚い、矢状縫合はほぼ完全に癒合、高齢、下顎枝は比較的立っている（下顎枝角が小さい）、咬耗は進んでいる
【頭蓋 B】成人・男性、頭蓋冠の骨は厚め、乳様突起は大きい、右上顎歯はすべて萌出、観察不能
【頭蓋 C】詳細不明、頭蓋冠の骨は薄い、観察不能
【頭蓋 D】成人・性別不明、もっとも上層にある、破損する，咬耗はかなり進んでいる
【四肢骨】成人・男性 3 体、女性 2 体、各四肢骨はバラバラというわけではない、セットのものもある（橈骨と尺骨、あるいは大腿骨と下腿骨など）、少なくとも 5 体分が混在する、

【SH1181】老年（60 歳前後）・女性、保存は悪い、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋の形は残る、前頭部から頭蓋底に向かう土圧を受けている、眼窩上隆起は発達せず、乳様突起は大きくない、外後頭隆起はあまり発達せず、矢状縫合は外板内板とも閉鎖、高齢、歯はほとんど残っていない、大臼歯も生前に脱落するものが 6 本、咬耗は顕著、60 歳前後、上腕骨は細くきゃしゃ、大坐骨切痕は鈍角で女性的、大腿骨は細め、大腿骨からの推定身長は約 148cm、【発掘所見】配石：上面 1a、墓坑 2a、頭位は南西、顔はほぼ正面向き、共伴遺物：打製石斧 2、磨石 1
【SH1182】2 体分が含まれる、【発掘所見】配石なし、共伴遺物：土錘 1、打製石斧 1、刃器 1、時期：Ⅳ期以降か
【A 人骨】熟年（40～50 歳）・女性、ほぼ全身が出土する、保存は悪い、頭蓋骨と長骨の一部が残る、どれも土圧を受けている、仰臥屈葬、頭蓋では下顎骨が残る，下顎体は頑丈ではない、角前切痕はない、歯は左側が残る、咬耗はやや進んでいる，40～50 歳程度、上腕骨は圧平されている、大腿骨の太さは普通、上腕骨からの推定身長は約 144cm、【発掘所見】頭位は東
【B 人骨】幼児（9 歳前後）・性別不明、一部の骨と下顎骨が出土している、下顎骨はやや頑丈、角前切痕はない、歯は M2 が歯槽内、9 歳前後、エナメル質減形成がある、【発掘所見】頭位は西、姿勢は不明
【SH1183】熟年（50 歳代）・女性、保存は非常に悪い、ほぼ全身が出土している、埋葬姿勢は不明、頭蓋は土圧を受けている、後頭部の観察は可能、乳様突起は小さい，口蓋隆起がある、歯は歯冠がないものもあるが上顎は全歯が植立、上顎に抜歯はない、下顎は右大臼歯列のみ残る、咬耗は比較的進む、50 歳代、エナメル質減形成がある、かなり小型の寛骨、腸骨部が残る、大腿骨はきゃしゃ、【発掘所見】配石なし、底面南寄りから頭蓋骨破片及び上腕骨出土、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1、丸石 1、磨石 2、時期：Ⅳ期以降か
【SH1184】熟年（40～45 歳）・男性、（展示用資料） 全身が出土している、側臥屈葬、頭蓋は横方向に土圧を受けている、眼窩上隆起はかなり発達している、外後頭隆起は発達する、乳様突起は不明、頭蓋冠の骨はさほど厚くない、縫合は癒合が進んでいない，若い個体、下顎骨は頑丈、下顎枝は広い、角前切痕はない、歯は比較的残る、抜歯はない、咬耗はあまり進んでいない、椎骨には加齢変化の骨棘が見られる、鎖骨は太く頑丈，上腕骨は太く三角筋粗面が発達する、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は太く頑丈、【発掘所見】配石：墓坑 2cβ、頭位は南西、顔と体幹は右向き、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1
【SH1185】幼児（3～4 歳）・性別不明、保存は非常に悪い、ほぼ全身が残る、仰臥屈葬、頭蓋は土圧でつぶれている、骨は非常に薄い、歯は乳歯列である、下 M1 が歯槽内、3～4 歳程度、四肢骨は取り上げられなかった、【発掘所見】配石：1d、頭位は南西、顔は右下向き、共伴遺物：打製石斧 2、石鏃 1、石錐 1、小形土器 1
【SH1186】熟年（50 歳代後半）・女性、保存は非常に悪い，1 体分であろう、左側臥屈葬、頭蓋の右半分は失われている、眼窩上隆起は発達していない、乳様突起はやや大きめ、外後頭隆起は発達する、下顎骨は頑丈ではない、軽度の下顎隆起がある、歯は下の大 M（左 M1、右 M1、M2）が生前脱落、下 C は左右とも植立、歯石の沈着がある、50 歳代後半、大腿骨は細い、殿筋隆起はわずか、脛骨は頑丈ではない、大腿骨からの推定身長は約 151cm、【発掘所見】配石：2bβ、頭位は西、顔は右向き、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1、時期：SB566 に切られており、Ⅴ期以前
【SH1187】2 体分が混在している、うち 1 体は頭蓋のみ（B）、【発掘所見】配石なし、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1、時期：SB566 に切られており、Ⅴ期以前
【A 人骨】青年（20～25 歳）・女性、下半身はない、仰臥、頭蓋は横方向の土圧を受ける、眼窩上隆起は発達していない、乳様突起は大きくなく薄い、下顎体は低く厚みはない、角前切痕はない、歯は下顎歯では左右の M1、M2 しか残っていない、他の歯の歯槽は残っており抜歯はない、下 P2 は捻転、咬耗は進んでいない、20～25 歳程度、エナメル質減形成がある、鎖骨は細くきゃしゃ、上腕骨は太くないが三角筋粗面はやや発達する
【B 人骨】熟年（40～45 歳）・女性、歯が残っている、小さい歯で女性的、咬耗はやや進んでおり 40～45 歳程度
【SH1188】高齢（詳細不明）・女性、保存は非常に悪い、全身が残る、仰臥屈葬、頭蓋骨は土圧で原形をとどめない、乳様突起はあまり大きくない、下顎は歯槽の退縮が顕著、角前切痕がある、歯は残っていな

い、切歯部の歯槽は非常に浅い、寛骨は小さい、大坐骨切痕は鈍角で女性的、妊娠痕がある、大腿骨は細い、殿筋隆起はよく発達する、上部は扁平である、【発掘所見】配石：上面 2c、頭位は北東、顔左向き、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1、磨石 1、時期：SB582 を切る、Ⅳ期以降
【SH1189】熟年（50 歳代）・男性、保存は悪い、全身が残る、仰臥屈葬、頭蓋は甕かぶりでつぶれている、眼窩上隆起は発達、鼻根部はくびれている、頭蓋冠の骨の厚さは普通、縫合はかなり癒合しているので高齢、下顎骨は頑丈ではない、角前切痕はない、軽度の下顎隆起が見られる、歯はほとんど残っていない、上顎前歯部は破損、下顎には抜歯はない、右 M は上下とも偏磨耗しており、頬側は歯根に達する磨耗、咬耗は進んでいる、50 歳代、上腕骨は太め、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は太く頑丈、付け柱状、殿筋隆起はやや張り出す、脛骨も太く頑丈、脛骨からの推定身長は約 162cm、【発掘所見】配石：上面 3、墓坑 2bα、頭位は西（平面図では東となっているが、本文の記述に従う）、頭蓋骨には鉢形土器の大破片が被せられている、顔は下向き、共伴遺物：鉢形土器 1、石鏃 1、石錐 1、時期：Ⅳ期
【SH1190】成人（詳細不明）・女性、頭蓋骨はない、下肢骨は比較的残る、仰臥屈葬、上腕骨は細くきゃしゃ、大坐骨切痕は直角に近く、妊娠痕もある、大腿骨は保黒きゃしゃだが粗線は発達する，付け柱状、脛骨は細い、大腿骨からの推定身長は約 156cm、【発掘所見】配石なし、頭蓋骨はないが、体幹から頭位は南西か、時期：SB567 を切ることから、Ⅲ期以降
【SH1191】老年・女性、ほぼ全身が残るが、移送中に破損した、保存は非常に悪い、仰臥屈葬、頭蓋は左上からの土圧を受ける、乳様突起は小さく薄い、頭蓋冠の骨は薄い、外後頭隆起はほとんどない、下顎骨はきゃしゃ、角前切痕はない、歯は生前に多くが失われ，上顎では左 P1 か P2 の歯根があるのみ、下顎は大臼歯部と切歯の一部が観察可能、上顎には生前にほとんど歯がない状態であったと考えられる、北村人骨中もっとも歯を失っていた個体、【発掘所見】配石なし、頭位は南西、顔は左やや下向き、共伴遺物：磨石 1、小形土器 1、時期：SB582 に切られるので、Ⅳ期以前
【SH1192】熟年（50 歳代）・女性、保存は非常に悪い、仰臥、頭蓋は前後方向につぶれている、外後頭隆起は発達せず、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、縫合の癒合は進んでいる，高齢、歯はほとんどが破片、残る歯の咬耗は進んでいる、50～60 歳程度、エナメル質減形成がある、寛骨の大坐骨切痕は鈍角で女性的、【発掘所見】配石なし、頭位は西、顔やや右向き、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1、磨石 2
【SH1193】少年（12 歳前後）・性別不明、（展示用資料） 子供の骨格、頭蓋は上下方向の土圧を受けている、顔面は破損、歯は下 M2 が萌出中、12 歳前後、エナメル質減形成がある、四肢骨の骨端は未化骨、【発掘所見】配石：墓坑 1d、頭位は西、顔は左下向き、出土遺物：左寛骨に密着してイノシシ牙（下顎犬歯、装身具か）、埋土から石鏃 1 出土、時期：SB582 に切られているので、Ⅳ期以降
【SH1195】2 体分である、最初に掘り込まれた墓坑のものを A、あとから掘られた墓坑のものを B とする、【発掘所見】配石なし、時期：SB578 を切るが、SH1143 に切られるので、Ⅳ～Ⅴ期
【A 人骨】壮年（30～35 歳）・男性、下半身と左上半身が欠ける、下顎骨は頑丈、角前切痕はない、下顎角部が張り出す、下顎隆起がある、歯は上顎が 4 本（左右 I1、右 I2、左 P2）、下顎には左大臼歯 3 本が残る、咬耗はあまり進んで居合い、30～35 歳程度、鋏状咬合、エナメル質減形成がある、鎖骨は太く頑丈、上腕骨は太く頑丈で三角筋粗面は発達する、橈骨からの推定身長は約 162cm、【発掘所見】頭位北東、顔は左下向き
【B 人骨】成人（詳細不明）・男性、右大腿骨だけが残る、骨頭はない、粗線は発達し付け柱状、上部は扁平、大腿骨からの推定身長は約 159cm、SH1195A 人骨の大腿骨であってもおかしくはない、
【SH1198】熟年（50 歳代後半）・男性、保存はよい、撹乱を受けた再葬の墓坑、頭蓋は眼窩上隆起が発達している、乳様突起は大きめ、頭蓋冠の骨の厚さは普通、縫合の鋸歯状はまだ明瞭、下顎骨はさほど頑丈ではない、下顎隆起がある、歯は大臼歯の歯槽が退縮している、下左 M1 は生前脱落、歯石の沈着がある、歯槽膿漏、咬耗は進んでいる、50 歳代後半、軽度のエナメル質減形成がある、【発掘所見】配石なし、南西側から頭蓋骨、その東に体幹骨や下肢骨が出土したが、砕片化し、埋葬姿勢は不明、共伴遺物：石鏃 2、時期：SB580 より新しく、SB582 より古い、Ⅰ～Ⅳ期
【SH1199】高齢（詳細不明）・女性、保存は非常に悪い、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、外後頭隆起はあまり発達せず、乳様突起は大きくない、頭蓋冠の骨の厚さは普通、下顎骨は退縮している、歯は残っていない、歯槽膿漏、上腕骨は細くきゃしゃ、大腿骨も細くきゃしゃ、粗線は狭い稜状、殿筋隆起はや

や張り出す、上部は扁平、大腿骨からの推定身長は約 143cm、【発掘所見】配石：墓坑 2bβ、頭位は西、時期：SH1204 より新しいので、Ⅳ期以降
【SH1200】熟年（50～55 歳）・女性、部分的に失われている、仰臥、頭蓋の前頭部から土圧を受けている、外後頭隆起はほとんどない、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は明瞭である、下顎骨は頑丈ではない、角前切痕がある、上顎大臼歯は左 M3 のみが植立し、他は生前に脱落している、下顎は比較的残る、下顎に抜歯はない、咬耗は進んでいる、50～55 歳程度、エナメル質減形成がある、寛骨の耳状面は高くない、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は細め、殿筋隆起の張り出しは弱い、脛骨からの推定身長は約 159cm、全体としては女性的である、【発掘所見】配石なし、頭位は南西、顔は左下向き、共伴遺物：打製石斧 1、時期：SB580 より新しく、SB582 より古い、Ⅰ～Ⅳ期
【SH1201】成人（詳細不明）・性別不明、下顎の右 P1. 左 P2 と上腕骨の近位端のみが出土、小さめの小臼歯でやや咬耗している、上腕骨は圧平され詳細不明、【発掘所見】配石なし、仰臥屈葬、頭位は南西、顔は左やや下向き、時期：SB580 より新しく、SB582 より古い、Ⅰ～Ⅳ期
【SH1202】2 体以上を集めた墓坑、自然位にはない、頭蓋骨が 2 つ、完形に近い方を A、頭蓋冠だけのものを B とする、【発掘所見】配石なし、四肢骨や頭蓋骨が整然と配置される、盤状集積的な埋葬か
【A 人骨】青年（25 歳前後）・男性、顔面と頭蓋底は破損する、外後頭隆起はやや発達、頭蓋冠の骨は薄い、縫合は癒合が進んでいない、若い個体、下顎骨は頑丈である、下顎角部が張り出している、角前切痕はない、大臼歯が残る、上顎は左 M1 のみ、咬耗はあまり進んでいない、25 歳前後、軽度のエナメル質減形成がある、
【B 人骨】成人（詳細不明）・女性、左側頭部から後頭部が残る、外後頭隆起はほとんど見られない、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、成人、
【四肢骨】頭蓋骨 A に対応している、1 体分の四肢骨、上腕骨は頑丈で、三角筋粗面は発達している、寛骨の保存はよい、大坐骨切痕は鋭角で耳状面は低い、男性、大腿骨は比較的太くて頑丈、粗線は発達していない、殿筋隆起が張り出している、上部は扁平、大腿骨からの推定身長は約 155cm
【SH1203】成人（詳細不明）・女性、下肢骨だけが出土、土圧で細片化、扁平化している、尺骨は非常に細くてきゃしゃ、大腿骨も細くてきゃしゃ、殿筋隆起が発達して張り出している、若い個体ではないので女性の可能性が高い、【発掘所見】配石なし、底面の南東寄りから下肢骨が出土、仰臥屈葬か、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1、磨石 1、時期：Ⅰ～Ⅳ期か
【SH1204】熟年（40～45 歳）・男性、保存はよくない、右下肢を除きほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋は上下方向の土圧を受けている、乳様突起は大きく厚い、頭蓋冠の骨の厚さは普通、下顎は頑丈、角前切痕はなくロッカージョー、下顎角部が外側に張り出している、下顎枝の幅は広い、歯は上顎歯の一部が欠ける、抜歯はない、上右 M1 の歯槽が閉鎖、歯石が顕著に沈着する、齲蝕がある、咬合面は平坦化し咬耗はやや進んでいる、40～45 歳程度、エナメル質減形成がある、寛骨は大きく大坐骨切痕は鋭角的、耳状面は低い、大腿骨は太く頑丈、殿筋隆起はよく発達する、上部は扁平である、粗線はやや発達するが柱状大腿骨ではない、【発掘所見】配石：墓坑 2bβ、頭位は北西、頭蓋骨上面から破砕した土器片が出土（甕被り葬か）、顔は下向き、共伴遺物：土器、時期：Ⅳ期
【SH1205】成人（詳細不明）・性別不明、下肢骨だけが出土している、撹乱を受けている、大腿骨は比較的太い、粗線は高くはない、上部は扁平、脛骨はさほど太くない、腓骨は普通、【発掘所見】底面東寄りから下肢骨出土、共伴遺物：磨石 2、時期：SB580 より新しい、Ⅰ期以降
【SH1206】熟年（50～55 歳）・女性、保存は悪くもろい、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋骨は顔面が破損する、眼窩上隆起は発達していない、乳様突起は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨は比較的きゃしゃ、軽度の角前切痕がある、下顎体高は低い、下顎隆起がある、歯は保存が悪い、臼歯部に生前に脱落した歯が多い、鉗子状咬合、咬耗が進んでいる、50～55 歳程度、鎖骨や上腕骨は細くきゃしゃ、三角筋粗面はやや発達する、大坐骨切痕は鋭角的だが妊娠痕がある、大腿骨は細い、殿筋隆起が張り出す、上部は扁平とは言えない、脛骨は細くてきゃしゃ、大腿骨からの推定身長は約 145cm、【発掘所見】配石：墓坑 2cβ左体側下に炭化材、頭位は西、顔は左下向き、共伴遺物：石鏃 1、打製石斧 1、磨石 4、時期：SB583 と SH1215 との新旧関係からⅢ～Ⅳ期
【SH1207】少年（13～15 歳）・女性、上半身だけが出土している、仰臥、頭蓋は横方向の土圧を受けている、顔面の保存はよい、乳様突起は小さく薄い、縫合は鋸歯状が明瞭なので若い個体、下顎はきゃしゃで、体部は低い、歯は上下顎とも M2 まで植立する、抜歯はない、M3 は上下左右とも歯槽内にあり未萌

出、咬耗は軽度、13～15 歳程度、軽度のエナメル質減形成がある、肩甲骨は小さい、上腕骨は細くきゃしゃ、【発掘所見】配石なし、下半身がないが、（土坑の規模からか）発掘担当者は屈葬と想定、頭位は南東

【SH1208】壮年（30～40 歳）・男性、保存は悪い、ほぼ全身が出土している、左手首にイノシシの犬歯の飾りがある、仰臥屈葬、頭蓋は完全につぶれている、外後頭隆起は大きく発達、乳様突起も大きい、下顎骨は大きく頑丈、下顎隆起がある、角前切痕はない、歯の残りはよい、抜歯はない、咬耗はやや進んでいる、30～40 歳程度、エナメル質減形成がある、上腕骨は太くて頑丈、大坐骨切痕は鋭角、大腿骨は非常に太くて頑丈、殿筋隆起はやや張り出している、上部は扁平である、脛骨は太くて頑丈、大腿骨からの推定身長は約 160cm、【発掘所見】配石なし、頭位は南西、顔はほぼ正面、共伴遺物：左手首からイノシシ牙腕輪、埋土より石鏃 1、打製石斧 1、磨石 1 出土

【SH1211】少年（18～20 歳）・男性、（展示用資料） ほぼ全身が出土している、全体が楕円形のような変わった格好の埋葬である、顔面は破損している、乳様突起は大きく厚い、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨は頑丈、下顎枝角は小さい、角前切痕はない、歯は右下顎に残る、その部分では抜歯はない、咬耗はごく軽度、18～20 歳程度、エナメル質減形成がある、上腕骨は比較的太いが三角筋粗面はさほど発達していない、寛骨はよく残る、大坐骨切痕は鋭角で男性的、腓骨は各縁が非常に発達している、【発掘所見】配石なし、仰臥屈葬、頭位は北東、顔は下向き、時期：SB581 より古く、Ⅲ期以前

【SH1212】【発掘所見】配石：墓坑 2bβ、底面北東端部から頭蓋骨片出土、時期：SB581 より古く、Ⅲ期以前

【SH1213】詳細不明、下顎骨片が残る、保存は悪い、歯はない、【発掘所見】配石なし、底部北東端部から頭蓋骨出土、時期：SB581 より古く、Ⅲ期以前

【SH1215】成人（さほど高齢ではない）・男性、保存は悪い、顔面が破損するがほぼ全身が出土、仰臥屈葬、頭蓋では外後頭隆起は見られない、頭蓋冠の骨は厚い、縫合は鋸歯状が明瞭、さほど高齢ではない、乳様突起は大きく厚い、側頭線は明瞭、下顎では下顎枝がやや細め、角前切痕はない、鎖骨は比較的太い、上腕骨は長く頑丈、三角筋粗面はやや発達、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨は太く頑丈、上部はやや扁平、腓骨は太く頑丈、【発掘所見】配石なし、頭位は北東、頭蓋骨には鉢形土器 2 が重ねて被せられていた（鉢の下半部の上に、完形の鉢がのる、甕被り葬）、顔左向き、時期：Ⅳ期

【SH1216】老年（60 歳以上）・女性、上半身だけが出土している、仰臥、頭蓋は前頭部から頭蓋底にかけて土圧を受けている、眼窩上隆起は比較的発達、鼻根部は凹んでいる、乳様突起はあまり大きくない、頭蓋冠の骨は薄い、下顎骨は大きいが頑丈ではない、歯は上顎切歯部が破損、上顎では P2、M1、M2 が残る、下顎では左前歯が出土、上 M3 は生前に脱落、下顎の臼歯部は歯槽が退縮している、残っているのは右 M1 の歯根のみ、少なくとも下顎に抜歯はない、咬耗は顕著でかなり高齢、エナメル質減形成が見られる、鎖骨は右が顕著に太い、左の鎖骨は細くきゃしゃ、上腕骨は普通、【発掘所見】配石なし、土坑の規模（長径約 1.3m）から上半身だけだが、担当者は屈葬と推定、時期：SH1184 より古く、Ⅳ期以前

【SH1217】2 体分が出土している、子供 A と成人 B である、【発掘所見】配石なし、共伴遺物：埋土より石鏃 2、時期：甕被り葬の土器からⅡ期

【A 人骨】少年（12 歳前後）・性別不明、上半身の右が欠ける、保存は悪い、仰臥屈葬、頭蓋はほとんど細片化し観察不能、歯は上左 dp2 が植立した混合歯列、M3 は歯槽内、M2 は萌出直後、12 歳前後、犬歯は大きい、エナメル質減形成がある、それぞれの骨は細くきゃしゃ、【発掘所見】顔を深鉢形土器の下半が覆っていた、甕被り葬

【B 人骨】成人（詳細不明）・性別不明、下肢骨の一部だけが残る、脛骨はさほど太くない、成人

【SH1220】詳細不明、脛骨近位部と思われる骨片のみが出土、【発掘所見】配石なし

【SH1221】【発掘所見】配石なし、底面南東寄りから骨片が出土、時期：SB580 と同時期、Ⅰ期か

【SH1222】【発掘所見】配石なし、底面から骨片出土、時期：SB580 と同時期、Ⅰ期か

【SH1228】詳細不明、頭蓋骨の破片が 10 数点残るだけ、頭蓋冠の骨は厚い、【発掘所見】配石：墓坑 2bβ、仰臥屈葬、頭位は西、頭蓋骨には深鉢形土器の下半部が被せられていた（甕被り葬）、時期：Ⅲ期

【SH1229】少年（13～14 歳）・女性、下半身の一部と歯が出土している、歯では M3 は萌出していない、M2 の咬耗はごくわずか、上 P2 は萌出中、13～14 歳程度、寛骨では耳状面が低い、大腿骨は細い、上部は扁平、殿筋隆起は顕著に張り出す、【発掘所見】配石なし、時期：SH1228 に切られる、Ⅲ期あるいはそれ以前

【SH1230】【発掘所見】配石なし、底面北寄りから下肢骨が出土、共伴遺物：刃器 2、時期：SB581 を切る、Ⅲ期以前か
【SH1232】若い個体（詳細不明）・性別不明、頭蓋の後頭部だけが出土している、外後頭隆起はあまり発達していない、頭蓋冠の骨の厚さは普通、縫合はまだ明瞭で若い個体であろう、【発掘所見】配石なし、底面北西寄りから逆位の鉢形土器、その下位から頭蓋骨片が出土、甕被り葬か、時期：Ⅲ期
【SH1233】成人（詳細不明）・男性、甕かぶりである、保存は非常に悪い、体幹骨はほとんど残っていない、顔面は消失している、乳様突起は大きく厚い、頭蓋冠の骨は薄い、頭蓋全体としては男性的、大腿骨片があるが詳細不明、【発掘所見】配石なし、仰臥屈葬、頭位は北東、頭蓋骨に無文の深鉢形土器が被せられる、顔面は正面を向く、甕被り葬、共伴遺物：打製石斧 1、時期：Ⅳ期
【SK2029】幼児（8 歳前後）・女性、保存は悪くないが子供のためもろい、ほぼ全身が出土している、仰臥屈葬、頭蓋冠の骨は薄い、乳様突起は若い割に大きめ、下顎骨は厚くがっしりしている、歯は混合歯列である、M2 は未萌出、側切歯（I2)にほとんど咬耗がない、8 歳前後、歯は小さい、エナメル質減形成がある、大腿骨や上腕骨は骨頭がまだ癒合していない、大腿骨の上部は扁平、【発掘所見】配石なし、頭位は南西、頸椎でよじれており頭蓋骨は原位置ではないらしい、本来顔は左下向きか
【SK2309】詳細不明、焼けた頭蓋骨片が数点出土している、骨は薄い、【発掘所見】形態などの記述なし
【SK2398】幼児（8～9 歳）・性別不明、下右 P2、M1 といくつかの歯の破片だけが出土している、M1 の咬耗はごくわずか、P2 は全く咬耗していない、8～9 歳、【発掘所見】形態などの記述なし

【遺構外出土の人骨】
【L 区 No.6】青年（詳細不明）・男性、頭蓋骨と少数の歯が出土している、下顎体は比較的厚かったと思われる、歯は下右 M2 と M3 が残っている、歯は大きい、咬耗は軽度である、
【L-D11 区 No.8】詳細不明、脛骨片と思われる骨片だけが出土している、
【L-L7 区 No.43】詳細不明、四肢長骨片が 10 点ほど出土している、
【L-C10 区 No.3】詳細不明、上腕骨片が出土している、骨は薄い

【出土地不明】
【SH587（不明）】少年（18 歳前後）・男性、保存は悪い、頭蓋と骨盤及び下肢骨の一部だけが出土している、仰臥位、頭蓋は上下方向に土圧を受けている、乳様突起の基部は大きめ、下顎骨は比較的頑丈である、角前切痕はない、歯は上左 M3 が消失しているが他はすべて萌出している、抜歯はない、咬耗は軽度、エナメル質減形成がある、上腕骨は出土していない、左骨盤は保存がいい、大坐骨切痕は鋭角で男性的、寛骨臼窩に穿孔がある、大腿骨は保存がよい、殿筋隆起は顕著である、粗線は発達し付け柱状、

【北村遺跡人の概要を人類学的に検討したまとめ】配慮はしていたものの計測数値の信頼性は土圧の影響などで低いかもしれない（茂原 1993a）、頭蓋骨、四肢骨、歯の形態・計測・エナメル質減形成、身長、死亡年齢、性比、病気、抜歯、虫歯、磨耗などについて北村遺跡人の特徴をまとめて記述している（茂原 1994）。

山形村

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	名篭遺跡	なろう	中世	ﾊﾟﾘﾉ・ｻｰﾍﾞｲ	2007b	山形村

13 基の土壙（土坑）や溝から出土、土葬墓 4 基、火葬墓 7 基を含む。中世的な形質のものがある。【発掘所見】

【SK127】成人・性別不明、焼骨、頭蓋骨片、肋骨片、四肢骨片などが残る、成人と思われる、【発掘所見】火葬墓、銭貨 4、時期：中世
【SK159】詳細不明、生骨、土葬、頭蓋骨や四肢骨片など 13 点ほどが残る、保存状態は悪いようである、上顎歯は 16 本が全て残り、下顎歯は 12 本が残る、【発掘所見】土葬墓、銭貨 6（皇宋通寶、嘉祐通寶、政和通寶、洪武通寶各 1）時期：中世後期（室町時代か）
【SK396】壮年前半・男性、生骨、土葬、頭蓋骨片、歯、上腕骨、大腿骨、脛骨など全身にわたって残る、前頭縫合遺残、顔面が比較的残る、鼻根幅が大きく中世人的、大きな顔の人、M3 萌出、咬耗はやや進む、壮年前半程度、上顎歯は 13 本、下顎歯は 16 本全てが残る、【発掘所見】土葬墓
【SK388】成人・性別不明、焼骨、頭蓋骨片 5 点、四肢骨片などが残る、成人であろう、【発掘所見】墓一覧には土葬墓とあるが、火葬墓のあやまりか、政和通寶 1、時期：中世

【SK577】成人・性別不明、生骨、土葬、保存状態は悪い、一部が残る程度、右大腿骨骨幹などが残るのみ、成人、【発掘所見】土葬墓
【SK558】成人・性別不明、焼骨、四肢骨の細片が見られる程度、成人であろう、【発掘所見】火葬骨を遺棄したような出土状況とされる
【SK562】壮年前半・性別不明、生骨、土葬、側頭骨左右錐体、歯、四肢骨片 1 点が出土、M3 は上顎下顎とも萌出、咬耗は軽度で壮年前半程度、【発掘所見】土葬墓か、掘り方が浅く不明確
【SK446】5～6 歳小児、性別不明、生骨、土葬、右側頭骨錐体、後頭骨片や上腕骨、大腿骨片などが出土している、右大腿骨が残り全長が計測可、ピアソン式から推定身長は♂なら 126cm、♀なら 119cm、【発掘所見】土葬墓
【SK530】成人・性別不明、焼骨、頭頂骨片、肋骨片が残る、他部位不明の四肢骨片、成人、【発掘所見】火葬墓、銭貨（永楽通寶）1、時期：中世後期（室町時代か）
【SK524（古）】成人・女性、焼骨、左側頭骨錐体、頭頂骨片、下顎骨片、大腿骨片などが残る、頭蓋骨は集められている、下顎骨切歯部の歯槽吸収は見られない、M3 は萌出、きゃしゃな骨格なので女性か、【発掘所見】火葬墓
【SK524（新）】成人（老齢か）・性別不明、焼骨、上顎骨、椎骨片、大腿骨片、脛骨片などが出土している、腰椎に骨増殖があるので老齢の可能性あり、【発掘所見】火葬墓、掘り方を再利用し 2 回以上火葬実施、銭貨 4（皇宋通寶、元祐通寶各 1、他 2 は被火によって変形癒着）、時期：中世
【SK495】成人・性別不明、焼骨、大腿骨片、脛骨片などがある、大きさから成人と思われる、【発掘所見】火葬墓
【SD03】成人・性別不明、焼骨、上腕骨片、大腿骨片などが残る、量的には少ない、大きさから成人、【発掘所見】火葬骨を構内に避棄したような出土状況
【SK508】年齢不明・女性か、焼骨、上腕骨片などがある、きゃしゃである、女性か、【発掘所見】火葬墓、銭貨 5（被火によって変形癒着、銭名不明）、時期：中世

筑北村

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	野口遺跡	のぐち	平安初※	茂原信生	1993b	県歴史館
詳細不明、焼骨、10 数点の出土、出土量は少ない、頭蓋骨の一部、橈骨骨幹片、脛骨骨幹片が残る、骨に波形の亀裂はないので低温で焼かれたか、再葬か、※時期：平安時代初頭（9C）						
【SK01】古代火葬墓、底面近くに須恵器甕が半分に割れて内面を上に向け横転した状態、その上に須恵器長頸壺、さらに埋土上部に黒色土器杯、埋納されていた火葬骨が後世のかく乱で破壊されたが、すぐ埋め戻されたものとされる						
2	向六工遺跡	むかいろっく	中世	茂原信生	1993c	県歴史館
焼骨、時代的特徴は不明						
【SK1048】成人・女性か、焼骨、100 点ちかい細片、波形の亀裂あり、1 体分のごく一部が残る、同定できたのは 11 点で側頭骨錐体、下顎骨片、橈骨片、膝蓋骨片など、骨端の癒合などから考えて成人であろう、膝蓋骨は小さい、女性か、【発掘所見】火葬施設、両側中央部に溝状の突出部を持ち、壁は赤化、銭貨 4（被熱溶着して銭名不明）、銭貨を伴うことから、墓の機能も兼ねていたか						

大桑村

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	大明神遺跡	だいみょうじん	縄文晩期か	西沢寿晃	1988a	大桑村
全て焼骨、哺乳類骨と混在している、人骨は 2 つのグリッドのみ						
【K-8 グリッド】詳細不明、焼骨、頭蓋冠の骨片が多い、他大腿骨の一部があり粗線が発達している、他に長骨片多数 【K-9 グリッド】成人で高齢のもの 1 例・男性ともう一体（詳細不明）　焼骨、多量の人骨が出土、右側頭骨頬骨部が 2 点、下顎骨体中央部（前方）が 2 点残る、最少個体 2 体、頭蓋骨片（頭頂骨など頭蓋冠片、乳様突起部、下顎骨体など）、M3 萌出、腰椎関節部に骨棘（変形性脊椎症）がある、上腕遠位骨幹、腸骨の一部、大腿骨片、膝蓋骨、脛骨（蹲踞面あり）、成人で高年齢のものを含む						

木曽町

№	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管

<table>
<tr><td>1</td><td>芝垣外遺跡</td><td>「しばがいと」か</td><td>縄文晩期</td><td>藤沢宗平</td><td>1951</td><td>木曽町</td></tr>
<tr><td colspan="7">抜歯された下顎骨が、配石遺構に伴って出土しているらしい、時期は晩期末氷式、信濃史料 1956、設楽 1993・2004 に言及あり、正式報告なし</td></tr>
<tr><td>№</td><td>遺跡名</td><td>よみ</td><td>年代</td><td>報告者</td><td>年</td><td>保管</td></tr>
<tr><td>2</td><td>マツバリ遺跡</td><td>まつばり</td><td>縄文</td><td>西沢寿晃</td><td>1995c</td><td>木曽町</td></tr>
<tr><td colspan="7">焼骨、人骨と動物骨、保存は悪い、白く焼かれている、B-1、B-2、B-3 には動物骨が混入している。形態的な特徴は不明、【発掘所見】18 号住居址中期後葉の埋甕内よりも人骨片が出土とあるが、形質の所見なし、B1~3 群の集石が出土しており、それぞれ土坑（墓坑か）が伴っているとされるが、中でも B2 群からは人骨が伴うと土壙（土坑）11～13 号から人骨が出土しているとの記述があるので、以下の B-1～B-3 墓坑はこれに対応すると思われる。後期中葉から晩期の土器や石器が出土しているが、中でも 12 号からは滑車形土製耳飾が出土</td></tr>
<tr><td colspan="7">【B-1 墓坑】成人・性別不明、焼骨、骨片はわずか、頭蓋冠片、肋骨片、上肢骨片が残る
【B-2 墓坑】成人・性別不明、焼骨、頭蓋の細片が多い、前頭骨や頭頂骨、後頭骨の小片、骨は薄い、肋骨片、上腕骨片、大腿骨などの破片がある、保存は悪い、
【B-3 墓坑】成人・性別不明、焼骨、最も多く骨が残る、頭頂骨、側頭骨など細片が残る、上顎骨や下顎骨の歯槽部分がある、四肢骨片などほぼ全身にわたる骨がある、1 体分、
【10 号址・10 号炉址】成人・性別不明、焼骨、やや多量に人骨がある、いずれも細片、頭蓋の頭頂骨や側頭骨が残り、他に椎骨などがある、【発掘所見】時期：後期前葉から中葉（堀之内式から加曾利 B 式）</td></tr>
</table>

南信

岡谷市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	大久保 B 遺跡（おおくぼ B）	奈良・平安	西沢寿晃 1987	県歴史館
形態的特徴は不明				
【2 号墳墓】詳細不明、焼骨、全体で 50 点ほど、約 400g、ほぼ全身にわたって出土している、頭蓋骨片 3 点、肋骨片、上腕骨片、大腿骨片、脛骨片など 10 点ほどが同定された				
2	膳棚 B（白山）遺跡（ぜんだな B・はくさん）	奈良・平安※	関賢次 1987	県歴史館
鑑定は西沢寿晃氏、※奈良時代末～平安時代末				
【1 号石組み墓石室】詳細不明、焼骨、骨片（大きいものでも 2.5cm ほど）、骨粉が出土、上腕の骨片らしきものがある、頭蓋片はない、他で火葬され持ち込まれたもの				
3	カロウトイシ古墳　かろうといし	古墳	西沢寿晃 1976	岡谷市
2 カ所の焼骨、2 体分、散乱、後世のものの混入の可能性もある				
【ハ号人骨】壮年・女性、焼骨、頭蓋骨は細片化、外後頭隆起は弱い、上顎骨、頭頂骨などが残る、歯はない、上腕骨骨幹、三角筋粗面は中等度の発達、四肢骨骨端線は消失、各骨ともきゃしゃ 【二号人骨】壮年か・女性、焼骨、骨の残りはハ号人骨より悪い、後頭骨の外後頭隆起はわずかに強い、下顎骨などが残る、下顎骨に歯槽の吸収はない、大腿骨は女性のものである				
4	梨久保遺跡　なしくぼ	縄文	西沢寿晃 1986d	岡谷市
焼骨のみ、少量の動物骨が混在する、				
【住居址内】保存は悪い、細片、小量である。動物骨が少量ある、				
【小竪穴址】多数の小竪穴（P）でも残量は少量、以下の 6 ヶ所はやや多い、 【342P】詳細不明、さほど多くない、頭蓋の板状骨が数片、長骨骨体、指骨などが残る 【354P】詳細不明、やや多量だが極小片、頭蓋部分は小片だが多い，下顎の歯槽の一部や下顎枝の一部、頚椎椎弓の一部、大腿骨骨幹、腓骨の骨幹、指骨が残る、鹿角が混在 【554P】詳細不明、もっとも多量、破損は顕著、頭蓋破片だが多数残る，上顎骨、下顎骨の一部がある、前腕骨の近位部が残る、きゃしゃ、大腿骨や脛骨の歯片もある、全身があるので 1 個体と思われる、 【723P】詳細不明、細片が多い、上腕骨体部、尺骨の一部がある、 【289P】詳細不明、細片は多量である、前頭骨や頭蓋冠の縫合を残す、椎骨片、肋骨片、橈骨片、大腿骨片などがある、 【273P】詳細不明、残存する量は多い、1 個体、上顎骨、下顎骨、頭頂骨、側頭骨岩様部、頭蓋底などが残る、下顎骨は比較的よく残る，犬歯や小臼歯の歯根が植立して残る、上腕骨や尺骨、大腿骨、脛骨等は多い、				

諏訪市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	曽根遺跡（そね）	縄文草創期	綿田弘実他 2000	東大総博
東大博物館に所蔵されている長野県内出土遺物の調査で報告として記載されたもの。縄文時代関係の人骨はこの 1 個所だけである、長野県立歴史館考古資料課による資料調査、【発掘所見】明治時代に湖底遺跡から引き揚げられた資料、縄文土器（草創期爪形文）出土層位等不明				
詳細不明、人骨・歯　、標本箱 1 にあると記載されている（標本番号；C-9-9）				
2	仏法紹隆寺境内遺跡 ぶっぽうしょうりゅうじけいだい	江戸	森本岩太郎他 1986	諏訪市
諏訪市にある円教房智映上人（即身仏）の遺骨調査。短身ながら筋骨のたくましい体格。				
30 歳代・男性、保存状態は良好、頭蓋では下顎骨右半は失われているが他は残っている、上肢下肢のおもな長骨骨幹はよく残る、縫合からは 30 歳代、中頭、鼻根部の彫りは深くない、ほとんどの歯は生前に病的に脱落している、多くの歯槽が閉鎖している、腰椎に骨棘の形成が見られる（変形性脊椎症）、上腕骨の三角筋粗面はよく発達する、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は中等度の柱状性、アレン頚窩、大腿骨より推定身長は約 153cm、距骨に蹲踞面がある				

茅野市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	棚畑遺跡（たなばたけ）	縄文中期	西沢寿晃 1990c	諏訪市
多数の土壙から焼骨片が出土している。ほとんどは微細なもので詳細不明				
【56 号土壙】詳細不明、焼骨、細片化している、黒化する部分もある、頭蓋骨片も残り全体の中では量は多い、歯種不明の歯根 2 本、別の場所で火葬され焼土とともにここに埋められたと思われる、他に 12 基の土壙で骨粉状のわずかな焼骨がでているが詳細不明				
2	御社宮司遺跡（みしゃぐうじ）	不明	西沢寿晃 1982c	茅野市
焼骨。埋土の最上位から軸椎（いわゆるのど仏）が完形で出土した。				
【F7 号土壙】詳細不明、焼骨、一体分、再葬人骨（他所で火葬されたもの）、頭蓋冠片（骨は薄い）、椎骨片、上腕骨片、指骨などが残る、小さな骨が多い				

下諏訪町

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	殿村・東照寺址遺跡（とのむら・とうしょうじあと）	平安～中世	西沢寿晃 1990d	下諏訪町
すべて焼骨				
【第 11 号集積土壙蔵骨器内】多数個体であり、詳細は不明、焼骨、かなり多量で多数個体がある、黒化する部分もある、頭蓋骨片が多い、頭蓋骨では壮年以降の個体を含む、下顎骨前方部分、歯はエナメル質が欠けている象牙質部分が 8 本残る、上腕骨、大腿骨片がある、軸椎が 4 個体分あるので最少個体は 4 体、頑丈な男性的な骨があるがきゃしゃなものもある 【第 5 号集石土壙墓】詳細不明、少量の焼骨、頭蓋骨片（側頭骨錐体や下顎窩など）がある、他は全て小片 【第Ⅲ区遺構外】詳細不明、焼骨片、量も少ない、頭蓋骨片が数点など部分的な残存である				

原村

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	上居沢尾根遺跡（かみいざわおね）	近世	平出一治 1995	原村
近世の墓壙 4 基がある、対象時期ではないので出土した事実記載のみ				
【墓壙】詳細不明、寛永通宝を伴う墓壙 4 基に、人骨が遺存するとの記載がある。				

伊那市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	野口墳墓遺跡（のぐち）	縄文晩期	西沢寿晃 1982b	伊那市
21 体の人骨（熟年 6、壮年 10, 若年 2,不明 3）、すべて焼骨、そのうち 10 個体に抜歯がある、上下顎の歯槽縁はよく保存されている（西沢氏の観察記録による）				
1	野口遺跡（のぐち）	縄文晩期※	林　茂樹 1983	伊那市
人骨群は当初9塊ほど存在したと思われるが、検出したのは7塊。すべて火熱を受けている。四肢骨には原形をとどめているものがあり、頭蓋骨片も　ある。下顎骨数によって個体数を推定すると、31 個体。性別は不明。老・熟年各4、壮年 20、若年2体。犬歯の抜歯があるもの老年1、熟年2、壮年8体。若年2例には抜歯はない。大部分に上下の犬歯抜去がある。5号人骨塊中には、上下顎の切歯（I2）及び犬歯計4本を抜歯したものがある。人骨鈴木誠測定検証、※時期：縄文晩期前半				
1	野口遺跡（のぐち）	縄文晩期※	永峯光一 1988a	伊那市
7群の焼けた人骨が出土している。下顎で数えると 31 個体分あり、その内 11 例の両側犬歯抜歯例がある。側切歯の抜歯を伴う場合もある。				
2	宮場間様十三塚遺跡 みやばまさまじゅうさんづか	中近世	飯塚政美 1987	伊那市
西沢寿晃氏鑑定、形態の記述ほとんどなし。				
【1 号墳丘】詳細不明、もっとも大きな墳墓（戦国時代の武将の墓）、中央部から人骨が出土、土葬の可能性が強い 【7 号墳丘-1】詳細不明、焼骨（少量）、火葬墓、（戦国時代）				

【7 号墳丘-2】年齢不明・女性、7 号墳丘を取り除いた後（約 70cm 下層）に出土、女性の頭蓋骨（江戸時代後期の土葬墓）
【8 号墳-1】3 体が出土、壮年・男性、壮年・女性、幼児・性別不明、3 体の人骨、1 体目；40 歳くらいの男性、頑強、身長が低い、歯並び良好、2 体目；35 歳くらい、やや面長、齲蝕無し、3 体目；7～8 歳の小児（江戸時代後半の土葬墓）
【8 号墳-2】詳細不明、人骨が出土しているという記述のみ（江戸時代後半の土葬墓）
【8 号墳-3】年齢不明・男性、男性頭蓋骨が出土、（江戸時代後半の土葬墓）
【30 数基の火葬墓群】詳細不明、量の違いはあるがどの墓坑にも骨粉がみられた

駒ケ根市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	七免川 B 遺跡（しちめんがわ B）	中世	小原晃一 1980	駒ケ根市

火葬墓と南側の人骨集中部から人骨がでている。2 個体。形態の記載はない。

【1 号火葬墓】焼骨、1 体分、頭頂骨、下顎骨、上腕骨、大腿骨など、他に少なくとも 6 本の歯（歯根かどうかは不明）が出ている、頭から足までの横になった位置で火葬した可能性がある
【火葬墓南側黒褐色土葬】焼骨、人骨が出土している、中心部に頭蓋骨と歯が集中していた、1 号とは別個体、保存状態は悪い

箕輪町

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	源波古墳（げんなみ）	古墳	西沢寿晃 1988d	箕輪町

玄室内の歯の残りはよい。

【玄室内】4 体以上、青年、壮年期の 3 体、7・8 歳の幼児、中央部に集中、保存はきわめて悪く形をとどめていないものがほとんど、骨はもろく細片化、歯のエナメル質は残る、頭蓋骨では後頭骨、側頭骨岩様部，下顎骨（下顎体のごく一部）などが残る、上肢では尺骨と鎖骨の一部が残る、下肢では左右大腿骨片がある、歯は玄室内のみにある、30 数本が残る、上左M1 が 3 本、M2 が 3 本、最少個体 3 体、咬耗はどれもさほど進んでいない、乳臼歯も混在する、
【玄室外】詳細不明、焼骨、四肢骨片など少量、

南箕輪村

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	宮の上遺跡（みやのうえ）	平安※	西沢寿晃 1994b	南箕輪村

※時期 9C 後半、骨壺（光ヶ丘 I 窯式）

【骨壺】熟年（切歯では）・性別不明、焼骨、骨壺内を上中下に分けて観察したが各骨が混在している（下部に大型の長骨片が多い傾向）、1 個体分、黒化したものもある、頭蓋骨片は多い、頭蓋冠の骨は比較的薄い、下顎骨に M3 の歯槽あり、歯は火葬には珍しく切歯 8 本、臼歯 4 本が残存する、歯根も歯冠もある、切歯の咬耗は歯頚線付近に及ぶ、四肢長骨片も残る、

中川村

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	天伯古墳（てんぱく）	古墳	友野良一他 1986	中川村

2 体が出土、あまり時間差のない追葬

【玄室内】生骨、撹乱は受けていない、2 体分、
【出土人骨 1】奥の台石上に埋葬されたもの、歯、上腕骨片、大腿骨片、脛骨片などで他はない、
【出土人骨 2】前方羨道部付近に埋葬されていたもの、伸展葬ではない、保存が悪く詳細は不明

2	六万部古墳（ろくまんぶ）	古墳	鈴木誠 1966b	中川村

2 体分が出土、若年と壮年

保存はよくない、右頭頂骨と左側頭骨の一部、第 2 頚椎・胸椎が 1 個残る、四肢骨は少なく細片化、左側頭骨錐体部が 2 個あり 2 体分が混在（若年・性別不明と壮年男性）、歯は 9 本が残る（若年：下左 C～M3,右 P1,M2,壮年：上左 M2）

飯田市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	石子原遺跡（いしこばら）	江戸後期	茂原信生他 2007	飯田市

24 墓坑から人骨が出たが観察できるのは 20 基（成人 14 例、少年 1 例、幼年 5 例）。形態的な特徴は不明のものが多い。遺伝子の解析が行われている。SM14 と SM19 は兄弟との指摘がある。

【SH03】幼児・男性、下顎骨の一部と歯が残る、歯は歯冠のみ残、乳歯があり混合歯列、M1 萌出、10 歳程度、歯は大きい
【SH05】成人・男性、うつぶせに埋葬されている、下顎骨を含む頭蓋の一部が残る、M3 萌出するも咬耗は少ない、歯石がある、四肢骨はごく一部、
【SH06】幼児・性別不明、歯冠だけが残る、乳歯が混じる混合歯列
【SK101】成人・性別不明、後頭骨外後頭隆起部と一部の頭蓋骨、及び四肢骨片が 1 点、外後頭隆起はやや発達する、成人
【SK106】幼児・性別不明、左側頭骨錐体部と歯、及び四肢骨片が残る、乳歯の混じる混合歯列、M1 は萌出、6 歳以上
【SK107】幼児・性別不明、下顎骨を含む頭蓋骨の一部が残る、歯は混合歯列である、M1 は萌出、M2 未萌出、6～10 歳程度
【SK109】詳細不明、歯の破片が数点残るのみ
【SM07】やや高齢・性別不明、下顎骨と歯が残る、歯は M2、M3 である、ともに咬耗がやや進んでいる、四肢骨では寛骨片、大腿骨骨幹部などが残る、やや高齢か
【SM08】老齢・男性、頭蓋冠の一部、下顎骨、上腕骨、大腿骨などの四肢骨片が残る、下顎骨の歯は生前に脱落している、高齢、大腿骨粗線は発達がよい、扁平大腿骨
【SM09】成人・男性、頭蓋では後頭部、側頭骨片が残る、乳様突起部はやや厚く男性的、成人
【SM11】詳細不明、頭蓋骨片と四肢骨の一部である、
【SM12】熟年・男性、下顎骨を含む頭蓋骨、四肢骨では上腕骨などおもな四肢骨はすべて残っている、左大腿骨最大長は 44cm、男性推定身長は 164cm でやや高身長、M3 萌出、下顎歯は M2、M3 が生前に脱落
【SM13】成人・女性、頭蓋骨では側頭から後頭にかけて残る、下顎骨、四肢骨は寛骨、左右大腿骨などが残る、大坐骨切痕は女性的、大腿骨はきゃしゃで粗線の発達は悪い、女性推定身長 165cm と大きい、下顎歯に歯石が沈着、M3 萌出
【SM14】青年・男性、屈葬、体幹の骨はほとんどない、大坐骨切痕は男性的、大腿骨からの男性推定身長は約 160cm、下顎歯は M3 萌出、咬耗はさほど進んでいない、歯石の沈着がある、SM19 との血縁関係があるとされる（遺伝子から）
【SM15】成人・女性、屈葬、頭蓋骨の残りはよい、乳様突起は小さい、下顎枝角は大きく現代的、M3 萌出、大坐骨切痕は女性的、上腕骨からの女性推定身長は約 153cm
【SM16】若い個体・性別不明、うつぶせの埋葬、歯の咬耗は少ない、まだ若い
【SM17】老年・女性、残っている右下顎の歯はすべて生前に脱落、下左 C は残る、上 M2、M3 部に咬合面に及ぶ歯石の沈着、上顎の歯槽膿漏は顕著、上腕骨の三角筋粗面は発達している
【SM18】成人・性別不明、後頭部、歯と大腿骨骨幹が残るだけである、歯は M3 が残る、M3 の咬耗はほとんどない、さほどの高齢ではない、大腿骨はきゃしゃ
【SM19】壮年～熟年・男性、後頭部、下顎骨、及びおもな四肢長骨片が残る、M3 萌出し強度な咬耗がある、骨は頑丈
【SM20】詳細不明、後頭部、大腿骨、脛骨が残る、保存状態は悪い
【SM22】成人・性別不明、頭蓋骨片、歯、四肢骨では上腕骨、大腿骨、寛骨が残る、歯は上顎 M2、M3、下顎 M1、M2 が残る、M2 の咬耗は進んでいる、
【SM23】11～13 歳・性別不明、上顎骨周辺と歯が残る、混合歯列である、M2 が歯槽内で萌出中、
【SM24】少年・性別不明、4 本の歯とわずかな頭蓋骨片、四肢骨片である、歯の咬耗はあるがさほど進んでいない、15 歳以上の少年か

2	神之峯城跡（かんのみねじょう）	中世	茂原信生 2016a	飯田市

1 体分である

<table>
<tr><td colspan="5">【SK01】成人に近い若い個体・女性、保存は悪い、屈葬（座位の可能性がある）、頭蓋骨や歯はない、骨端の失われた四肢骨のみである、上肢骨では上腕骨、橈骨、下肢骨では大腿骨、脛骨が残る、大坐骨切痕は一部が残り女性的、妊娠痕はない、大腿骨は非常に細い、粗線はほとんど発達していない、扁平大腿骨、距骨に蹲踞面</td></tr>
<tr><td>3</td><td>下村遺跡（鶯ヶ城跡）
しもむら（うぐいすがじょう）</td><td>中世※</td><td>茂原信生 2012</td><td>飯田市</td></tr>
<tr><td colspan="5">保存状態はよくない、合計 5 体。飯喬道路建設時に発掘、※時期：15C 後半以前</td></tr>
<tr><td colspan="5">【SM01】壮年・男性、頭蓋骨、歯、下肢骨が出土している、顔面を右に向けた屈葬、撹乱はない、頭蓋骨の眼窩上隆起は発達していない、乳様突起は大きくない、歯は 17 本が残る、齲蝕はない、咬耗はやや進んでいる、M3 萌出し磨耗している、歯槽膿漏気味、下肢では寛骨や大腿骨などが残る、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は太い、大腿骨での推定身長は約 159cm、超扁平大腿骨、樋状腓骨、</td></tr>
<tr><td colspan="5">【SM02】詳細不明、保存は極端に悪い、距骨が残る、</td></tr>
<tr><td colspan="5">【SM03】詳細不明、骨片が 2 点残る、1 つは大腿骨の骨幹らしい、</td></tr>
<tr><td colspan="5">【SM101】詳細不明、焼骨が出土している、頭蓋骨片らしいものが 3 点残る、</td></tr>
<tr><td colspan="5">【33トレンチ】比較的若い女性、後頭骨鱗部片だけが残る、縫合は癒合していない、骨は薄い、若いらしい、外後頭隆起は目立たない、女性か</td></tr>
<tr><td>4</td><td>中村中平遺跡（なかむらなかだいら）</td><td>縄文晩期</td><td>馬場保之 1994</td><td>飯田市</td></tr>
<tr><td colspan="5">【要旨】中村中平遺跡を中心に、長野県南部の墓制について記述。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>中村中平遺跡（なかむらなかだいら）</td><td>縄文後晩期</td><td>茂原信生他 1996</td><td>飯田市</td></tr>
<tr><td colspan="5">すべて焼骨、総重量 35.759g、獣骨はわずか、黒化する部分はほとんどない、配石墓以外からの出土は 30 数点のみ、1 個体の火葬骨重量についての検討を含む</td></tr>
<tr><td colspan="5">【土壙墓出土の人骨】すべて焼骨、四肢骨片は同定できないものが多い
【土壙墓 1】獣骨（シカ）のみ
【土壙墓 2】頭蓋骨片、中手骨片など
【土壙墓 2・12】頭蓋骨（左側頭骨錐体部など）数点が出土
【土壙墓 3】頭蓋骨片、肩甲骨、頭骨片などが出土している
【土壙墓 4】ヒトかどうか不明の数点のみ
【土壙墓 5】部位不明の細片が少量残るのみ、ヒトかどうか不明
【土壙墓 6】頭蓋骨が数点のこる
【土壙墓 7】頭蓋骨片、仙骨片などが少量のこるのみ
【土壙墓 8】頭蓋骨片 3 点、脛骨片が出土している
【土壙墓 9】頭蓋骨片が数点、椎体片（加齢変化あり）、粗線の発達した大腿骨片
【土壙墓 11】細片が数点のみ、ヒトかどうか不明
【土壙墓 12】頭蓋骨片、椎骨片が残る
【土壙墓 13】ヒトの四肢骨片が出土
【土壙墓 14】大腿骨後面片、頭蓋骨片 1 点のみ
【土壙墓 15】頭蓋骨片が数点残る
【配石墓出土の人骨】焼骨、総重量は 32.8kg
【配石墓 9】焼骨、再葬の墓坑、大きくても 5 ㎝ほど、側頭骨錐体が右側 9 個、左側 8 個、左右不明が 6 個残っている、最少個体は 6 体、左右不明を加えると最少個体は 12 体、骨の総重量からの個体数推定では 16 体ほど、風習的な抜歯がある、切歯から犬歯部の歯槽が残るものが上下顎で 5 例出土している、どの個体にも歯の脱落がある、そのうち 4 例が犬歯である、まれに完形に近い腰椎あり、他に若干の四肢骨片が同定できた、</td></tr>
<tr><td>5</td><td>溝口の塚古墳（みぞくちのつか）</td><td>古墳</td><td>長岡朋人他 2001</td><td>飯田市</td></tr>
<tr><td colspan="5">短甲、鉄刀、鉄剣などを伴う。渡来系の影響がある、</td></tr>
<tr><td colspan="5">【石室】壮年後半～熟年（40 歳前後）・男性、顔を左に向けた伸展葬、保存は悪い、1 個体分、全身にわたり残存、完全な骨は少ない、乳様突起は中等度、頭蓋冠の骨は薄い、下顎はきゃしゃ、歯は保存がよい、歯根も残る、やや大きい歯、上顎中切歯はシャベル型、M3 萌出、咬耗は進んでいる、歯槽骨は吸収されているものが多い、歯石が沈着し歯槽膿漏がある、四肢骨は上腕骨や寛骨大腿骨などが残る、恥骨</td></tr>
</table>

から熟年とされる、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は扁平大腿骨、ややきゃしゃ、乳様突起は女性的だが他は男性的、推定身長は脛骨で約 164cm

東信

上田市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	上田原遺跡（うえだはら）	縄文～平安	西沢寿晃 1996	上田市
生骨と焼骨が混在する、細片が多く形態は観察できない。風習的抜歯がある				
【生骨】 【Ⅰ-38・39 号土壙】詳細不明、頭蓋冠の細片のみ、側頭骨下顎窩がある、大腿骨（約 1cm）がある、 【Ⅰ-1 号周溝墓主体部】詳細不明、頭蓋の細小な骨片が 10 数片のみ残る、鋸歯状の縫合が多い、 【Ⅰ-70 号土壙】壮年・男性、1 体分、保存は悪くもろい、頭蓋の縫合は癒合していない、下顎骨右の骨体と下顎枝の一部が残る、下顎体高は高い、歯槽縁は吸収している部位がある、大型で頑丈な下顎骨、右下顎歯が 6 本残る、M3 萌出、咬耗はやや進んでいる、大腿骨・脛骨は比較的頑丈、男性とも思われる 【Ⅰ-90 号土壙】壮年・女性、1 体分、保存状態は悪い、頭蓋は頭頂結節が膨隆する、外後頭隆起は弱い、乳様突起は小さい、下顎右側はほぼ完全に残る、歯は上顎が 6 本、下顎が 4 本残る、咬耗は比較的軽度、上腕骨、大腿骨（粗線の発達は弱い）、脛骨などの一部が残る、四肢骨は細くきゃしゃ、 【Ⅰ-2 号土壙】成人や幼児が混在、性別不明、細片状の骨片がかなり多量に出土、同じ部位の骨があり複数個体が存在、生骨と焼骨が混在している、個体識別は出来ていない、歯は残りが良い、上顎右 I2、C と左 C が欠失で歯槽閉鎖、M3 萌出のものもある、下顎骨はわずかに焼けた痕跡がある、左右の I1、I2、C が欠失、風習的抜歯があったらしい、乳歯列のもの（10 歳前後）のものがある、脛骨では最少個体が 3 体、			
【焼骨】 【Ⅰ-32 号土壙】成人・女性、焼骨、頭蓋骨細片のみ、頭蓋冠の骨は薄い、外後頭隆起はきわめて弱い、下顎はきゃしゃ、M2 が残り咬耗は進んでいる、女性的 【N57 E27】熟年・男性、頭蓋骨では頭頂骨の破片が多い、骨壁は薄い、乳様突起は小さい、下顎骨の大臼歯部では右 M1，左 M1、M2 の歯槽閉鎖、下顎の左右のI1 の歯槽は閉鎖、風習的抜歯を思わせるが確実ではない、Cは残る、			
2	他田塚古墳（おさだつか）	古墳	小林幹男か 1973	上田市
保存は非常に悪く取り上げられなかった、【発掘所見】				
【西壁際A区】成人・男性、人骨1体分が出土するも、保存が非常に悪く取り上げられなかった、上半身が失われていた、腸骨、腰椎、脛骨などが骨粉状に残っていた、現地で大腿骨長およそ 50cm（上端は欠ける）、腸骨の推定幅、大腿骨などから成人男性と推測、 【西壁C区】成人・性別不明、大臼歯歯冠が 2 個出土した、下顎M1，M3				
3	下郷第2号墳（しもごう）	古墳	西沢寿晃 1992a	上田市
玄室内に複数個体が一括で出土、二次埋葬の集積、最少個体 4 体程度				
【玄室】頑丈な男性、きゃしゃな女性あるいは若年が混在、保存状態は悪い、微少な部位の骨はほとんど残っていない、4 体程度の個体数、個体識別は出来ない、頭蓋骨では頭蓋冠、側頭骨錐体部などが残る、上腕骨もある、大腿骨骨幹は短いものが複数ある、頑丈なものやきゃしゃなものもある、歯の残りはよい、合計 50 数本が残る、歯冠のみ残存、若年から熟年までが混在する、				
4	陣の岩岩陰遺跡（じんのいわ）	不明※	綿田弘実 2006	県歴史館
整理用コンテナ 2 箱分（カモシカなどの獣骨と混在）、※時期：弥生中後期あるいは縄文早前期				
出土位置不明、詳細不明、頭蓋骨片 2 点と下顎小臼歯 1 点のみ				
5	陣馬塚古墳（じんばつか）	古墳後期	茂原信生 1999c	県歴史館
円墳				
【玄室】少なくとも 3 体分が出土、玄室を 4 区分して記載、1 区が一番多く残る、				
【1 区】成人 2 体、うち 1 体は男性、他に小児 1 体、頭蓋骨の乳様突起は大きく、眉弓は発達している、外後頭隆起は発達、下顎骨は厚く頑丈で男性的、椎骨に加齢変化あり、歯から少なくとも 2 個体はある、上顎歯は 13 本、下顎歯は 11 本出土している、乳歯も含まれる 【2 区】若い個体・性別不明、2 本の歯だけが残る、下顎右 M1 で咬耗は少ない、				

【3 区】詳細不明、頭蓋骨は細片化している、左右側橈骨錐体部がある、上腕骨はやや太い、4 本の歯が残る、上顎右 M1、M3 がある、
【4 区】詳細不明、頭頂骨片、左側頭骨錐体、頭蓋冠の骨は薄い、上下顎で歯は 8 本が残る、左 dp1 が含まれる(咬耗がない)、M3 があり咬耗がない、若い個体が含まれる

6	塚穴原古墳 1 号(つかあなはら)	古墳	塩入秀敏 1976	上田市

詳細は不明

【石室】骨粉化した状態、5 体以上、盗掘にあっている、
【(イ)出土遺物 A 群を伴うもの】詳細不明、奥壁近い西側壁寄り、1 体、頭位は奥向け
【(ロ)出土遺物 B 群を伴うもの】詳細不明、奥壁近く東壁寄り、1 体、耳環のある頭蓋骨と骨粉
【(ハ)出土遺物 C 群を伴うもの】詳細不明、中央部東壁寄り、1 体、頭を奥に埋葬されたもの
【(ニ)出土遺物 D 群に伴うもの】詳細不明、玄門近く西側壁寄り、1～2 体、頭蓋骨と骨粉がある、
【(ホ)出土遺物 E 群に伴うもの】詳細不明、玄門近く東側壁寄り、1 体、頭蓋骨と骨粉がある、子供らしい、

7	鳥羽山洞穴遺跡(とばやまどうけつ)	古墳	永峯光一 1982	上田市

焼骨と生骨がある、量は多い、個体識別はできない、伸展曝葬、集骨あるいは骨焼きその散布があった、この報告は出土していることを伝えているだけである、【発掘所見】5 面の段状部がある葬所

7	鳥羽山洞穴遺跡(とばやまどうけつ)	古墳	金子浩昌 2000	上田市

昭和 58 年(1983)の原稿の再掲、生骨と焼骨、保存は悪い、【発掘所見】英字数字の組み合わせはグリッド名の略(例:C5 グリッド→C5)

【焼かれている人骨群】火を受けていないものより個体数は多かっただろう
【C5】詳細不明、頭蓋骨片、下顎骨、歯の咬耗は軽度、大腿骨など
【D3】成人・性別不明、頭蓋骨片少し、臼歯 1 本、成人、骨は薄い
【D5】成人・性別不明、頭蓋小片、半ば焼けた大腿骨、成人
【E4No.18 付近】詳細不明、上顎骨片、大腿骨片など焼骨が多量にでている
【E5No.23 付近】若年、頭蓋骨片など焼骨が少量、若年と思われる
【E4No.24 付近】詳細不明、頭蓋や下顎骨片少量の焼骨
【E1No.28 付近】詳細不明、馬骨破片
【E6 黄褐色砂礫層】詳細不明、頭蓋骨片と指骨
【F4 石敷上】詳細不明、焼骨片多数、膝蓋骨片が散乱していた
【F4 石敷葬下(No.8)】詳細不明、頭蓋、大腿、脛骨など焼骨多数、強い火を受けている
【F4 No.23 付近】成人、上腕骨、大腿骨など焼骨片多数、成人
【F5 No.13 付近】詳細不明、椎骨片 1 点のみ、焼骨
【F5 No.3 付近】詳細不明、頭蓋骨片、咬耗の進んだ臼歯 1 本、
【F5 石敷上】詳細不明、大腿骨、脛骨などの生骨片若干、
【G4No.2 付近】詳細不明、大腿骨、脛骨、歯が 6 本(咬耗軽度)
【G4 No.3 付近】詳細不明、生骨片がわずかに残る
【G5No.6 付近】詳細不明、頭蓋骨小片、大腿骨などの焼骨少量
【G5No.9 付近】詳細不明、頭蓋骨小片、上顎骨や下顎骨を含む、成人
【G5No.10 付近】詳細不明、頭蓋骨、おもな四肢骨片がある
【H3 灰層中】詳細不明、焼骨多数、歯や上腕骨、大腿骨など、歯には咬耗はほとんど見られない
【I2:1 層】若齢、焼骨で、頭蓋、四肢骨片を含む、若齢のものであろう
【I2:3 北部拡張地区】詳細不明、焼けた頭蓋骨などと不完全なやけ方をしたものを含む
【I2:3 石敷拡張部分】詳細不明、指骨などわずかな骨片のみ
【I4 南拡張部分】成人・性別不明　　主に四肢骨(大腿骨や脛骨など)で、不完全なやけ方をしたものが多い
【I4 拡張部分黒色土層】詳細不明、指骨の一部のみ、成人
【J3 灰層上部】成人・性別不明、頭蓋骨、大腿骨などを含む焼骨、成人
【試掘溝 A】詳細不明、上腕骨や尺骨などの四肢骨の焼骨

【焼かれていない人骨群】何個体かが追葬されている、埋葬後かなり移動し破損したものが多いと思われる、青年期から壮年期までを含む

【E34】全体で 3～4 体、男女のものが混じる　　男性成人と思われる頭蓋骨や四肢骨、複数個体を含む、下顎骨は下記の 4 点、四肢骨は尺骨の左が 3 点あり、うち 2 体は頑丈、残る 1 体はきゃしゃ、大腿骨は左が 3～4 個、で太さや扁平性が異なるので 3～4 個体と考えられる、脛骨は左が 2 点、

【下顎骨1】17～25 歳男性、左は破損、M1、M2 が植立、M3 は歯槽骨内、

【下顎骨2】25 歳くらい、左下顎骨体、M3 は脱落、M2 には明瞭な咬耗がある、体高は小さく、歯も小さい

【下顎骨3】詳細は書いていない、前方部のみ、歯槽は M1 まで残る、I1 は脱落して歯槽閉鎖、歯槽膿漏

【下顎骨4】詳細は書いていない、下顎枝は欠ける、歯は左 M3 以外全て脱落、左右の P1、P2、M2 の歯槽は吸収されている、

【E35】詳細不明、尺骨左近位端のみ

【F35】女性、頭蓋骨がおもな 1 個体、上顎骨がない、乳様突起が小さく頭蓋も小さい、

【F36】成人・性別不明、ほぼ 1 個体分、頭蓋骨はかなり破損している、性差は検出できず、成人

【F37】詳細不明、歯や指骨などの小片、周辺の個体の一部であろう

【F38】詳細不明、ほぼ1個体の骨があるが保存は悪い、右上顎部は M1 まで残る、咬耗は軽度、下顎は右側の小部分、M2 までの歯槽が残るが歯はない、M1 の歯槽は吸収されつつある、

【No.44】詳細不明、大腿骨その他の小片のみ、

【No.50】詳細不明、上腕骨（左）、橈骨尺骨の左右、細くきゃしゃ、大腿骨は扁平で遠位部が欠ける、脛骨（前後径が大きい）など

8	豊原古墳（とよはら）	古墳	西沢寿晃 1988b	上田市

保存はよいが、完存は一部、複数個体が散乱、集積されていた、個体識別は出来ない、最少 5 個体、

【玄室内】最少 5 個体、若年が多い、上は壮年まで、幼児もあった、頭蓋骨は骨の厚い頑丈な男性と骨のやや厚い普通の男性が残る、下顎骨が 3 例残る、歯は植立するものは少なく遊離歯が多い、上顎左 M2 が 4 本、全体的に咬耗は軽度で、若年性を示す骨の性状と合致する、鎖骨が 3 本でているがどれも形態的にちがっているので異個体のものだろう、上腕骨は右側 2 本、左側 3 本で完形のものがある、3 例とも近位骨端は未癒合の傾向を示す（20 歳前）、寛骨も残る、大腿骨は 8 本で最少個体は 5 個体となる、扁平大腿骨である、3 例で蹲踞面が見られる、推定身長は男性約 160cm、他で約 155cm、乳歯が 1 本でている、

9	八幡裏遺跡（はちまんうら）	縄文	西沢寿晃 1997b	上田市

生骨、時代的特徴は不明

【1 号人骨】熟年・男性、頭蓋の一部と四肢骨の一部が残る、頭蓋左半分が残る、顔面はない、乳様突起はやや小型、下顎左と右の一部が残る、左右とも残る大臼歯の歯槽が全て閉鎖、歯は 2 本が残る（上顎 C、左 M2）、上腕骨の三角筋粗面は弱い、大腿骨の骨幹は残る、粗線はよく発達する、超扁平大腿骨、頑丈な大腿骨、四肢骨は男性的、熟年

【2 号人骨】詳細不明、仰臥屈葬、保存状態は悪く、形をとどめるものは少ない、頭蓋は細片、上肢や下肢のごく一部が断片として残るだけである、

【3 号人骨】熟年・男性、仰臥屈葬、保存は悪い、顔面は失われている、乳様突起は大きい、残存する大臼歯（M1、M2）の咬耗は顕著である、鎖骨最大長推定 120 ㎜、上腕骨の三角筋粗面はよく発達する、大腿骨の粗線は薄く鋭い1稜が形成されている、四肢骨は小型ながら筋付着部は発達している、

【4 号人骨】壮年・男性、保存は劣悪、骨質が厚い、外後頭隆起はよく発達する、乳様突起は大きい、歯槽は完存、下顎枝欠、歯槽吸収も見られる、M3 萌出、咬耗は中等度、齲蝕はない、上腕骨の三角筋粗面は普通、大腿骨はほとんど残らない、頑丈な頭蓋骨

10	半過古墳群（はんが）	古墳	谷畑美帆 2009	上田市

3 基の古墳、骨片化している

【1 号古墳 SM01】壮年、小児、3 体とも性別不明、下肢骨を中心とした長骨片が残る、歯が十数点出土、少なくとも 3 体が埋葬されていた、うち未萌出の下顎切歯が出ており 6～8 歳の幼児が含まれる、他 2 体は咬耗が軽度である

【2 号古墳 SM02】壮年、小児、いずれも性別不明、下肢骨を中心とした長骨片、歯の咬耗は軽度で壮年相当、未萌出の歯があり 6～10 歳の個体もある

【2 号古墳 SM02 木棺】最少個体 3、壮年が含まれる、女性の骨もある、頭蓋骨片が残る、成人 1 体分の歯が残る、上右 M2 が 3 本残る、最少個体 3 体、咬耗は軽度で壮年相当、四肢骨では上腕骨片がありきゃしゃで女性的、
【3 号古墳 SM03】頭蓋骨片や四肢骨片がある、
【SM03 東側】成人 2 体と幼児 1 体、詳細不明、頭蓋や下顎骨など、及び四肢骨片が残る、下左 M2 が 2 本ある、最少個体 2 体、歯の咬耗は軽度で壮年相当、他に未萌出の永久切歯が 3 点あり 6～8 歳であろう、
【SM03 西側】2 体、壮年相当、頭蓋骨片、上肢骨片、下肢骨片がある、成人 1 体以上の歯が出土しており、最少個体は 2 体、歯の咬耗は軽度で壮年相当、

11	深町遺跡（ふかまち）	縄文か	西沢寿晃 1979a	上田市

保存状態はよいものが多い、抜歯あり、特異な再葬（SK05）、外耳道骨腫 2 体、合計 16 体が出土、縄文人的特徴を示す

【SK03 墓址】詳細不明、左大腿骨近位 1/3、殿筋粗面の発達は弱い、扁平大腿骨である、
【SK04 墓址】詳細不明、後頭骨が残る、外後頭隆起は顕著ではない
【SK05 墓址】壮年・男性、特異な出土状態で、左右の大腿骨が叉状に置かれ一方に頭蓋が置かれている、再葬、頭蓋の頭頂から前頭にかけてがある、眉上弓はやや発達、下顎は下顎枝を欠く、頑丈、下顎隆起がある、歯は M3 まで萌出するが、左右の C は抜歯されている、咬耗は顕著である、上腕骨遠位半、脛骨骨幹中央部などとともに大腿骨は左右の骨幹が残る、粗線は発達、柱状性が強い、
【SK06 墓址】女性、年齢不明、1 個体分、頭蓋はわずかな顔面と下顎のみ、上腕骨は左右とも遠位半が残る、大腿骨や脛骨は破損している、骨はきゃしゃで女性的、下顎骨には下顎隆起がある、上下顎の C の抜歯
【SK07 墓址】詳細不明、臼歯の歯冠のみ
【SKP04】詳細不明、右大腿骨骨幹中央と左大腿骨の中央付近の破片だけである、粗線はさほど強くない、骨は頑丈、柱状性が見られる
【SKP05】詳細不明、頭蓋の後頭骨、下顎骨片と四肢骨片である、伸展葬と思われるが保存が悪く個々の骨の観察できない
【SKP14】詳細不明、焼骨の可能性がある、埋甕にともなった骨、多量にあるが白色の骨粉状
【N15E3】詳細不明、左側頭骨岩様部と乳様突起部のみである、外耳道骨腫が見られる、
【S3E3】熟年・男性、頭蓋冠はほぼ完形、下顎骨の右側が残る、臼歯部の歯槽は吸収されている、小臼歯大臼歯の一部が残るが咬耗が顕著、
【N48W18】詳細不明、頭蓋骨は破損するが保存はよい、骨は厚い、外後頭隆起も非常によく発達する、M1 のみ残、咬耗は頬側に傾き平坦化している
【N24W30】詳細不明、左鎖骨の骨幹、寛骨の大坐骨切痕部、大腿骨の骨幹近位部などが残る
【S3W3】詳細不明、脛骨骨幹と前腕骨片のみである、寛骨、大腿骨の左右骨幹、粗線の発達は弱い、柱状性は中等度、
【S6W15】詳細不明、右大腿骨骨幹近位部、粗線は発達している
【S9W15】詳細不明、頭蓋骨のみである、後頭骨が残り、外後頭隆起は中等度、右側頭骨岩様部が残る、乳様突起は小さい、外耳道骨腫がある、
【S15W18】詳細不明、頭蓋骨のみで、左頬骨、側頭骨岩様部、後頭骨片が残る、

12	宮平遺跡（みやだいら）	中世以降	茂原信生 1999d	県歴史館

7 基の墓壙からの出土、男性 2 女性 1、他は不明。

【S17 グリッド】詳細不明、大腿骨骨幹のみ、骨は厚い、粗線はやや発達するが低い
【293 号墓】1～2 歳・性別不明、上顎右dp2, 咬耗がある、生後 1～2 歳程度か
【392 号墓】年齢不明・女性、大腿骨骨幹が残る、扁平大腿骨、粗線の発達はよくない、女性的
【507 号墓】新生児～1 歳、性別不明、歯が 1 本残る、上左dp1, 咬耗はない、萌出中か萌出直後

【686 号墓】壮年・男性、頭蓋骨と左上肢、左右の下肢骨が残る、頭蓋は比較的保存がよい、眉弓は発達する、額は傾斜する、乳様突起はさほど大きくないが内・外的に厚い、頭蓋最大長は 188 ㎜、下顎は厚く頑丈、下顎枝角は大きい、上顎歯が 6 本、下顎歯は 9 本が残る、他に歯根だけの下顎 M3 がある、齲蝕だろう、咬耗はやや進んでいる、歯石がある、上腕骨は細く三角筋粗面も発達していない、大腿骨の骨幹は細い、後面の粗線の発達は悪い、きゃしゃな男性か？

【945 号墓】成人・女性、座位の埋葬、保存状態は比較的よい、頭蓋冠は残る、骨は薄い、乳様突起は小さい、外後頭隆起は目立たない、長頭、上腕骨は細く三角筋粗面は発達していない、大腿骨は細く、粗線の発達は悪い、大腿骨からの推定身長は約 154cm

【968 号墓】詳細は不明、保存状態は悪い、四肢骨のごく一部が残る、上腕骨の三角筋粗面はやや発達、大腿骨の柱状性は高い、粗線が発達する、

【969 号墓】成人・男性、屈葬、保存状態は悪い、頭蓋骨は左右錐体部が残る、眉弓はよく発達する、乳様突起は大きい、下顎骨は正中部が残る、歯は下顎の M3 は萌出、咬耗が進んでいる、さほど若くない、大腿骨は太くて頑丈、粗線の発達はよい、扁平大腿骨、

12	弥勒堂遺跡（みろくどう）	平安～中世※	茂原信生 1998g	県歴史館
生骨、※時期：平安後半～中世				
【5 号土壙】成人・男性、保存は比較的よい、頭蓋骨はない、四肢は残るが骨端はない、大腿骨の粗線はよく発達し柱状大腿骨である、扁平大腿骨、				
【7 号土壙】成人・性別不明、保存は悪い、上腕骨や大腿骨が残る、大腿骨の柱状性は弱い、骨は薄い、				
【9 号土壙】成人・女性か、保存は悪い、頭蓋骨は細片化、頭蓋の骨は厚い、上腕骨の三角筋粗面は普通、大腿骨片では粗線の発達はよくない、超扁平大腿骨、距骨に蹲踞面がある、				
【22 号土壙】2 歳前後・性別不明、保存はよいが年少のため観察できない部分が多い、頭蓋骨は顔面以外が残る、骨は薄い、dp2 が萌出しておらず乳歯列は未完成、2 歳前後、四肢骨はほとんど残っていない				
【調査区中央付近】詳細不明、右大腿骨中央付近が残る、粗線は発達し柱状大腿骨である				

東御市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	伊勢原第 2 号古墳（いせはら）	古墳	西沢寿晃 1990e	東御市
1 体分、撹乱を受けている、【発掘所見】				
【玄室内】男性の高齢者、保存は悪い、1 体分、一部のみが残存する、玄室内のほぼ 1 ヶ所に集積されている状態、頭蓋では上顎骨が残る，歯槽縁は退縮しており，切歯の歯槽は閉鎖していたと考えられる、歯の脱落もある、鎖骨は普通の大きさ、上腕骨はきゃしゃで三角筋粗面の発達は弱い、大腿骨の右はほぼ残る、齧歯類の咬痕が残る、粗線は中等度の発達、上部は扁平、最大長は 400 ㎜で推定身長（ピアソン式）は約 156cm、脛骨の断面は菱形に近い，足根骨が一部残る、				
2	右近塚古墳（うこんつか）	古墳	八幡一郎 1950	
撹乱状態、最少個体数 2 体				
【石室】詳細不明、下肢骨や頭が並んでいたり、歯が胸椎付近にある、撹乱されている、形態の記述はない				
2	右近塚古墳（うこんつか）	古墳	吉田章一郎他 1950	
鈴木尚氏同定、形態の記載はない				
【石室】老年男性 2 体、成人女性 1 体、成人性別不明 1 体、小児 1 体、最少個体が 5 体、うち 2 体は老年男性、乳歯も残っている、他 2 体は成人の頭蓋骨片で 1 体は女性、乳歯も残っている				
3	中原遺跡群（なかはら）	縄文後期か	鈴木　誠 1957 東部町誌 1990	
頭部にかぶせた鉢に残っていたもの、甕被葬、他の骨は消失。鈴木論文では「和村大川」出土と報告。				
【鉢形土器内】熟年・男性、保存状態は悪い、埋葬状態は不明、顔面は細片化している、前頭部と歯 13 本が出土、眉弓がやや発達、前頭結節がある、上顎歯が 3 本、下顎歯が 6 本、不明の大臼歯が 2 本と、壊れた歯 2 本、熟年の男性か、				
4	海善寺古墳（かいぜんじ）	古墳時代	大附勝敏 1950	
生骨、合葬（報告書の印刷はガリ版刷りで退色しよくわからない部分がある）				

【石室内か】最少個体 7、保存は悪い、細片化している、頭蓋骨や四肢骨片がある、歯の保存もよくない、歯は 65 本が残る、全て永久歯、上顎右 P1 と下顎左 M2 がともに 7 本あり、最少個体数は7である、齲歯も高率でみられる（11 本）、				
5	狐山古墳（きつねやま）	古墳	西沢寿晃 1985b	東御市
数行の記述のみ				
【玄室内】詳細不明、骨片・骨粉・歯が出土している、大腿骨の一部、関節の一部の他は不明、歯は 8 本が残る、臼歯・大臼歯が 7 本、他に犬歯が 1 本、				
6	久保在家遺跡（くぼざいけ）	不明、江戸	西沢寿晃 1985a	東御市
1 体分、歯のみが残る				
位置は不明、壮年・性別不明、歯列がそろって出土、エナメル質の歯冠だけで象牙質はない、上顎歯 11 本、下顎歯 9 本、上顎切歯は唇側面のみが残る、大臼歯の咬耗は進んでいる、壮年				
7	桜井戸遺跡（さくらいど）	縄文後期※	鈴木　誠他 1970	東御市
保存は悪い、幼児骨が 1 体分、※時期：縄文後期前半か				
【19A・ピッド上面】幼児・性別不明、乳幼児骨 1 体分、保存状態は悪い、細片化、頭蓋では後頭骨の一部、側頭骨、前頭骨、頭蓋冠の一部が残る、四肢骨では肩甲骨の一部、上腕骨骨体遠位部、左右大腿骨の骨幹中央部などが残る、				
8	桜畑遺跡（さくらはた）	古代～中世	川崎　保 1999b	県歴史館
茂原信生鑑定				
【SK198】壮年・性別不明、保存は非常に悪い、頭蓋では頭蓋冠の一部、左右側頭骨錐体などが残る、四肢骨片はあるが特定できず、歯は上顎歯は 5 本、下顎歯は 7 本が残る、M1、M2 の咬耗は軽度でさほど高齢ではない、【発掘所見】伸展葬か、頭位は北、土師器片出土、時期：古代から中世				
9	獅子塚古墳（ししづか）	古墳	西沢寿晃 1994c	東御市
古墳の覆土中に残る、歯だけである。				
【古墳の覆土中】青年～壮年の女性、高齢・性別不明の 1 例が混在　歯だけが残る、歯冠のエナメル質だけである。完形の歯冠は 17 本、やや破損するものが約 10 本、1 体分、大臼歯は上下共に咬頭の先端にわずかに咬耗がある，咬耗は全体に軽度である、20～30 歳代、歯の大きさは小さく女性的、咬耗の異なる小臼歯と大臼歯が 4 本混入している、高齢であろう、				
10	下金山遺跡（しもかなやま）		西沢寿晃 1993a	東御市
生骨、人骨の可能性は高いが断定は出来ない				
【SK-16】詳細不明、生骨：表面は荒れている、わずかに長骨の断片が残るだけである、人骨の可能性はあるが断定は出来ていない。焼骨は動物骨（シカ）である可能性が高い、				
11	真行寺遺跡群（しんぎょうじ）	中世	川崎　保 1999a	県歴史館
骨片があるのは 3 基、茂原信生鑑定				
【SK128】詳細不明、骨片が出土、墓穴か、【発掘所見】鉄釘、砥石、土師器皿、陶器片出土、時期：中世 【SK172】詳細不明、頭蓋骨片、【発掘所見】須恵質陶器片、土師器片出土 【SK177】ほぼ全身が出土したが、非常にもろく取り上げ出来たのは一部、2 個体 【B-7】20 歳代・性別不明、上顎左 M2 と下顎左 C の 2 本が残る。M2 に象牙質の露出はない、さほど高齢ではない、20 歳代か、 【B-8】20 歳代・性別不明、上顎は左の M1、M2、M3 と右の M3，下顎は右の M2、M3 の合計 6 本が残る、M3 に咬耗はほとんどない、20 歳代、M3 は退化的で小さい				
12	辻田遺跡（つじた）	縄文か	西沢寿晃 1995a	東御市
焼骨、獣骨（シカ）が混在する、一括で部位ごとに記載				
【SX-01】2 個体以上の成人、人骨はすべて焼骨、一括される人骨細片、2 個体以上の成人骨が混在、頭蓋骨は量が少ない、頭頂骨小片、頬骨弓片、後頭骨片などが残る、椎骨の数は多い、上腕骨は破片である、異なる出土区のものが接合できるので撹乱があった、上腕骨は 3 本がある（左 2 本、右1本）、4 本の橈骨で 2 個体か、1 本の橈骨は、焼け方が少なく、ほぼ自然の晒骨状態、尺骨 4 本、大腿骨は少ない、【発掘所見】配石遺構（土壙）、加曾利 B 式の竪穴住居跡 SB02 を切る、縄文後期中葉以降				
13	不動坂遺跡（ふどうざか）	平安～中世	西沢寿晃 1986a	東御市

3 基の火葬墓、3 体、焼骨で細片化している

【火葬墓 1】詳細不明、微細な骨粉のみ、発掘時に崩壊した、
【火葬墓 2】詳細不明、ほぼ全身の部位の骨が残る、頭蓋骨片が多いが長骨は少ない、頭蓋骨は頭蓋冠がおもに残る、下顎はわずかである、上腕骨骨頭など、大腿骨の骨頭など残りは少ない、
【火葬墓 3】詳細不明、全身にわたる骨が残り、特に四肢骨骨幹が大型の破片として残る、頭蓋骨は頭蓋冠が量的に多い、上顎骨では左口蓋面と犬歯から小臼歯の歯槽部が残る、犬歯部歯槽は吸収されている、下顎では下顎隆起がある、歯では右 P2、M1、M2, 左は I1、I2、C の歯槽が残る、上腕骨は骨幹がほぼ残る、大腿骨も接合により 25cm ほど残る、きゃしゃな長骨、

小諸市

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1	石神遺跡（いしがみ）	縄文後期※	西沢寿晃 1994a	小諸市

石棺 3 基（SX）と墓坑 4 基（SK）、合葬がある、全部で 8 体、保存は悪い、生骨、屈葬、抜歯がある、※縄文後期中葉が中心だが、第 5 号土坑墓のみ、晩期の可能性がある

【SX02】20 歳以降・性別不明、頭蓋骨のみで、体幹骨や四肢骨はない、頭部に淺鉢がかぶせられていた、再葬の可能性もある、頭蓋骨は側頭骨岩様部がおも、歯は比較的よく保存されているが歯冠のみ、M3 が上下左右 4 本ある、咬耗は軽度で M3 でも軽度、齲蝕はない、20 歳以降の青年期
【SX03】詳細不明、屈葬か、頭蓋骨は後頭骨などの小片のみ、歯は残っていない、大腿骨中央部分がある、骨は厚いが太くはない、粗線は不明、大腿骨と脛骨が屈曲されて残存、
【SX07】青年・男性と詳細不明（女性的だが）、石棺の一方の隅に 2 個の頭蓋が接して残り、それぞれに淺鉢がかぶせられていた、体幹骨は消失、上肢の一部と大腿などが残る、頭蓋 1：乳様突起は大きい、頑丈な頭蓋、上顎右 I2、C が残る、男性、青年期、頭蓋 2：1 号より残量は少ない、側頭骨岩様部などがわずかに残る、頬骨弓は細い、外後頭隆起は小さい、女性的だが断定は出来ない。四肢骨は両者一括で取り上げられた、個体識別はむつかしい、
【第 1 号土坑墓 SK55】50 歳前後の熟年・男性、側臥屈葬、頭蓋は細片化、側頭骨岩様部が左右残る、乳様突起は大きい、左右の第 1 大臼歯までは残る、咬耗は進んでいる、熟年、大腿骨の骨幹はほぼ残る、粗線は強く稜状、柱状性は弱い、扁平大腿骨
【第 2 号土坑墓 SK102】熟年・女性的（断定できない）、側臥屈葬、頭蓋は細片化し量は少ない、頭蓋冠の厚さは中等度、下顎枝を欠くが下顎骨体はほぼ原形、やや小型、歯根はあるが歯冠がない例が多い、左大臼歯は全て生前脱落、M3 までの歯槽がある、咬耗はやや進んでいる、肩甲骨の関節窩の一部が残存、長骨はきわめてもろく取り上げ不能、
【第 3 号土坑墓 SK181】壮年・男性、頭蓋骨と下肢骨が一部残る、頭蓋は表面が剥落している、頭蓋冠はほぼ接合可能、骨は厚い、眉弓は不明、乳様突起は大きい、下顎の両側骨体は残るが前方部欠、頑丈な下顎骨、歯では上顎左右の I2、C が抜歯されている、M3 まで萌出している、下顎前歯は残っていない、咬耗はやや進んでいる、大腿骨は骨が厚く頑丈、柱状性は強い、
【第 5 号土壙墓 SK520】壮年・男性、仰臥屈葬、体幹以外の骨はあるが保存は悪い、頭蓋骨では頭蓋冠の骨は残る、乳様突起は大きい、外後頭隆起はよく発達する、下顎の臼歯部は残り歯が植立する、頑丈な下顎骨、M3 まで萌出、上顎左右の C、P1 が抜歯されている、下顎前歯部は失われているので不明、咬耗は軽度である、齲蝕がある、大腿骨骨幹はほぼ残る（38cm）、粗線はあまり発達していない、柱状性は弱い、扁平大腿骨、脛骨の残りもよい、樋状腓骨、下肢骨での推定身長は約 160cm、

2	郷土遺跡（ごうど）	古墳※	茂原信生 2000d	県歴史館

少なくとも 3 個体、生骨、位置別の記載、大腿骨の扁平さが目立つ、※人骨の時期は 8 世紀（奈良時代）に下るか

【2 号古墳】

【①-1】成人・男性、前頭骨から頭頂骨にかけての頭蓋冠、右側頭骨錐体部が残る、眉上隆起はよく発達する、乳様突起は基部だけだがやや厚め、外後頭隆起はやや発達する、縫合は明瞭でさほど高齢ではない、
【①-2】詳細不明、頭蓋冠の細片とわずかな四肢骨片だけである、左右側頭骨錐体が残る、側頭骨錐体が①-1 とダブルので別個体、

【①-3】詳細不明、わずかな頭蓋骨片と歯が残る、左右の側頭骨錐体辺が見られるので①-1、-2 の個体とは別個体

【①-4】18 歳前後・性別不明、頭蓋骨がわずかと歯が残る、歯は歯冠エナメル質が残るだけである、上顎 13 本、下顎 7 本が残る、上 I1 は軽度のシャベル型、咬耗は全体に少ない、M3 は上下とも咬耗はないので萌出中か未萌出、歯の大きさは普通(写真 1-A)

【①-5】詳細不明、四肢骨がまとまってでている、左上腕骨片、左右大腿骨骨幹、左右脛骨骨幹などが残る、上腕骨は頑丈、超扁平大腿骨、粗線の発達は悪い、さほど太くない、個体識別は出来ない(写真 1-B、C)

3	七五三掛遺跡(しめかけ)	縄文後晩期	田中和彦 2003	小諸市

保存はきわめて良好、盤状集骨葬のように見られさらに焼人骨を伴う、最少個体 11 体(下顎骨)、小児 2 体、形態の観察が可能な長野県では数少ない縄文人骨例で重要な人骨である、詳細な計測データがある、頭蓋骨と四肢骨の対応は不明、7 体に抜歯が見られた、上顎で左右犬歯と右側切歯、下顎で左右の中側切歯及び犬歯の抜歯が多い、四肢骨の扁平性は弱い点で北村人骨と共通、各骨に番号を付けて記載。法医学関係者により遺伝子の分析が行われているようである。

【頭蓋骨】

【A-1 頭蓋骨】男性、頭蓋骨、過低顔型、低眼窩、下顎角幅は大きい、突顎

【A-2 頭蓋骨】男性、頭蓋骨、眼窩高が高い、他は A-1 と同じ特徴を持つ

【A-3 頭蓋骨】男性、頭蓋骨、脳頭蓋が保存のいい唯一の資料、広顔低顔、眼窩示数が小さく鼻示数が大きい点で北村と同じ、

【A-4～A-11 下顎骨】下顎骨の抜歯は両側のI1, I2,C の抜歯が 3 例、両側の I1・左 I2 が 1 例、左の I1 のみが 1 例である。

【四肢骨】

【B-1～B-3】女性、上腕は頑丈とは言えない、大腿は頑丈だが、下腿部はきゃしゃである、上腕骨・大腿骨などの扁平性は弱い、大腿骨の柱状性は強い、推定身長は女性 3 体平均で約 150cm、

【B-4～B-6】男性、上腕骨が頑丈であるのに対し下肢骨はきゃしゃ、大腿骨は強い柱状性を示す、推定身長は男性 3 体平均で約 161cm、

4	関口 A 遺跡(せきぐち A)	中世	西沢寿晃 1991	小諸市

土壙墓、1 個体、歯の残りはよい

【第 3 号土坑】壮年・女性か、保存状態は悪い、完存するものはない、頭蓋骨では後頭骨、側頭骨岩様部、頭頂骨、上顎骨、下顎骨などが残る、外後頭隆起は弱い、頭頂結節は膨隆、歯槽の保存は比較的よい、下顎は右半が原形を残す、やや頑丈、歯が 22 本残るが M3 は不明、咬耗は進んでいる、ほとんどの臼歯に齲蝕がある、M3 は不明、四肢骨は部分的に残る、大腿骨は骨幹のみ残る、粗線は弱く全体にきゃしゃ、脛骨もきゃしゃ、四肢骨は女性的、【発掘所見】銭貨 3(政和通寶、永楽通寶、元祐通寶各 1)、中世後期

5	与良城跡遺跡(よらじょうせき)	中世	田中和彦 1998	小諸市

1 体分、歯の残りはよく、乳歯もある。銭貨 6 枚を伴う

【第 1 号土坑墓】10 歳前後、性別不明、1 体分、乳歯も残る、頭蓋骨では表面に酸化鉄が付着する部分がある、側頭骨の岩様部が残る、乳様突起は小さい、外後頭隆起は弱い、歯は永久歯が上顎で 6 本、下顎で 4 本残り、他に乳歯が 2 本ある、上右 dp2, 下左dp2, 咬耗は軽度である、乳歯は咬耗が進んでいる、歯は小さい、四肢骨では全体にもろく保存が悪い、いずれも形状がなんとか残る程度の破片である、【発掘所見】銭貨 6(至道元寶 2、皇宋通寶、景徳元寶、天聖元寶、元祐通寶各 1)共伴、時期:中世

6	竹花遺跡(たけはな)	奈良	金子浩昌 1994	小諸市

動物骨の報告書の中にある記載

【第 4 号土壙】ヒト大腿骨部分と記載があるのみである、

佐久市

№	遺跡名(よみ)	年代	報告者・年	保管
1	蟻畑遺跡(ありばたけ)	弥生後期	竹内　恒 1969	

香原志勢氏鑑定、報告は後日にと書かれている、土をかぶっていない状態で出土、

成人女性、頭蓋骨のみ、保存はよい、頭蓋冠と頭蓋底部が残っている、形態的な報告はない、香原氏は形態から弥生人で成人（30 歳ほど）の女性と考えている、頭蓋骨の写真がある、				
1	蟻畑遺跡（ありばたけ）	弥生後期	永峯光一 1988b	
葬制についての論文の中で出土状況について触れているだけである。				
山腹の岩場のすき間から成人女性の頭蓋骨が出たという記載があるだけである、				
2	今井宮の前遺跡（いまいみやのまえ）	近世	柳澤　亮 2014	佐久市
鑑定は茂原、歯以外は取り上げ不能				
【SK120】10 歳代後半・性別不明、歯冠のみが残る、12 本が出土、他に数本分の破片がある、咬耗は進んでいない、M2 にほとんど咬耗はない、M3 は出土していないので未萌出の可能性がある、歯は小さい、【発掘所見】近世土坑墓、屈葬、歯の位置から頭位は北で、顔は東向きか、時期：17C 後半以降の可能性が高いという				
3	大塚第 3 号古墳（おおつか）	古墳	西沢寿晃 1997a	佐久市
最少 2 個体、保存はきわめて悪い、出土場所に分けて記載されている、骨になってから動かされたものだろう、				
【第 3 号墳玄室内】保存はきわめて悪い、 【西壁中央部の集中箇所】壮年・性別不明、骨はなく歯のみ、歯の残りは比較的よい、ただし歯冠のみ、上顎I1・I2 が各 1 本，P2 本、下顎の P2 本、M3 本、咬耗の状態に統一性はないので別個体のものが混じっている、全体に咬耗は軽度、大腿骨骨幹中央が残る、骨は厚いが表面が剥離しており詳細は不明、脛骨も同様 【西壁中央部南側】詳細不明、上腕骨体、やや大型、側頭骨錐体が残る、大腿骨・脛骨も数センチが残るが詳細不明 【西壁南側】詳細不明、大腿骨の細片が残る 【東壁南側】詳細不明、大腿骨が 17cm ほど、粗線は普通、脛骨も 10cm ほど残る				
4	尾垂遺跡（おだれ）	古墳	寺内貴美子 2016	佐久市
尾垂遺跡内の古墳（円墳、7C 後半～8C）の玄室より複数体の人骨が出土、直刀、鉄鏃などの副葬品が出土、共伴する土器から追葬が行われたことが想定される				
5	金井城跡（かないじょう）	近世	森本岩太郎 1991	佐久市
成人男性 3 体、成人女性 4 体の 7 体、行路病者か、【発掘所見】1～4 号人骨（土坑 D717～720）は、いずれも北郭、5a、5b 人骨は北郭西側を区画する第 23 号溝（M23）、6 号人骨は三郭北側にある第 12 号溝（M12）出土、溝は堀跡で、遺構の大半は中世後期（16C 代）のものとされるが、出土人骨は、いずれも城が機能を失ってから、江戸時代に埋葬されたものとされる（森本 1991、小山ほか 1991）、また、詳細な出土地点は不明だが、城郭内から獣骨などとともに「頭蓋片など数十片の破片」「亀裂、歪みが生じ、細片化、灰白色化している」焼人骨が出土しているという（宮崎 1991）				
【1 号人骨】成人・女性、第 717 号土壙から出土、成人女性 1 体分、残る骨はわずかで右上腕骨・橈骨と肋骨が 1 本のみ、三角筋粗面はやや発達、骨体はともに細い、 【2 号人骨】壮年前半・男性、第 718 号土壙から出土、残りは比較的よい、成人男性 1 体分、伏臥屈位、頭蓋の復元が可能であった、眉弓が突出、乳様突起は大きい、外後頭隆起は小さい、中頭、下顎角が外反する、外後頭隆起は小さい、歯は上顎が全歯残り、下顎は 11 本残る、下顎歯の 4 本は生前に脱落している（右 M1、M3 と左 I1、M3）、歯槽性突顎、齲蝕はない、歯周病、右上腕骨は太く三角筋粗面が発達している、大坐骨切痕は鋭角、恥骨結合面は 25～31 歳相当、大腿骨は柱状性が強い、推定身長は約 160cm、肋骨に先天性奇形がある、【発掘所見】頭位は北東、 【3 号人骨】成人・男性、第 719 号土壙から出土、成人男性 1 体分、保存は悪い、一部しか残っていない、頭蓋はないが歯は 1 本残る、変形性脊椎炎の骨棘がある、腰椎で顕著、上肢下肢共に残りは悪い、距骨に蹲踞面がある、 【4 号人骨】壮年前半・女性、第 720 号土壙から出土、成人女性 1 体分、頭蓋冠が残る、主要縫合は癒合していないので壮年期前半、乳様突起は小さい、上腕骨頭は小さい、下肢骨はない、 【5a 号人骨】老年・男性、第 23 号溝状遺構から出土、1 体分、頭蓋はほぼ完全、外後頭隆起はよく発達する、眉間が発達、乳様突起は普通、縫合から判断して老年期、中頭、下顎角は外反する、歯槽性突顎、残る歯は上左 C、下右 C、下右 P1 だけで他は全て歯槽が閉鎖、歯石がある、咬耗はやや進む、変形性				

脊椎症による骨棘形成がある、骨棘で癒合するものがある、上腕骨は三角筋粗面が発達する、大坐骨切痕は鋭角、大腿骨は柱状性は弱い、推定身長は約 162cm、距骨に蹲踞面がある、【発掘所見】出土状況写真を見ると、並行した四肢骨の上中央に、頭蓋骨が置かれていたような形で出土している（小山他 1991）

【5b 号人骨】成人・女性、第 23 号溝状遺構から出土、1 体分、成人女性、頭蓋は小片化して少数しか残っていない、歯のついた下顎体の右半分などである、鋏状咬合、歯槽性突顎、歯は上顎右が 7 本、下顎の右が 5 本、左が 2 本残る、咬耗はやや進んでいる、歯周病、右上顎洞に炎症の痕がある、腰椎には変形性関節症の棘がある、左右の上腕骨遠位半が残るが細い、大坐骨切痕は深く女性的、大腿骨の柱状性は低い、推定身長は約 143cm、

【6 号人骨】老年・女性、第 12 号溝状遺構から出土、成人女性、1 個体分、頭蓋冠の歯片だけが残る、縫合の閉鎖状態から老年と推測、

6	上直路遺跡（かみすぐじ）	弥生後期	永峯光一 1988b	佐久市

県史での簡単な記載である

【土壙】詳細不明、それほど強く焼けていない人骨片との記載があるだけである、

6	上直路遺跡（かみすぐじ）	弥生後期	森本岩太郎 1998	佐久市

1 体分

【第 1 号住居址】詳細不明、焼骨だが、白化した部分と黒色の部分など混在する、保存状態はきわめて悪い、右橈骨及び左右尺骨の骨幹、上腕骨遠位端、寛骨片、腓骨片が残っている、埋葬後に何らかの原因で熱を受けた可能性が高い、複数個の釧（青銅製の板状腕輪）を装着していた、【発掘所見】弥生後期の 1 号住居址のベット状遺構に隣接した（住居内か）土壙内から甕 3、高杯 1 が出土、その下から銅釧伴う成人骨が出土している。銅釧は左右前腕部の橈骨・尺骨が貫通した状態で出土、頭部は残存しないが頭部は南か、残存する人骨は人熱を受けており白色化または黒色に炭化している。さらに土壙底面には炭化物層と板状の木片がみられ、埋葬後に火熱を受けて焼けたとされる。この他、住居址南東部分から壺・甕・高杯・鉢・甑・手捏土器等が多量に出土、

7	観音堂遺跡（かんのんどう）	中世	平田和明他 1999a	佐久市

3 体、2 体は断片化するも保存はよい、1 体は保存が悪く脆弱、【発掘所見】D68、D121 は土壙墓

【D68 人骨】1 歳程度・性別不明、骨質はいいが残るのは断片的、頭蓋は前頭骨片、頭頂骨片、側頭骨の錐体部などが残る、大泉門が残る、1 歳程度、四肢骨は大腿骨体片など、【発掘所見】銭貨 3（開元通寶 1、熙寧元寶 1、紹聖元寶 1）、時期：中世前期か、板状の木材片が共伴、箱に入れて埋葬されたか、

【D121 人骨】熟年・性別不明、保存状態は悪い、頭蓋と下肢骨が残る、頭蓋は土圧で扁平化している、頭蓋冠と下顎骨が残る、頭蓋縫合は内板が癒合を完了している、歯は上顎で 7 本、下顎で 7 本が残る、咬耗は進んでいる、齲蝕がある、熟年、大坐骨切痕は狭く男性的、大腿骨は粗線が発達し太くて頑丈、脛骨も遠位骨幹が残る、【発掘所見】銭貨 5（開元通寶、淳化元寶、聖宋元寶、至道元寶．銭名不明各 1）明銭が含まれないので、時期：中世前期か

【D158】人骨（詳細不明）と銭貨 6（開元通寶 1、熙寧元寶 3、元豊通寶 1、政和通寶 1）出土

【A・こ・9 人骨】老年・性別不明、保存状態はよいが、頭蓋冠の一部しか残っていない、矢状縫合は完全に癒合しているので老年、動物の咬痕がある

8	北西ノ久保遺跡（きたにしのくぼ）	江戸	森本岩太郎 1987a	佐久市

3 体が出土、保存状態は全体的によい、咬耗が進み病的な脱落歯が多い、蹲踞の習慣があった。計測値がある、

【T2A 人骨（墓坑内）】老年・女性、埋葬姿勢は不明、老年女性、保存状態はよくない、頭蓋骨では頬骨片と下顎骨右の一部が残る、歯槽は退縮している、咬耗は進んでいる、下肢骨では大腿骨上部は扁平である、柱状性は弱い、粗線は発達している、骨は薄く軽くて骨多孔症（骨粗鬆症）を起こしている、

【T2B 人骨（墓坑内）】壮年前半・女性、壮年期前半の女性 1 体分、保存はきわめてよい、ほぼ全身の骨格が残る、頭蓋はほぼ完全、乳様突起は小さい、頭頂結節が発達している、主要縫合の内板は完全に癒合している、外板はほとんど閉じていない、中頭に近い長頭、歯槽性突顎、歯も良く残る、歯石がある、上顎は 13 本、下顎が 11 本残る、咬耗はやや進んでいる、鎖骨は細い、上腕骨は細いが三角筋粗面などは発達している、橈骨と尺骨は両側とも表面が粗く凹凸不整に肥厚し、軽度の慢性骨膜炎をおもわせる（梅毒性か）、下肢骨では大坐骨切痕は広い、柱状性は弱い、大腿骨と脛骨から推定身長は約 147cm、

【T2C 人骨（墓坑内）熟年・男性、蹲踞位で出土した熟年男性 1 個体、保存状態はよくほぼ全身の骨格が残る、眉弓が張り出している、鼻根部は陥凹が弱い、乳様突起は大きいが外後頭隆起の発達は悪い、縫合の内板は閉鎖、短頭、歯槽性突顎、歯は上顎歯が 12 本、下顎歯が 10 本残る、下顎に歯槽膿漏の骨吸収が見られる、齲蝕が多い、変形性脊椎症、咬耗はやや進んでいる、右下顎頭に関節症、腰椎などの椎体に骨棘が見られる、鎖骨は太い、上腕骨の三角筋粗面はよく発達する、大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨上部は扁平で、柱状性は弱い、大腿骨・脛骨での推定身長は約 152cm

9	月明沢遺跡（げつめいさわ）	弥生	西沢寿晃他 1978	佐久市

岩陰遺跡、成人 4 体、幼児 1 体が出土している、2 個体に抜歯がある。人歯加工品（穿孔上右 M3）が出ている、

壮年・男性と詳細不明、保存状態はよい、焼骨も伴うが生骨人骨とは別個体、頭蓋骨 2 例に抜歯が見られた（壮年男性・下顎骨欠）（右 I2、右 C、左 C）、咬耗は進んでいる。別個体では下顎骨のみで抜歯は I2、C、この下顎骨は頑丈、M3 が萌出するも消失している、咬耗は軽度である、対応する上顎はない、

10	五里田遺跡（ごりた）	弥生	平田和明他 1999b	佐久市

2 体分（弥生後期人 1 体と時期不明 1 体）、保存は悪く断片的な出土、

【第 2 号円形周溝墓人骨】詳細不明、保存がきわめて悪い、長骨としかわからない骨片、部位不明、【発掘所見】壺、甕、銅釧 5 が墓坑内から出土、釧内には人骨が残っていた、時期：弥生中期後半
【第 23 号土壙人骨】（年代不明）、成人・性別不明、保存が悪い、脆弱ではない、右大腿骨骨幹と右脛骨骨幹片、大きさから判断して成人、共にきゃしゃである、

11	五霊西 12 号古墳（ごりょうにし）	古墳※	町田拓也他 1988	佐久市

撹乱があった、奈良時代から平安前中期にわたって数個体が埋葬されている、個体識別が出来ないので統一のとれた記載は出来ていない、保存状態はいろいろ、※人骨の時期は奈良・平安中期（8～10C）にくだるか

【玄室】
【奈良時代の人骨】焼骨、1～2 ㎝の骨片、量的にも少ない、1 体だろう、
【平安時代の追葬人骨】成人・男性と他の若い個体もある、歯から 2～3 体、もっとも骨や歯が多い個体は 30 歳代くらい、大腿骨・脛骨は太く頑丈、男性だろう、成・壮年の男性、170～180 ㎝の身長は想像とされている、下顎骨は厚く、下顎枝も厚い、下顎は大きい、歯は 3 つに分けられる；第 1 グループ；下右 P1、下右 P2、上・下右 M1、下右 M2、下左 M2、部位不明の M3 が 4 本、M3 に多様性があるので 2 体以上と判断する、歯は大きい、第 2 グループは下左右の M2、咬耗は第 1 グループより軽度、第 3 グループは咬耗のない M3 が 2 本（上左と下右）、萌出前か直後で咬耗はない、第 2 グループと同じ個体の可能性も否定は出来ない、

12	幸神古墳群（さいのかみ）	古墳	町田拓也他 1996	佐久市

5 基の古墳から出土した断片的な歯と骨、詳しい形態の記載はない、出土したものを並べて写真にしている

新海神社西御陵古墳　　成人・女性　　骨質は薄く、骨幹は細い、成人女性、下右 M1, M2（30 歳代）

【五庵古墳】20 歳以下・性別不明、下右 M1, 咬耗はほとんどなく 20 歳以下の若年
【幸神 1 号古墳】成人・男性、頭蓋骨片（側頭骨錐体を含む）、上腕骨片、大腿骨片など、骨の厚さから成人男子と思われる、
【幸神 2 号古墳】成人・女性、歯は下右 M1、M2 と下左 M1 が出土した、四肢骨は上腕骨骨幹片、大腿骨骨片、脛骨片が残る、四肢骨は細く女性と思われる、左下顎骨骨体後部片、咬筋窩は深い、頑丈である、M3 が植立しており咬耗から 40 歳代前後と思われる。
【幸神 4 号古墳】30 歳代・男性と熟年・性別不明、歯は下右 M1、下左 P2・下右 M1、M2 が残る、咬耗から 30 歳以下の青年と考えられる、尺骨片、大腿骨片、大腿骨頭、脛骨片などがでており、成人男性と思われる、他に下右 M1 があり、咬耗は進んでいるので 50 歳代と考えられる、
【中原 1 号古墳】老年・男性、側頭骨を含む頭蓋骨片が数点、及び左下顎骨後部がある、咬筋粗面は深く広い、関節突起は大きい、筋突起も大きく厚い、植立する歯は下左 M2 で咬耗が進んでいるので 60 歳以上の老年、他に下左 I1、右 C など 5 本がある、上腕骨片、大腿骨片などが出土している、骨の厚みから男性、骨粗鬆の度合いから老人と考えた、

【中原 2 号古墳】老年・性別不明と成人（若年）・性別不明、歯が残っている、下左 M2，下右 M1，上左右 M1 があり、上顎臼歯は咬耗が進んでおり 60 歳代、他は咬耗は軽度で別個体、2 体か

13	下聖端遺跡（しもひじりばた）	江戸	森本岩太郎 1992	佐久市

1 体分、中世から近世への移行途中と考えられる形質

【OT2 号墓坑】熟年・男性、蹲踞位で埋葬されたもの、頭蓋冠や前頭骨全部が壊れている以外は比較的保存がよい、復元した頭蓋骨はゆがみが大きいノで計測できない、眉弓は突出、乳様突起や外後頭隆起は大きい、歯列弓も大きい、下顎角が外反する、縫合の内板は閉鎖し、外板でも閉鎖が進んでいる、熟年、中頭、歯槽性突顎、歯は上顎が 6 本、下顎が 13 本残っている、咬耗は進んでいる（ブロカ 2 度）、腓骨に骨折治癒痕あり、肩甲骨肩甲窩に変形性関節症、椎骨に変形性脊椎症による骨棘の形成が見られる、腰椎にシュモール結節の痕跡がみられた、推定身長は約 158 ㎝、

14	真光寺第 1 号古墳（しんこうじ）	古墳	西沢寿晃 1983b	佐久市

10 体分が出土した、保存状態はよくない、個体識別が出来ないので個々に記載している、石室では2箇所に分散して出土、再葬での2次的移動がある、保存状態はよくない、原形を保つものは皆無、骨は比較的よく残っている、ほとんどが成人で壮年から熟年、1 例のみ乳歯がある、1 例で柱状性が見られたが他は全て柱状性は低い、中世人では扁平性が残り柱状性がなくなるという変異性を示している、

【西側壁際の人骨群】他に上腕骨や脛骨などが残っている

【頭蓋骨①】詳細不明、もっとも全体的な形を残す頭蓋骨、顔面や頭蓋底は欠ける、表面の腐食がいちじるしい、土圧で左右に圧平されている、後頭隆起がある

【頭蓋骨②】壮年・性別不明、土圧で変形、比較的原形を保つ、乳様突起は大きい、外後頭隆起は顕著、歯は2本（上左 M1、M2)残る、咬耗はあまり進んでいない、壮年期、

【頭蓋骨③】熟年、接合で脳頭蓋が復元できた、厚く頑丈な頭蓋冠、内板の縫合は消失、側頭線は弱い、熟年期、

【頭蓋骨④】壮年・男性、脳頭蓋が接合できた、厚く頑丈、外後頭隆起は普通、乳様突起はやや大きい、側頭線はやや発達する、壮年男性

【頭蓋骨⑤】詳細不明、5 ㎝四方の骨片と細片 10 数点、人字縫合は離脱、

【頭蓋骨⑥】詳細不明、数個の破片が残る、腐食が顕著で骨粉状

【頭蓋骨⑦】詳細不明、頭頂骨片、側頭骨狭骨突起、口蓋骨などが残る、上右 M2 ともう1本の大臼歯、咬耗は頭蓋骨②より進んでいる、

【頭蓋骨⑧】詳細不明、後頭骨のない人事縫合部の破片のみ

【頭蓋骨⑨】詳細不明、わずかな破片のみ、取り上げ不可能、なおこの個体のなかに下左dp2が混在するが小児骨はない

【四肢骨】下記大腿骨の他に少数の四肢骨片がある。

【1 大腿骨右】成人・男性、頭部から頚部が残る大腿骨、骨頭は大きく男性であろう

【2 大腿骨右】成人・男性、骨体下半が残る、大型で頑丈、粗線は強くは発達していない、柱状性はさほど強くない、男性骨

【3 大腿骨左】詳細不明、骨体の上 1/2 が残る、頑丈である、扁平大腿骨

【4 左右不明大腿骨】詳細不明、粗線は中等度、骨質は頑丈

【東側壁際の人骨群】下記以外に上腕骨や寛骨脛骨などがある

【頭蓋骨⑩など】成人・女性、頭頂骨、後頭骨側頭骨の一部と下顎骨片が残るのみ、同一個体であろう、下顎の左右 M3、右 M2、左 M1 が残る、咬耗は M3 には全くない、咬耗は全体に軽度、大坐骨切痕は広く浅い女性的形態、

【1 大腿骨右】女性、保存はよい、骨質は堅い、骨体の上 2/3 が残る、全体に細くきゃしゃ、粗線の発達は弱い、柱状性は弱い、女性骨であろう

【2 大腿骨右】右骨体下部 1/2 が残る、粗線の発達は中等度、柱状性は弱い

【3 大腿骨右】骨体上部 1/2 が残る、粗線はやや発達する、筋付着面の発達は弱い、

【4 大腿骨右】骨体上部 1/2 が残る、粗線はやや強い、扁平性は強い、

【5 大腿骨左】骨体上部 1/2 が残る、筋付着面は僅かに粗で、恥骨筋線がやや隆起する、中央横断示数は 76.8

15	砂原遺跡（すなはら）	江戸	茂原信生 1998d	県歴史館

保存状態は良い、

【1 号人骨】20 歳代の青年・女性　　座位で出土している、ほぼ全身が残っている、眉弓は発達していない、平坦な顔面、外後頭隆起はやや発達している、乳様突起は小さい、歯槽性突顎、歯は M3 まで出土、咬耗は進んでいない、M3 に咬耗はほとんどない、エナメル質減形成がある、齲蝕がある、上腕骨は細い、大坐骨切痕は広く女性的、妊娠痕がある、大腿骨は上部は扁平で、粗線はあまり発達していない、距骨に蹲踞面がある、推定身長は約 140 ㎝、(冠状縫合を前頭縫合と間違えている)

【2 号人骨】壮年～熟年・女性、前頭骨は立っている、鼻根部は平坦である、眉弓はやや発達している、乳様突起はやや大きいが厚くない、中頭に近い短頭、下顎骨は比較的頑丈、角前切痕は軽度、下顎角はやや外反(報告では下顎角を下顎各部と誤植)、歯は上顎では 7 本が生前に脱落、下顎では 4 本が生前に脱落、歯根膿胞あり、咬耗はさほど進んでいない、エナメル質減形成あり、四肢骨の残りはよい、三角筋粗面の発達はよい、大坐骨切痕は女性的、大腿骨は超扁平大腿骨で、粗線は発達していない、推定身長は下肢骨で約 149 ㎝、

【3 号人骨】熟年・女性　　座位、保存はよい、ほぼ完全な頭蓋骨、眉弓は発達していない、鼻根部はやや凹む、外後頭隆起は目立たない、乳様突起は普通、縫合ではさほど若くはない、短頭、下顎骨は頑丈である、角前切痕はなだらかに大きい、歯は生前に 3 本(左I2, 左右M3)が脱落、歯槽は退縮して歯槽膿漏と思われる、下顎では 8 本が生前に脱落、歯槽の退縮が顕著、咬耗はさほど進んでいない、腰椎にリッピングが見られる、三角筋粗面は比較的発達している、大坐骨切痕は直角に近い、耳状面も高い、妊娠痕がある、扁平大腿骨、粗線はあまり発達していない、脛骨は扁平ではない、距骨に内側蹲踞面がある、下肢骨での推定身長は約 148 ㎝、

【4 号人骨】20 歳代、青年・男性の可能性が高い、座位、鼻根部は平坦、眉弓はやや発達、乳様突起は大きめ、外後頭隆起は発達する、中頭、下顎骨は頑丈で筋突起も発達、歯では上左右M3 が生前に脱落、右M1 歯根膿胞、M2、M3 の歯槽はかなり退縮、咬耗は少ない、上腕骨は太く頑丈で三角筋粗面は発達する、大坐骨切痕は鋭角、大腿骨は太く頑丈、粗線は発達する、超扁平大腿骨、脛骨断面は三角形、蹲踞面がある、下肢骨での推定身長は約 156 ㎝、

【5 号人骨】詳細不明(成人であろう)・女性か、頭蓋骨片と四肢骨が残る、左右の側頭骨錐体と頭蓋冠の一部が残る、上腕骨は普通、大坐骨切痕は鋭角だが耳状面は高い、また、妊娠痕様の溝がある、距骨に蹲踞面がある

16	周防畑遺跡群(すぼうばた)	弥生・古代	上田真 2014	佐久市

鑑定は茂原信生、本郷一美、櫻井秀雄、多くは獣骨(ウマなど)である。人骨については表中にあるのみ。

【3 号土器棺墓】詳細不明、ヒトの乳歯と思われるもの 2 本が出土、時期:9 世紀
【35 号住居跡】詳細不明、ヒトと思われる四肢骨片、時期:

17	瀧の峯古墳群 2 号墳(たきのみね)	古墳※	森本岩太郎 1987b	佐久市

遊離歯のみ、※古墳時代前期(4C)

【主体部 3 区墓坑内】壮年期・女性、人骨片はない、遊離歯は 10 個、4 個が上顎、6 個が下顎、下左P1 は小破片、咬耗はさほど進んでいない、壮年期、歯が小さい、同一個体のもの

18	竹田峯遺跡(たけだみね)	弥生後期	森本岩太郎 1986	佐久市

1 体分の胎児骨

【壺棺内】月齢 5 ヶ月・詳細不明、全量で 15g、月齢 5 ヶ月の胎児骨 1 体分、性別は不明、右側頭骨錐体、後頭骨外側部、他に頭蓋冠片、左右の脛骨や左右不明の上腕骨が確認できる、肋骨片は 20 点ほど、他に椎弓がある

19	長峯古墳群(ながみね)	古墳※	森本岩太郎 1988	佐久市

2・3 号人骨は追葬されたもの、2 号が先で 3 号が後、保存状態は悪い、時期:7C

【玄室内】

【1 号人骨】成人・女性、頭蓋骨と大腿骨片だけが残る、骨質は薄い、大腿骨上部は扁平で、柱状性は弱い、

【2 号人骨】壮年期後半・男性、左側臥屈葬、頭蓋骨片と左上腕骨体、左右の大腿骨体が残る、眉弓は発達し、外後頭隆起も発達している、下顎角は外反する、上顎歯 9 本、下顎歯 4 本が残る、M3 は萌出している、咬耗は進んでいる、上腕骨の三角筋粗面の発達はよい、大腿骨の粗線は発達する、大腿上部はやや扁平、

【3 号人骨】壮年期前半・女性、右側臥屈葬、頭蓋は頭蓋冠片と顎骨片がある、前額部は垂直に近い、外後頭隆起は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、歯は上顎歯が 6 本残るだけである、M3 は萌出、咬耗は普通である、上腕骨は細い、大腿骨の柱状性は低い、蹲踞面がある、

20	中宿遺跡（なかやど）	中近世	宮崎重雄 1998	佐久市

茂原信生鑑定、保存は悪い。

【OT3】10 歳前後・性別不明、歯が 2 本だけ残っている、上右Mと下左Mである。上顎の大臼歯はM1 かM2 で咬耗も隣接面磨耗もない，下顎の大臼歯はM2 かM3 で、咬耗がな⑨、隣接面磨耗は不明、12 歳よりは若い個体、同一個体のもの、歯は大きい、【発掘所見】第 3 号墓坑、土製円板が出土、時期は類似した墓坑から銭貨（渡来銭）が出土していることなどによる

21	西一里塚遺跡群（にしいちりづか）	弥生	櫻井秀雄 2012	歴史館※

茂原信生鑑定

【SM07】10 歳前後・性別不明、歯が 2 本だけ残っている、上右Mと下左Mである。上顎の大臼歯はM1 かM2 で咬耗も隣接面磨耗もない，下顎の大臼歯はM2 かM3 で、咬耗がなく、隣接面磨耗は不明、12 歳よりは若い個体、同一個体のものである、歯は大きい、【発掘所見】木棺墓、螺旋型鉄釧、ガラス玉 9、鉄釧には絹が付着、時期：周辺の遺構との対比から、弥生後期か

22	西一本柳遺跡（にしいっぽんやなぎ）	古墳	平田和明他 2001a	佐久市

保存状態は悪く、遊離歯のみ

【D1 人骨】壮年期・性別不明、遊離歯だけが残っており、歯冠のエナメル質だけが残る、歯の咬耗はさほど進んでいない、壮年期、齲蝕はない、上顎歯は 1 本、下顎歯は 7 本がある、【発掘所見】D1 号土壙、長方形、臼玉 2、時期：古墳中期

23	西近津遺跡群（にしちかつ）	平安	茂原信生他 2015	歴史館※

保存状態は悪い。伸展葬が 2 例（4 例中）ある。

【SB7035】成人・性別不明、竪穴住居内、顔面は失われている、頭蓋冠の骨は薄い、大腿骨粗線はやや隆起している、扁平大腿骨、殿筋隆起がある、【発掘所見】竪穴住居跡、炭化材が床に広がる、動物骨も出土しているとされる、時期：10C 後半

【SK4051】10 歳代半ばの少年・性別不明、土壙墓に伸展葬で埋葬されていた、頭蓋の一部と歯、大腿骨片が残る、頭蓋冠の骨は薄い、まだ若い個体、歯は上顎歯 4 本と下顎歯 1 本が残る、咬耗はほとんどなく、M2 には咬耗がないので萌出して間もないと考えられる、10 歳代半ば、歯は小さい、【発掘所見】木棺墓か、木質はないが、長方形の掘り方で、釘出土、土師器坏に墨書（□【几+家】・禾、担当は「我家」と釈読）、灰釉陶器（□【几+吉】、周の異体字か）は棺外副葬品か、時期：10C 前半

【SM4011】成人・性別不明、土壙墓に伸展葬で埋葬されていた、頭蓋骨の一部と歯、四肢骨片が残る、頭蓋では左右の側頭骨錐体部が出土、筋突起は厚い、下顎の外側結節は発達している、歯は上顎は 15 本残る、下顎歯は右はI2 以外は残るが左は 4 本が残る、歯は大きい、上I1 はシャベル型、M3 は萌出、エナメル質減形成がある、【発掘所見】木棺墓か、木質はないが、掘り方が長方形

【SK8204】成人・性別不明、土壙墓の 1 体分だが、取り上げられたのは歯だけ、上顎歯はなく、下顎歯は 5 本が残る、咬耗は進んでいる、若い個体ではない、齲蝕がある、咬耗のない矮小歯が 1 本混入している、【発掘所見】木棺墓か、木質はないが、掘り方が略長方形、完形の土師器坏、灰釉陶器椀、皿が出土、棺外副葬品か、時期：9 世紀末頃か

24	榛名平遺跡（はるなひら）	古墳・中近世等	平田和明他 2001b	佐久市

古墳時代 1 体、中世 55 体、江戸時代 1 体、不明 9 体の合計 66 体が出土、全体に保存状態は悪く、焼骨もある、齲蝕は中世人骨の 9 体にみられた。【発掘所見】中世墓群（略称 FD、一部 D も含む）は火葬墓 15 基（煙道付の火葬施設を含む）、集石土壙墓 26 基、素掘りの土壙墓 24 基の三種類に分類されている

NHN 地区

【1 号土壙墓】11 歳前後の小児骨・性別不明、遊離歯が 2 本だけ残る、上左 P2 と下左 M1 にわずかに咬耗がある。時期：江戸

【H13 遺構】小児骨・性別不明、遊離歯が 1 本だけ残る、上左 M1、咬耗はほとんどない、時期：弥生後期

【P98 遺構】小児骨・性別不明、遊離歯が 2 本だけ残る、上右M1 と下左 M1，咬耗はほとんどない、時期：古墳

【F-キ-13】詳細不明、保存は劣悪である、破損状態がひどく四肢骨片ということがわかるだけである、時期:不明
【J-ク-20】成人・性別不明、焼骨、頭蓋骨片だけが残る、頭頂骨の厚さは普通である、時期:時代不明

NHNⅡ地区
【OT2 遺構】小児・性別不明、少数の頭蓋冠片と四肢骨片、左脛骨体部が残る、その他重量で 50g、頭蓋冠は薄い、脛骨は細い、時期:近世か
【P4346 遺構】詳細不明、同定不可能な小骨片が 2 点残るだけ、時期:中世か
【E 区】成人・性別不明、頭蓋の右下顎骨筋突起から関節突起部、左右不明の橈骨頭、左右不明の寛骨臼片などが残る、時期:時代不明
【D24 土坑】熟年・性別不明、頭蓋では頭蓋冠片が残る、歯は上顎が 11 本、下顎が 8 本残る、M3 萌出、咬耗はやや進んでいる、齲蝕がある、四肢骨では上腕骨体片、部位不明片が残る、時期:古代
【D83 土坑　　】熟年・男性、頭蓋は眉弓付近、左右上顎骨が残る、歯は遊離歯が 5 本残り、上顎は 4 本、下顎は 1 本である、咬耗は進んでいる、上腕骨は右、橈骨は左右が残る、大坐骨切痕は狭い、大腿骨骨体片が残る、時期:時代不明

NHNⅢ地区
【榛名平 1 号墳】老年・男性、頭蓋冠が数点、顔面頭蓋では上顎骨、口蓋骨片、右下顎筋突起片などがある、上右 P1、P2 の歯槽は閉鎖、四肢骨では左右不明の大腿骨体が残る、歯はない、時期:古墳
【FD1 遺構】詳細不明、焼骨、四肢骨片のみが出土、中足骨近位端、他に 20g ほどの骨片がある、時期:中世、【発掘所見】火葬墓
【FD2 遺構】詳細不明、焼骨、頭蓋骨片が 1 点と部位不明の四肢骨片が 15g ほど、時期:中世後期、【発掘所見】火葬墓、永楽通寶 1、不明 1
【FD3 遺構】詳細不明、小片が 20g ほどあるだけである、時期:中世、【発掘所見】火葬墓
【FD4 遺構】成人・性別不明、焼骨、保存は悪いがさまざまな部位が残っている、上顎骨片、下顎骨おとがい棘付近などがある、歯は歯根が 14 個、上腕骨片、その他部位不明の骨片が 220g ほど残る、時期:中世後期、【発掘所見】火葬墓、永楽通寶 1、不明 4
【FD5 遺構】詳細不明、小片が 4 点だけである、時期:中世、【発掘所見】火葬墓
【FD6 遺構】熟年・性別不明、歯、頭蓋骨片、大腿骨片だけである、歯は保存がよく上顎歯が 13 本、下顎歯が 10 本残っている、咬耗はやや進んでいる、齲蝕がある、環椎片がある、大腿骨頭が残る、時期:中世、【発掘所見】集石土壙墓、治平元寶、元豊通寶各 1
【FD7 遺構】成人・女性、焼骨、焼けていない小片も混じる、頭蓋では下顎骨切歯部、肋骨、上腕骨体、寛骨の大坐骨切痕部(広い)、大腿骨頭、膝蓋骨などが残っている、同定不可能なものは 350g ある、時期:中世、【発掘所見】火葬墓、元豊通寶 1、元聖通寶 1、不明 1
【FD8 遺構】成人・性別不明、焼骨、変形縮小が顕著、頭蓋骨片は 1 点、大腿骨体、脛骨片もある、部位不明の小片は 220g である、時期:中世後期、【発掘所見】火葬墓、永楽通宝 1
【FD9 遺構】詳細不明、焼骨、頭蓋骨は前頭骨片、下顎体片がある、歯根は 2 点、腓骨片がある、部位不明の四肢骨片は 50g、時期:中世、【発掘所見】火葬墓
【FD10 遺構】成人・性別不明、焼骨、頭蓋冠片が数点、側頭骨の錐体片、下顎骨などが残る、歯根は 4 本、上下肢とも指骨片がある、時期:中世後期、【発掘所見】火葬墓、洪武通寶 1、不明 2
【FD11 遺構】詳細不明、焼骨、頭蓋冠片が数点、左右側橈骨錐体部が残る、四肢では橈骨や尺骨の骨体などがある、下肢骨は不明、時期:中世、【発掘所見】土壙墓
【FD12 遺構】成人・性別不明、焼骨、頭蓋冠片が 50g ある、上顎骨や下顎骨の筋突起などがのこる、四肢骨では上腕骨片、大腿骨片などがある、時期:中世、【発掘所見】火葬墓、銭貨 2(治平元寶、不明各 1)
【FD13 遺構】詳細不明、焼骨、四肢骨片だけが残る、大腿骨片などで、部位不明の四肢骨片は約 60g、時期:中世後期、【発掘所見】瀬戸美濃茶入(15~16C)共伴、副葬品か
【FD14 遺構】詳細不明、焼骨、上肢骨及び下肢骨だけが残る、上腕骨片、大腿骨片などがある、時期:中世、【発掘所見】火葬墓
【FD15 遺構】成人・性別不明、焼骨、頭蓋は約 70g ある、下顎骨の左関節突起、歯根片が 5 点、歯冠片もある、部位不明の四肢骨片が多数残る、時期:中世、【発掘所見】集石土壙墓

【FD16 遺構】詳細不明、焼骨、頭蓋では前頭骨狭骨突起部、左側頭骨、右側頭骨後縁部などが残る、大腿骨の粗線部が残る、部位不明の四肢骨は約 35g、時期：中世、【発掘所見】火葬墓、政和通寶、淳□元寶、不明各 1
【FD17 遺構】成人・性別不明、焼骨、頭蓋冠片が数点、側頭骨錐体部も残る、上腕骨体片、大腿骨遠位部片などがある、時期：中世、【発掘所見】火葬墓、不明銭貨 3
【FD18 遺構】8 歳前後・性別不明、四肢骨片は焼骨、頭蓋骨片や歯が残る、左側頭骨錐体部がある、歯は乳歯 4 本があり、他は永久歯で 13 本が残る、咬耗は軽度、部位不明の焼骨片が 20g ある、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓、元祐通寶 1、元符通寶 2
【FD20 遺構】詳細不明、焼骨、頭蓋底の一部が残るだけである、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓
【FD21 遺構】詳細不明、生骨、頭蓋では前頭骨の一部、左側頭骨の狭骨突起、外耳孔部などが残るだけである、四肢骨では上腕骨体片、大腿骨体片などが残る、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD22 遺構】熟年・女性、生骨、前頭骨眼窩部、側頭骨錐体、後頭骨斜台部、下顎骨片などがある、歯は上顎歯が 12 本、下顎歯は 11 本残る、咬耗はやや進んでいる、齲蝕がある、右下 M3 は矮小歯、上肢では上腕骨の三角筋粗面部など、また下肢では大坐骨切痕部などと大腿骨近位部、脛骨体などが残っている、大坐骨切痕は広く女性的、時期：中世後期、【発掘所見】集石土壙墓、元祐通寶、□寧元寶、洪武通寶各 1
【FD23 遺構】詳細不明、生骨、小片が 2 点残るだけである、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓、五輪塔火輪、水輪、地輪各 1
【FD24 遺構】6 歳前後の小児・性別不明、生骨、右側頭骨錐体部と歯が残る、歯は乳歯が上顎で 9 本、下顎で 9 本、永久歯は上下左右の M1 が残る、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓
【FD25 遺構】3 歳前後の小児・性別不明、生骨、歯が残るだけである、上顎では乳歯が 5 本、下顎では乳歯が 2 本残り、下顎の左 M1 は形成中である、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD26 遺構】熟年・女性、生骨、比較的保存状態はよい、頭蓋は完形の左右側頭骨がある、後頭骨や頬骨、下顎骨も残る、歯は上顎歯が 4 本、下顎歯が 3 本残り、咬耗は進んでいる、齲蝕がある、上肢では鎖骨と肩甲骨が残る、下肢では大坐骨切痕部（広く女性的）、大腿骨近位部、脛骨体片がある、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD27 遺構】小児・性別不明、保存状態は悪い、遊離歯が 2 本だけ残る、上が右 C と下顎右 M1 である、犬歯は歯根が未完成、M1 に咬耗はほとんどない、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓
【FD28 遺構】5 歳前後と 1 歳前後の 2 個体・性別不明、保存状態はきわめて悪い、遊離歯と若干の頭蓋骨片だけである、下左 M1 が 2 本ある(2 個体)、第 1 の個体は乳歯列で未萌出の M1 がある、第 2 の個体は下顎左 M1 でやや咬耗している、乳歯に齲蝕がある、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓、銭貨 7（祥符通寶、□寧元寶、開元通寶、元豊通寶、天聖元寶、元祐通寶、不明各 1）、不明鉄製品 1
【FD29 遺構】成人・性別不明、保存が悪く、頭蓋冠、側頭骨錐体部などがある、十分な鑑定は出来ない、頭蓋骨の厚さから成人と判定、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD31 遺構】4 歳前後の小児 2 体、保存が悪く、複数の遊離歯だけが残る、歯冠のみが残る、第 1 の個体は乳歯列で未萌出の M1 がある、第 2 の個体は乳歯だけが残る、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓
【FD33 遺構】8 歳前後の小児・性別不明、頭蓋骨片と遊離歯のみ、右側頭骨錐体が残る、歯は上顎が 4 本の乳歯と 1 本の永久歯（M1)下顎が 2 本の乳歯と 3 本の永久歯(M1 と左右 I1)、歯の咬耗はわずかである、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓
【FD34 遺構】熟年・性別不明、保存状態がきわめて悪く、頭蓋骨片、遊離歯、四肢骨片であるがもろい、頭蓋骨は左側頭骨錐体部、右側頭骨片が残る、歯は同定可能な遊離歯が 2 本で上右 M1 と下左 M1 である、この歯は咬耗が進んでいる、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓
【FD35 遺構】2 歳前後の小児・性別不明、保存状態は劣悪で、遊離歯が 1 本残るのみ、下左 dp2, この歯は咬耗していないので 2 歳前後の小児、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD36 遺構】2 歳前後の小児・性別不明、数本の歯が残るだけである、上顎は 6 本の乳歯、下顎は 8 本の乳歯である、歯の咬耗は見られない、歯冠の形成程度から 2 歳前後、時期：中世
【FD38 遺構】3 歳前後の小児・性別不明、保存状態は劣悪で、頭蓋の一部と歯が残るだけである、頭蓋は左右側頭骨の錐体部である、歯は上顎が乳歯 7 本と左右の M1、下顎が 6 本の乳歯と右 M1 が残っている、咬耗はわずかである、3 歳前後、時期：中世、【発掘所見】土壙墓

【FD40 遺構】成人・性別不明、保存状態は悪く、下肢骨片だけが残る、下肢骨は大腿骨片と思われる骨片が 2 点、左右不明、大きさから成人と思われる、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓
【FD41 遺構】熟年・女性、保存状態は比較的よい、頭蓋は顔面上半が欠ける、骨質は脆弱である、歯は上顎が全歯残り、下顎は 12 本が残る、咬耗はやや進んでいる、上肢骨では橈骨や尺骨の骨体片が残り、下肢骨では左右寛骨、大腿骨左右、左右の脛骨などが残る、寛骨の大坐骨切痕は広い、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓
【FD42 遺構】詳細不明、保存状態はきわめて悪く、小骨片が頭蓋骨片を含む 7 点残るだけである、頭蓋骨片を含む、【発掘所見】土壙墓
【FD43 遺構】4 歳前後の小児・性別不明、保存状態はきわめて悪く、遊離歯が残るだけである、歯は上顎が乳歯 3 本と M1，下顎が乳歯 1 本とI2，M1 が残る、咬耗はわずかである、永久歯の歯根の形成状態から判断して 4 歳前後、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD44 遺構】詳細不明、焼骨、保存状態は悪い、小骨片が少量残るだけである、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD45 遺構】成人・性別不明、焼骨、保存状態はきわめて悪い、四肢骨片が 5g 残るだけである、骨質の厚さから成人と推定される、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD46 遺構】詳細不明、焼骨、保存状態はきわめて悪い、四肢骨片が数点、小骨片が約 20g 残るだけである、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD50 遺構】熟年・性別不明、保存状態はきわめて悪い、頭蓋骨の一部と歯が残るのみ、右側頭骨片と左側頭骨片である、他に遊離歯がある、歯は上顎歯が 3 本と下顎歯が 1 本残る，咬耗は進んでおり，熟年と考えられる、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD51 遺構】成人・男性、焼骨、保存状態は悪い、眉弓付近、側頭骨錐体部が残る，眉弓はよく発達している、他に下顎体片がある、歯は下顎歯の左側 4 本が残るが歯根だけである、上肢骨では肩甲骨、左上腕骨遠位部と右上腕骨体遠位部、尺骨が残る、下肢骨では大腿骨の近遠位部、脛骨などが残る、他に指骨などがある、時期：中世、【発掘所見】火葬墓、元祐通寶 1、元符通寶 2
【FD53 遺構】熟年・性別不明、保存状態は悪い、頭蓋骨片、歯、四肢骨片があるだけである、頭蓋骨では右側頭骨片と下顎骨片がある、歯は上顎が 10 本、下顎が 8 本残る、咬耗はやや進んでいる、齲蝕がある、下肢骨では脛骨片がある、歯の咬耗度から熟年と推定した、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD55 遺構】熟年・男性、保存状態はきわめて悪い、頭蓋骨片と歯だけである、頭蓋では前頭骨、左側頭骨、後頭骨、顔面骨では上下顎骨がある、眉弓の発達はよい、矢状縫合の後半部の内板が癒合している、歯は上顎が 7 本、下顎が 9 本残る、咬耗はやや進んでいる、齲蝕がある、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓、釘 1、銭貨（銭名不明）1
【FD56 遺構】壮年・女性、保存状態はきわめて悪い、頭蓋骨片と上肢骨片が残る、頭蓋は頭頂骨の左右片がある、歯は上顎が 2 本残る，M3 が萌出している、咬耗は進んでいない，齲蝕がある、上肢は尺骨・橈骨片、指骨などがあり、下肢骨は大坐骨切痕部、右大腿骨近位部などが残る、大坐骨切痕は広く女性的、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD57 遺構】熟年・女性、保存状態は悪い、頭蓋骨片、上下肢骨片が残る、頭蓋は左右側頭骨片、下顎片がある、左側頭骨の乳様突起は発達していない、歯は上顎が 3 本、下顎が 1 本残る、咬耗はかなり進んでいる、上肢は上腕骨遠位部片、下肢骨は大腿骨近位骨体などが残る、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【FD58 遺構】壮年・性別不明、保存状態が悪い、骨の表面が剥離する、断片的ではあるがほぼ全身にわたって残る、頭蓋では頭蓋冠片、左右側頭骨の錐体部、下顎骨などがある、歯は上顎が 9 本、下顎が 3 本残る、咬耗はやや進んでいる、上肢では尺骨や橈骨片、指骨が残る，下肢では寛骨耳状面部、大腿骨体片、脛骨片などがある、咬耗から壮年と判断した、時期：中世、【発掘所見】銭貨 6（銭名不明）
【D1 土坑】詳細不明、保存状態はきわめて悪い、小骨片が数点残るだけである、時期：中世、【発掘所見】土壙墓
【D26 土坑】詳細不明、焼骨、焼けていない小骨片が混在する、小骨片は 10g ほど、1 個体分であろう、時期：中世、【発掘所見】集石土壙墓、五輪塔空風輪 1
【H29 土坑】詳細不明、焼骨、保存状態は悪い、小骨片が 3 点残るだけである、下肢骨の大腿骨頭と思われる骨片である、時期：弥生後期

NHN IV 地区
【FD2 遺構】4 歳前後の小児・性別不明が 2 個体分、保存状態は悪い、頭蓋と四肢骨片である、頭蓋は左右側橈骨の錐体片、後頭骨片、上顎骨片と下顎骨の左半分が残る、歯は第 1 の個体では上顎の乳歯が 3 本と未萌出の M1 が 1 本、乳歯の咬耗はやや進んでいる、第 2 の個体では未萌出の上顎永久歯が 2 本と下顎歯が 1 本である、咬耗していない、下肢骨では左右の大腿骨片がある、第 1 の個体は萌出状態から, 第 2 の個体は歯根の形成状態から共に 4 歳前後と考えられる、時期:中世、【発掘所見】土壙墓

25	東久保遺跡(ひがしくぼ)	中世	植木真吾他 2004	佐久市

保存状態は非常に悪くほとんど分からない状態、骨は竹内修二鑑定

【OT1 人骨(集石墓)】壮年以上・性別不明、頭蓋骨片である、縫合部があり内板はほとんど癒合している、その状態から壮年以上と考える、【発掘所見】集石墓、土坑の上部に集石、土坑の中央から人骨出土、集石内から鉄釘、土坑内から鉄釘、火打金、銭貨 4(元豊通寶 2、皇宋通寶、不明 1)出土
【OT2 人骨(古墳石室内)】詳細不明、骨片かどうかわからない小さなもの、【発掘所見】塚、古墳時代ではなく中近世のものと考えられるが、主体部が壊されており詳細不明

26	聖原遺跡(ひじりはら)	中世	ﾊﾟﾘﾉ・ｻｰﾍﾞｲ 2005	佐久市

1 個体分、

【IA 区 D24 号土坑】成人(老齢ではない)・性別不明、細片化しており保存状態はよくない、頭蓋骨では上顎骨、後頭骨、蝶形骨、側頭骨、下顎骨片などがあり、他に遊離歯がある、四肢骨では左大腿骨の骨体が確認される程度、歯は上顎歯が 10 本、下顎歯が 5 本と一括で採取された歯 3 本がある、M3 萌出、小臼歯や大臼歯に顕著な咬耗がない、老年(60 歳以上)にはなっていない、【発掘所見】土坑墓、詳細時期不明

27	深堀遺跡(ふかぼり)	平安・中世・近世	多賀谷 昭 2002	佐久市

5 体

【D14 土坑人骨】成人・性別不明、長骨の骨体の破片が 5 点出土、大腿骨らしいが確実ではない、大きさから見て成人かそれに近い、時期:中世以前か、【発掘所見】土坑墓、出土遺物なく、詳細時期不明
【D46 号土坑人骨】3 歳程度・性別不明、頭蓋では上顎骨、下顎骨体前方、左右の側頭骨錐体が残り、乳歯が上顎右 di2 以外の 19 本が残る、M1 の歯冠はほぼ完成している、四肢骨では大腿骨と脛骨体の一部が残る、萌出状態から 3 歳程度と推測される、時期:平安以降か、【発掘所見】土坑墓、共伴遺物なし、詳細時期不明
【D47 号土坑人骨】1～1.5 歳・性別不明、頭蓋では下顎骨、後頭骨、左右の側頭骨錐体などが残る、歯は乳歯が上顎で 9 本、下顎で 5 本が残る、M1 の歯冠は半分ほどが完成している、1～1.5 歳と推測される、時期:平安以降か、【発掘所見】土坑墓、共伴遺物なし、詳細時期不明
【D52 号土坑人骨】成人(40～50 歳代)・男性、保存状態はよくほぼ全身にわたる骨が残る、顔面を含めてほぼ完全に残る、歯は上顎が 5 本、下顎が 9 本が植立して残っている、上肢では鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残る、下肢骨では大腿骨や脛骨などが残る、大坐骨切痕は狭く、恥骨下角も狭く男性的、歯槽の吸収がある、第 1 腰椎は前方部が圧迫骨折して楔状椎になっている、下肢骨からノ推定身長は約 154 ㎝、計測値から判断して縄文人とはかなり異なり、中世以降の日本人に近い顔面形態である、時期:江戸以降か、【発掘所見】土坑墓、共伴遺物なし、詳細時期不明
【D67 号土坑人骨】30 歳代・男性、1 体分だが、骨質はもろく破片が多い、頭蓋では側頭骨の錐体部、後頭骨、下顎骨などが残る、歯は上顎の 6 本、下顎の 10 本が残る、M2 の咬耗は咬頭頂付近が象牙質が露出している程度、30 歳代、齲蝕がある、これ以外に他個体の上右 M1 がある、上肢骨では右上腕骨の遠位 1/3、下肢骨では大腿骨片、脛骨片などがある、大腿骨は太いが柱状性は低い、大坐骨切痕は狭く、乳様突起も大きい、時期:古代、【発掘所見】土坑墓、黒色土器坏 1 共伴、平安時代か

28	藤塚古墳群(ふじづか)	古墳※	森本岩太郎 1994	佐久市

8 号墳に複数のイヌがあった、※時期 7C 末

【7 号墳主体部】熟年男性と老年女性、保存が不良で骨片が散乱している、複数個体でいずれも成人、個体識別は困難、老年期の女性の頭蓋骨片がある、頭蓋冠の骨は薄い、これと別に頭蓋骨片がもう一つある、前者と重複する部位がある、頭蓋冠の骨質は厚い、熟年期男性のものだろう、【発掘所見】直刀 2、金環 2、刀子 1、鉄鏃 9 出土

【8 号墳主体部】熟年 1 体、壮年 2 体、そのうち 1 体は男性 1 体は女性で残る 1 体は性別不明、保存の悪い成人の骨片が散乱している、頭蓋骨の小片が 3 点、か学区骨片もある、歯は 3 個体分と思われる遊離歯 9 本が残る、A 個体;上右 C で咬耗が進み熟年期と推測される、B 個体;上右 P1、M1 の 2 本と下左 M1、M2、M3 で咬耗は進んでいない、壮年期、C 個体;下左 M1、M2、M3 で M3 は萌出途中、M1 は齲蝕、壮年期前半の性別不明個体である、四肢骨の残りは悪い、上肢では細い中節骨(女性)が 1 点ある、大腿骨片は長短合わせて 11 点、脛骨体片は 2 点、足根骨も残り男性と思われる立方骨がある、個体識別は困難、【発掘所見】金環 8、刀子 2、鉄鏃 6、角釘 1 鉈尾 1、切子玉 4(水晶 3、黒曜石 1)、丸玉 5(ヒスイ 2、チャート 3)、須恵器蓋 1

28	藤塚古墳群(ふじづか)	古墳・平安	宮崎重雄 1994	佐久市

部分的にしか出土していない

【第 2 号特殊遺構】成人・男性、左大腿骨、左寛骨、仙骨、肋骨の 4 片である、大坐骨切痕は狭く男性的、大腿骨の骨端は癒合しているので成人、屈葬と思われる、大腿骨の粗線の発達はよい、【発掘所見】円墳を切る、集石から人骨や寛永通寶も出土、時期:平安とされるが、近世の可能性もあろう

【8 号墳主体部礫床下】熟年・男性、2 本の歯が出土した、上右切歯はシャベル型で切縁に象牙質の露出がある、下右犬歯は象牙質の露出がある、熟年男性か、

29	蛇塚古墳群(へびつか)	古墳・中世	平田和明他 2000	佐久市

少なくとも 6 体が出土(♂1、♀5)、【発掘所見】外護列石を持つ横穴式円墳

【1 号墳人骨(古墳)】壮年・性別不明、遊離歯が 3 本残る、下右M1、M2 と下左M1, 齲蝕がある、咬耗は軽度、【発掘所見】土師器、須恵器、ガラス小玉・切子玉、鍔、馬具、鉄鏃出土、時期:6C 後葉～7C 初

【3 号古墳(古墳)】壮年・男性と壮年の性別不明人骨が 2 体の合計 3 体、遊離歯と四肢骨片が残る、上顎歯が 6 本、下顎歯が 10 本あり、下右M2 が 3 本ある、この 3 本の咬耗度は同じ程度で軽度なので 3 体とも壮年期と考える、四肢骨は左尺骨などであり、この尺骨は太く頑丈であるので男性 1 体は含まれていた、【発掘所見】土師器、須恵器、鉄製品、装身具多数、9 世紀後半の遺物も見られ、古墳築造期以降の混入(追葬)の可能性もある

【D1 号土坑(中世)】成人・性別不明、生骨である、前頭骨片、頭蓋冠片跳ぶ位不明の四肢骨片など数点である、前頭骨の大きさから成人と考えられる、【発掘所見】火葬墓、共伴遺物はないが、同様な火葬墓 D2 が中世と考えられる

【D2 号土坑(中世)】壮年・男性、保存状態が悪い、焼骨ではないだろう、頭蓋と下肢骨が残る、頭蓋は土圧で扁平化している、顔面や脳頭蓋は欠損、乳様突起部などが残る、歯は下顎歯が下顎に植立するが、上顎骨はなく上顎は遊離歯である。上顎歯は 11 本、下顎歯は全ての 16 本が残る、歯は大きい、咬耗はやや進んでおり壮年期と推定される、齲蝕はない、四肢骨では左右の大腿骨体部が残る、焼けていない、【発掘所見】火葬墓、銭貨 5(永楽通寶、政和通寶、元祐通寶、祥符通寶、嘉祐通寶各 1)、時期:中世後期

30	前田遺跡(まえだ)	室町	森本岩太郎 1989b	佐久市

6 体が出土(焼骨 3 体、生骨 3 体)

【OT1 号墓壙】熟年・男性、焼骨が 1 体分、ほぼ全身の各部の骨を含む、総重量は約 900g、頭蓋骨は前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨の一部、左半分と右の前半部がある下顎骨である、下顎左では I2～P1 までの歯槽はあるがそれ以外は閉鎖している、矢状縫合の内板は癒合している、上肢は上腕骨や肩甲骨片、鎖骨片、前腕の骨などが残る、上腕骨は比較的太い、下肢では寛骨の大坐骨切痕部、左右の大腿骨体中央部、膝蓋骨片、腓骨片などがある、大腿骨は太く骨質は厚い、粗線の発達はよい、【発掘所見】焼礫あり、火葬墓、銭貨 6(元豊通寶、大観通寶、元祐通寶、開元通寶、熙寧元寶、朝鮮通寶各 1)、時期:中世後期

【OT3 号墓壙】壮年・女性、生骨である、右側臥屈葬、頭蓋や歯・四肢骨の小片が残る、側頭骨錐体部が残る、小さい、上顎歯は 5 本、下顎歯は 7 本が残る、鋏状咬合、咬耗はさほど進んでいない、四肢骨では左右の上腕骨体辺が 3 点、他に大腿骨片などがある、【発掘所見】土葬墓、頭位は北、顔は右向の側臥屈葬

【OT4 号墓壙】壮年・女性、生骨である、右側臥屈葬、保存状態はよくない、頭蓋は前頭骨と頭頂骨が連結した骨片、左右の側頭骨錐体部などがある、頭蓋冠の骨は薄い、主要縫合は内板が癒合しているが外板は癒合していない、歯は上顎が 10 本、下顎が 10 本残る、鋏状咬合、咬耗はやや進んでいる、上顎中

切歯の磨耗が異常で、切縁は磨耗のため弓形に凹み中央がもっとも深い、対応する下顎切歯も異常摩耗を示す、上肢では上腕骨体などがあるが細い、下肢では大腿骨や脛骨片などがでている、大腿骨歯片ペイで柱状性を示す、切歯の異常摩耗はこの女性の仕事を示唆しているのだろう(糸繰りなど)、【発掘所見】土葬墓、頭位北、屈葬か、銭貨 9(元□通寶、洪武通寶、皇宋通寶、天禧通寶、開元通寶、元祐通寶、熙寧元寶、元豊通寶、景祐通寶各 1)、人骨頭部から鉄釘 35 と多くの木片が付着、木棺ではなく、木製の副葬品か

【OT7 号墓壙】成人・女性、生骨、頭蓋と下肢骨の一部が残るだけである、多分右側臥屈葬、保存状態は悪い、頭蓋は後頭骨と側頭骨片で、骨は薄い、下肢では脛骨骨体上部が残る、骨は細い、【発掘所見】土葬墓、頭位は北東、顔は右向きの側臥屈葬か、

【OT8 号墓壙】成人・女性、焼骨である、墓壙内から散乱した状態で出土、重量は約 200g、保存状態はよくない、頭蓋では後頭骨、そっくと緯骨片などがある、四肢骨では肩甲骨片や上腕骨片が残る、【発掘所見】火葬墓、銭貨 3(至道元寶、紹聖元寶、政和通寶各 1)

【OT9 号墓壙】熟年・女性、焼骨が 1 体分である、墓壙内で火葬されたもの、重量は約 400g、ほぼ全身の骨格が残る、下顎骨の正中部では下顎切歯全ての歯槽が閉鎖している、大臼歯は存在していた、歯は上顎歯 1 本、下顎歯 4 本の歯根が残る、上腕骨体の遠位 1/3 があるが細い、橈骨や尺骨も細い、下肢では、大腿骨片、腓骨片、脛骨片などが残る、長骨はいずれも細い、膝関節は高度の変形性関節症を示す(関節軟骨の磨耗と関節面縁の増殖)、【発掘所見】火葬施設を兼ねた火葬墓、焼土、炭化材が見られる

30	前田遺跡(まえだ)	室町	森本岩太郎 1989a	佐久市

(OT4 号墓壙出土人骨の)上下顎中切歯の異常摩耗を他の遺跡のものと一緒にまとめたもの、苧績み(麻を績む)による特殊磨耗と考えられるもの

31	前藤部遺跡(まえとうべ)	中世	平田和明他 1999c	佐久市

5 体が出土(♂3、♀1、不明 1)、いずれも成人

【D424 人骨】壮年・女性、保存状態は悪い、頭蓋、上肢骨、下肢骨が残る、左右側頭骨片、後頭骨片、頭蓋冠片、下顎骨が残る、歯は上顎が 12 本、下顎が 14 本残る、歯の咬耗度はやや進んでいる、壮年であろう、4 本に齲蝕がある、下顎骨はきゃしゃ、鎖骨も細い、大腿骨片などが残る、焼骨片が数点混在する、【発掘所見】土坑墓(火葬か)、須恵器、銭貨 7(大観通寶 4、聖宋元寶 2、皇宋通寶 1)

【D531 人骨】老年・男性、多くの部位が残るが保存はよくない、左頭頂骨は欠ける、主要3縫合は内板外板共に閉鎖している、眉弓が発達する、歯は上顎が 8 本、下顎は 16 本すべてが残る、咬耗は顕著である、齲蝕はない、上肢では上腕骨や橈骨尺骨の部分が残っている、下肢では大腿骨、脛骨、腓骨残った伊が残る、下肢は太くて頑丈で大腿骨の粗線は発達している、男性であろう、【発掘所見】略方形の土坑墓

【D597 人骨】熟年・男性、保存は悪いが頭蓋や四肢骨がある、左頭頂骨と側頭骨、前頭骨などが残る、縫合の内板は癒合している、上肢では鎖骨、橈骨、尺骨が残る、橈骨尺骨は比較的太い、下肢では左右大腿骨体が残り太くて頑丈である、男性であろう、歯は残っていない、【発掘所見】円形の土坑墓、石臼、砥石、刀子出土

【D598 人骨】成人・男性、保存は悪い、頭蓋では眉弓を含む前頭骨片、下顎骨片などである、大きさから成人と思われる、部位不明の四肢骨片は約 20g 残る、【発掘所見】内耳土器、牛馬骨も出土、時期:中世後期

【D695 人骨】【発掘所見】報告書本文(図版)に人骨出土の記載と出土状況図あり、四肢骨がのこっていたようである。

【D697 人骨】熟年・性別不明、保存は悪い、バインダーを用いている、下顎骨を伴った頭蓋の民が残る、前頭骨、頭頂骨、側頭骨などが残る、乳様突起は比較的発達している、歯は残りが良く上顎歯は 6 本、下顎歯は 14 本が残る、M3 は萌出、咬耗はやや進んでいる、熟年、齲蝕がある、【発掘所見】略長方形、

32	宮添遺跡(みやぞえ)	古墳～平安	多賀谷　昭 2001	佐久市

骨の保存は悪いが歯が一部残っている、

【第 2 号土壙】壮年・女性、下顎骨と長骨が残りいずれも小片でもろい、下顎骨、右大腿骨骨体中央やや近位より、脛骨骨体片、などである、屈葬、歯は 4 本が残る、下顎左 C から M1 と切歯の破片である、M1 遠心面に隣接面磨耗があるので M2 もあった、M1 の咬耗は咬頭がなくなるほどに磨耗しており唇側遠心

咬頭部に象牙質の露出がある、30 歳代、大腿骨に柱状性は見られない、大腿骨は細く女性であろう、【発掘所見】第 2 号土坑、略円形、少量の土師器、須恵器出土、詳細時期不明				
33	森平遺跡（もりだいら）	中世か	梶ヶ山他※2009	佐久市
※パレオラボ社所属				
【D5 号土坑】成人・男性、屈葬、保存状態は非常に悪い、クリーニングは出来ない、頭部と腹部に大きな石が置かれている、頭部は侵食で失われている、大腿骨は太く、粗線は明瞭である、男性の可能性が高い、成人ではある、【発掘所見】略長方形土坑墓、土葬か、弥生土器・土師器出土だが、詳細時期不明				
34	矢嶋城跡（やじまじょう）	江戸	西沢寿晃 1985c	佐久市
四肢骨のみが出土、上腕骨 1 本、大腿骨 3 本で 2 個体分				
2 体が出土しているが詳細は不明、上腕骨は骨体の遠位端のみ、きゃしゃ、大腿骨は 3 本が残り、大腿骨 1：右骨体、太く頑丈、粗線の発達は中等度、大腿骨2；左骨体中央夫、大腿骨 1 と同一個体、粗線がやや強く発達する、大腿骨3；右骨体部分、粗線の発達は弱い、大腿骨1と2とは別個体、2 個体が並列で埋葬されてこれらだけが残ったと考えられる、【発掘所見】堀から空風輪とともに人骨が出土、堀廃絶後近世に埋められたものと報告されている				
35	寄山古墳（よりやま）	古墳※	森本岩太郎 1995	佐久市
【発掘所見】外護列石、横穴式石室を持つ円墳、古墳築造時期：7C 代か、須恵器、鉄鏃や玉類のほか、9C 代の黒色土器も出土、追葬の可能性もある				
【玄室】3 体で、成人男性、成人の性別不明、6～8 歳の小児、3 個体分の歯が残る、遊離歯、成人男性と思われる下顎左のP2、M1、M2 で咬耗は進んでいないので壮年と推測される，性別不明の成人の歯は上顎右のM1 のみ、齲蝕がある、咬耗は前者よりやや進んでいる、小児の歯は下顎右M1 と左P2 である、M1 はわずかに咬耗しているので 6～8 歳程度と推測される、 【羨道部】多くの人骨片がある、重複しているのは側頭骨錐体片と後頭鱗辺のそれぞれ 4 点、最少個体は 4 【1 号頭蓋】壮年前半・女性、比較邸保存はよい、頭蓋冠と、顔面の左半分が残る、下顎骨はない、主要三縫合は癒合していない、壮年前半、乳様突起は小さく、外後頭隆起も小さい、頭蓋冠の骨は薄い、女性であろう、長幅示数は長頭型、長高示数は中頭型、幅高示数は狭頭型、上顎歯 1 本（M1）が残る、咬耗は年齢の割に進んでいる、 【2 号頭蓋】壮年前半・女性、頭蓋冠が残る、顔面はほとんどない、上顎骨の歯槽部の一部が残る、下顎骨はない、1 号棟階と同じ女性の特徴を持つ、長幅示数は中頭型である、歯は上顎骨だけが残り 6 本がある、年齢の割に咬耗が進んでいる（ブロカの 1～2 度）、 【3 号頭蓋】壮年後半・男性、頭蓋冠の前部と顔面を欠く、下顎骨はない、乳様突起は大きいが外後頭隆起は発達していない、主要縫合は内板の癒合が部分的にはじまっている、壮年期後半、幅高示数 96.5 で中頭型、歯槽性突顎、弱い口蓋隆起がある、歯は上顎歯が 4 本残る、M3 萌出、咬耗は軽度である、 【4 号頭蓋】壮年・性別不明、後頭鱗の一部、左側頭骨錐体などがある、ラムダ縫合は内板外板共に癒合していない、この放火に所属不明の下顎骨小片がある、 【四肢骨】性別年齢不明、個体識別は出来ない、成人の上下肢骨型数ある、左の大腿骨が 2 個体分あるが、頭蓋の数に及ばない、上肢骨では肩甲骨片、上腕骨たいへん、尺骨片がある、下肢骨では大腿骨たいへんが左 2 本、右 1 本がある、柱状性はいずれも弱い、他に脛骨片が 1 点ある				

南牧村

№	遺跡名（よみ）	年代	報告者・年	保管
1・	志なの入り遺跡（しなのいり）	縄文前期か※	鈴木　誠他 1975	
保存状態はよい、貴重な縄文資料、【発掘所見】洞穴遺跡、時期：縄文早期末～前期末の遺物出土				
【第 1 号人骨】熟年・女性、破損消失が著しい、頭蓋では後頭骨の一部、左右側橈骨乳様突起部、左右後頭顆、上顎骨左半歯槽部であり他は細片、乳様突起は小さい、骨質も薄い、左上顎骨歯槽ではC，P1 の歯槽は閉鎖している、下顎骨は残りがよく右下顎枝先端以外は完形、全体的に小型だが頑丈、下顎底は直線的、下顎枝幅が大きい、下顎切痕は浅い、歯は上顎が 4 本、下顎が 12 本残る、抜歯についての記述はない、齲蝕がある、咬耗は顕著で、上左M1、下左右M2 は鞍状の咬合面、小臼歯は舌側から頬側へ傾いた咬耗、腰椎の全縁に骨増殖がある、鎖骨は左右とも完形、細い、左上腕は完形で全体にきゃしゃ				

だが三角筋粗面は発達する、大坐骨切痕はやや広い、大腿骨は左近位 1/3 のみ、脛骨の扁平度は中等度、推定身長は 144 ㎝、 【第 2 号人骨】詳細不明、残りは悪く、椎体の一部、左橈骨と尺骨片、腓骨片などだけである、椎骨と他の四肢骨の同一性は不明、他に大臼歯 1 本が残る、

北相木村

1	栃原岩陰遺跡(とちばらいわかげ)	縄文早期※	鈴木誠 1966a	国立科博
人類学会例会発表の要旨、※時期:縄文時代早期土器や石器が共伴している				
成人 5 体、新生児 3 体など、成人 5 体が出土し、保存状態はよい、ほぼ完形の凍害もある、屈葬、抱石屈葬のものもある、人骨の一群から少し離れた場所から新生児の骨格 3 体、成人四肢骨や頭骨片も出土している、縄文人的顔貌、咬耗は顕著、四肢骨はきゃしゃ、ピアソンの推定式による推定身長は KA1 が 161.8-162.8 ㎝、KA2 が 165.5 ㎝、KA4 が 150.4 ㎝、KA8 が 145.4-147.2 ㎝				
1	栃原岩陰遺跡(とちばらいわかげ)	縄文早期	鈴木誠 1968	国立科博
成人 4 体(♂2、♀2)				
きゃしゃな縄文早期人、歯の咬耗が顕著、四肢骨はきゃしゃ、などの概要を記載してある				
1	栃原岩陰遺跡(とちばらいわかげ)	縄文早期	香原志勢他 1971	国立科博
KA11(3 歳半)と KA12(5 歳半)の小児人骨の死因(巨大が岩の崩落による圧死)についての考察と諸形質についての記載、 【KA11】3 歳半、乳歯列で、永久歯のM1 は歯冠のみ 【KA12】5 歳半、乳歯列で、永久歯のM1、M2 は歯冠のみ、他にI1、I2, C, P1P2 などの未萌出の永久歯がある、				
1	栃原岩陰遺跡(とちばらいわかげ)	縄文早期	西沢寿晃 1978	国立科博
整理された後の概要で、出土状況について詳しい				
【KA1】成人・男性、地表下 155 ㎝、全身骨格、側臥屈葬、指骨もほとんどが残る、胸郭上に平石がある、顔面骨を残す唯一の個体、きゃしゃな顔貌、咬耗は顕著 【KA2】熟年・男性、地表下 201 ㎝、側臥屈葬、ほぼ全身骨格がある、顔面を欠く、小作り、咬耗は顕著、頑丈、熟年男性 【KA3】新生児(出生時期のやや前)・性別不明、新生児骨、四散しているが骨の保存はよい、地点の記録のみ、歯では胎齢 7 ヶ月半～出産時、脛骨骨幹では胎齢 38 週程度 【KA4】成人・女性、地表下 173 ㎝、側臥屈葬、全身の骨格が残る、頭蓋はきゃしゃな骨である、上左右切歯・犬歯は特殊な磨耗をして鋭利な切縁をつくっている、下顎切歯は全て脱落志歯槽は閉鎖している、下顎左M1 は近遠心方向への鞍状磨耗、咬耗は顕著、下顎右 P2 は 90 度捻転する、 【KA5】新生児(出産前後)・性別不明、保存はよい、新生児骨、四散しているが骨の保存はよい、地点の記録のみ、大腿骨骨幹などの長さでは胎齢 40 週程度、 【KA6】詳細不明、地表下 158 ㎝、屈葬、頭蓋はない、腰部を中心に下肢骨上腕骨の一部が残る、大腿骨の粗線は発達する、 【KA7】成人・女性、脳頭蓋の縫合は完全に離開している、骨は厚い、上右 M2、M3 と左 M2 の歯槽は残るが他は全て閉鎖している、M3 の咬耗は顕著で水平化、四肢骨では脛骨骨体片がある、 【KA8】成人・女性、地表下 211 ㎝、頭蓋骨はない、四肢骨では各長骨、肋骨、骨盤の一部などが残る、上半身は崩落して失われたと考えられる、 【KA9】熟年・男性、頭蓋骨のみ、1 号人骨より古時代のもの、顔面を欠く、下顎骨は原形を保つ、やや小型だが頑丈、頭蓋の縫合は矢状縫合で癒合がはじまっている、上顎左臼歯部と下顎骨体が残る、上顎臼歯は咬耗が顕著、下顎前歯の一部で歯槽閉鎖、下右 P2、M1 で頬側に傾き歯髄に達する咬耗がある、短頭に近い 【KA10】成人・女性、別の V 区から出土した人骨である、埋葬位は不明、下顎は完形、小さいが頑丈、左 P1、P2、M3 は生前脱落、歯頚線に達するほどの咬耗を示すものがある、下肢骨は欠ける、上肢骨はきゃしゃ 【KA11、KA12】3 歳半・性別不明と 5 歳半・性別不明、小児骨で、香原他(1968)により落石で死亡したとされた個体、四肢骨の保存はよい、11 号が 3 歳半、12 号が 5 歳半と考えられている、共に乳歯列である、				

1	栃原岩陰遺跡(とちばらいわかげ)	縄文早期	米田　穣他 2002	国立科博
年代測定と安定同位体比による植生の研究				
【KA1♂、KA2♂、KA4♀、KA7♀、KA8♀、KA10♀】　栃原岩陰遺跡人骨の成人 6 体についての調査、8260±100～8580±100BP の間に埋葬されたもので以前に考えられていたよりも短い期間に埋葬されていることがわかった、安定同位体比ではタンパク質はほぼ C3 植物由来の生態系に依存していた、				
1	栃原岩陰遺跡(とちばらいわかげ)	縄文早期	香原志勢他 2011	国立科博
12 体の人骨(♂4、♀4、性別不明の幼児4)が出土、詳細な形態の記述、栃原人骨についてのもっとも基礎的なもの				
【KA1】壮年・男性、保存は非常によい、ほぼ全身が出土している、側臥屈葬、頭蓋に縫合骨が多い、側頭線は明瞭、上面観がやや非対称、外後頭隆起はきわめて弱い、乳様突起はよく発達し厚い、変形性顎関節症、鼻根部の陥凹は浅いが鼻骨は隆起する、下顎骨は小さい,下顎枝は広い、歯では上左 M1～M3 が生前脱落、鞍状磨耗、大臼歯の磨耗が異常、咬耗はやや進んでいる、鎖骨は細い,穣散骨は細いが三角筋粗面はよく発達する、寛骨の大坐骨切痕は鋭角で男性的、大腿骨はやや細い、粗線はよく発達し付け柱状、蹲踞面がある、大腿骨と脛骨とからの推定身長は約 162 ㎝ 【KA2】熟年・男性、保存は非常によい、ほぼ全身が出土している、側臥屈葬、顔面の下半部は欠ける、頭蓋冠の骨は薄い、側頭線は明瞭、外後頭隆起は目立たない、乳様突起は比較的大きい、鼻根部の陥凹は強くない、下顎骨は小さい、下顎枝は低く幅広、歯は上顎 M はない、前歯部の咬耗は顕著だが,臼歯部の咬耗はごく軽度、エナメル質減形成あり、上腕骨の稜や粗面は発達する、大坐骨切痕は男性的、大腿骨は長さに比して細い、殿筋隆起が張り出し上部は扁平、アレン頚窩がある、蹲踞面がある、大腿骨と脛骨からの推定身長は約 163 ㎝、 【KA3】新生児・性別不明、保存はよい、ほぼ全身が出土している、歯の形成段階ではおよそ胎齢 7 ヶ月半～出産時、上腕骨などの骨幹の長さでは胎齢 38 週程度,本来の出産時よりやや前の死産児の可能性がある 【KA4】壮年～熟年・女性、頭蓋骨は不完全で顔面部が一部欠ける、特殊な歯の摩耗を示す、頭蓋は長頭、縫合の癒合はやや進む、頭蓋冠の骨に多孔性の変性がある、側頭線は明瞭、乳様突起は小さい、眉弓の発達は弱い、眉間は縄文人としては例外的に平坦、下顎は比較的大きい、浅い角前切痕がある、下顎枝は幅が広く,筋突起は前方に張り出す、顎関節症、歯では歯槽骨が残る部分で上 4 本、下 7 本が生前脱落、切歯部に特殊な磨耗がある、鎖骨は細い、上腕骨はやや太い、三角筋粗面は発達する、寛骨の大坐骨切痕は直角に近く耳状面は高い,妊娠痕がある、大腿骨は粗線が発達し付け柱状、脛骨にハリスの線が見られる、樋状腓骨、大腿骨と脛骨からの推定身長は約 157cm、 【KA5】新生児(胎齢 40 週相当)、性別不明、保存はよい、ほぼ全身が出土している、四肢の一部を欠く、大腿骨骨幹の長さなどから胎齢 40 週程度と考えられる、 【KA6】成人・女性、頭蓋骨はない、下肢骨のわずかと数点の手根骨指骨が残るだけである、側臥屈葬、寛骨の大坐骨切痕は直角に近い、軽度の妊娠痕がある、大腿骨はやや細め、後面の粗線はよく発達し付け柱状、脛骨は細い、腓骨も細い、 【KA7】成人(壮年か)・女性、保存はよい、頭蓋骨は不完全だが全身の多くの部分が出土している、側臥屈葬、比較的若いが生前脱落の歯が多い、頭蓋は早期人としては最も大きい部類、過長頭、乳様突起は小さい、外耳道骨腫様のものが見られる、外後頭隆起の発達は弱い,鼻根部の凹みは弱い,下顎骨は小さい、歯槽の吸収が顕著、下顎枝は広く低い、筋突起は前方に張り出す、歯は大部分が生前に脱落している、咬耗は顕著、齲蝕がある、鎖骨は短く細い、上腕骨は小さく細い、大腿骨はない、脛骨は幅が小さい、蹲踞面がある、膝蓋骨に広筋切痕がある、脛骨からの推定身長は約 156cm、 【KA8】壮年・男性、頭蓋では下顎骨だけが出土している、屈葬、下顎骨では下顎枝を欠く、おとがい隆起の外側に溝がある、歯では齲蝕がある、咬耗は進んでいる、正常な咬合ではない、上腕骨は細い、関節部は大きい、大坐骨切痕は直角に近いが耳状面は低い、大腿骨は細い、上部は扁平,粗線はあまり発達していない、膝蓋骨に広筋切痕がある、蹲踞面がある、大腿骨と脛骨からの推定身長は約 148cm、 【KA9】熟年・男性、頭蓋とわずかな四肢骨のみが出土、顔面の多くを欠く、頭蓋は小さい、頭蓋冠の骨は薄い、外後頭隆起は発達しない、乳様突起は大きい、下顎骨は小さいが頑丈、下顎隆起がある、歯は少ないので歯槽は退縮している、下顎枝は低い、歯は咬耗が顕著で歯頚部付近に達する、鞍状磨耗に似る、上左 P2,M1 と下左 M2 の根尖部に膿瘍がある、鎖骨と胸椎片が残るのみ,鎖骨は細い				

【KA10】成人(壮年～熟年)・女性、頭蓋では下顎骨のみ、上肢が中心の出土、下肢骨は膝蓋骨のみの出土、下顎骨は小さめだが頑丈、下顎底部は水平、下顎枝は広く低い、筋突起が前方に張り出す、歯は下左 P1,P2 と M1 が生前脱落、M3 は左右とも齲蝕で歯冠はない、咬耗やや進んでいる、鞍状磨耗、腰椎体に骨棘がある,高齢、鎖骨は細い、上腕骨は非常に細い、膝蓋骨に広筋切痕がある、
【KA11】幼児(3 歳半)・性別不明、保存はよい、ほぼ全身が出土している、胸骨などを欠く、落盤で死亡したとされる個体、
【KA12】幼児(5 歳半)・性別不明、保存はよい、ほぼ全身が出土している、長骨の長さから 5 歳半程度、落盤で死亡したとされる個体、

佐久穂町

№	遺跡名(よみ)	年代	報告者・年	保管
1	小山寺窪遺跡(こやまてらくぼ)	中世	島田恵子 2002	佐久穂町

歯は木次英五鑑定、出土地点から 40～50 体が埋葬されたと推定している、

【T1 号特殊墓】大腿骨や脛骨は形はあったが取り上げ時に破損した、保存は悪いが頭蓋骨と歯が残る、老人 2 体、12 歳以下の子供が 1 体(歯科医師鑑定)、【発掘所見】略方形の土坑、釘、銭貨 6(開元通寶 2、皇宋通寶 1、至和元寶 1、元祐通寶 2、以上棺内と想定)、木片が出土、木棺墓か、その他銭貨 8(元豊通寶 3、元祐通寶 1、紹聖通寶 2、洪武通寶 1、永楽通寶 1)、板碑、五輪塔火輪、宝篋印塔笠が出土(以上、棺外と想定)、時期:中世後期(室町時代)
【五輪塔・宝篋印塔】詳細不明、子供も含まれる、焼骨、7 ㎝ほどの大腿骨片、頭蓋は小片になっている、小片の重量は 1.14 ㎏で、全体では 3.3 ㎏、やけ方は一様ではない、歯は歯根が 9 本確認できただけである、四肢骨片から判断して青年～壮年期と推測、上下顎が小さいものがあり 12 歳未満の子供も含まれていたと考えられる、
【Do1 土葬墓】50 歳以上の老人、性別不明　　歯が 28 本そろって出土した、四肢骨では大腿骨、脛骨、上腕骨があり、頭蓋もある、歯の摩耗はやや進んでおり 50 歳以上の老人と考えられる、
【Do2 土葬墓】老年・女性、頭蓋骨、大腿骨、脛骨、上腕骨などがあり、歯は 18 本残る、咬耗から考えて 50 歳以上の高齢者と考える、骨が弱いことと歯の細さから女性と推測する
【Do3 土葬墓】詳細不明、骨は少量出土しただけ、頭蓋や歯は残っていない、
【Do4 土葬墓】老年・性別不明、頭蓋は顔を下に向けて出土、四肢骨はない、歯は 5 本が残る、咬耗が顕著なので 50 歳以上の老人とされる、
【Do5 土葬墓】老年・性別不明、頭蓋骨や上腕骨らしいものが出土、隣接との間から大腿骨や歯がでているので、これは Do5 のものかもしれない、歯は 16 本出土した、咬耗が顕著なので 50 歳以上の老人であるとされた
【Do6 土葬墓】老年・男性、顔を伏せて出土した、上腕骨、大腿骨、膝蓋骨などもあり頑丈で太い、下顎骨はよく発達している、上顎歯が 13 本、下顎歯が 11本残る、咬耗状態から 50 歳代の老人と鑑定された、
【J11 グリッド】30 歳代・性別不明、板碑細片の蕎麦から骨と歯が出土した(生骨)、そこから 5.7m 離れた地点からも骨と歯がでている、歯から両者とも 30 歳代と鑑定された、
【西端近くの火輪近く】老年・性別不明、頭蓋骨がよく残り、体部の骨は細片化している、頭蓋の骨は薄い、病気を思わせる、上下顎骨には歯が植立している、50 歳以上の老人で、7 本のこる歯はよいはである、生骨だろう、【発掘所見】墓坑なし、時期:五輪塔火輪の年代から鎌倉時代末と推測

御代田町

№	遺跡名(よみ)	年代	報告者・年	保管
1	下原古墳群(しもはら)	古墳	西沢寿晃 1975	御代田町

3 体以上、個体識別はできない、【発掘所見】横穴式石室の円墳

【玄室内】若年期・小児期の人骨が 3 体以上・性別不明、保存状態は悪く、ほとんどが細片化し散乱、頭蓋は頭頂骨、前頭骨・後頭骨などが残る、側頭骨は左右の錐体部がある、同一個体かどうかは不明、上下顎骨はない、体幹・四肢骨では肩甲骨の関節窩、上腕骨片、大腿骨近位半片、遠位半片などが残る、大腿骨の粗線の発達はよい、それぞれが頑丈だが同一個体かどうかは不明、ほぼ全身の骨格部位がでている、歯は遊離歯が 2 つにまとまってでている、歯冠が主である、第一歯群は上顎歯 2 本下顎歯が 8 本残る、第2歯群は上顎歯が 2 本、下顎歯が 3 本残る、合計で 11 本である、歯群以外に 6 本があり乳臼歯が 1 本含まれる、

2	滝沢遺跡（たきざわ）	縄文※・近世	茂原信生 1997d	御代田町
もろいが形はよく残る、※時期：縄文中期後葉～晩期前葉				
【D-30 号土坑】詳細不明、細片化した骨がでているが詳細不明、【発掘所見】覆土Ⅱ層から人の歯が出土したとの記述があるが、詳細不明、滑石製ペンダントが共伴、時期：後期前葉（堀之内 1・2 式） 【D-60 号土坑】壮年・男性、1 体分、埋葬、伏臥屈葬、頭蓋を深く曲げこんでいる、下顎骨右底面と右下顎枝外側下部に鋭い刃物によると思われる傷が 5 本ほどある、頭蓋は顔面の保存が悪く復元できない、眉弓は発達している、乳様突起は大きいが厚みはない、外後頭隆起はやや発達している、短頭、高眼窩、縫合では内板は癒合が進んでいるが外板は矢状縫合の一部が消失する程度である、老齢ではないだろう、下顎は頑丈だが歯槽が退縮している、軽度の角前切痕がある、歯は上顎左右 M2、M3 は生前に消失、下顎の左右 M3 もない、下顎 M2 の遠心面には隣接面磨耗がないので M3 は未萌出だろう、上顎切歯はシャベル型ではない、齲蝕がある、下顎の左 P2～M2 の歯槽は吸収が顕著である、咬耗はやや進んでいる、30～40 歳代の壮年であろう、歯はやや大きい、上腕骨は頑丈だが三角筋粗面は発達していない、下肢骨では大腿骨は比較的頑丈、粗線はやや発達している、柱状性は低い、膝蓋骨には骨棘がある、距骨に蹲踞面がある、推定身長は下肢骨で 154.3 ㎝、【発掘所見】頭蓋骨正面にムシロ状の藁が付着、時期：江戸時代か 【D-62 号土坑】2～3 歳・性別不明、頭蓋骨の保存はよくない、幼児である、頭頂骨片、後頭骨片m下顎骨片が残っている、歯は 20 本残る、うち 12 本が乳歯、8 本が永久歯、永久歯は未萌出、2～3 歳である、上顎中切歯はシャベル型、他に大腿骨片と脛骨片がある、【発掘所見】D-60 号土坑付近に位置し、近世墓址（群）の一つと推定される				
3	前藤部遺跡（まえとうべ）	中世後期	宮崎重雄 1999	御代田町
【D152 土坑】4～5 歳程度、女性、頭蓋骨片、四肢骨片と歯が出土している、歯以外の保存はよくない、頭蓋骨は側頭骨錐体部などがある、上顎左中切歯は未萌出歯で歯槽骨内にある、出土した永久歯は全て咬耗していない、M1 の歯根は未形成、乳歯は歯根が完成していて咬耗がある、乳歯が 7 本、永臼歯枝冠が 5 本残っている、永久歯は小さい、4～5 歳程度、上 dp2 に齲蝕、【発掘所見】略楕円形の土坑墓、木棺墓か、出土状況図をみると頭蓋骨は土坑のほぼ中央にあったようである、銭貨 3（皇宋通寶、洪武通寶、永楽通寶各 1）の下に木質残存、時期：中世後期				

立科町

№	遺跡名（よみ）		年代	報告者・年	保管
1	大庭遺跡	おおにわ	縄文	佐藤　敏 1990	立科町
未整理の状態での報告である					
【J1 号住居址の上面】焼骨、人骨、甕かぶり葬付近から出土した骨片で 19 点ある、【発掘所見】竪穴住居跡、廃屋墓か、埋設された土器の周囲から骨片が出土、時期：縄文前期中葉（黒浜式期） 【J6 号住居址の祭壇】大小合わせて 160 点が出土した、獣骨の可能性が高い、【発掘所見】敷石（竪穴）住居跡、骨片が出土した敷石部分を「祭壇」と呼称、時期：縄文中期後葉（加曾利 EⅢ式期） 【D16 号土壙内】焼骨、人骨、52 点の骨片が出土した、【発掘所見】長楕円形の土坑中央の上面より大型深鉢の破片と骨片が出土、時期：縄文中期後葉（加曾利 EⅣ式期）				

表の説明

保管　歴史館：長野県立歴史館、※：県立歴史館で保管するが、その後、当該市町村へ移管予定のもの。

略号　県埋文：長野県埋蔵文化財センター、東大総博：東京大学総合研究博物館、
国立科博：国立科学博物館、C：century（世紀）

出典一覧

青木和明・寺島孝典 1992「各節　弥生時代Ⅴ期・古墳時代」『篠ノ井遺跡群(4)聖川堤防地点』、長野市埋蔵文化財センター、pp.67-92

赤澤　威・米田　穣・吉田邦夫 1993「北村縄文人骨の同位体食性分析」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 11　－明科町内－』(北村遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp. 445-468

阿部修二・茂原信生 1994「鶴萩七尋岩陰遺跡出土の人骨および動物骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 13－更埴市内・長野市内その 1－』(鶴萩七尋岩陰遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.274-285

飯島公子 2016「塩崎遺跡群」『長野県埋蔵文化財センター年報 32　2015』、pp.6-9

飯塚政美(人骨:西沢寿晃教示) 1987「8 号墳丘」『殿島団地造成事業殿島城跡・宮場間様十三塚遺跡緊急発掘調査報告』(宮場間様十三塚遺跡)、伊那市教育委員会内殿島城跡遺跡発掘調査団、pp.1-17、図版 8-9

石川日出志 2002「弥生時代再葬墓の祖型を考えるために—長野県保地遺跡の縄文再葬墓」『第 2 回関東弥生研究会資料、』関東弥生研究会、pp.23-32

市村勝巳(人骨:西沢寿晃教示) 1990「古代、中世の遺構(墓址)」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 7－松本市内その4－』(南栗遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.157-160, pp.180-182

岩崎卓也 1988a「古墳時代の信仰と葬制」『長野県史考古資料編遺構・遺物』、長野県史刊行会、pp.884-962

岩崎卓也　1988b「城の内遺跡・灰塚遺跡・生仁遺跡・馬口遺跡」『長野県史考古資料編第 2 冊 (主要遺跡 北・東信)』、長野県史刊行会、pp.429-449

植木真吾・千葉博俊・金井慎司 2004「集石墓(OT1)、東久保北古墳(OT2)出土人骨について」『後家山遺跡. 東久保遺跡. 宮田遺跡 I・III』、佐久市教育委員会、pp.381-382

上田典男(人骨:西沢寿晃教示) 1989a「中世の遺構(墓址)」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 10－松本市内その7－』(北中遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp. 14-22

上田典男(人骨:西沢寿晃教示) 1989b「中世の遺構(墓址)」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 10－松本市内その7－』(北方遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.62-73

上田　真(骨:茂原信生、本郷一美、櫻井秀雄鑑定) 2014「出土骨に関する分析」『中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3－佐久市内3－』(周防畑遺跡群)、長野県埋蔵文化財センター、pp.275-278

臼居直之(人歯:茂原信生鑑定) 1999「(土坑)SK59」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 11－長野市内その9－』(春山・春山 B 遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、p.194

大沢　哲　1991「弥生時代の遺構と遺物　墓壙」『ほうろく屋敷遺跡』、pp.124-159

大塚初重・小林三郎・下平秀夫(人骨:鈴木尚鑑定)1968『信濃・長原古墳群－積石塚の調査－　長野市若穂長原古墳群緊急発掘調査報告』、長野市教育委員会、p.78、図版 36

大附勝敏　1950「長野県海善寺古墳出土人骨の歯牙」『人類学輯報』4、廣島医科大學解剖學教室、9-14

小沢素子・梶ヶ山真里・馬場悠男 2005 「松代城下町出土の人骨について」『松代城下町跡－中木町・西木町・紺屋町』、長野市教育委員会、pp.246-249

小野紀男 1998「土坑」『湯ノ崎遺跡・一本松古墳、稲荷山公園建設に伴う発掘調査報告書』、更埴市教育委員会、pp.19-22

梶ヶ山真理・孔　智賢（株パレオラボ） 2009「森平遺跡出土の人骨鑑定」『森平遺跡　北近津遺跡Ⅱ　西一里塚遺跡Ⅲ　大豆田遺跡Ⅲ』、佐久市教育委員会、pp.81-82

春日和彦 1995「日向林 B 遺跡出土人骨について」『貫ノ木遺跡・日向林 B 遺跡（個人住宅地点）発掘調査報告書－旧石器時代、縄文時代早期・前期の遺跡』、信濃町教育委員会、pp.61-63、図版 12

金井正三 1978「まとめ」『行人塚古墳』、須坂市教育委員会、pp.8-9,図版2

金子浩昌 1974「縄文時代後期の住居址から検出された貝片・鳥・獣類遺体・骨角器の分類・同定（第 2 報）」『石神遺跡』小諸市教育委員会、pp.348-356

金子浩昌 1994「竹花遺跡・大塚原遺跡出土動物遺体の種類」『東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡緊急発掘調査報告書』、小諸市教育委員会、pp.609-612

金子浩昌 2000「出土人骨に対する観察」『鳥羽山洞窟の調査---古墳時代葬所の素描と研究』、関孝一・永峯光一編、信毎書籍出版センター、pp.53-55

神沢昌二郎 1983「針塚遺跡」『長野県史考古資料編主要遺跡(中信)』、pp.184-189

神原庄一郎 1953「長丘村山の神古墳出土の歯牙に就いて」『下高井』、長野県教育委員会、pp.57-59

川崎　保（人骨：茂原信生所見） 1999a「SK177 出土人骨 B-7、B-8」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 20－東部町内－』（真行寺遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.149

川崎　保（人骨：茂原信生所見） 1999b「SK198 出土人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 20－東部町内－』（桜畑遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.225

桐原　健 1988「奈良・平安時代の信仰と葬制」『長野県史考古資料編遺構・遺物』、長野県史刊行会、pp. 963-1004

金原　正（人骨：西沢寿晃鑑定） 1989「墓」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 3－塩尻市内その2－』（吉田川西遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.89-91

香原志勢・中村登流・西沢寿晃 1967「土葬・火葬墓出土人骨」『安源寺　中野市安源寺遺跡緊急発掘調査報告』、中野市教育委員会、 pp. 97-98

香原志勢・茂原信生・西澤寿晃・藤田敬・大谷江里・馬場悠男 2011「栃原岩陰遺跡（長野県南佐久郡北相木村）出土の縄文時代早期人骨－縄文時代早期人骨の再検討－」『人類学雑誌』119-2、日本人類学会、pp.91-124

香原志勢・中村登流他 1971「災害死と推定される早期縄文時代小児人骨---長野県南佐久郡北相木村栃原遺跡」『人類学雑誌』79、日本人類学会、pp.55-60

小林幹男 1973「人骨」『他田塚古墳発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.24-25

小原晃一 1980「人骨」『日向坂・赤須城・七免川 A・七免川 B 遺跡、県営ほ場整備事業大田切(3)地区埋蔵文化財緊急発掘調査報告書(昭和 54 年度分)』、駒ケ根市教育委員会、pp.84-88

小山岳夫・白倉盛男・小林眞寿・翠川泰弘 1991『金井城跡(第三分冊　遺物・考察・写真図版編)』、佐久市教育委員会、図版 PL.378b

近藤尚義 2017「塩崎遺跡群」『長野県埋蔵文化財センター年報 33　2016』、pp.24

櫻井秀雄（骨：茂原信生鑑定） 2012「（木棺墓 SM07）出土歯の鑑定報告」『西一里塚遺跡群』、長野県埋蔵文化財センター、pp.90-92

佐藤　敏 1990「大庭遺跡出土の骨片について」『大庭遺跡』、大庭遺跡発掘調査団・立科町教育委員会、pp.193-195、図版

佐藤信之 1988「遺構と遺物」『大境遺跡　中部電力株式会社送電用鉄塔建設に伴う発掘調査報告書』、更埴市教育委員会、p.4

佐藤信之 1994「中世」『大境遺跡Ⅳ・Ⅴ　中部電力雨宮変電所・鉄塔建設に伴う発掘調査報告書』、更埴市教育委員会、pp.43-46

佐藤信之 1995「中世以降（墓）」『大境遺跡Ⅵ　オリオン機械(株)倉庫建設に伴う発掘調査報告書』、更埴市教育委員会、pp.27-29

塩入秀敏 1976「人骨」『塚穴原第 1 号古墳発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.39-40、図版 7

塩入秀敏・助川朋広・齋藤達也ほか 2002『『金井東遺跡群―保地遺跡Ⅱ』、坂城町教育委員会、106p.図版 16

茂原信生 1993a「人骨の形質」『北村遺跡』、長野県埋蔵文化財センター、pp.259-402

茂原信生 1993b「野口遺跡出土の骨片」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 12－東筑摩郡坂北村・麻績村内－』（野口遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.230

茂原信生 1993c「向六工遺跡出土の中世火葬骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 12－東筑摩郡坂北村・麻績村内－』（向六工遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.226-227

茂原信生 1994「Human skeletal Remains of the middle to late Jomon Period from inland Kitamura Site, Nagano Prefecture.」『Anthropological Science』102-4、The Anthropological Society of Nippon（日本人類学会）、pp.321-344

茂原信生 1997a「石川条里遺跡水田域（弥生時代後期～近世）出土の人骨と獣骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 15－長野市内その 3－』（石川条里遺跡）第 1 分冊、長野県埋蔵文化財センター、pp.676-682

茂原信生 1997b「石川条里（微高地）遺跡（長野市）出土の古墳時代ならびに中世の人骨と獣骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 15－長野市内その 3－』（石川条里遺跡）第2分冊、長野県埋蔵文化財センター、pp.402-417

茂原信生 1997c「大穴遺跡（長野県）出土の人骨と獣骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 22－更埴市内その 1－』（大穴遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.264-269

茂原信生 1997d「滝沢遺跡（長野県御代田町）出土の人骨」『長野県北佐久郡御代田町滝沢遺跡発掘調査報告書』、御代田町教育委員会、pp.228-238

茂原信生 1998a「浅川扇状地遺跡群・三才遺跡出土の人骨と動物遺存体」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 5－長野市内その 2－』（浅川扇状地遺跡群・三才遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.246-254

茂原信生 1998b「篠ノ井遺跡群出土の人骨と動物遺存体」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 4－長野市内その 1－』（篠ノ井遺跡群）、長野県埋蔵文化財センター、pp.489-502

茂原信生 1998c「上信越自動車道屋代遺跡群から出土した獣骨と人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 26－更埴市内その 5－弥生・古墳時代編』（屋代遺跡群）、長野県埋蔵文化財センター、pp.229-232、Pl.35

茂原信生 1998d「砂原遺跡（長野県）出土の江戸時代人骨」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 1－軽井沢町内・御代田町内・佐久市内・浅科村内－』（砂原遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.197-210

茂原信生 1998e「築地遺跡出土の人骨と動物遺存体」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 4－長野市内その 1

－』(築地遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.503-505

茂原信生 1998f「動物遺存体と人骨」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 3－更埴市内－』(更埴条里遺跡・屋代遺跡群)、長野県埋蔵文化財センター、pp.281-288

茂原信生 1998g「弥勒堂遺跡出土の人骨および獣骨」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 2－上田市内・坂城町内－』(弥勒堂遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp. 541-544

茂原信生 1999a「榎田遺跡(長野市)出土の人骨と脊椎動物遺存体」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 12－長野市内その 10－』(榎田遺跡)第2分冊、長野県埋蔵文化財センター、pp.392-413

茂原信生 1999b「観音平経塚出土の焼骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 21－上田市内・坂城町内－』(観音平経塚)、長野県埋蔵文化財センター、pp.447-448

茂原信生 1999c「陣馬塚古墳出土の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 21－上田市内・坂城町内－』(陣馬塚古墳)、長野県埋蔵文化財センター、pp. 436-438.

茂原信生 1999d「宮平遺跡出土の人骨と獣骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 21－上田市内・坂城町内－』(宮平遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.439-443

茂原信生 1999e「村東山手遺跡出土の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 8－長野市内その6－』(村東山手遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.246-251

茂原信生 1999f「山崎北遺跡出土の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 21－上田市内・坂城町内－』(山崎北遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.444-446

茂原信生 2000a「更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡から出土した古代 2 および中世の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 27－更埴市内その6－古代 2・中世・近世編』(更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.220-238

茂原信生 2000b「更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡出土の人骨の時代的な変化(縄文時代から中世まで)」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 28－更埴市内その7－総論編』(更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.254-256

茂原信生 2000c「高速道屋代遺跡群出上の縄文時代人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 24－更埴市内その 3－更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡)－縄文時代編』、長野県埋蔵文化財センター、pp.278-284

茂原信生 2000d「郷土遺跡出土の人骨(古墳時代)と脊椎動物遺存体(縄文時代)」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 19－小諸市内その3－』本文編(郷土遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.415-419

茂原信生 2000e「第 2 節 人骨及び骨角牙製の遺物 1. 人骨の鑑定」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 5－長野市内その3－弥生中期・石器 本文編』(松原遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.339-353

茂原信生 2000f「松原遺跡出土の人骨・脊椎動物遺存体第 1 節 人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書6－長野市内その4－古代・中世本文編』(松原遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.375-400

茂原信生 2002「保地遺跡(長野県坂城町)から出土した縄文時代人骨」『金井東遺跡群—保地遺跡Ⅱ』、坂城町教育委員会、pp.67-89

茂原信生 2004「須坂市井上・幸高遺跡群、井上氏居館址南堀跡から出土した人骨と獣骨」『井上・幸高遺跡群、井上氏居館址南堀跡』、須坂市教育委員会、pp.35-42

茂原信生 2008「渡来人の出現－善光寺平の弥生時代人－」『「赤い土器のクニ」の考古学』、川崎保編、雄山閣、pp.221-228

茂原信生 2011a「上五明条里水田址出土の人骨について」『主要地方道長野上田線力石バイパス建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 2－坂城町内－』(上五明条里水田址)、長野県埋蔵文化財センター、pp.181-184

茂原信生 2011b「渡来人の出現－善光寺平の弥生時代人－」『長野県考古学会誌』138・139、長野県考古学会、pp.9-14(再録)

茂原信生 2012「下村遺跡(鶯ヶ城跡)出土人骨」『国道 474 号(飯喬道路)埋蔵文化財発掘調査報告書 5－飯田市内その5－』(下村遺跡(鶯ヶ城跡))、長野県埋蔵文化財センター、pp.129-132

茂原信生 2016a「神之峯城跡 SK01 出土の人骨について」『一般国道 474 号飯喬道路埋蔵文化財発掘調査報告書 6－飯田市内その6－』(神之峯城跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.289-291

茂原信生 2016b「信州人の一万年－骨から歴史をみる－」『長野県埋蔵文化財センター年報 2015』32、長野県埋蔵文化財センター、pp.32-34

茂原信生 2017「北村縄文人はどのような人々だったのか」『安曇野市豊科郷土博物館紀要』4、安曇野市豊科郷土博物館、pp.2-18

茂原信生・姉崎智子 2007「長野県飯田市の石子原遺跡から出土した人骨と馬骨」『中央自動車道西宮線飯田南ジャンクション埋蔵文化財発掘調査報告書』(石子原遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.193-197

茂原信生・姉崎智子 2012「峯謡坂遺跡(千曲市)出土人骨」『一般国道 18 号(坂城更埴バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書 3－千曲市内その 3－』(峯謡坂遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.56-58

茂原信生・阿部修二・芹澤雅夫 1994「SK162 出土人骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 14－長野市内その2－』(鶴前遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.140-141,pl.35

茂原信生・川崎 保・平林 彰 2017「長野県内遺跡出土古人骨リスト」『長野県考古学会誌』155 号

茂原信生・芹澤雅夫 1994「小坂西遺跡出土の中世火葬骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 13－更埴市内・長野市内その1－』(小坂西遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.269-271

茂原信生・芹澤雅夫・江藤盛治 1992「大室古墳群(長野市)出土の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 3－長野市内その1－』(大室古墳群)、長野県埋蔵文化財センター、pp.158-165, 図版 71-72

茂原信生・長岡朋人 2003「倉科将軍塚古墳(長野県更埴市)出土の人骨」『更埴市内前方後円墳範囲確認調査報告書有明山将軍塚古墳・倉科将軍塚古墳』、更埴市教育委員会、pp.133-134

茂原信生・櫻井秀雄・今野 渉 1999「上信越自動車道屋代遺跡群出土の脊椎動物遺存体」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 26－更埴市内その 5－古代 1 編』((更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡)

茂原信生・長岡朋人・宮本俊彦 2003「山の神遺跡出土の江戸時代人骨」『国営アルプスあづみの公園埋蔵文化財発掘調査報告書2－大町市内その1－』(山の神遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.247-251

茂原信生・西澤寿晃・松村博文 1997「伊勢宮遺跡出土の弥生時代人骨」『長野市立博物館紀要』4、長野市立博物館、pp.1-26

茂原信生・本郷一美・櫻井秀雄 2015「西近津遺跡群出土の人骨について」『中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2－佐久市内2－』(西近津遺跡群)、長野県埋蔵文化財センター、pp.236-238

茂原信生・松島和巳 1996「中村中平遺跡(飯田市)出土の縄文時代火葬骨」『飯田市美術博物館研究紀要』6、pp.

137-151
茂原信生・松村博文 1997「篠ノ井遺跡群（長野市）出土の人骨（弥生時代～平安時代）」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 16－長野市内その 4－成果と課題編』（篠ノ井遺跡群）、長野県埋蔵文化財センター、pp.218-245
設楽博己 1993「縄文時代の再葬」『国立歴史民俗博物館研究報告』49、pp.7-46
設楽博己 2004「再葬の背景　縄文・弥生時代における環境変動と対応関係」『国立歴史民俗博物館研究報告』102、pp.357-380
信濃史料刊行会編 1956「晩期縄文式土器」『信濃史料考古編（上）』、信濃史料刊行会、pp.87-95
信濃毎日新聞 2012「極楽往生願って納めた？」2012 年 11 月 2 日
島田恵子（歯：木次英五鑑定） 2002「中世墓群」『小山寺窪遺跡』、佐久町教育委員会、pp.40-61
鈴木　誠 1957「長野県大川発見の甕被葬の一例」『人類学雑誌』66、日本人類学会、pp.92-93
鈴木　誠 1966a「長野県北相木村栃原岩陰遺跡出土人骨の概容」『信州ローム』9、信州ローム研究会、p12-13
鈴木　誠 1966b「六万部古墳出土の人骨」『片桐村誌』、（中川村）中川西公民館、p.157
鈴木　誠 1968「長野県北相木村栃原岩陰遺跡と人骨」『人類学雑誌』、76-1、日本人類学会、pp.52-54
鈴木　誠・西沢寿晃 1975「人骨」『志なの入遺跡発掘調査報告』、南牧村、pp.25-31
鈴木　誠・西沢寿晃 1970「第2次・3次発掘調査出土の自然遺物」『信越本線滋野・大屋間複線化工事事業地内埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』、長野県考古学会、pp.153-154
関　孝一 1966「長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報」『考古学雑誌』51-3、pp.25～43
関　賢次（人骨：西沢寿晃鑑定） 1987「奈良、平安時代の遺構と遺物、①1 号石組墓」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 1－　岡谷市内－』（膳棚 B（白山）遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.213-217
高橋　桂（29 号土壙は太田文雄） 1978「29 号土壙」『牟礼村丸山遺跡発掘調査報告書』、牟礼村教育委員会、pp.19-21
多賀谷　昭 2001「宮添遺跡から出土した人骨について」『宮添遺跡』、佐久市教育委員会、p.31、図版 1
多賀谷　昭 2002「長野県佐久市深堀遺跡から出土した近世およびそれ以前の古人骨について」『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』、佐久市教育委員会、pp.223-229
竹内　恒（人骨：香原志勢教示） 1969「人骨の特殊な状態を示す長野県佐久市蟻畑遺跡」『信濃』21－4、信濃史学会、pp.99-102
竹内靖長 2002「発見された遺構　中世の遺構」『川西開田遺跡Ⅲ・Ⅳ』、松本市教育委員会、pp.24-25
田中和彦 1998「小諸市与良城遺跡出土人骨について」『与良城跡－長野県小諸市与良城跡発掘調査報告書』、小諸市教育委員会、pp.34-38
田中和彦 2003「長野県七五三掛遺跡出土の縄文時代人骨」『人類学雑誌』111－1、日本人類学会、pp.69-85
谷畑美帆 2009「半過古墳群出土人骨について」『中の沢遺跡・半過古墳群－-一般国道 18 号(上田坂城バイパス)改装工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.103-106、図版 36
鶴田典昭（骨：茂原信生鑑定） 2001「川田条里遺跡出土の獣骨・人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 10－長野市内その8－第3分冊（自然科学・総論編）』（川田条里遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.220-221

寺内貴美子 2016「尾垂遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報 32 2015』、pp.3-5

寺内貴美子 2017「小島・柳原遺跡群」『長野県埋蔵文化財センター年報 33 2016』、pp.8-10

寺島孝典 1995「墓跡」『浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡Ⅱ、市営住宅上松東団地 2 号棟建設事業にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書』、長野市教育委員会、pp.19-30

東部町誌刊行会 1990「中原遺跡」『東部町誌歴史編上』、pp.44-45

友野良一・松下節子 1986「天伯古墳出土人骨」『天伯古墳－長野県上伊那郡中川村片桐天伯』、中川村教育委員会、pp.27-28

内藤裕一・力石嘉人・大河内直彦・米田穣 2012「古人骨および動物遺存体のアミノ酸窒素同位体分析について」『佐久考古通信』111, pp.17-18.

直井雅尚 2004「出土遺物 その他の遺物」『中山古墳群・鍬形原遺跡・鞍形原砦址 中山霊園拡張に伴う第Ⅴ～Ⅸ次発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.65

直井雅尚 2013「5.墓址」『松本市大村古屋敷遺跡/前田遺跡』松本市教育委員会、p.29

長岡朋人・茂原信生 2001「溝口の塚古墳（長野県飯田市）から出土した人骨」『溝口の塚古墳－一般国道 153 号飯田バイパス（3工区）建設に先立つ埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書』、飯田市教育委員会、pp.116-126

長野県埋蔵文化財センター 2009「地家遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報 26 2018』、pp.13-15

永峯光一 1982「鳥羽山洞穴遺跡（国史跡）」『長野県史考古学資料編主要遺跡（北・東信）』、長野県史刊行会、pp.748-761

永峯光一 1988a「縄文時代の信仰と葬制」『長野県史考古資料編遺構・遺物』、長野県史刊行会、pp.788-800

永峯光一 1988b「弥生時代の信仰と葬制」『長野県史考古資料編遺構・遺物』、長野県史刊行会、pp.858-860

中村徹也（鑑定池田次郎） 1970「436 号墳出土の骨について」『長野県立農事試験場等用地内古墳調査、大室古墳群北谷支群緊急発掘調査報告書』、長野県・大室古墳群調査会、p.83

西 香子 2013「浅川扇状地遺跡群」『長野県埋蔵文化財センター年報 2012』29、長野県埋蔵文化財センター、p.7

西 香子・青木一男（人骨：茂原信生教示）2000『国道 403 号土ロバイパス埋蔵文化財発掘調査報告書』長野県埋蔵文化財センター、175p.

西沢寿晃 1975「下原古墳出土人骨について」『馬瀬口下原古墳群 御代田町馬瀬口下原古墳群学術発掘調査報告書』、御代田町教育委員会、p.12

西沢寿晃 1976「カロウトイシ古墳出土人骨について」『唐櫃石古墳・姥ヶ懐古墳』、岡谷市教育委員会、pp.54-55

西沢寿晃 1978「栃原岩陰遺跡出土人骨－その埋葬と形質について－」『中部高地の考古学』、長野県考古学会、pp.94-104

西沢寿晃 1979a「深町遺跡出土骨類について」『深町－長野県小県郡丸子町深町遺跡緊急発掘調査概報』、丸子町教育委員会、pp.121-126

西沢寿晃 1979b「安塚古墳群出土人骨所見」『松本市新村安塚古墳群－-緊急発掘調査報告書』、松本市教育委員会、pp.66-68

西沢寿晃 1980「出土人骨について」『四ツ屋遺跡（第 1～3 次）・徳間遺跡・塩崎遺跡群（第 3 次）』、長野市教育委員会、pp. 38-39、141-146

西沢寿晃 1981a「雨堀遺跡出土の骨類について」『松本市内田雨堀遺跡』、松本市教育委員会、pp.118-119

西沢寿晃 1981b「人骨」『松本市笹賀神戸遺跡緊急発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.55

西沢寿晃 1982a「人骨」『松本市笹賀くまのかわ遺跡緊急発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.47

西沢寿晃 1982b「中部高地諸遺跡出土の抜歯人骨」『中部高地の考古学』Ⅱ、長野県考古学会、pp. 33-46

西沢寿晃 1982c「長野県茅野市御社宮司遺跡土壙F7 号出土人骨所見」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－茅野市その 5－』(御社宮司遺跡)、長野県教育委員会、p.213

西沢寿晃 1983a「出土人骨について」『松本市新村秋葉原遺跡緊急発掘調査報告書』、松本市教育委員会、pp.132-136

西沢寿晃 1983b「真光寺第1号古墳出土人骨」『真光寺第1号古墳』、望月町教育委員会、pp. 21-28

西沢寿晃 1984「森将軍塚古墳出土の人骨」『森将軍塚古墳－保存整備事業第3年次発掘調査概報－』、更埴市教育委員会、p.24

西沢寿晃 1985a「久保在家遺跡出土の歯牙について」『不動坂遺跡群・古屋敷遺跡群・上の原遺跡群』、東部町教育委員会、pp.28-29

西沢寿晃 1985b「人骨」『不動坂遺跡群・古屋敷遺跡群・上の原遺跡群』(狐山古墳)、東部町教育委員会、p.112

西沢寿晃 1985c「出土人骨」『矢嶋城跡－緊急発掘調査報告書』、浅科村教育委員会、pp.19-20

西沢寿晃 1985d「平出 2 号墳出土人骨について」『平出遺跡考古博物館・歴史民俗資料館紀要』2、塩尻市立博物館、p.23

西沢寿晃 1986a「人骨」『不動坂遺跡群Ⅱ・古屋敷遺跡群Ⅱ』、東部町教育委員会、pp.72-73

西沢寿晃 1986c「彌ノ神古墳出土人骨について」『彌ノ神・栗木沢・砂田　塩尻東地区県営圃場整備発掘調査報告書』、塩尻市教育委員会、pp.29-32

西沢寿晃 1986d「梨久保遺跡出土の骨類について」『梨久保遺跡―中部山岳地の縄文時代集落址―梨久保遺跡第 5 次・第 11 次発掘調査報告書(本編)』、岡谷市教育委員会、pp. 553-555

西沢寿晃 1987a「2 号墳墓出土人骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 1－岡谷市内－』(大久保 B 遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.46-47

西沢寿晃 1987b「2 号墳出土人骨」『森将軍塚古墳－保存整備事業第6年次発掘調査概報－』、更埴市教育委員会、pp. 36-37

西沢寿晃 1988a「大明神遺跡出土の骨類について」『大明神遺跡』、大桑村教育委員会、pp.110-113、図版 8-9

西沢寿晃 1988b「豊原古墳出土人骨について」『豊原古墳緊急発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.15-20、図版 7

西沢寿晃 1988c「宮崎遺跡出土人骨および動物骨について」『宮崎遺跡－長原地区団体営土地改良総合整備事業に伴う発掘調査報告書』、長野市埋蔵文化財センター、pp. 94-98

西沢寿晃 1988d「人骨及び歯についての所見」『源波古墳発掘調査報告書』、箕輪町教育委員会、pp. 52-54

西沢寿晃 1989a「土壙 353 出土の人骨について」『松本市向畑遺跡Ⅱ』、松本市教育委員会、pp. 155-156

西沢寿晃 1989b「七瀬3号古墳出土の人骨について」『七瀬古墳群田麦中畝古墳群』、中野市教育委員会、pp. 114-116

西沢寿晃 1989c「五輪堂遺跡出土の人骨」『五輪堂遺跡―塩尻東地区県営圃場整備事業埋蔵文化財包蔵地発掘調

査報告書』、塩尻市教育委員会、pp. 100-103
西沢寿晃 1990a「出川遺跡出土の人骨について」『松本市出川遺跡』、松本市教育委員会、pp.20-21
西沢寿晃 1990b「円光房遺跡出土の人骨類について」『円光房遺跡: 長野県埴科郡戸倉町更級地区県営ほ場整備事業に伴う幅田遺跡群円光房遺跡緊急発掘調査報告書』、戸倉町教育委員会、pp.185-188
西沢寿晃 1990c「棚畑遺跡出土の人骨」『棚畑－八ヶ岳西山麓における縄文時代中期の集落遺跡』、茅野市教育委員会、p.699
西沢寿晃 1990d「殿村遺跡出土の人骨について」『殿村・東照寺址遺跡発掘調査報告書』、下諏訪町教育委員会、pp.159-161
西沢寿晃 1990e「伊勢原第 2 号古墳出土の人骨」『伊勢原遺跡　伊勢原第 2 号古墳・薬師遺跡緊急発掘調査報告書』、東部町教育委員会、pp. 32-33
西沢寿晃 1991「関口 A 遺跡第 3 号土坑出土人骨について」『柏原遺跡群関口 A・関口 B・下柏原（第二次） 長野県小諸市関口 A・関口 B・下柏原遺跡発掘調査報告書』、小諸市教育委員会、pp.255-257
西沢寿晃 1992a「下郷第2号墳出土人骨について」『神林遺跡・下郷古墳群－平成 2 年度県営ほ場整備事業殿域地区施工に伴う神林遺跡他発掘調査概要報告書』、上田市教育委員会、pp.173-174
西沢寿晃 1992b「出土人骨の所見」『長野県須坂市本郷大塚古墳』、須坂市教育委員会・須坂市本郷大塚古墳発掘調査団、pp.53-55
西沢寿晃 1992c「森将軍塚古墳出土の人骨について」『史跡　森将軍塚古墳－保存整備事業発掘調査報告書－』、更埴市教育委員会、pp. 439-441
西沢寿晃 1993a「下金山遺跡出土の骨類について」『釜村田遺跡・下金山遺跡・塚原古墳群・刺り田遺跡』、東部町教育委員会、p.106、図版 29
西沢寿晃 1993b「松原遺跡出土の人骨について」『松原遺跡Ⅲ　主要地方道中野更埴線道路改良事業にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書』、長野市埋蔵文化財センター、pp.284-292
西沢寿晃 1993c「丸山古墳出土の人骨」『松本市里山辺丸山古墳』、松本市教育委員会、pp.28-29、図版 11
西沢寿晃 1994a「石神遺跡出土の人骨」『石神遺跡群　石神－長野県小諸市石神遺跡発掘調査報告書』、小諸市教育委員会、pp.335-342
西沢寿晃 1994b「宮の上遺跡出土の骨壺に埋納された人骨について」『宮の上墳墓宮の上遺跡発掘調査報告書』、長野県南箕輪村教育委員会、pp.12-13、図版 14
西沢寿晃 1994c「獅子塚古墳より検出された歯について」『蔵替遺跡緊急発掘調査報告書』、東部町教育委員会、pp. 111
西沢寿晃 1995a「辻田遺跡出土の骨類について」『長野県小県郡東部町辻田遺跡発掘調査報告書』、東部町教育委員会、pp.236-240
西沢寿晃 1995b「土壙墓（SK13）『松代城跡』」、長野市教育委員会、p.17
西沢寿晃 1995c「骨類について」『マツバリ遺跡』、日義村教育委員会、pp. 14-16
西沢寿晃 1996「上田原遺跡出土の人骨および馬骨・馬歯」『上田原－上田原遺跡発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.176-180
西沢寿晃 1997a「人骨」『大塚第 3 号古墳－緊急発掘調査報告書』、望月町教育委員会、pp.33-36

西沢寿晃 1997b「八幡裏遺跡出土の人骨および獣骨」『八幡裏遺跡Ⅱ－国立新病院(長野)の新築工事に伴う発掘調査)』、上田市教育委員会、pp.102-105

西沢寿晃 2008「骨」『長野県松本市中山古墳群 14・15 カニホリ東・西遺跡発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.137

西沢寿晃・小松 虔 1978「長野県佐久市月明沢遺跡発掘資料について－人歯加工品の出土」『長野県考古学会誌』31、長野県考古学会、pp.32-37

西沢寿晃・高橋 穣 1993「宮遺跡第1号墳墓址出土人骨について」『宮遺跡－中部高地の縄文晩期抜歯人骨・攻玉工房遺跡の研究』、中条村教育委員会、pp.76-79

西沢寿晃・宮尾嶽雄 1990「屋地遺跡出土の人骨および獣骨」『屋地遺跡Ⅱ－国補中小河川蛭川改修事業地点－』、長野市教育委員会、pp.127-130

西本豊弘・姉崎智子 2000「屋代遺跡群出土の動物遺体」『屋代遺跡群 本文編－国道 403 号(土口バイパス)道路改良に伴う発掘調査報告書』、更埴市教育委員会、pp.429-447

野村一寿(人骨:茂原信生教示) 1989「墓址 SK11」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 5－松本市内その 2－』(中二子遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、p.118

馬場保之 1994「縄文時代晩期墓制に関する一考察－長野県南部を中心として」『中部高地の考古学』Ⅳ、長野県考古学会、pp.131-163

林 茂樹 1970「信濃における縄文時代墓制の様相」『信濃』22-11、信濃史学会、pp.154-162

林 茂樹(人骨:鈴木誠測定・検証) 1983「野口遺跡」『長野県史考古資料編主要遺跡(中南信)』、長野県史刊行会、pp.894-897

原 明芳 1995「長野県」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』(第3分冊)、栃木県考古学会ほか編、pp.136-172

パリノ・サーベイ株式会社 2005「出土人骨の同定」『聖原第5分冊』、佐久市教育委員会、pp.176-180

パリノ・サーベイ株式会社 2007a「平林東沖遺跡の自然科学分析Ⅰ 出土人骨」『浅川扇状地遺跡群平林東沖遺跡』、長野市教育委員会、pp.93-104

パリノ・サーベイ株式会社 2007b「骨同定」『名篭遺跡－山形なろう原公園・霊園事業に伴う緊急発掘調査報告書』、山形村教育委員会、pp.147-155

パリノ・サーベイ株式会社 2012「3. 人骨」『松本市横田古屋敷遺跡 第1・2 次発掘調査報告書』、松本市教育委員会、pp.66-70

春成秀爾 1993「弥生時代の再葬制」『国立歴史民俗博物館研究報告』49、pp.47-91

平出一治 1995「近世の墓壙」『上居沢尾根遺跡平成 4 年県営圃場整備事業恩前地区に先立つ緊急発掘調査報告書』、原村教育委員会、p.80

平田和明・奥 千奈美 1999a「佐久市観音堂遺跡出土の人骨について」『岩村田遺跡群観音堂遺跡』、佐久市教育委員会、pp.196-197

平田和明・奥 千奈美 1999b「佐久市五里田遺跡出土人骨について」『鳴沢遺跡群五里田遺跡』、佐久市教育委員会、p.135

平田和明・奥 千奈美 1999c「佐久市前藤部遺跡出土人骨について」『栗毛坂遺跡群前藤部遺跡』、佐久市教育委員

会、pp.255-258

平田和明・奥　千奈美 2000「佐久市蛇塚古墳群出土人骨について」『蛇塚A遺跡群蛇塚遺跡・蛇塚古墳』、佐久市教育委員会、pp.66-68

平田和明・奥　千奈美 2001a「佐久市西一本柳遺跡Ⅴの出土人骨について」『一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ』、佐久市教育委員会、p.45

平田和明・奥　千奈美 2001b「佐久市榛名平遺跡出土人骨について」『榛名平・坪の内遺跡群榛名平遺跡中世・近世編』、佐久市教育委員会、pp.279-302

廣田和穂 2012「調査の成果　弥生時代　墓跡」『千曲川替佐・柳沢築堤事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書－中野市内－』(柳沢遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.91-105

藤澤珠織・片山一道 2003「長野市宮崎遺跡で発見された縄文晩期の乳児埋葬人骨」『立命館大学考古学論集　家根祥多さん追悼論集、Ⅲ-1』、立命館大学考古学論集刊行会、pp. 323-340

藤沢宗平 1956「長野県西筑摩郡日義村芝垣外遺跡」『日本考古学年報』1、p.

藤沢高広 2009「長野県」『中世の墓と銭』、出土銭貨研究会、pp.323-336

文化庁文化財部記念物課 2017『埋蔵文化財関係統計資料－平成 28 年度－』、p.34

松村博文 1998「歯冠計測値にもとづく土着系・渡来系弥生人の判別法」『国立科博専報』30、国立科学博物館、pp.199-210

町田勝則 2006「社宮司遺跡の調査　土壙墓跡(SK740)」『一般国道 18 号坂城更埴バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書 1－千曲市内その1－』(社宮司遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.627-636

町田拓也・石井宏昭 1996「幸神古墳群出土の人骨・歯牙」『幸神古墳群』、臼田町教育委員会、pp.103-109

町田拓也・島田恵子・三沢常美・佐藤　敏 1988「五霊西 12 号古墳出土人骨」『五霊西 12 号古墳』、臼田町教育委員会、pp.38-41,49-50

三村竜一・森　義直・西澤寿晃・直井雅尚・竹原　学・横井　奏・吉井　理 2008『長野県松本市中山古墳群　カニホリ東・西遺跡発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.148、図版9

宮坂光次 1922「信州松本地方の古墳」『人類学雑誌』37-5、pp.153-156

宮崎重雄 1991「佐久市金井城跡出土の獣骨類」『金井城跡』第2分冊遺物・考察・写真図版編、佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財センター、pp.736-742

宮崎重雄 1994「長野県佐久市藤塚古墳群出土の人骨」『長野県佐久市大字塚原・常田藤塚古墳群・藤塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書』、佐久市教育委員会、付編2、2頁

宮崎重雄 1998「中宿遺跡の骨類」『中宿遺跡、佐久市埋蔵文化財調査報告書』、医療法人三世会金沢病院・佐久市教育委員会、pp.27-28

宮崎重雄 1999「D-152 号土壙出土人骨について」『長野県北佐久郡御代田町前藤部遺跡発掘調査報告書』、御代田町教育委員会、pp.113-115.図版 33

望月　映(人骨:西沢寿晃教示) 1990「中世の遺構(墓址)」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 9－松本市内その 6－』(三の宮遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.181-184

森嶋　稔 1994「生仁遺跡」『更埴市史第 1 巻古代・中世』、更埴市史編纂委員会、pp.231-243

森本岩太郎 1969「人骨および獣骨について」『生仁－更埴市生仁遺跡第一次(昭和 43 年度)緊急発掘調査報告

書』、長野県考古学会、pp.93-94
森本岩太郎 1986「竹田峯遺跡出土の壺棺内人骨所見」『長野県佐久市岸野西裏・竹田峯遺跡発掘調査報告書』、 佐久市埋蔵文化財センター、p.171
森本岩太郎 1987a「佐久市北西ノ久保遺跡出土人骨について」『長野県佐久市北西ノ久保遺跡第 2 次発掘調査報告書』、佐久市教育委員会、 付編 1-8
森本岩太郎 1987b「佐久市瀧の峯古墳群 2 号墳出土の人歯について」『長野県佐久市瀧の峯古墳群発掘調査報告書』、佐久市教育委員会、1 頁、付編 1
森本岩太郎 1988「佐久市長峯古墳群第 1 号古墳出土人骨について」『長野県佐久市長峯古墳群発掘調査報告書』、佐久市埋蔵文化財調査センター、付編 pp.1-4
森本岩太郎 1989a「苧績み作業によると思われる飛鳥・室町時代女性切歯の磨耗」『人類学雑誌』103、日本人類学会、pp.447-465
森本岩太郎 1989b「佐久市前田遺跡出土人骨について」『鋳師屋遺跡群前田遺跡（第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ次）発掘調査報告書』、前田遺跡発掘調査団・佐久市教育委員会、pp. 981-991
森本岩太郎 1991「佐久市金井城跡出土人骨について」『金井城跡』第2分冊遺物・考察・写真図版編、佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財センター、pp.725-735
森本岩太郎 1992「下聖端遺跡出土人骨について」『国道 141 号線関係遺跡』（下聖端遺跡）、佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財調査センター、pp.394-399
森本岩太郎 1994「佐久市藤塚古墳群出土人骨について」『長野県佐久市大字塚原・常田藤塚古墳群・藤塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書』、佐久市教育委員会、ノンブルなし（附編 1）5 頁
森本岩太郎 1995「佐久市寄山古墳出土人骨について」『寄山』、佐久市教育委員会、pp.824-829
森本岩太郎 1998「佐久市上直路遺跡出土の人骨について」『佐久市埋蔵文化財年報』6、佐久市教育委員会、pp.74-75
森本岩太郎・西沢寿晃 1986「諏訪市仏法寺の円教房智映上人の遺骨について」『仏法紹隆寺境内遺跡発掘調査報告書』、仏法紹隆寺、pp.2-7
森本岩太郎・高橋 譲 1986「長野県湯倉洞穴出土の縄文早期人骨」『聖マリアンナ医大誌』14-1、pp.29-37
森本岩太郎・高橋 譲 2001「縄文早期の人骨」『長野県上高井郡高山村湯倉洞窟調査報告』、高山村教育委員会、pp.467-474（森本・高橋 1986 の再録）
森本岩太郎・平田和明 2001「出土人骨補遺」、『長野県上高井郡高山村湯倉洞窟調査報告』、高山村教育委員会、pp.475-478
矢口忠良 1980「土壙墓」『篠ノ井遺跡群－大規模自転車道地点遺跡の調査報告書』、長野市教育委員会、pp.41-42、図版 19
矢口忠良 1981「湯谷古墳群」『湯谷古墳群 長礼山古墳群 駒沢新町遺跡』、長野市教育委員会、pp.1-37、図版 14
矢口忠良ほか（骨：西沢寿晃） 1987『塩崎遺跡群4－市道松節―小田井神社地点遺跡－』、長野市教育委員会、p.214、図版 25
柳澤 亮（骨：茂原信生鑑定） 2014「人骨・動物骨」『中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5－佐久市内 5－』（今井宮の前遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.216

八幡一郎 1950「長野県小県郡和村右近塚の発掘」『信濃』2-7、信濃史学会、pp.413-418

吉田章一郎・市川健二郎 1950「長野県小県郡和村右近塚発掘概報」『考古学雑誌』36-5、日本考古学会、pp.41-46

米田 穣 2002「保地遺跡出土人骨の炭素・窒素安定同位体比に基づく食性復元」『金井東遺跡群保地遺跡Ⅱ』坂城町教育委員会編、pp. 90-93

米田 穣 2012「栃原岩陰遺跡から出土した縄文時代早期人骨および動物骨の同位体分析」『佐久考古通信』111, pp.13-16.

米田 穣・吉田邦夫・吉永 淳・森田昌敏・赤澤 威 1996「長野県出土人骨試料における炭素・窒素安定同位体比および微量元素量に基づく古食性の復元」『第四紀研究』(The Quaternary Research)35-4、日本第四紀学会、pp.293-303

綿田弘実・近藤尚義 2000「東京大学総合研究博物館所蔵の長野県出土考古資料(1)」『長野県立歴史館研究紀要』6、長野県立歴史館、pp.87-89

綿田弘実 2006「小県郡真田町陣の岩岩陰遺跡の出土遺物」『長野県立歴史館研究紀要』12、長野県立歴史館、pp.89-93

Adachi, N., J. Sawada, M. Yoneda, K. Kobayashi, S. Itoh 2013「Mitochondrial DNA analysis of the human skeleton of the Initial Jomon phase excavated at the Yugura Cave site, Nagano, Japan」『Anthropological Science』121-2, pp.137-143. DOI: 10.1537/ase.130313

Naito, Y.I., Y. Chikaraishi, N. Ohkouchi, and M. Yoneda 「Evaluation of carnivory in inland Jomon hunter-gatherers based on nitrogen isotopic composition of individual amino acids in bone collagen」『Journal of Archaeological Science』40, pp.2913-2923.

Suzuki, M., Y. Takahashi（鈴木誠・高橋穣）1975「Anthropological studies on the mandible of the recent Chubu Japanese」『Journal of the Anthropological Society of Nippon』83-4, pp.320-329.

Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M.Morita, and T. Akazawa2002「Radiocarbon and stable isotope analysis on the earliest jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan」『Radiocarbon』44-2、pp.549-557.

Yoneda, M., Y. Shibata, M. Morita, R. Suzuki, T. Sukegawa, N.Shigehara, and T. Akazawa2004「Isotopic evidence of inland-water fishing by a Jomon population excavated from the Boji site, Nagano,Japan」『Journal of Archaeological Science』31-1、pp. 97-107.